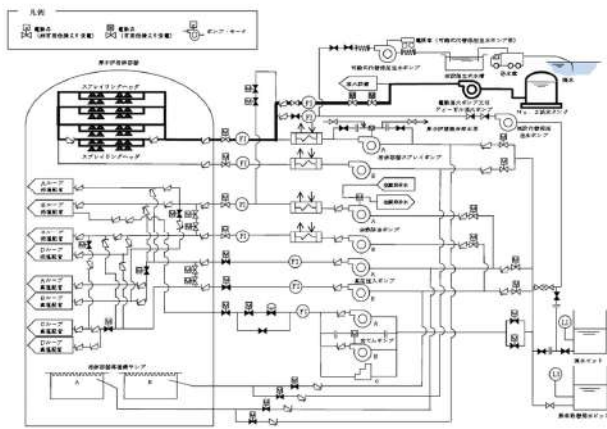
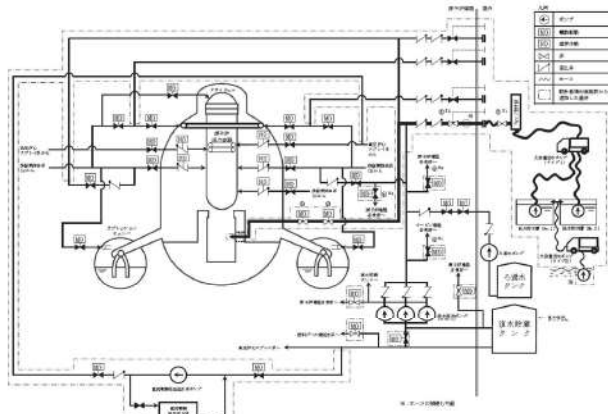
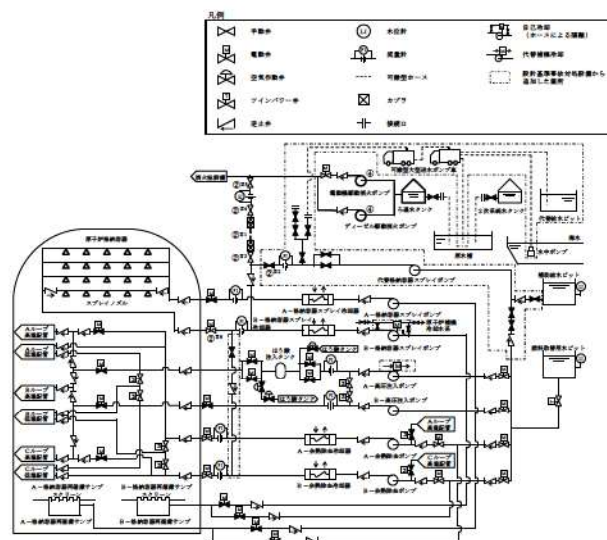


灰色：女川2号炉の記載のうち、BWR固有の設備や対応手段であり、泊3号炉と比較対象とならない記載内容

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

1.8 原子炉格納容器下部の溶融炉心を冷却するための手順等

大飯発電所3/4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由																																											
 <p>図 1.8.4 電動消火ポンプ又はディーゼル消火ポンプによる代替格納容器スプレイ 概略系統</p>	 <p>第 1.8-8 図 原子炉格納容器下部注水系（可搬型）による原子炉格納容器下部への注水 概要図（1/2）</p> <table border="1" data-bbox="840 941 1265 1109"> <thead> <tr> <th>操作手順</th> <th>赤名物</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>①<sup>R1</sup></td> <td>T/B 緊急時隔離弁</td> </tr> <tr> <td>②<sup>R1</sup></td> <td>S/B 3/F 緊急時隔離弁</td> </tr> <tr> <td>③<sup>R1</sup></td> <td>S/B 1/F 緊急時隔離弁</td> </tr> <tr> <td>④</td> <td>原子炉格納容器下部注水用復水仕切弁</td> </tr> <tr> <td>⑤<sup>R1</sup></td> <td>原子炉・格納容器下部注水弁</td> </tr> <tr> <td>⑥<sup>R1</sup></td> <td>緊急時原子炉北側外置注水入口弁</td> </tr> <tr> <td>⑦</td> <td>原子炉格納容器下部注水用復水流量調整弁</td> </tr> </tbody> </table> <p>※1～：同一操作手順番号内に複数の操作又は確認を実施する弁があることを示す。</p> <p>第 1.8-8 図 原子炉格納容器下部注水系（可搬型）による原子炉格納容器下部への注水 概要図（2/2）</p>	操作手順	赤名物	① <sup>R1</sup>	T/B 緊急時隔離弁	② <sup>R1</sup>	S/B 3/F 緊急時隔離弁	③ <sup>R1</sup>	S/B 1/F 緊急時隔離弁	④	原子炉格納容器下部注水用復水仕切弁	⑤ <sup>R1</sup>	原子炉・格納容器下部注水弁	⑥ <sup>R1</sup>	緊急時原子炉北側外置注水入口弁	⑦	原子炉格納容器下部注水用復水流量調整弁	 <p>第 1.8.6 図 電動機駆動消火ポンプ又はディーゼル駆動消火ポンプによる原子炉格納容器下部への注水 概要図</p> <table border="1" data-bbox="1400 941 1960 1109"> <thead> <tr> <th>操作手順</th> <th>操作対象機器</th> <th>状態の変化</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>②<sup>R1</sup></td> <td>可搬型ホース</td> <td>ホース接続</td> </tr> <tr> <td>③<sup>R1</sup></td> <td>代替格納容器スプレイポンプ接続ライン止め弁</td> <td>全閉確認</td> </tr> <tr> <td>④<sup>R1</sup></td> <td>AM用消火水注入ライン止め弁</td> <td>全閉→全開</td> </tr> <tr> <td>⑤<sup>R1</sup></td> <td>AM用消火水供給ライン第2止め弁</td> <td>全閉→全開</td> </tr> <tr> <td>⑥<sup>R1</sup></td> <td>AM用消火水供給ライン第1止め弁</td> <td>全閉→全開</td> </tr> <tr> <td>⑦<sup>R1</sup></td> <td>B-1格納容器スプレイ冷却器出口C/V外側隔離弁</td> <td>全閉→全開</td> </tr> <tr> <td>⑧</td> <td>電動機駆動消火ポンプ<sup>R1</sup></td> <td>停止→起動</td> </tr> <tr> <td>⑨</td> <td>ディーゼル駆動消火ポンプ<sup>R1</sup></td> <td>停止→起動</td> </tr> </tbody> </table> <p>R1～：同一操作手順番号内に複数の操作又は確認を実施する機器があることを示す。          ※：どちらか1台を起動する。</p>	操作手順	操作対象機器	状態の変化	② <sup>R1</sup>	可搬型ホース	ホース接続	③ <sup>R1</sup>	代替格納容器スプレイポンプ接続ライン止め弁	全閉確認	④ <sup>R1</sup>	AM用消火水注入ライン止め弁	全閉→全開	⑤ <sup>R1</sup>	AM用消火水供給ライン第2止め弁	全閉→全開	⑥ <sup>R1</sup>	AM用消火水供給ライン第1止め弁	全閉→全開	⑦ <sup>R1</sup>	B-1格納容器スプレイ冷却器出口C/V外側隔離弁	全閉→全開	⑧	電動機駆動消火ポンプ <sup>R1</sup>	停止→起動	⑨	ディーゼル駆動消火ポンプ <sup>R1</sup>	停止→起動	<p>【大飯】          記載方針の相違（女川審査実績の反映）          ・凡例の記載内容充実          ・概要図と操作内容を紐づけ</p> <p>【女川】          設備の相違（BWR固有の対応手段）</p>
操作手順	赤名物																																													
① <sup>R1</sup>	T/B 緊急時隔離弁																																													
② <sup>R1</sup>	S/B 3/F 緊急時隔離弁																																													
③ <sup>R1</sup>	S/B 1/F 緊急時隔離弁																																													
④	原子炉格納容器下部注水用復水仕切弁																																													
⑤ <sup>R1</sup>	原子炉・格納容器下部注水弁																																													
⑥ <sup>R1</sup>	緊急時原子炉北側外置注水入口弁																																													
⑦	原子炉格納容器下部注水用復水流量調整弁																																													
操作手順	操作対象機器	状態の変化																																												
② <sup>R1</sup>	可搬型ホース	ホース接続																																												
③ <sup>R1</sup>	代替格納容器スプレイポンプ接続ライン止め弁	全閉確認																																												
④ <sup>R1</sup>	AM用消火水注入ライン止め弁	全閉→全開																																												
⑤ <sup>R1</sup>	AM用消火水供給ライン第2止め弁	全閉→全開																																												
⑥ <sup>R1</sup>	AM用消火水供給ライン第1止め弁	全閉→全開																																												
⑦ <sup>R1</sup>	B-1格納容器スプレイ冷却器出口C/V外側隔離弁	全閉→全開																																												
⑧	電動機駆動消火ポンプ <sup>R1</sup>	停止→起動																																												
⑨	ディーゼル駆動消火ポンプ <sup>R1</sup>	停止→起動																																												

1.8 原子炉格納容器下部の溶融炉心を冷却するための手順

泊発電所3号炉 技術的能力 比較表

灰色：女川2号炉の記載のうち、BWR固有の設備や対応手段であり、泊3号炉と比較対象とならない記載内容

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

大飯発電所3/4号炉



※ 現業移動時間には防保備員着替時間を含む。

第1.8.5図 電動消火ポンプ又はディーゼル消火ポンプによる代替格納容器スプレイ タイムチャート

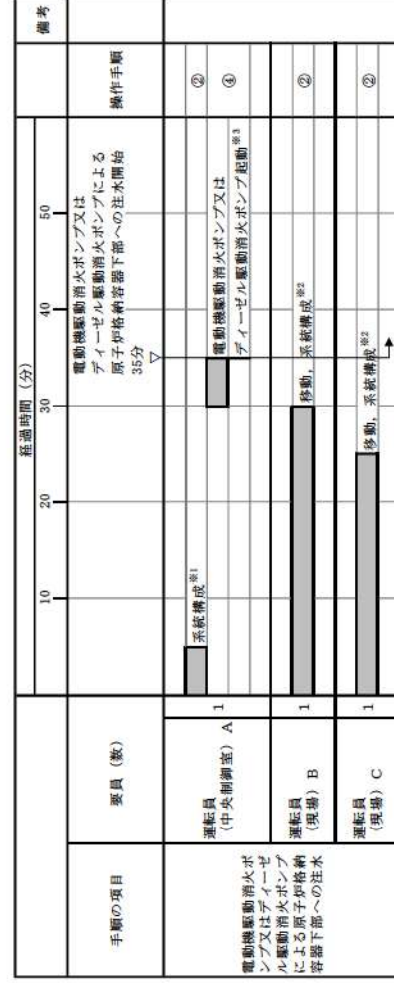
女川原子力発電所2号炉



※1：機器の操作時間及び動作時間に余裕を見込んだ時間  
 ※2：中央制御室から機器操作場所までの移動時間及び機器の操作時間に余裕を見込んだ時間  
 ※3：機器の操作時間に余裕を見込んだ時間

第1.8.6図 原子炉格納容器下部注水（可搬型）による原子炉格納容器下部への注水 タイムチャート (1/2)

泊発電所3号炉



※1：機器の操作時間及び動作時間に余裕を見込んだ時間  
 ※2：中央制御室から機器操作場所までの移動時間及び機器の操作時間に余裕を見込んだ時間  
 ※3：機器の操作時間に余裕を見込んだ時間

第1.8.7図 電動機駆動消火ポンプ又はディーゼル駆動消火ポンプによる

原子炉格納容器下部への注水 タイムチャート

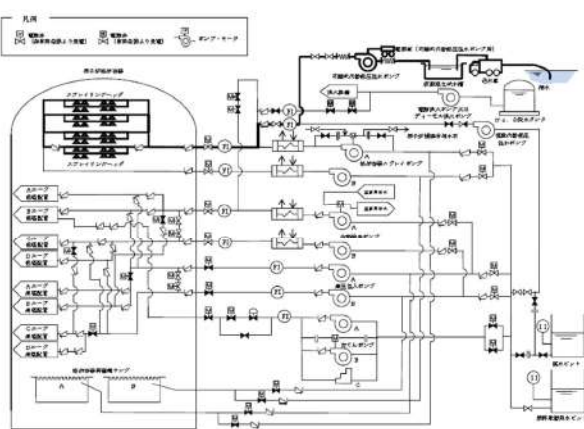
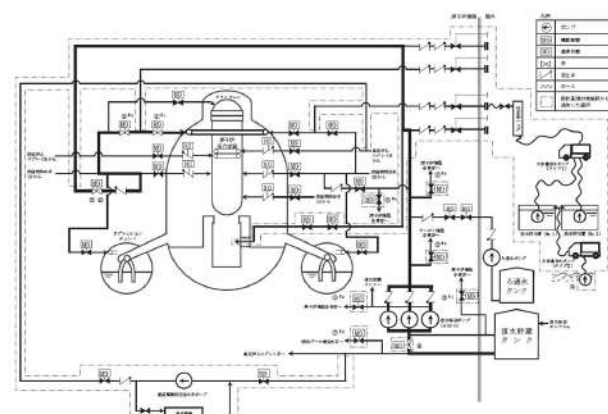
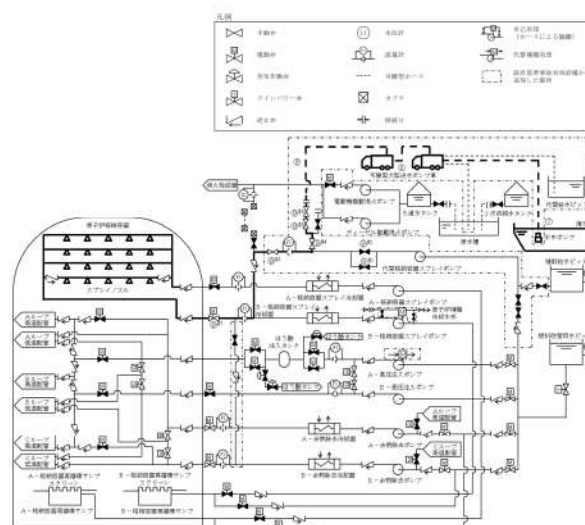
- 【大飯】  
 記載方針の相違  
 (女川審査実績の反映)  
 ・タイムチャートと操作手順番号を紐づけ  
 ・補足の充実  
 ・備考欄の追加
- 【女川】  
 設備の相違(BWR固有の対応手段)

1.8 原子炉格納容器下部の溶融炉心を冷却するための手順等

泊発電所3号炉 技術的能力 比較表

灰色：女川2号炉の記載のうち、BWR固有の設備や対応手段であり、泊3号炉と比較対象とならない記載内容

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

大飯発電所3/4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由																																																							
 <p>第1.8-6図 可搬式代替低圧注水ポンプによる代替格納容器スプレー 概略系統</p>	 <p>第1.8-10図 原子炉格納容器代替スプレー冷却系（常設）による原子炉格納容器下部への注水 概要図（1/2）</p> <table border="1" data-bbox="851 909 1232 1133"> <thead> <tr> <th>操作手順</th> <th>赤名称</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>①②</td><td>CD 注水入口弁</td></tr> <tr><td>③④</td><td>BNIC サンプリング装置止め弁</td></tr> <tr><td>⑤⑥</td><td>F/Wポンプ停止弁</td></tr> <tr><td>⑦⑧</td><td>1/3 緊急時閉鎖弁</td></tr> <tr><td>⑨⑩</td><td>E/S ELP 緊急時閉鎖弁</td></tr> <tr><td>⑪⑫</td><td>E/S 1/3 緊急時閉鎖弁</td></tr> <tr><td>⑬</td><td>海水貯蔵タンク常用、非常用給水管連絡ライン止め弁</td></tr> <tr><td>⑭⑮</td><td>K/R A 系統射撃器スプレー閉鎖弁</td></tr> <tr><td>⑯⑰</td><td>K/R A 系統射撃器スプレー流量調整弁</td></tr> <tr><td>⑱⑲</td><td>K/R ヘッドスプレーライン往浄気量調整弁</td></tr> </tbody> </table> <p>※1～：同一操作手順番号内に複数の操作又は確認を実施する弁があることを示す。</p>	操作手順	赤名称	①②	CD 注水入口弁	③④	BNIC サンプリング装置止め弁	⑤⑥	F/Wポンプ停止弁	⑦⑧	1/3 緊急時閉鎖弁	⑨⑩	E/S ELP 緊急時閉鎖弁	⑪⑫	E/S 1/3 緊急時閉鎖弁	⑬	海水貯蔵タンク常用、非常用給水管連絡ライン止め弁	⑭⑮	K/R A 系統射撃器スプレー閉鎖弁	⑯⑰	K/R A 系統射撃器スプレー流量調整弁	⑱⑲	K/R ヘッドスプレーライン往浄気量調整弁	 <p>第1.8.8図 海水を用いた可搬型大型送水ポンプ車による原子炉格納容器下部への注水 概要図</p> <table border="1" data-bbox="1433 941 1926 1117"> <thead> <tr> <th>操作手順</th> <th>操作対象機器</th> <th>装置の変化</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>①</td><td>可搬型ポンプ</td><td>ポンプ接続</td></tr> <tr><td>②</td><td>可搬型ポンプ</td><td>ポンプ接続</td></tr> <tr><td>③④</td><td>代替格納容器スプレーポンプ出口側心仕込用送り弁</td><td>全閉確認</td></tr> <tr><td>⑤⑥</td><td>代替格納容器スプレーポンプ出口熱納容器スプレー用送り弁</td><td>全閉確認</td></tr> <tr><td>⑦⑧</td><td>代替格納容器スプレーポンプ接続ライン止め弁</td><td>全閉→全開</td></tr> <tr><td>⑨⑩</td><td>代替格納容器スプレーポンプ出口可搬型ポンプ車接続ライン止め弁（SA対策）</td><td>全閉→全開</td></tr> <tr><td>⑪⑫</td><td>互斥型可搬型ポンプ車接続ライン止め弁（SA対策）</td><td>全閉→全開</td></tr> <tr><td>⑬⑭</td><td>補助給水ビッド→燃料取替用ビッド給水連絡ライン止め弁（SA対策）</td><td>全閉→全開</td></tr> <tr><td>⑮⑯</td><td>B-熱納容器スプレー所望器出口の外側閉鎖弁</td><td>全閉→全開</td></tr> <tr><td>⑰</td><td>可搬型大型送水ポンプ車</td><td>停止→起動</td></tr> </tbody> </table> <p>※1～：同一操作手順番号内に複数の操作又は確認を実施する機器があることを示す。</p>	操作手順	操作対象機器	装置の変化	①	可搬型ポンプ	ポンプ接続	②	可搬型ポンプ	ポンプ接続	③④	代替格納容器スプレーポンプ出口側心仕込用送り弁	全閉確認	⑤⑥	代替格納容器スプレーポンプ出口熱納容器スプレー用送り弁	全閉確認	⑦⑧	代替格納容器スプレーポンプ接続ライン止め弁	全閉→全開	⑨⑩	代替格納容器スプレーポンプ出口可搬型ポンプ車接続ライン止め弁（SA対策）	全閉→全開	⑪⑫	互斥型可搬型ポンプ車接続ライン止め弁（SA対策）	全閉→全開	⑬⑭	補助給水ビッド→燃料取替用ビッド給水連絡ライン止め弁（SA対策）	全閉→全開	⑮⑯	B-熱納容器スプレー所望器出口の外側閉鎖弁	全閉→全開	⑰	可搬型大型送水ポンプ車	停止→起動	<p>【大飯】              記載方針の相違              （女川審査実績の反映）              ・凡例の記載内容充実              ・概要図と操作内容を紐づけ</p> <p>【女川】              設備の相違（BWR固有の対応手段）</p>
操作手順	赤名称																																																									
①②	CD 注水入口弁																																																									
③④	BNIC サンプリング装置止め弁																																																									
⑤⑥	F/Wポンプ停止弁																																																									
⑦⑧	1/3 緊急時閉鎖弁																																																									
⑨⑩	E/S ELP 緊急時閉鎖弁																																																									
⑪⑫	E/S 1/3 緊急時閉鎖弁																																																									
⑬	海水貯蔵タンク常用、非常用給水管連絡ライン止め弁																																																									
⑭⑮	K/R A 系統射撃器スプレー閉鎖弁																																																									
⑯⑰	K/R A 系統射撃器スプレー流量調整弁																																																									
⑱⑲	K/R ヘッドスプレーライン往浄気量調整弁																																																									
操作手順	操作対象機器	装置の変化																																																								
①	可搬型ポンプ	ポンプ接続																																																								
②	可搬型ポンプ	ポンプ接続																																																								
③④	代替格納容器スプレーポンプ出口側心仕込用送り弁	全閉確認																																																								
⑤⑥	代替格納容器スプレーポンプ出口熱納容器スプレー用送り弁	全閉確認																																																								
⑦⑧	代替格納容器スプレーポンプ接続ライン止め弁	全閉→全開																																																								
⑨⑩	代替格納容器スプレーポンプ出口可搬型ポンプ車接続ライン止め弁（SA対策）	全閉→全開																																																								
⑪⑫	互斥型可搬型ポンプ車接続ライン止め弁（SA対策）	全閉→全開																																																								
⑬⑭	補助給水ビッド→燃料取替用ビッド給水連絡ライン止め弁（SA対策）	全閉→全開																																																								
⑮⑯	B-熱納容器スプレー所望器出口の外側閉鎖弁	全閉→全開																																																								
⑰	可搬型大型送水ポンプ車	停止→起動																																																								

1.8 原子炉格納容器下部の溶融炉心を冷却するための手順等

泊発電所3号炉 技術的能力 比較表

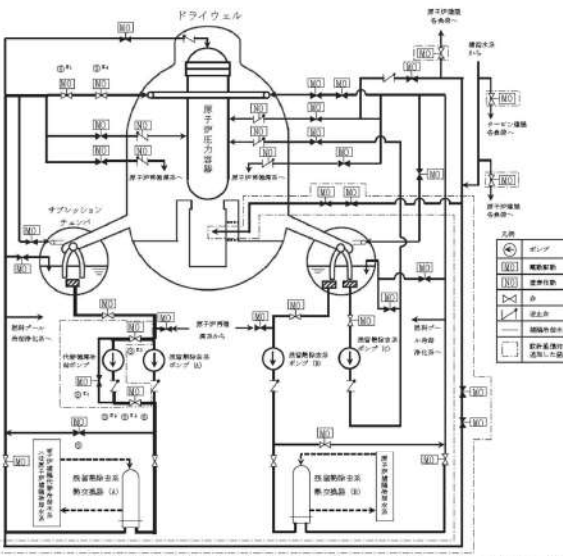
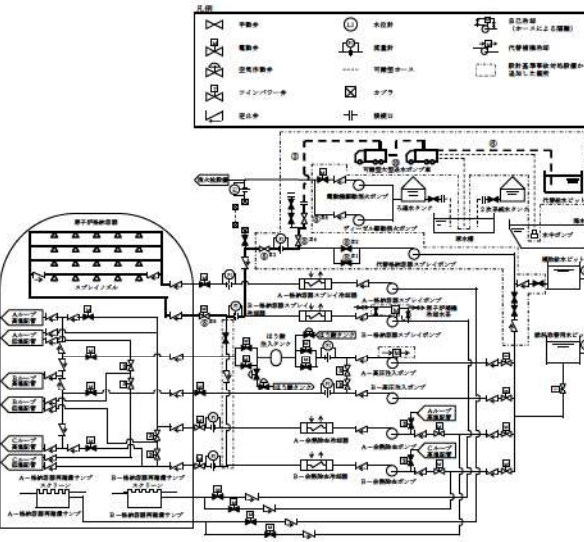
灰色：女川2号炉の記載のうち、BWR固有の設備や対応手段であり、泊3号炉と比較対象とならない記載内容

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

大飯発電所3/4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
<p>可搬式代替低圧注水ポンプによる代替格納容器スプレイトイムチャート</p> <p>第1.8.7図 可搬式代替低圧注水ポンプによる代替格納容器スプレイトイムチャート</p>	<p>第1.8-11図 原子炉格納容器代替スプレイトイムチャート (常設) による原子炉格納容器下部への注水タイムチャート</p>	<p>第1.8.9図 海水を用いた可搬式大型注水ポンプ車による原子炉格納容器下部への注水タイムチャート</p>	<p>【大飯】          記載方針の相違          (女川審査実績の反映)          ・タイムチャートと操作手順番号を紐づけ          ・補足の充実          ・備考欄の追加</p> <p>【女川】          設備の相違(BWR固有の対応手段)</p>

灰色：女川2号炉の記載のうち、BWR固有の設備や対応手段であり、泊3号炉と比較対象とならない記載内容

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

大飯発電所3/4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由																																												
<p style="text-align: center; border: 1px solid black; padding: 5px;">泊3号炉との比較対象なし</p>	 <p style="text-align: center;">第1.8-12図 代替循環冷却系による原子炉格納容器下部への注水 概要図 (1/2)</p> <table border="1" data-bbox="784 997 1310 1189"> <thead> <tr> <th>操作手順</th> <th>弁名称</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>③#1</td> <td>代替循環冷却ポンプバイパス弁</td> </tr> <tr> <td>③#2 ⑤#2 ⑥</td> <td>代替循環冷却ポンプ流量調整弁</td> </tr> <tr> <td>③#3</td> <td>代替循環冷却ポンプ吸込弁</td> </tr> <tr> <td>③#4</td> <td>R/R A系格納容器スプレイ隔離弁</td> </tr> <tr> <td>⑤#1</td> <td>R/R A系格納容器スプレイ流量調整弁</td> </tr> <tr> <td>⑥</td> <td>R/R熱交換器(A)バイパス弁</td> </tr> </tbody> </table> <p style="text-align: center;">#1～：同一操作手順番号内に複数の操作又は確認を実施する弁があることを示す。</p> <p style="text-align: center;">第1.8-12図 代替循環冷却系による原子炉格納容器下部への注水 概要図 (2/2)</p>	操作手順	弁名称	③#1	代替循環冷却ポンプバイパス弁	③#2 ⑤#2 ⑥	代替循環冷却ポンプ流量調整弁	③#3	代替循環冷却ポンプ吸込弁	③#4	R/R A系格納容器スプレイ隔離弁	⑤#1	R/R A系格納容器スプレイ流量調整弁	⑥	R/R熱交換器(A)バイパス弁	 <p style="text-align: center;">第1.8.10図 代替給水ピットを水源とした可変型大型送水ポンプ車による原子炉格納容器下部への注水 概要図</p> <table border="1" data-bbox="1422 957 1960 1125"> <thead> <tr> <th>操作手順</th> <th>操作対象機器</th> <th>状態の変化</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>②</td> <td>可変型ホース</td> <td>ホース接続</td> </tr> <tr> <td>③</td> <td>可変型ホース</td> <td>ホース接続</td> </tr> <tr> <td>④#1</td> <td>代替格納容器スプレイポンプ出口炉心注入口継り弁</td> <td>全開確認</td> </tr> <tr> <td>④#2</td> <td>代替格納容器スプレイポンプ出口格納容器スプレイ用継り弁</td> <td>全開確認</td> </tr> <tr> <td>④#3</td> <td>代替格納容器スプレイポンプ接続ライン止め弁</td> <td>全閉-全開</td> </tr> <tr> <td>④#4</td> <td>代替格納容器スプレイポンプ出口可変型ポンプ車接続ライン止め弁 (SA対策)</td> <td>全閉-全開</td> </tr> <tr> <td>④#5</td> <td>配トラックアクセスリア側可変型ポンプ車接続ライン止め弁 (SA対策)</td> <td>全閉-全開</td> </tr> <tr> <td>④#6</td> <td>B系格納容器スプレイ冷却器出口C/V外側隔離弁</td> <td>全閉-全開</td> </tr> <tr> <td>⑤</td> <td>可変型大型送水ポンプ車</td> <td>停止-起動</td> </tr> </tbody> </table> <p style="text-align: center;">#1～：同一操作手順番号内に複数の操作又は確認を実施する機器があることを示す。</p>	操作手順	操作対象機器	状態の変化	②	可変型ホース	ホース接続	③	可変型ホース	ホース接続	④#1	代替格納容器スプレイポンプ出口炉心注入口継り弁	全開確認	④#2	代替格納容器スプレイポンプ出口格納容器スプレイ用継り弁	全開確認	④#3	代替格納容器スプレイポンプ接続ライン止め弁	全閉-全開	④#4	代替格納容器スプレイポンプ出口可変型ポンプ車接続ライン止め弁 (SA対策)	全閉-全開	④#5	配トラックアクセスリア側可変型ポンプ車接続ライン止め弁 (SA対策)	全閉-全開	④#6	B系格納容器スプレイ冷却器出口C/V外側隔離弁	全閉-全開	⑤	可変型大型送水ポンプ車	停止-起動	<p style="color: red;">【大飯】 設備の相違(相違理由①)</p>
操作手順	弁名称																																														
③#1	代替循環冷却ポンプバイパス弁																																														
③#2 ⑤#2 ⑥	代替循環冷却ポンプ流量調整弁																																														
③#3	代替循環冷却ポンプ吸込弁																																														
③#4	R/R A系格納容器スプレイ隔離弁																																														
⑤#1	R/R A系格納容器スプレイ流量調整弁																																														
⑥	R/R熱交換器(A)バイパス弁																																														
操作手順	操作対象機器	状態の変化																																													
②	可変型ホース	ホース接続																																													
③	可変型ホース	ホース接続																																													
④#1	代替格納容器スプレイポンプ出口炉心注入口継り弁	全開確認																																													
④#2	代替格納容器スプレイポンプ出口格納容器スプレイ用継り弁	全開確認																																													
④#3	代替格納容器スプレイポンプ接続ライン止め弁	全閉-全開																																													
④#4	代替格納容器スプレイポンプ出口可変型ポンプ車接続ライン止め弁 (SA対策)	全閉-全開																																													
④#5	配トラックアクセスリア側可変型ポンプ車接続ライン止め弁 (SA対策)	全閉-全開																																													
④#6	B系格納容器スプレイ冷却器出口C/V外側隔離弁	全閉-全開																																													
⑤	可変型大型送水ポンプ車	停止-起動																																													

灰色：女川2号炉の記載のうち、BWR固有の設備や対応手段であり、泊3号炉と比較対象とならない記載内容

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

泊3号炉との比較対象なし

大飯発電所3/4号炉

女川原子力発電所2号炉

泊発電所3号炉

相違理由

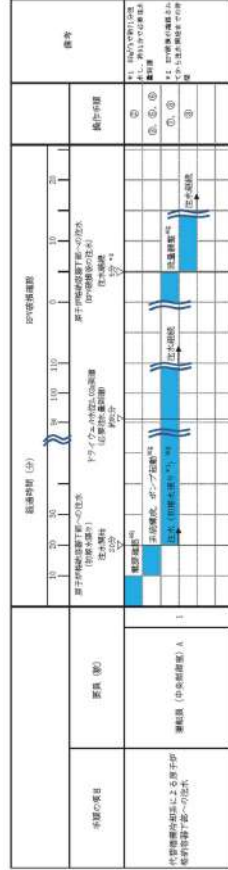


図1：中央制御室での炉格納容器下部への注水手順  
 図2：格納容器下部への注水手順

第1.8-13図 代替循環冷却系による原子炉格納容器下部への注水 タイムチャート

手順の項目	器具(機)	格納容器(注水)		備考
		1	2	
代替給水ピットを 本機とした可搬型 大型送水ポンプ車 による原子炉格納 容器下部への注水	可搬型大型送水ポンプ車 (注水機) A	1	1	代替給水ピットを本機とした可搬型大型送水ポンプ車による注水
	可搬型大型送水ポンプ車 (注水機) B	1	1	
	可搬型大型送水ポンプ車 (注水機) C	1	1	
	可搬型大型送水ポンプ車 (注水機) A-C	3	3	
	可搬型大型送水ポンプ車 (注水機) D-F	3	3	
	可搬型大型送水ポンプ車 (注水機) G	3	3	
	可搬型大型送水ポンプ車 (注水機) H	3	3	
	可搬型大型送水ポンプ車 (注水機) I	3	3	
	可搬型大型送水ポンプ車 (注水機) J	3	3	
	可搬型大型送水ポンプ車 (注水機) K	3	3	

図1.8-11図の注水手順と、図1.8-13図の注水手順との相違は、図1.8-11図の注水手順に比べて、図1.8-13図の注水手順は、可搬型大型送水ポンプ車による注水と、代替給水ピットによる注水とを併用して注水を行うことである。図1.8-11図の注水手順は、可搬型大型送水ポンプ車による注水と、代替給水ピットによる注水とを併用して注水を行うことである。図1.8-13図の注水手順は、可搬型大型送水ポンプ車による注水と、代替給水ピットによる注水とを併用して注水を行うことである。図1.8-11図の注水手順は、可搬型大型送水ポンプ車による注水と、代替給水ピットによる注水とを併用して注水を行うことである。図1.8-13図の注水手順は、可搬型大型送水ポンプ車による注水と、代替給水ピットによる注水とを併用して注水を行うことである。

第1.8.11図 代替給水ピットを水源とした可搬型大型送水ポンプ車による原子炉格納容器下部への注水 タイムチャート

【大飯】  
 設備の相違(相違理由①)

灰色：女川2号炉の記載のうち、BWR固有の設備や対応手段であり、泊3号炉と比較対象とならない記載内容

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

1.8 原子炉格納容器下部の溶融炉心を冷却するための手順等

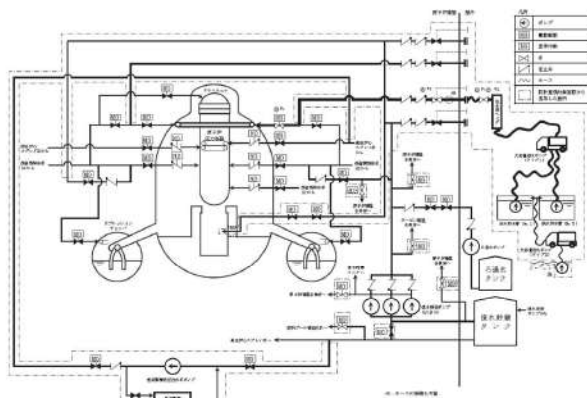
大飯発電所3/4号炉

女川原子力発電所2号炉

泊発電所3号炉

相違理由

泊3号炉との比較対象なし

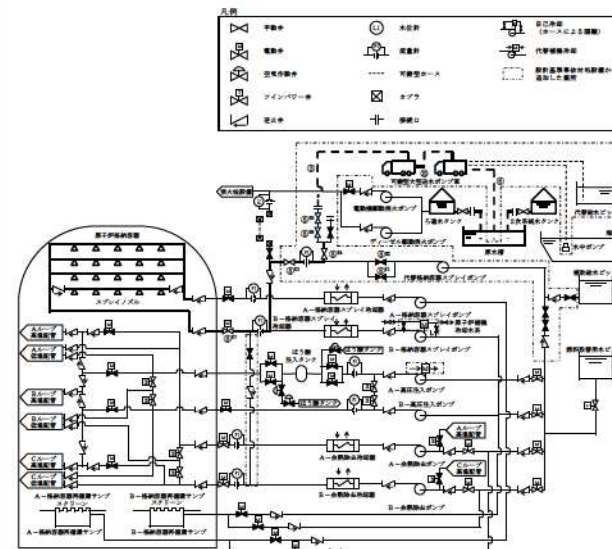


第1.8-14図 原子炉格納容器代替スプレイ冷却系（可搬型）による原子炉格納容器下部への注水 概要図（1/2）

操作手順	设备名称
①①' ①②'	格納容器スプレイ弁
①③'	B系統格納容器代替スプレイ注入弁弁
①④'	B系統格納容器スプレイ隔離弁

※1'：同一操作手順番号内に複数の操作又は確認を実施する必要があることを示す。

第1.8-14図 原子炉格納容器代替スプレイ冷却系（可搬型）による原子炉格納容器下部への注水 概要図（2/2）



操作手順	操作対象機器	状態の変化
①	可搬型ホース	ホース接続
②	可搬型ホース	ホース接続
③ <sup>赤</sup>	代替格納容器スプレイポンプ出口炉心注入用絞り弁	全閉確認
④ <sup>青</sup>	代替格納容器スプレイポンプ出口格納容器スプレイ用絞り弁	全閉確認
⑤ <sup>青</sup>	代替格納容器スプレイポンプ接続ライン止め弁	全閉→全開
⑥ <sup>青</sup>	代替格納容器スプレイポンプ出口可搬型ポンプ車接続ライン止め弁（SA対策）	全閉→全開
⑦ <sup>青</sup>	R/B系側可搬型ポンプ車接続ライン止め弁（SA対策）	全閉→全開
⑧ <sup>青</sup>	補助給水ビーター燃料取替用水ビーター給水連絡ライン止め弁（SA対策）	全閉→全開
⑨ <sup>青</sup>	B系統格納容器スプレイ冷却器出口C/V外側隔離弁	全閉→全開
⑩	可搬型大型送水ポンプ車	停止→起動

※1'：同一操作手順番号内に複数の操作又は確認を実施する機器があることを示す。

第1.8.12図 原水槽を水源とした可搬型大型送水ポンプ車による原子炉格納容器下部への注水 概要図

【大飯】  
 設備の相違（相違理由①）

灰色：女川2号炉の記載のうち、BWR固有の設備や対応手段であり、泊3号炉と比較対象とならない記載内容

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

1.8 原子炉格納容器下部の溶融炉心を冷却するための手順等

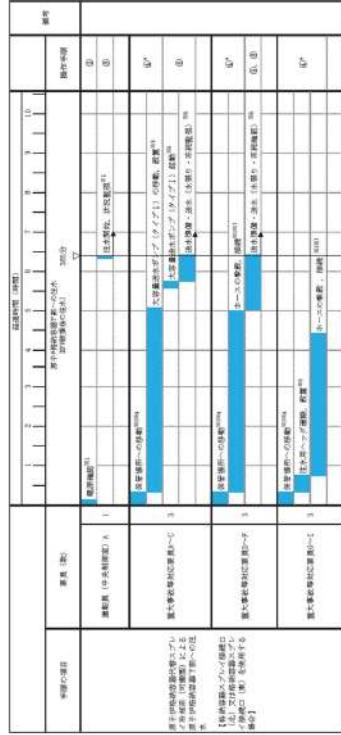
泊3号炉との比較対象なし

大飯発電所3/4号炉

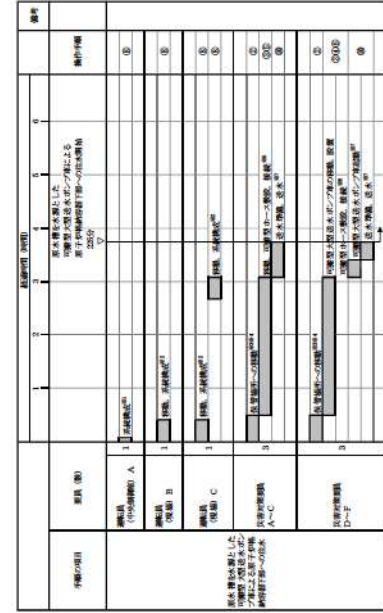
女川原子力発電所2号炉

泊発電所3号炉

相違理由



第1.8-15 図 原子炉格納容器下部の注水 タイムチャート (1/2)



第1.8.13 図 原水槽を水源とした可搬型大型送水ポンプ車による原子炉格納容器下部への注水 タイムチャート

【大飯】  
 設備の相違(相違理由①)



1.8 原子炉格納容器下部の溶融炉心を冷却するための手順等

泊発電所3号炉 技術的能力 比較表

灰色：女川2号炉の記載のうち、BWR固有の設備や対応手段であり、泊3号炉と比較対象とならない記載内容

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

大飯発電所3/4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
	<p>第1.8-15図 原子炉格納容器下部の注水タイムチャート (2/2)</p>		

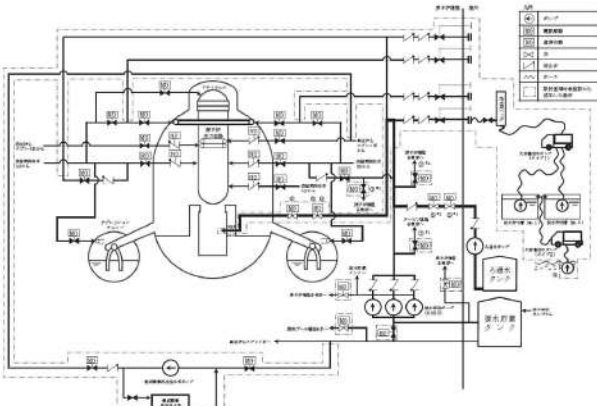
女川2号炉との比較対象なし

1.8 原子炉格納容器下部の溶融炉心を冷却するための手順等

泊発電所3号炉 技術的能力 比較表

灰色：女川2号炉の記載のうち、BWR固有の設備や対応手段であり、泊3号炉と比較対象とならない記載内容

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

大飯発電所3/4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由																
	 <p data-bbox="734 877 1355 901">第1.8-16図 ろ過水ポンプによる原子炉格納容器下部への注水〔ベデスタル注水配管使用の場合〕概要図（1/2）</p> <table border="1" data-bbox="862 949 1232 1101"> <thead> <tr> <th>操作手順</th> <th>名称</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>①<sup>A1</sup></td> <td>T/B緊急時開閉弁</td> </tr> <tr> <td>②<sup>A2</sup></td> <td>R/B B1F緊急時開閉弁</td> </tr> <tr> <td>③<sup>A3</sup></td> <td>R/B 1F緊急時開閉弁</td> </tr> <tr> <td>④<sup>A1</sup></td> <td>FF高濃縮第一弁</td> </tr> <tr> <td>⑤<sup>A2</sup></td> <td>FF高濃縮第二弁</td> </tr> <tr> <td>⑥</td> <td>原子炉格納容器下部注水用温水ポンプ</td> </tr> <tr> <td>⑦⑧</td> <td>原子炉格納容器下部注水用温水濃縮調整弁</td> </tr> </tbody> </table> <p data-bbox="862 1109 1198 1125">①～⑧：同一操作手順番号内に複数の操作又は確認を実施する必要があることを示す。</p> <p data-bbox="734 1141 1355 1165">第1.8-16図 ろ過水ポンプによる原子炉格納容器下部への注水〔ベデスタル注水配管使用の場合〕概要図（2/2）</p>	操作手順	名称	① <sup>A1</sup>	T/B緊急時開閉弁	② <sup>A2</sup>	R/B B1F緊急時開閉弁	③ <sup>A3</sup>	R/B 1F緊急時開閉弁	④ <sup>A1</sup>	FF高濃縮第一弁	⑤ <sup>A2</sup>	FF高濃縮第二弁	⑥	原子炉格納容器下部注水用温水ポンプ	⑦⑧	原子炉格納容器下部注水用温水濃縮調整弁	<p data-bbox="1467 782 1915 829" style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">女川2号炉との比較対象なし</p>	
操作手順	名称																		
① <sup>A1</sup>	T/B緊急時開閉弁																		
② <sup>A2</sup>	R/B B1F緊急時開閉弁																		
③ <sup>A3</sup>	R/B 1F緊急時開閉弁																		
④ <sup>A1</sup>	FF高濃縮第一弁																		
⑤ <sup>A2</sup>	FF高濃縮第二弁																		
⑥	原子炉格納容器下部注水用温水ポンプ																		
⑦⑧	原子炉格納容器下部注水用温水濃縮調整弁																		

泊発電所3号炉 技術的能力 比較表

灰色：女川2号炉の記載のうち、BWR固有の設備や対応手段であり、泊3号炉と比較対象とならない記載内容

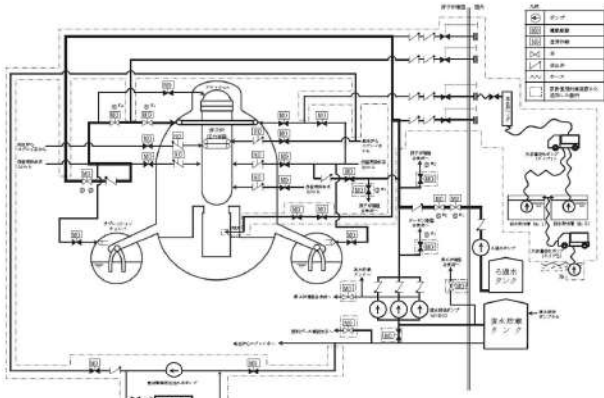
赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

1.8 原子炉格納容器下部の溶融炉心を冷却するための手順等

大飯発電所3/4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
	<p>第1.8-17図 炉心停止後、ポンプ駆動による炉心冷却のための注水[&lt;math&gt;BWR&lt;/math&gt;炉心停止後、ポンプ駆動による炉心冷却のための注水] タイムチャート</p>	<p>女川2号炉との比較対象なし</p>	

灰色：女川2号炉の記載のうち、BWR固有の設備や対応手段であり、泊3号炉と比較対象とならない記載内容

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

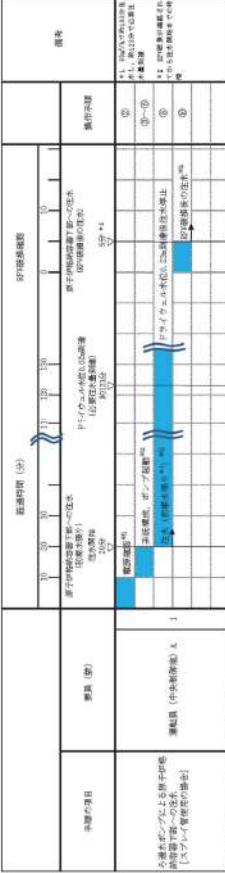
大飯発電所3/4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由																		
	 <p>第1.8-18図 ろ過水ポンプによる原子炉格納容器下部への注水[スプレイ管使用の場合] 概要図 (1/2)</p> <table border="1" data-bbox="842 922 1256 1110"> <thead> <tr> <th>操作手順</th> <th>赤名称</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>①R1</td> <td>F/B 緊急時隔離弁</td> </tr> <tr> <td>②R1</td> <td>F/B B1F 緊急時隔離弁</td> </tr> <tr> <td>③R1</td> <td>F/B IF 緊急時隔離弁</td> </tr> <tr> <td>④R1</td> <td>F/F 系隔離弁第一弁</td> </tr> <tr> <td>⑤R1</td> <td>F/F 系隔離弁第二弁</td> </tr> <tr> <td>⑥R1</td> <td>R/R A系格納容器スプレイ隔離弁</td> </tr> <tr> <td>⑦R1</td> <td>R/R A系格納容器スプレイ流量調整弁</td> </tr> <tr> <td>⑧⑨</td> <td>R/R ヘッドスプレイライン開閉流量調整弁</td> </tr> </tbody> </table> <p>※1～：同一操作手順番号内に複数の操作又は確認を実施する弁があることを示す。</p> <p>第1.8-18図 ろ過水ポンプによる原子炉格納容器下部への注水[スプレイ管使用の場合] 概要図 (2/2)</p>	操作手順	赤名称	①R1	F/B 緊急時隔離弁	②R1	F/B B1F 緊急時隔離弁	③R1	F/B IF 緊急時隔離弁	④R1	F/F 系隔離弁第一弁	⑤R1	F/F 系隔離弁第二弁	⑥R1	R/R A系格納容器スプレイ隔離弁	⑦R1	R/R A系格納容器スプレイ流量調整弁	⑧⑨	R/R ヘッドスプレイライン開閉流量調整弁	<p style="text-align: center; border: 1px solid black; padding: 5px;">女川2号炉との比較対象なし</p>	
操作手順	赤名称																				
①R1	F/B 緊急時隔離弁																				
②R1	F/B B1F 緊急時隔離弁																				
③R1	F/B IF 緊急時隔離弁																				
④R1	F/F 系隔離弁第一弁																				
⑤R1	F/F 系隔離弁第二弁																				
⑥R1	R/R A系格納容器スプレイ隔離弁																				
⑦R1	R/R A系格納容器スプレイ流量調整弁																				
⑧⑨	R/R ヘッドスプレイライン開閉流量調整弁																				

1.8 原子炉格納容器下部の溶融炉心を冷却するための手順等

泊発電所3号炉 技術的能力 比較表

灰色：女川2号炉の記載のうち、BWR固有の設備や対応手段であり、泊3号炉と比較対象とならない記載内容

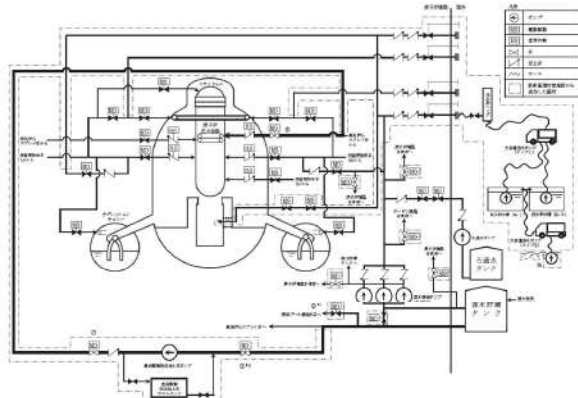
赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

大飯発電所3/4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
	 <p>第1.8-19図 ろ過水ポンプによる原子炉格納容器下部への注水[スプレイ管使用の場合] タイムチャート</p> <p>注1：事故状態での炉内温度は、炉心の溶融状態を想定          注2：機器の動作時間及び動作時刻は、余裕を以て示した時間</p>	<div style="border: 1px solid black; padding: 10px; width: fit-content; margin: 0 auto;">             女川2号炉との比較対象なし         </div>	

灰色：女川2号炉の記載のうち、BWR固有の設備や対応手段であり、泊3号炉と比較対象とならない記載内容

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

1.8 原子炉格納容器下部の溶融炉心を冷却するための手順等

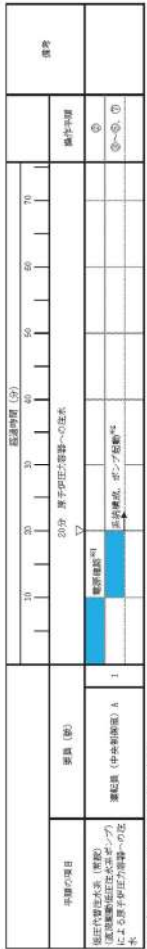
大飯発電所3/4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由										
	 <p>第1.8-20図 低圧代替注水系（常設）（気流駆動低圧注水系ポンプ）による原子炉圧力容器への注水 概要図（1/2）</p> <table border="1" data-bbox="862 957 1232 1053"> <thead> <tr> <th>操作手続</th> <th>名称</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>①A</td> <td>昇降機ポンプ送込弁</td> </tr> <tr> <td>①B</td> <td>DCLシリンジ送込弁</td> </tr> <tr> <td>①C</td> <td>RPIS注入線調整弁</td> </tr> <tr> <td>①D</td> <td>DCL注入調整弁</td> </tr> </tbody> </table> <p>※1～：同一操作手続番号内に複数の操作又は確認を実施する旨があることを示す。</p> <p>第1.8-20図 低圧代替注水系（常設）（直流駆動低圧注水系ポンプ）による原子炉圧力容器への注水 概要図（2/2）</p>	操作手続	名称	①A	昇降機ポンプ送込弁	①B	DCLシリンジ送込弁	①C	RPIS注入線調整弁	①D	DCL注入調整弁	<p style="text-align: center; border: 1px solid black; padding: 5px;">女川2号炉との比較対象なし</p>	
操作手続	名称												
①A	昇降機ポンプ送込弁												
①B	DCLシリンジ送込弁												
①C	RPIS注入線調整弁												
①D	DCL注入調整弁												

泊発電所3号炉 技術的能力 比較表

灰色：女川2号炉の記載のうち、BWR固有の設備や対応手段であり、泊3号炉と比較対象とならない記載内容

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

1.8 原子炉格納容器下部の溶融炉心を冷却するための手順等

大飯発電所3/4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
	 <p>図1：低圧代替注水による原子炉圧力容器への注水          図2：機器の動作状態が異なる場合の注水時間</p>	<div style="border: 1px solid black; padding: 10px; width: fit-content; margin: 0 auto;">             女川2号炉との比較対象なし         </div>	

灰色：女川2号炉の記載のうち、BWR固有の設備や対応手段であり、泊3号炉と比較対象とならない記載内容

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

1.8 原子炉格納容器下部の溶融炉心を冷却するための手順等

大飯発電所3/4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
	<p>①F1 S/Cタンク出口弁 (A)              ①F2 S/Cタンク出口弁 (B)              ②F3 S/C注入電動弁 (A)              ②F4 S/C注入電動弁 (B)</p> <p>※1～：同一操作手順番号内に複数の操作又は確認を実施する弁があることを示す。</p> <p>第1.8-22図 ほう酸水注入系による原子炉圧力容器へのほう酸水注入 概要図</p>	<p>女川2号炉との比較対象なし</p>	



泊発電所3号炉 技術的能力 比較表

灰色：女川2号炉の記載のうち、BWR固有の設備や対応手段であり、泊3号炉と比較対象とならない記載内容

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

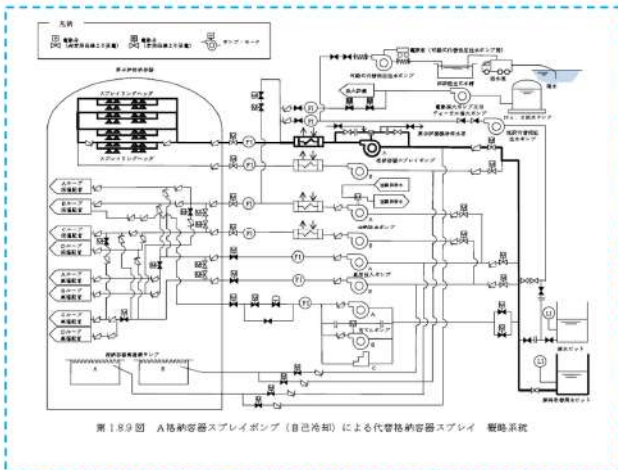
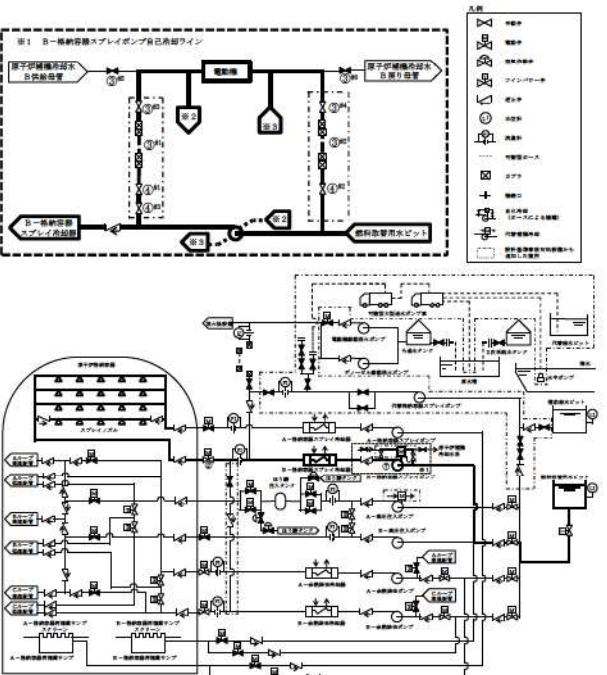
1.8 原子炉格納容器下部の溶融炉心を冷却するための手順等

大飯発電所3/4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
	<div data-bbox="974 335 1131 1284" style="text-align: center;"> <p>第1.8-23 図 ほろ酸水注入系による原子炉圧力容器へのほろ酸水注入 タイムチャート</p> </div> <p>注1：半導体装置での取組開始に必要の想定時間              注2：機殻の漏洩時発生し動作時間にも差を及ぼすことが想定</p>		

灰色：女川2号炉の記載のうち、BWR固有の設備や対応手段であり、泊3号炉と比較対象とならない記載内容

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

1.8 原子炉格納容器下部の溶融炉心を冷却するための手順等

大飯発電所3/4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由																																				
<p>【比較のため、掲載順序入れ替え】</p>  <p>第1.8.9図 A格納容器スプレイポンプ（自己冷却）による代替格納容器スプレイ 配管系統</p>		 <p>第1.8.14図 B-格納容器スプレイポンプ（自己冷却）による原子炉格納容器下部への注水 概要図</p> <table border="1" data-bbox="1444 1005 1915 1197"> <thead> <tr> <th>操作手順</th> <th>操作対象機器</th> <th>状態の変化</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>①</td> <td>B-格納容器スプレイ冷却器出口C/外側隔離弁</td> <td>全閉→全開</td> </tr> <tr> <td>②<sup>※1</sup></td> <td>可搬型ホース</td> <td>ホース接続</td> </tr> <tr> <td>③<sup>※1</sup></td> <td>可搬型ホース</td> <td>ホース接続</td> </tr> <tr> <td>④<sup>※1</sup></td> <td>B-格納容器スプレイポンプ自冷水入口弁（SA対策）</td> <td>全閉→全開</td> </tr> <tr> <td>⑤<sup>※1</sup></td> <td>B-格納容器スプレイポンプ自冷水出口弁（SA対策）</td> <td>全閉→全開</td> </tr> <tr> <td>⑥<sup>※1</sup></td> <td>B-格納容器スプレイポンプ電動機冷却水入口弁</td> <td>全閉→全開</td> </tr> <tr> <td>⑦<sup>※1</sup></td> <td>B-格納容器スプレイポンプ凝機冷却水出口止め弁</td> <td>全閉→全開</td> </tr> <tr> <td>⑧<sup>※1</sup></td> <td>B-格納容器スプレイポンプ自冷水供給ライン止め弁（SA対策）</td> <td>全閉→全開</td> </tr> <tr> <td>⑨<sup>※1</sup></td> <td>B-格納容器スプレイポンプ自冷水取りライン止め弁（SA対策）</td> <td>全閉→全開</td> </tr> <tr> <td>⑩<sup>※1</sup></td> <td>B-格納容器スプレイポンプ自冷水供給ライン絞り弁（SA対策）</td> <td>全閉→全開</td> </tr> <tr> <td>⑪</td> <td>B-格納容器スプレイポンプ</td> <td>停止→起動</td> </tr> </tbody> </table> <p>※1：同一操作手順番号内に複数の操作又は確認を実施する機器があることを示す。</p>	操作手順	操作対象機器	状態の変化	①	B-格納容器スプレイ冷却器出口C/外側隔離弁	全閉→全開	② <sup>※1</sup>	可搬型ホース	ホース接続	③ <sup>※1</sup>	可搬型ホース	ホース接続	④ <sup>※1</sup>	B-格納容器スプレイポンプ自冷水入口弁（SA対策）	全閉→全開	⑤ <sup>※1</sup>	B-格納容器スプレイポンプ自冷水出口弁（SA対策）	全閉→全開	⑥ <sup>※1</sup>	B-格納容器スプレイポンプ電動機冷却水入口弁	全閉→全開	⑦ <sup>※1</sup>	B-格納容器スプレイポンプ凝機冷却水出口止め弁	全閉→全開	⑧ <sup>※1</sup>	B-格納容器スプレイポンプ自冷水供給ライン止め弁（SA対策）	全閉→全開	⑨ <sup>※1</sup>	B-格納容器スプレイポンプ自冷水取りライン止め弁（SA対策）	全閉→全開	⑩ <sup>※1</sup>	B-格納容器スプレイポンプ自冷水供給ライン絞り弁（SA対策）	全閉→全開	⑪	B-格納容器スプレイポンプ	停止→起動	<p>【大飯】                  記載方針の相違（女川審査実績の反映）                  ・凡例の記載内容充実                  ・概要図と操作内容を紐づけ</p> <p>【女川】                  設備の相違（BWR固有の対応手段）</p>
操作手順	操作対象機器	状態の変化																																					
①	B-格納容器スプレイ冷却器出口C/外側隔離弁	全閉→全開																																					
② <sup>※1</sup>	可搬型ホース	ホース接続																																					
③ <sup>※1</sup>	可搬型ホース	ホース接続																																					
④ <sup>※1</sup>	B-格納容器スプレイポンプ自冷水入口弁（SA対策）	全閉→全開																																					
⑤ <sup>※1</sup>	B-格納容器スプレイポンプ自冷水出口弁（SA対策）	全閉→全開																																					
⑥ <sup>※1</sup>	B-格納容器スプレイポンプ電動機冷却水入口弁	全閉→全開																																					
⑦ <sup>※1</sup>	B-格納容器スプレイポンプ凝機冷却水出口止め弁	全閉→全開																																					
⑧ <sup>※1</sup>	B-格納容器スプレイポンプ自冷水供給ライン止め弁（SA対策）	全閉→全開																																					
⑨ <sup>※1</sup>	B-格納容器スプレイポンプ自冷水取りライン止め弁（SA対策）	全閉→全開																																					
⑩ <sup>※1</sup>	B-格納容器スプレイポンプ自冷水供給ライン絞り弁（SA対策）	全閉→全開																																					
⑪	B-格納容器スプレイポンプ	停止→起動																																					

1.8 原子炉格納容器下部の溶融炉心を冷却するための手順等

泊発電所3号炉 技術的能力 比較表

灰色：女川2号炉の記載のうち，BWR固有の設備や対応手段であり，泊3号炉と比較対象とならない記載内容

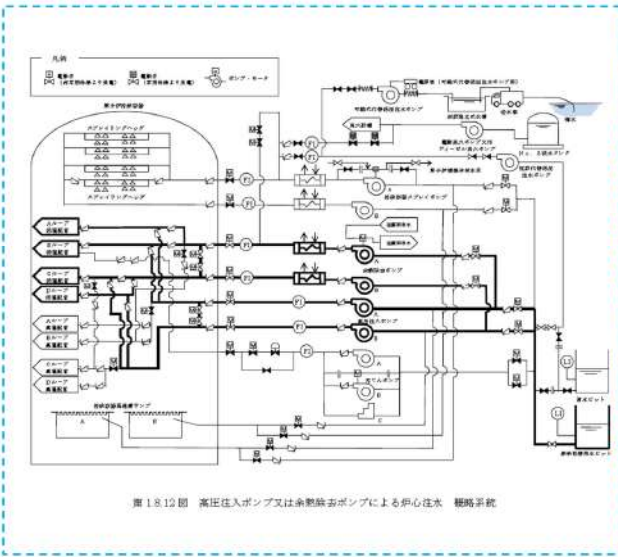
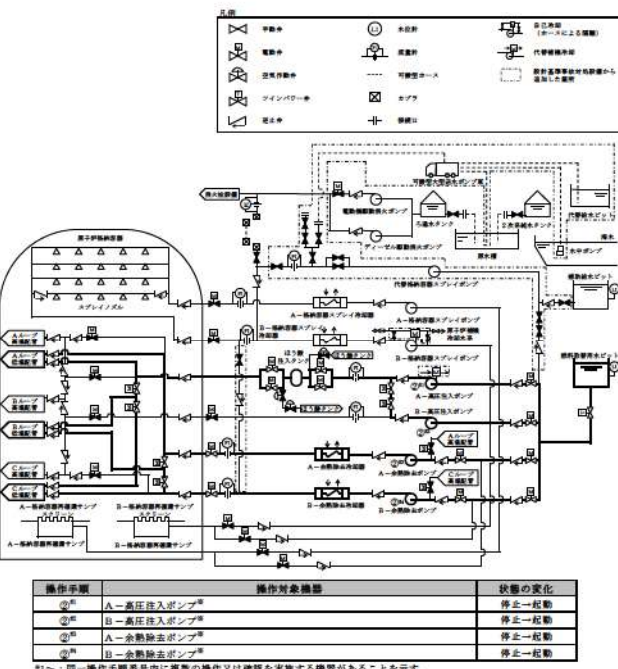
赤字：設備，運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現，設備名称の相違（実質的な相違なし）

大飯発電所3/4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
<p style="text-align: center;">【比較のため，掲載順序入れ替え】</p> <p style="text-align: center;">第1.8.10図 A格納容器スプレイポンプ（自己冷却）による代替格納容器スプレイ タイムチャート</p> <p>※：現場移動時間には対応係員専用時間を含む。</p>		<p style="text-align: center;">第1.8.15図 B一格納容器スプレイポンプ（自己冷却）による原子炉格納容器下部への注水 タイムチャート</p> <p>※1：機器の操作時間及び動作時間に余裕を見込んだ時間          ※2：中央制御室から機器操作場所までの移動時間及び機器の操作時間に見込んだ時間</p>	<p>【大飯】              記載方針の相違              （女川審査実績の反映）              ・タイムチャートと操作手順番号を紐づけ              ・補足の充実              ・備考欄の追加</p> <p>【女川】              設備の相違(BWR固有の対応手段)</p>

灰色：女川2号炉の記載のうち、BWR固有の設備や対応手段であり、泊3号炉と比較対象とならない記載内容

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

1.8 原子炉格納容器下部の溶融炉心を冷却するための手順等

大飯発電所3/4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由															
<p style="text-align: center;">【比較のため、掲載順序入れ替え】</p>  <p style="text-align: center;">図 1.8.12 図 高圧注入ポンプ又は余熱除去ポンプによる炉心注水 概略系統</p>		 <table border="1" data-bbox="1400 997 1960 1085"> <thead> <tr> <th>操作手順</th> <th>操作対象機器</th> <th>状態の変化</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>①<sup>注</sup></td> <td>A-高圧注入ポンプ<sup>注</sup></td> <td>停止→起動</td> </tr> <tr> <td>②<sup>注</sup></td> <td>B-高圧注入ポンプ<sup>注</sup></td> <td>停止→起動</td> </tr> <tr> <td>③<sup>注</sup></td> <td>A-余熱除去ポンプ<sup>注</sup></td> <td>停止→起動</td> </tr> <tr> <td>④<sup>注</sup></td> <td>B-余熱除去ポンプ<sup>注</sup></td> <td>停止→起動</td> </tr> </tbody> </table> <p>注1：同一操作手順番号内に複数の操作又は確認を実施する機器があることを示す。          注2：高圧注入ポンプ又は余熱除去ポンプを起動する。</p> <p style="text-align: center;">第 1.8.16 図 高圧注入ポンプ又は余熱除去ポンプによる原子炉容器への注水 概略図</p>	操作手順	操作対象機器	状態の変化	① <sup>注</sup>	A-高圧注入ポンプ <sup>注</sup>	停止→起動	② <sup>注</sup>	B-高圧注入ポンプ <sup>注</sup>	停止→起動	③ <sup>注</sup>	A-余熱除去ポンプ <sup>注</sup>	停止→起動	④ <sup>注</sup>	B-余熱除去ポンプ <sup>注</sup>	停止→起動	<p>【大飯】                  記載方針の相違                  （女川審査実績の反映）                  ・凡例の記載内容充実                  ・概要図と操作内容を紐づけ</p>
操作手順	操作対象機器	状態の変化																
① <sup>注</sup>	A-高圧注入ポンプ <sup>注</sup>	停止→起動																
② <sup>注</sup>	B-高圧注入ポンプ <sup>注</sup>	停止→起動																
③ <sup>注</sup>	A-余熱除去ポンプ <sup>注</sup>	停止→起動																
④ <sup>注</sup>	B-余熱除去ポンプ <sup>注</sup>	停止→起動																

灰色：女川2号炉の記載のうち、BWR固有の設備や対応手段であり、泊3号炉と比較対象とならない記載内容

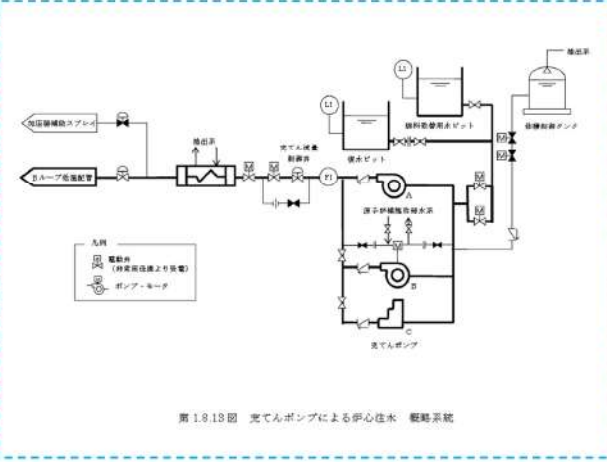
赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

大飯発電所3/4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;">泊3号炉との比較対象なし</div>		<div style="text-align: center;"> <p>第 1.8.17 図 高圧注入ポンプ又は余熱除去ポンプによる原子炉容器への注水 タイムチャート</p> </div>	<p>【大飯】記載方針の相違（女川審査実績の反映）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・泊は、中央制御室のみの操作についても、タイムチャートを整理する。</li> </ul>

灰色：女川2号炉の記載のうち、BWR固有の設備や対応手段であり、泊3号炉と比較対象とならない記載内容

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

1.8 原子炉格納容器下部の溶融炉心を冷却するための手順等

大飯発電所3/4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
<p style="text-align: center;">【比較のため、掲載順序入れ替え】</p>  <p style="text-align: center;">図 1.8-13 図 充てんポンプによる炉心注水 駆動系統</p>		<div style="border: 1px solid black; padding: 10px; width: fit-content; margin: auto;">比較対象なし</div>	<p>【大飯】                  記載方針の相違                  ・泊は、充てんポンプによる発電用原子炉の冷却の概要図を技術的能力1.4に整理している。この記載方針は、玄海3/4号炉、伊方3号炉と同様である。</p>

1.8 原子炉格納容器下部の溶融炉心を冷却するための手順等

泊発電所3号炉 技術的能力 比較表

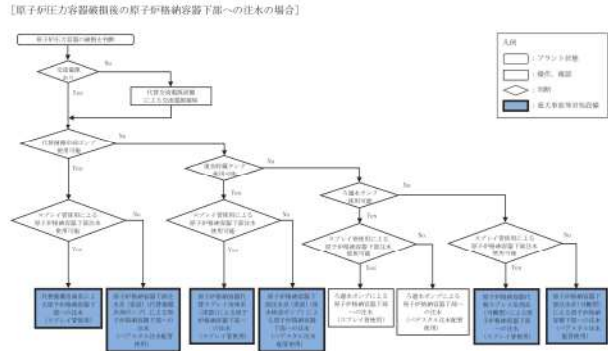
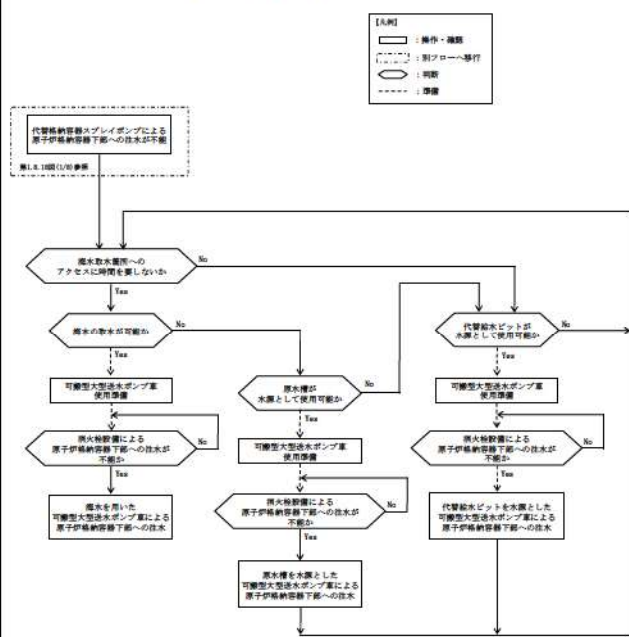
灰色：女川2号炉の記載のうち、BWR固有の設備や対応手段であり、泊3号炉と比較対象とならない記載内容

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

大飯発電所3/4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
<p>第1.8.18図 格納容器下部に落下した溶融炉心の冷却のための対応手順（1/2）（交流動力電源及び原子炉補機冷却機能健全時の場合）</p>	<p>第1.8-24図 重大事故等時の対応手段選択フローチャート（1/3）</p>	<p>1. 原子炉格納容器下部に落下した溶融炉心の冷却</p> <p>(1) 交流動力電源及び原子炉補機冷却機能健全時の対応手段の選択（1/2）</p> <p>第1.8.18図 重大事故等時の対応手段選択フローチャート（1/8）</p>	<p>【大飯】              記載方針の相違              （女川審査実績の反映）</p>

灰色：女川2号炉の記載のうち、BWR固有の設備や対応手段であり、泊3号炉と比較対象とならない記載内容

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

大飯発電所3/4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
<p style="text-align: center; border: 1px solid black; padding: 5px;">泊3号炉との比較対象なし</p>	<p style="text-align: center;">[原子炉圧力容器破損後の原子炉格納容器下部への注水の場合]</p>  <p style="text-align: center;">第1.8-24図 重大事故等時の対応手段選択フローチャート (2/3)</p>	<p style="text-align: center;">(1) 交流動力電源及び原子炉補機冷却機能健全時の対応手段の選択 (2/2)</p>  <p style="text-align: center;">第1.8.18図 重大事故等時の対応手段選択フローチャート (2/8)</p>	<p>【大飯】                  設備の相違(相違理由①)                  ・泊3号炉は、可搬型大型送水ポンプ車の水源の選択の手順を本フローで整理している。</p>



灰色：女川2号炉の記載のうち、BWR固有の設備や対応手段であり、泊3号炉と比較対象とならない記載内容

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

1.8 原子炉格納容器下部の溶融炉心を冷却するための手順等

大飯発電所3/4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
<p>第1.8.18図 格納容器下部に落下した溶融炉心の冷却のための対応手順 (2/2) [全交流動力電源又は原子炉補機冷却機能喪失]</p> <p>凡例：              □ プラント状態              ○ 操作、確認              ◇ 判断              ■ 重大事故等対応設備</p> <p>第1.8.18図 (2/2) ②-①</p>	<p>(2) 溶融炉心の原子炉格納容器下部への落下遅延・防止</p> <p>第1.8-24図 重大事故等時の対応手段選択フローチャート (3/3)</p> <p>凡例：              □ プラント状態              ○ 操作、確認              ◇ 判断              ■ 重大事故等対応設備</p> <p>第1.8.24図 (3/3) ③-①</p>	<p>(2) 全交流動力電源喪失又は原子炉補機冷却機能喪失時の対応手段の選択 (1/2)</p> <p>第1.8.18図 (2/2) ②-①</p> <p>凡例：              □ プラント状態              ○ 操作、確認              ◇ 判断              ■ 重大事故等対応設備</p> <p>第1.8.18図 (2/2) ②-①</p>	<p>【大飯】              記載方針の相違              (女川審査実績の反映)</p>

灰色：女川2号炉の記載のうち、BWR固有の設備や対応手段であり、泊3号炉と比較対象とならない記載内容

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

大飯発電所3/4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
<div data-bbox="197 783 607 831" style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;">泊3号炉との比較対象なし</div>		<p>(2) 全交流動力電源喪失又は原子炉補機冷却機能喪失時の対応手段の選択 (2/2)</p> <div data-bbox="1377 491 1993 1117"> </div> <p>第1.8.18図 重大事故等時の対応手段選択フローチャート (4/8)</p>	<p>【大飯】                  設備の相違(相違理由①)                  ・泊3号炉は、可搬型大型送水ポンプ車の水源の選択の手順を本フローで整理している。</p>

灰色：女川2号炉の記載のうち、BWR固有の設備や対応手段であり、泊3号炉と比較対象とならない記載内容

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

1.8 原子炉格納容器下部の溶融炉心を冷却するための手順等

大飯発電所3/4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
<p>図1.8.13 溶融炉心の格納容器下部への落下遅延・防止のための対応手順（1/2）（交流動力電源及び原子炉補機冷却機能健全時の対応手段）</p>		<p>2. 溶融炉心の原子炉格納容器下部への落下遅延・防止</p> <p>(1) 交流動力電源及び原子炉補機冷却機能健全時の対応手段の選択（1/2）</p> <p>図1.8.18 重大事故等時の対応手段選択フローチャート（5/8）</p>	<p>【大飯】                  記載方針の相違                  （女川審査実績の反映）                  【大飯】                  運用の相違（相違理由④）</p>

灰色：女川2号炉の記載のうち、BWR固有の設備や対応手段であり、泊3号炉と比較対象とならない記載内容

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

大飯発電所3/4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
<div data-bbox="197 786 607 831" style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: auto;">泊3号炉との比較対象なし</div>		<p style="text-align: center;">(1) 交流動力電源及び原子炉補機冷却機能健全時の対応手段の選択 (2/2)</p> <div data-bbox="1368 475 1995 1102" style="border: 1px solid black; padding: 10px;"> <p style="text-align: right;">【A.例】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>□ : 操作・確認</li> <li>○ : 別フローへ移行</li> <li>◇ : 判断</li> <li>----- : 準備</li> </ul> </div> <p style="text-align: center;">第1.8.18図 重大事故等時の対応手段選択フローチャート (6/8)</p>	<p>【大飯】 設備の相違(相違理由①) ・泊3号炉は、可搬型大型送水ポンプ車の水源の選択の手順を本フローで整理している。</p>

灰色：女川2号炉の記載のうち、BWR固有の設備や対応手段であり、泊3号炉と比較対象とならない記載内容

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

1.8 原子炉格納容器下部の溶融炉心を冷却するための手順等

大飯発電所3/4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
<p>図1.8.18(1) 溶融炉心の格納容器下部への落下延滞・阻止のための対応手順 (2/2) (全交流動力電源又は原子炉補機冷却機能喪失)</p>		<p>図1.8.18(2) 溶融炉心の格納容器下部への落下延滞・阻止のための対応手順 (2/2) (全交流動力電源又は原子炉補機冷却機能喪失時の対応手段の選択)</p>	<p>【大飯】                  記載方針の相違                  (女川審査実績の反映)</p>

第 1.8.18 図 重大事故等時の対応手段選択フローチャート (7/8)

灰色：女川2号炉の記載のうち、BWR固有の設備や対応手段であり、泊3号炉と比較対象とならない記載内容

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

大飯発電所3/4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
<div data-bbox="197 783 607 831" style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">                     泊3号炉との比較対象なし                 </div>		<p>(2) 全交流動力電源喪失又は原子炉補機冷却機能喪失時の対応手段の選択 (2/2)</p> <div data-bbox="1368 279 1995 1102"> <p>【凡例】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>□ : 操作・確認</li> <li>○ : 判断</li> <li>○ : 初期</li> <li>--- : 準備</li> </ul> <p>第1.8.18図 重大事故等時の対応手段選択フローチャート (8/8)</p> </div>	<p>【大飯】                      設備の相違(相違理由①)                      ・泊3号炉は、可搬型大型送水ポンプ車の水源の選択の手順を本フローで整理している。</p>

1.8 原子炉格納容器下部の溶融炉心を冷却するための手順等

泊発電所3号炉 技術的能力 比較表

灰色：女川2号炉の記載のうち、BWR固有の設備や対応手段であり、泊3号炉と比較対象とならない記載内容

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

大阪発電所3 / 4号炉				泊発電所3号炉				相違理由
【比較のため、女川2号炉の添付資料1.8.1を掲載】				添付資料1.8.1				添付資料1.8.1
審査基準、基準規則と対処設備との対応表 (1/7)				審査基準、基準規則と対処設備との対応表 (1/7)				【大阪】 記載方針の相違 (女川実績の反映) ・大阪の比較対象となる添付資料1.8.2は後段に掲載している。 ・泊は女川の審査実績を踏まえた構成としているため、本資料の比較対象は女川としている。
技術的能力審査基準 (1.8)	番号	設置許可基準規則 (51条)	技術基準規則 (66条)	番号	設置許可基準規則 (五十一条)	技術基準規則 (六十六条)	番号	
<p>【本文】                      発電用原子炉設置者において、炉心の著しい損傷が発生した場合において原子炉格納容器の破損を防止するため、溶融し、原子炉格納容器の下部に落下した炉心を冷却するために必要な手順等が適切に整備されているか、又は整備される方針が適切に示されていること。</p>	①	<p>【本文】                      発電用原子炉施設には、炉心の著しい損傷が発生した場合において原子炉格納容器の破損を防止するため、溶融し、原子炉格納容器の下部に落下した炉心を冷却するために必要な設備を設けなければならない。</p>	<p>【本文】                      発電用原子炉施設には、炉心の著しい損傷が発生した場合において原子炉格納容器の破損を防止するため、溶融し、原子炉格納容器の下部に落下した炉心を冷却するために必要な設備を施設しなければならない。</p>	④	<p>【本文】                      発電用原子炉施設には、炉心の著しい損傷が発生した場合において原子炉格納容器の破損を防止するため、溶融し、原子炉格納容器の下部に落下した炉心を冷却するために必要な設備を設けなければならない。</p>	<p>【本文】                      発電用原子炉施設には、炉心の著しい損傷が発生した場合において原子炉格納容器の破損を防止するため、溶融し、原子炉格納容器の下部に落下した炉心を冷却するために必要な設備を施設しなければならない。</p>	④	
<p>【解釈】                      1 「溶融し、原子炉格納容器の下部に落下した炉心を冷却するために必要な手順等」とは、以下に掲げる措置又はこれらと同等以上の効果を有する措置を行うための手順等をいう。                      なお、原子炉格納容器下部に落下した溶融炉心の冷却は、溶融炉心・コンクリート相互作用(MCCI)を抑制すること及び溶融炉心が拡がり原子炉格納容器バウングリに接触することを防止するために行われるものである。</p>	—	<p>【解釈】                      1 第51条に規定する「溶融し、原子炉格納容器の下部に落下した炉心を冷却するために必要な設備」とは、以下に掲げる措置又はこれらと同等以上の効果を有する措置を行うための設備をいう。なお、原子炉格納容器下部に落下した溶融炉心の冷却は、溶融炉心・コンクリート相互作用(MCCI)を抑制すること及び溶融炉心が拡がり原子炉格納容器バウングリに接触することを防止するために行われるものである。</p>	<p>【解釈】                      1 第66条に規定する「溶融し、原子炉格納容器の下部に落下した炉心を冷却するために必要な設備」とは、以下に掲げる措置又はこれらと同等以上の効果を有する措置を行うための設備をいう。なお、原子炉格納容器下部に落下した溶融炉心の冷却は、溶融炉心・コンクリート相互作用(MCCI)を抑制すること及び溶融炉心が拡がり原子炉格納容器バウングリに接触することを防止するために行われるものである。</p>	—	<p>【解釈】                      1 第51条に規定する「溶融し、原子炉格納容器の下部に落下した炉心を冷却するために必要な設備」とは、以下に掲げる措置又はこれらと同等以上の効果を有する措置を行うための設備をいう。なお、原子炉格納容器下部に落下した溶融炉心の冷却は、溶融炉心・コンクリート相互作用(MCCI)を抑制すること及び溶融炉心が拡がり原子炉格納容器バウングリに接触することを防止するために行われるものである。</p>	<p>【解釈】                      1 第66条に規定する「溶融し、原子炉格納容器の下部に落下した炉心を冷却するために必要な設備」とは、以下に掲げる措置又はこれらと同等以上の効果を有する措置を行うための設備をいう。なお、原子炉格納容器下部に落下した溶融炉心の冷却は、溶融炉心・コンクリート相互作用(MCCI)を抑制すること及び溶融炉心が拡がり原子炉格納容器バウングリに接触することを防止するために行われるものである。</p>	—	
<p>(1) 原子炉格納容器下部に落下した溶融炉心の冷却                      a) 炉心の著しい損傷が発生した場合において、原子炉格納容器下部注水設備により、原子炉格納容器の破損を防止するために必要な手順等を整備すること。</p>	②	<p>a) 原子炉格納容器下部注水設備を設置すること。原子炉格納容器下部注水設備とは、以下に掲げる措置又はこれらと同等以上の効果を有する措置を行うための設備をいう。                      i) 原子炉格納容器下部注水設備（ポンプ車及び耐圧ホース等）を整備すること。                      （可搬型の原子炉格納容器下部注水設備の場合は、接続する建屋内の流路をあらかじめ敷設すること。）</p>	<p>a) 原子炉格納容器下部注水設備を設置すること。原子炉格納容器下部注水設備とは、以下に掲げる措置又はこれらと同等以上の効果を有する措置を行うための設備をいう。                      i) 原子炉格納容器下部注水設備（ポンプ車及び耐圧ホース等）を整備すること。                      （可搬型の原子炉格納容器下部注水設備の場合は、接続する建屋内の流路をあらかじめ敷設すること。）</p>	⑤	<p>a) 原子炉格納容器下部注水設備を設置すること。原子炉格納容器下部注水設備とは、以下に掲げる措置又はこれらと同等以上の効果を有する措置を行うための設備をいう。                      i) 原子炉格納容器下部注水設備（ポンプ車及び耐圧ホース等）を整備すること。                      （可搬型の原子炉格納容器下部注水設備の場合は、接続する建屋内の流路をあらかじめ敷設すること。）</p>	<p>a) 原子炉格納容器下部注水設備を設置すること。原子炉格納容器下部注水設備とは、以下に掲げる措置又はこれらと同等以上の効果を有する措置を行うための設備をいう。                      i) 原子炉格納容器下部注水設備（ポンプ車及び耐圧ホース等）を整備すること。                      （可搬型の原子炉格納容器下部注水設備の場合は、接続する建屋内の流路をあらかじめ敷設すること。）</p>	⑤	
<p>(2) 溶融炉心の原子炉格納容器下部への落下遅延・防止                      a) 溶融炉心の原子炉格納容器下部への落下を遅延又は防止するため、原子炉圧力容器へ注水する手順等を整備すること。</p>	③	<p>ii) 原子炉格納容器下部注水設備は、多重性又は多様性及び独立性を有し、位置的分散を図ること。（ただし、建屋内の構造上の流路及び配管を除く。）                      b) これらの設備は、交流又は直流電源が必要な場合は代替電源設備からの給電を可能とすること。</p>	<p>ii) 原子炉格納容器下部注水設備は、多重性又は多様性及び独立性を有し、位置的分散を図ること。（ただし、建屋内の構造上の流路及び配管を除く。）                      b) これらの設備は、交流又は直流電源が必要な場合は代替電源設備からの給電を可能とすること。</p>	⑥	<p>ii) 原子炉格納容器下部注水設備は、多重性又は多様性及び独立性を有し、位置的分散を図ること。（ただし、建屋内の構造上の流路及び配管を除く。）                      b) これらの設備は、交流又は直流電源が必要な場合は代替電源設備からの給電を可能とすること。</p>	<p>ii) 原子炉格納容器下部注水設備は、多重性又は多様性及び独立性を有し、位置的分散を図ること。（ただし、建屋内の構造上の流路及び配管を除く。）                      b) これらの設備は、交流又は直流電源が必要な場合は代替電源設備からの給電を可能とすること。</p>	⑥	
				⑦			⑦	

※1：原子炉格納容器下部注水素（常設）（代替循環冷却ポンプ）は熱交換機能に期待しておらず、熱交換器は流路としてのみ用いる。

※2：「1.13 重大事故等の取束に必要な水の供給手順等」【解釈】b) 項を満足するための代替水源（措置）

灰色：女川2号炉の記載のうち、BWR固有の設備や対応手段であり、泊3号炉と比較対象とならない記載内容

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

1.8 原子炉格納容器下部の溶融炉心を冷却するための手順等

大飯発電所3/4号炉

【比較のため、女川2号炉の添付資料1.8.1を掲載】

審査基準、基準規則と対処設備との対応表 (2/7)

対応手段	機器名称	既設/新設	審査基準/基準規則	自主対策				
				機器名称	常設/可搬	必要時間内に使用可能なか	対応可能な人数で使用可能なか	備考
格納容器下部の溶融炉心を冷却するための手順等	炉心格納容器下部の水	既設	①	炉心格納容器下部の水	既設	30分	3名	自主対策とする理由は本文参照
	ろ過水タンク	既設		ろ過水タンク	既設			
	ろ過水系	既設		ろ過水系	既設			
	ろ過水系 配管・弁	既設		ろ過水系 配管・弁	既設			
	燃料冷却システム	既設		燃料冷却システム	既設			
	燃料冷却システム 配管・弁	既設		燃料冷却システム 配管・弁	既設			
	原子炉格納容器	既設		原子炉格納容器	既設			
	可搬型代替交流電源設備	既設		可搬型代替交流電源設備	既設			
	可搬型代替交流電源設備	既設		可搬型代替交流電源設備	既設			
	炉内管管電式高圧直流電源設備	既設		炉内管管電式高圧直流電源設備	既設			
	炉内管管電式高圧直流電源設備	既設		炉内管管電式高圧直流電源設備	既設			

※1：原子炉格納容器下部の水（既設）（代替機冷却ポンプ）は熱交換機に接続して30分、熱交換機は流路としてのみ用いる。

※2：「1.13 重大事故時の収束に必要なとなる水の供給手順等」【解釈】①② 項を満足するための代替取水原（指図）

審査基準、基準規則と対処設備との対応表 (3/7)

対応手段	機器名称	既設/新設	審査基準/基準規則	自主対策				
				機器名称	常設/可搬	必要時間内に使用可能なか	対応可能な人数で使用可能なか	備考
格納容器下部の溶融炉心を冷却するための手順等	炉心格納容器下部の水	既設	①	炉心格納容器下部の水	既設	30分	3名	自主対策とする理由は本文参照
	ろ過水タンク	既設		ろ過水タンク	既設			
	ろ過水系	既設		ろ過水系	既設			
	ろ過水系 配管・弁	既設		ろ過水系 配管・弁	既設			
	燃料冷却システム	既設		燃料冷却システム	既設			
	燃料冷却システム 配管・弁	既設		燃料冷却システム 配管・弁	既設			
	原子炉格納容器	既設		原子炉格納容器	既設			
	可搬型代替交流電源設備	既設		可搬型代替交流電源設備	既設			
	可搬型代替交流電源設備	既設		可搬型代替交流電源設備	既設			
	炉内管管電式高圧直流電源設備	既設		炉内管管電式高圧直流電源設備	既設			
	炉内管管電式高圧直流電源設備	既設		炉内管管電式高圧直流電源設備	既設			

※1：原子炉格納容器下部の水（既設）（代替機冷却ポンプ）は熱交換機に接続して30分、熱交換機は流路としてのみ用いる。

※2：「1.13 重大事故時の収束に必要なとなる水の供給手順等」【解釈】①② 項を満足するための代替取水原（指図）

泊発電所3号炉

審査基準、基準規則と対処設備との対応表 (2/7)

対応手段	機器名称	既設/新設	審査基準/基準規則	対応手段	機器名称	常設/可搬	必要時間内に使用可能なか	対応可能な人数で使用可能なか	備考
格納容器下部の溶融炉心を冷却するための手順等	格納容器スプレイポンプ	既設		格納容器下部の水	格納容器スプレイポンプ	既設			
	燃料冷却用水ヒット	既設			燃料冷却用水ヒット	既設			
	格納容器スプレイ冷却器	既設			格納容器スプレイ冷却器	既設			
	非常用炉心冷却設備 配管・弁	既設			非常用炉心冷却設備 配管・弁	既設			
	原子炉格納容器スプレイ設備 配管・弁	既設			原子炉格納容器スプレイ設備 配管・弁	既設			
	スプレインゾル	既設			スプレインゾル	既設			
	スプレイリング	既設			スプレイリング	既設			
	原子炉格納容器	既設			原子炉格納容器	既設			
	原子炉格納冷却設備	既設			原子炉格納冷却設備	既設			
	非常用取水設備	既設			非常用取水設備	既設			
	非常用交流電源設備	既設			非常用交流電源設備	既設			
格納容器下部の溶融炉心を冷却するための手順等	代替格納容器スプレイポンプ	新設		格納容器下部の水	代替格納容器スプレイポンプ	新設			
	燃料冷却用水ヒット	既設			燃料冷却用水ヒット	既設			
	補助給水ピット	既設			補助給水ピット	既設			
	非常用炉心冷却設備 配管・弁	既設			非常用炉心冷却設備 配管・弁	既設			
	二次冷却設備（補助給水設備）配管・弁	既設			二次冷却設備（補助給水設備）配管・弁	既設			
	原子炉格納容器スプレイ設備 配管・弁	既設			原子炉格納容器スプレイ設備 配管・弁	既設			
	スプレインゾル	既設			スプレインゾル	既設			
	スプレイリング	既設			スプレイリング	既設			
	原子炉格納容器	既設			原子炉格納容器	既設			
	可搬型代替交流電源設備	既設			可搬型代替交流電源設備	既設			
	代替炉内電気設備	既設			代替炉内電気設備	既設			
非常用交流電源設備	既設		非常用交流電源設備	既設					
格納容器下部の溶融炉心を冷却するための手順等	電動機駆動消防ポンプ	常設		格納容器下部の水	電動機駆動消防ポンプ	常設			
	ディーゼル駆動消防ポンプ	常設			ディーゼル駆動消防ポンプ	常設			
	ろ過水タンク	常設			ろ過水タンク	常設			
	可搬型ホース	可搬			可搬型ホース	可搬			
	火災防護設備（消火栓設備）配管・弁	常設			火災防護設備（消火栓設備）配管・弁	常設			
	給水処理設備 配管・弁	常設			給水処理設備 配管・弁	常設			
	原子炉格納容器スプレイ設備 配管・弁	常設			原子炉格納容器スプレイ設備 配管・弁	常設			
	スプレインゾル	常設			スプレインゾル	常設			
	スプレイリング	常設			スプレイリング	常設			
	原子炉格納容器	常設			原子炉格納容器	常設			
	非常用交流電源設備	常設			非常用交流電源設備	常設			
非常用電源設備	常設		非常用電源設備	常設					

【女川】  
設備の相違による対応手段の相違

【大飯】  
記載方針の相違  
(女川実績の反映)  
・大飯の比較対象となる添付資料1.8.2は後段に掲載している。  
・泊は女川の審査実績を踏まえた構成としているため、本資料の比較対象は女川としている。



灰色：女川2号炉の記載のうち、BWR固有の設備や対応手段であり、泊3号炉と比較対象とならない記載内容

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

1.8 原子炉格納容器下部の溶融炉心を冷却するための手順等

大飯発電所3/4号炉

【比較のため、女川2号炉の添付資料1.8.1を掲載】

審査基準、基準規則と対応設備との対応表(4/7)

■：重大事故等対応設備 □：重大事故等対応設備（設計基準拡張）

重大事故等対応設備を使用した手段 審査基準の要求に適合するための手段				自主対策			
対応手段	機器名称	既設 新設	解釈 対応 番号	対応 手段	機器名称	常設 可設	必要時に 使用可能な 対応可能な人数 で使用可能な
代替循環冷却ポンプとする原子炉格納容器下部への注水	代替循環冷却ポンプ	新設	① ② ④ ⑤ ⑥ ⑦	-	-	-	-
	サブレーションチェーン	既設					
	残留熱除去系熱交換器	既設					
	残留熱除去系 配管・弁・ストレーナ	既設					
	スプレイズ	既設					
	原子炉格納容器	既設					
	原子炉補機冷却水系（原子炉補機冷却海水系を含む）	既設					
	非常用取水設備	既設					
	原子炉補機代替冷却水系	新設					
	常設代替交流電源設備	新設					
原子炉格納容器代替スプレイズ冷却系（可設型）による原子炉格納容器下部への注水	代替所内電圧設備	新設	① ② ④ ⑤ ⑥ ⑦	-	-	-	-
	大容量送水ポンプ（タイプ1）	新設					
	送水貯水槽（No.1）※2	新設					
	送水貯水槽（No.2）※2	新設					
	ホース延長用取車	新設					
	ホース・止水用ヘッド・接続口	新設					
	残留熱除去系 配管・弁	既設					
	スプレイズ	既設					
	原子炉格納容器	既設					
	常設代替交流電源設備	新設					
可設型代替交流電源設備	新設						
代替所内電圧設備	新設						
燃料補給設備	既設						

※1：原子炉格納容器下部注水系（常設）（代替循環冷却ポンプ）は熱交換機能に期待しておらず、熱交換器は流路としてのみ用いている。

※2：「1.13 重大事故等の収束に必要な水の供給手順等」【解釈】1h）項を満足するための代替送水原（槽體）

泊発電所3号炉

審査基準、基準規則と対応設備との対応表(3/7)

■：重大事故等対応設備 □：重大事故等対応設備（設計基準拡張）

重大事故等対応設備を使用した手段 審査基準の要求に適合するための手段				自主対策			
対応手段	機器名称	既設 新設	解釈 対応 番号	対応 手段	機器名称	常設 可設	必要時に 使用可能な 対応可能な人数 で使用可能な
可設型大型送水ポンプを用いた原子炉格納容器下部への注水	可設型大型送水ポンプ車	可設	-	-	可設型大型送水ポンプ車	可設	225分
	可設型ホース・接続口	可設			可設型ホース・接続口	可設	
	ホース延長・回収車（送水車用）	可設			ホース延長・回収車（送水車用）	可設	
	非常用炉心冷却設備 配管・弁	常設			非常用炉心冷却設備 配管・弁	常設	
	原子炉格納容器スプレイズ設備 配管・弁	常設			原子炉格納容器スプレイズ設備 配管・弁	常設	
	スプレイズ	常設			スプレイズ	常設	
	スプレイズラング	常設			スプレイズラング	常設	
	原子炉格納容器	常設			原子炉格納容器	常設	
	非常用取水設備	可設			非常用取水設備	可設	
	非常用交流電源設備	常設			非常用交流電源設備	常設	
	常設代替交流電源設備	常設			常設代替交流電源設備	常設	
	燃料補給設備	常設			燃料補給設備	常設	
	燃料補給設備	常設			燃料補給設備	常設	
可設型大型送水ポンプを用いた原子炉格納容器下部への注水（可設型）	可設型大型送水ポンプ車	可設	-	-	可設型大型送水ポンプ車	可設	170分
	可設型ホース・接続口	可設			可設型ホース・接続口	可設	
	ホース延長・回収車（送水車用）	可設			ホース延長・回収車（送水車用）	可設	
	代替給水ピット	常設			代替給水ピット	常設	
	非常用炉心冷却設備 配管・弁	常設			非常用炉心冷却設備 配管・弁	常設	
	原子炉格納容器スプレイズ設備 配管・弁	常設			原子炉格納容器スプレイズ設備 配管・弁	常設	
	スプレイズ	常設			スプレイズ	常設	
	スプレイズラング	常設			スプレイズラング	常設	
	原子炉格納容器	常設			原子炉格納容器	常設	
	非常用交流電源設備	常設			非常用交流電源設備	常設	
	常設代替交流電源設備	常設			常設代替交流電源設備	常設	
	燃料補給設備	常設			燃料補給設備	常設	
	燃料補給設備	常設			燃料補給設備	常設	
可設型大型送水ポンプを用いた原子炉格納容器下部への注水（可設型）	可設型大型送水ポンプ車	可設	-	-	可設型大型送水ポンプ車	可設	225分
	可設型ホース・接続口	可設			可設型ホース・接続口	可設	
	ホース延長・回収車（送水車用）	可設			ホース延長・回収車（送水車用）	可設	
	原水槽	常設			原水槽	常設	
	2次系純水タンク	常設			2次系純水タンク	常設	
	ろ過水タンク	常設			ろ過水タンク	常設	
	非常用炉心冷却設備 配管・弁	常設			非常用炉心冷却設備 配管・弁	常設	
	原子炉格納容器スプレイズ設備 配管・弁	常設			原子炉格納容器スプレイズ設備 配管・弁	常設	
	給水処理設備 配管・弁	常設			給水処理設備 配管・弁	常設	
	スプレイズ	常設			スプレイズ	常設	
	スプレイズラング	常設			スプレイズラング	常設	
	原子炉格納容器	常設			原子炉格納容器	常設	
	非常用交流電源設備	常設			非常用交流電源設備	常設	
常設代替交流電源設備	常設	常設代替交流電源設備	常設				
燃料補給設備	常設	燃料補給設備	常設				

【女川】  
設備の相違による対応手段の相違

【大飯】  
記載方針の相違（女川実績の反映）  
・大飯の比較対象となる添付資料1.8.2は後段に掲載している。  
・泊は女川の審査実績を踏まえた構成としているため、本資料の比較対象は女川としている。

灰色：女川2号炉の記載のうち、BWR固有の設備や対応手段であり、泊3号炉と比較対象とならない記載内容

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

1.8 原子炉格納容器下部の溶融炉心を冷却するための手順等

大飯発電所3 / 4号炉				泊発電所3号炉				相違理由				
【比較のため、女川2号炉の添付資料1.8.1を掲載】				審査基準、基準規則と対処設備との対応表 (5/7)				審査基準、基準規則と対処設備との対応表 (4/7)	【女川】 設備の相違による対応手段の相違			
審査基準、基準規則と対処設備との対応表 (5/7)				審査基準、基準規則と対処設備との対応表 (4/7)								
重大事故等対処設備を使用した手段 審査基準の要求に適合するための手段 ① ② ③ ④				自主対策 必要時間内に使用可能か 対応可能な人数で使用可能か 備考 20分 1名				自主対策 必要時間内に使用可能か 対応可能な人数で使用可能か 備考 20分 1名				【女川】 設備の相違による対応手段の相違  【大飯】 記載方針の相違 (女川実績の反映) ・大飯の比較対象となる添付資料1.8.2は後段に掲載している。 ・泊は女川の審査実績を踏まえた構成としているため、本資料の比較対象は女川としている。
低圧代替注水系統(常設) (復水移送ポンプ)による原子炉圧力容器への注水 ① ② ③ ④				低圧代替注水系統(常設) (復水移送ポンプ)による原子炉圧力容器への注水 ① ② ③ ④				低圧代替注水系統(常設) (復水移送ポンプ)による原子炉圧力容器への注水 ① ② ③ ④				
低圧代替注水系統(可搬型)による原子炉圧力容器への注水 ① ② ③ ④				低圧代替注水系統(可搬型)による原子炉圧力容器への注水 ① ② ③ ④				低圧代替注水系統(可搬型)による原子炉圧力容器への注水 ① ② ③ ④				
高圧注入ポンプ 余熱除去ポンプ 燃料取替用水ビット ほう注注入タンク 非常用炉心冷却設備 (高圧注入系) 配管・弁 非常用炉心冷却設備 (低圧注入系) 配管・弁 1次冷却設備 原子炉容器 原子炉補機冷却設備 非常用取水設備 非常用交流電源設備				高圧注入ポンプ 余熱除去ポンプ 燃料取替用水ビット ほう注注入タンク 非常用炉心冷却設備 (高圧注入系) 配管・弁 非常用炉心冷却設備 (低圧注入系) 配管・弁 1次冷却設備 原子炉容器 原子炉補機冷却設備 非常用取水設備 非常用交流電源設備				高圧注入ポンプ 余熱除去ポンプ 燃料取替用水ビット ほう注注入タンク 非常用炉心冷却設備 (高圧注入系) 配管・弁 非常用炉心冷却設備 (低圧注入系) 配管・弁 1次冷却設備 原子炉容器 原子炉補機冷却設備 非常用取水設備 非常用交流電源設備				

灰色：女川2号炉の記載のうち、BWR固有の設備や対応手段であり、泊3号炉と比較対象とならない記載内容

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

1.8 原子炉格納容器下部の溶融炉心を冷却するための手順等

大飯発電所3/4号炉		泊発電所3号炉		相違理由
【比較のため、女川2号炉の添付資料1.8.1を掲載】		審査基準、基準規則と対応設備との対応表 (5/7)		【女川】 設備の相違による対応手段の相違  【大飯】 記載方針の相違 (女川実績の反映) ・大飯の比較対象となる添付資料1.8.2は後段に掲載している。 ・泊は女川の審査実績を踏まえた構成としているため、本資料の比較対象は女川としている。
【比較のため、女川2号炉の添付資料1.8.1を掲載】		審査基準、基準規則と対応設備との対応表 (6/7)		
審査基準、基準規則と対応設備との対応表 (6/7)		審査基準、基準規則と対応設備との対応表 (6/7)		
<p>重大事故等対応設備を使用した手段 審査基準の要求に適合するための手段</p> <p>対応手段</p> <p>機器名称</p> <p>既設 新設</p> <p>解説 対応 番号</p> <p>① ③ ④</p>		<p>自主対策</p> <p>対応手段</p> <p>機器名称</p> <p>常設 可動</p> <p>必要期限内に 使用可能か</p> <p>対応可能な人数 で使用可能か</p> <p>備考</p> <p>20分</p> <p>1名</p> <p>自主対策とする理由は本文参照</p>		<p>重大事故等対応設備を使用した手段 審査基準の要求に適合するための手段</p> <p>対応手段</p> <p>機器名称</p> <p>既設 新設</p> <p>解説 対応 番号</p> <p>① ③ ④</p>
<p>原子炉圧力容器への注水</p> <p>代替補機冷却ポンプ</p> <p>サブプレッションチェンバ</p> <p>残留熱除去系動交換器</p> <p>残留熱除去系 配管・弁・ストレーナ</p> <p>原子炉圧力容器</p> <p>原子炉補機冷却水系 (原子炉補機冷却海水系を含む。)</p> <p>非常用取水設備</p> <p>原子炉補機代替冷却水系</p> <p>常設代替交流電源設備</p> <p>代替所内電気設備</p>		<p>原子炉圧力容器への注水</p> <p>副機駆動水圧系による</p> <p>副機駆動水圧系</p> <p>副機駆動水ポンプ</p> <p>復水貯蔵タンク</p> <p>副機駆動水圧系 配管・弁</p> <p>補給水系 配管・弁</p> <p>原子炉圧力容器</p> <p>原子炉補機冷却水系 (原子炉補機冷却海水系を含む。)</p> <p>非常用取水設備</p> <p>常設代替交流電源設備</p>		<p>原子炉圧力容器への注水</p> <p>副機駆動水圧系による</p> <p>副機駆動水ポンプ</p> <p>復水貯蔵タンク</p> <p>副機駆動水圧系 配管・弁</p> <p>補給水系 配管・弁</p> <p>原子炉圧力容器</p> <p>原子炉補機冷却水系 (原子炉補機冷却海水系を含む。)</p> <p>非常用取水設備</p> <p>常設代替交流電源設備</p>
<p>高圧代替注水系による原子炉圧力容器への注水</p> <p>高圧代替注水系ポンプ</p> <p>復水貯蔵タンク</p> <p>高圧代替注水系 (蒸気系) 配管・弁</p> <p>主蒸気系 配管・弁</p> <p>原子炉補機冷却系 (蒸気系) 配管・弁</p> <p>高圧代替注水系 (注水系) 配管・弁</p> <p>補給水系 配管</p> <p>高圧炉心スプレイ系 配管・弁</p> <p>燃料プール補給水系</p> <p>原子炉冷却材浄化系 配管</p> <p>復水給水系 配管・弁・スルージェ</p> <p>原子炉圧力容器</p> <p>所内常設直流電源設備</p> <p>常設代替直流電源設備</p> <p>可搬型代替直流電源設備</p> <p>常設代替交流電源設備</p> <p>可搬型代替交流電源設備</p>		<p>高圧代替注水系による原子炉圧力容器への注水</p> <p>高圧代替注水系ポンプ</p> <p>復水貯蔵タンク</p> <p>高圧代替注水系 (蒸気系) 配管・弁</p> <p>主蒸気系 配管・弁</p> <p>原子炉補機冷却系 (蒸気系) 配管・弁</p> <p>高圧代替注水系 (注水系) 配管・弁</p> <p>補給水系 配管</p> <p>高圧炉心スプレイ系 配管・弁</p> <p>燃料プール補給水系</p> <p>原子炉冷却材浄化系 配管</p> <p>復水給水系 配管・弁・スルージェ</p> <p>原子炉圧力容器</p> <p>所内常設直流電源設備</p> <p>常設代替直流電源設備</p> <p>可搬型代替直流電源設備</p> <p>常設代替交流電源設備</p> <p>可搬型代替交流電源設備</p>		<p>高圧代替注水系による原子炉圧力容器への注水</p> <p>高圧代替注水系ポンプ</p> <p>復水貯蔵タンク</p> <p>高圧代替注水系 (蒸気系) 配管・弁</p> <p>主蒸気系 配管・弁</p> <p>原子炉補機冷却系 (蒸気系) 配管・弁</p> <p>高圧代替注水系 (注水系) 配管・弁</p> <p>補給水系 配管</p> <p>高圧炉心スプレイ系 配管・弁</p> <p>燃料プール補給水系</p> <p>原子炉冷却材浄化系 配管</p> <p>復水給水系 配管・弁・スルージェ</p> <p>原子炉圧力容器</p> <p>所内常設直流電源設備</p> <p>常設代替直流電源設備</p> <p>可搬型代替直流電源設備</p> <p>常設代替交流電源設備</p> <p>可搬型代替交流電源設備</p>

※1: 原子炉格納容器下部注水系 (常設) (代替補機冷却ポンプ) は熱交換機定に期待しておらず、熱交換機は流路としてのみ用いる。

※2: 「1.13 重大事故等の収束に必要な水の供給手順等」【解釈】1b) 項を満足するための代替注水源 (措置)

灰色：女川2号炉の記載のうち、BWR固有の設備や対応手段であり、泊3号炉と比較対象とならない記載内容

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

1.8 原子炉格納容器下部の溶融炉心を冷却するための手順等

大飯発電所3/4号炉									
【比較のため、女川2号炉の添付資料1.8.1を掲載】									
審査基準、基準規則と対処設備との対応表 (7/7)									
<span style="background-color: #cccccc; border: 1px solid black; padding: 2px;">        </span> : 重大事故等対処設備 <span style="background-color: #e0e0e0; border: 1px solid black; padding: 2px;">        </span> : 重大事故等対処設備（設計基準拡張）									
重大事故等対処設備を使用した手段 審査基準の要求に適合するための手段				自主対策					
対応手段	機器名称	既設 新設	解説 対応 番号	対応 手段	機器名称	常設 可動	必要時間内に 使用可能か	対応可能な人数 で使用可能か	備考
原子炉圧力容器へのほう酸水注入	ほう酸水注入系ポンプ	既設	① ② ③ ④	-	-	-	-	-	-
	ほう酸水注入系貯蔵タンク	既設							
	ほう酸水注入系 配管・弁	既設							
	原子炉圧力容器	既設							
	常設代替交流電源設備	新設							
	可搬型代替交流電源設備	新設							
※1：原子炉格納容器下部注水系（常設）（代替循環冷却ポンプ）は熱交換機能に期待しておらず、熱交換器は流路としてのみ用いている。 ※2：「1.13 重大事故等の収束に必要な水の供給手順等」【解釈】(b) 項を満足するための代替淡水源（措置）									

泊発電所3号炉										相違理由
審査基準、基準規則と対処設備との対応表 (6/7)										【女川】 設備の相違による対応手段の相違
<span style="background-color: #cccccc; border: 1px solid black; padding: 2px;">        </span> : 重大事故等対処設備 <span style="background-color: #e0e0e0; border: 1px solid black; padding: 2px;">        </span> : 重大事故等対処設備（設計基準拡張）										
重大事故等対処設備を使用した手段 審査基準の要求に適合するための手段				自主対策						
対応手段	機器名称	既設 新設	解説 対応 番号	対応手段	機器名称	常設 可動	必要時間内に 使用可能か	対応可能な人数 で使用可能か	備考	【大飯】 記載方針の相違 (女川実績の反映) ・大飯の比較対象となる添付資料1.8.2は後段に掲載している。 ・泊は女川の審査実績を踏まえた構成としているため、本資料の比較対象は女川としている。
-	-	-	-	-	電動機駆動消防ポンプ	常設	40分	3名	自主対策とする理由は本文参照	
					ディーゼル駆動消防ポンプ	常設				
					ろ過水タンク	常設				
					可搬型ホース	可動				
					火災防護設備（消火栓設備）配管・弁	常設				
					給水地漏設備 配管・弁	常設				
					非常用炉心冷却設備（低圧注入系）配管・弁	常設				
					原子炉格納容器スプレイ設備 配管・弁	常設				
					1次冷却設備	常設				
					原子炉容器	常設				
常用電源設備	常設									
-	-	-	-	-	可搬型大型送水ポンプ車	可動	200分	9名	自主対策とする理由は本文参照	
					可搬型ホース・接続口	可動				
					ホース延長・回収車（送水車用）	可動				
					非常用炉心冷却設備 配管・弁	常設				
					非常用炉心冷却設備（低圧注入系）配管・弁	常設				
					原子炉格納容器スプレイ設備 配管・弁	常設				
					1次冷却設備	常設				
					原子炉容器	常設				
					非常用取水設備	常設				
					燃料補給設備	常設 可動				
-	-	-	-	-	可搬型大型送水ポンプ車	可動	145分	9名	自主対策とする理由は本文参照	
					可搬型ホース・接続口	可動				
					ホース延長・回収車（送水車用）	可動				
					代替給水ビッド	常設				
					非常用炉心冷却設備 配管・弁	常設				
					非常用炉心冷却設備（低圧注入系）配管・弁	常設				
					原子炉格納容器スプレイ設備 配管・弁	常設				
					1次冷却設備	常設				
					原子炉容器	常設				
					燃料補給設備	常設 可動				
-	-	-	-	-	可搬型大型送水ポンプ車	可動	200分	9名	自主対策とする理由は本文参照	
					可搬型ホース・接続口	可動				
					ホース延長・回収車（送水車用）	可動				
					原木槽	常設				
					2次系純水タンク	常設				
					ろ過水タンク	常設				
					非常用炉心冷却設備 配管・弁	常設				
					非常用炉心冷却設備（低圧注入系）配管・弁	常設				
					原子炉格納容器スプレイ設備 配管・弁	常設				
					給水地漏設備 配管・弁	常設				
1次冷却設備	常設									
原子炉容器	常設									
燃料補給設備	常設 可動									

1.8 原子炉格納容器下部の溶融炉心を冷却するための手順等

泊発電所3号炉 技術的能力 比較表

灰色：女川2号炉の記載のうち、BWR固有の設備や対応手段であり、泊3号炉と比較対象とならない記載内容

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

大飯発電所3/4号炉	泊発電所3号炉	相違理由																																																																																																																																																												
	<p>審査基準、基準規則と対処設備との対応表 (7/7)</p> <p>■ : 重大事故等対処設備 □ : 重大事故等対処設備 (設計基準拡張)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="3">重大事故等対処設備を使用した手段 審査基準の要求に適合するための手段</th> <th colspan="5">自主対策</th> </tr> <tr> <th>対応手段</th> <th>機器名称</th> <th>既設新設</th> <th>解釈 対応 番号</th> <th>対応 手段</th> <th>機器名称</th> <th>常設 可能</th> <th>必要期限内 使用可能か</th> <th>対応可能な 人数で 使用可能か</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="9">B I に よ り て 原 子 炉 停 止 後 の 注 水</td> <td>B-I充てんポンプ</td> <td>既設</td> <td rowspan="9">① ③ ④</td> <td rowspan="9">-</td> <td>B-格納容器スプレイポンプ</td> <td>常設</td> <td rowspan="9">50分</td> <td rowspan="9">3名</td> <td rowspan="9">自主対策とする理由は本文参照</td> </tr> <tr> <td>燃料取扱用水ピット</td> <td>既設</td> <td>可搬型ホース</td> <td>可搬</td> </tr> <tr> <td>再生熱交換器</td> <td>既設</td> <td>燃料取扱用水ピット</td> <td>常設</td> </tr> <tr> <td>非常用炉心冷却設備 配管・弁</td> <td>既設</td> <td>B-格納容器スプレイ冷却器</td> <td>常設</td> </tr> <tr> <td>化学体積制御設備 配管・弁</td> <td>既設新設</td> <td>非常用炉心冷却設備 配管・弁</td> <td>常設</td> </tr> <tr> <td>原子炉補機冷却設備 (原子炉補機冷却水設備) 配管・弁</td> <td>既設新設</td> <td>非常用炉心冷却設備 (低圧注入系) 配管・弁</td> <td>常設</td> </tr> <tr> <td>1次冷却設備</td> <td>既設</td> <td>原子炉格納容器スプレイ設備 配管・弁</td> <td>常設</td> </tr> <tr> <td>原子炉容器</td> <td>既設</td> <td>原子炉補機冷却設備 (原子炉補機冷却水設備) 配管・弁</td> <td>常設</td> </tr> <tr> <td>常設代替交流電源設備</td> <td>既設新設</td> <td>1次冷却設備</td> <td>常設</td> </tr> <tr> <td rowspan="9">-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td rowspan="9">-</td> <td rowspan="9">-</td> <td>B-I格納容器スプレイポンプ</td> <td>常設</td> <td rowspan="9">40分</td> <td rowspan="9">3名</td> <td rowspan="9">自主対策とする理由は本文参照</td> </tr> <tr> <td>-</td> <td>-</td> <td>可搬型ホース</td> <td>可搬</td> </tr> <tr> <td>-</td> <td>-</td> <td>燃料取扱用水ピット</td> <td>常設</td> </tr> <tr> <td>-</td> <td>-</td> <td>B-格納容器スプレイ冷却器</td> <td>常設</td> </tr> <tr> <td>-</td> <td>-</td> <td>非常用炉心冷却設備 配管・弁</td> <td>常設</td> </tr> <tr> <td>-</td> <td>-</td> <td>非常用炉心冷却設備 (低圧注入系) 配管・弁</td> <td>常設</td> </tr> <tr> <td>-</td> <td>-</td> <td>原子炉格納容器スプレイ設備 配管・弁</td> <td>常設</td> </tr> <tr> <td>-</td> <td>-</td> <td>原子炉補機冷却設備 (原子炉補機冷却水設備) 配管・弁</td> <td>常設</td> </tr> <tr> <td>-</td> <td>-</td> <td>1次冷却設備</td> <td>常設</td> </tr> <tr> <td>-</td> <td>-</td> <td>原子炉容器</td> <td>常設</td> </tr> <tr> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td rowspan="9">-</td> <td rowspan="9">-</td> <td>ディーゼル駆動雨水ポンプ</td> <td>常設</td> <td rowspan="9">40分</td> <td rowspan="9">3名</td> <td rowspan="9">自主対策とする理由は本文参照</td> </tr> <tr> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>ろ過水タンク</td> <td>常設</td> </tr> <tr> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>可搬型ホース</td> <td>可搬</td> </tr> <tr> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>火災防護設備 (雨水栓設備) 配管・弁</td> <td>常設</td> </tr> <tr> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>給水処理設備 配管・弁</td> <td>常設</td> </tr> <tr> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>非常用炉心冷却設備 (低圧注入系) 配管・弁</td> <td>常設</td> </tr> <tr> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>原子炉格納容器スプレイ設備 配管・弁</td> <td>常設</td> </tr> <tr> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>1次冷却設備</td> <td>常設</td> </tr> <tr> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>原子炉容器</td> <td>常設</td> </tr> </tbody> </table>	重大事故等対処設備を使用した手段 審査基準の要求に適合するための手段			自主対策					対応手段	機器名称	既設新設	解釈 対応 番号	対応 手段	機器名称	常設 可能	必要期限内 使用可能か	対応可能な 人数で 使用可能か	備考	B I に よ り て 原 子 炉 停 止 後 の 注 水	B-I充てんポンプ	既設	① ③ ④	-	B-格納容器スプレイポンプ	常設	50分	3名	自主対策とする理由は本文参照	燃料取扱用水ピット	既設	可搬型ホース	可搬	再生熱交換器	既設	燃料取扱用水ピット	常設	非常用炉心冷却設備 配管・弁	既設	B-格納容器スプレイ冷却器	常設	化学体積制御設備 配管・弁	既設新設	非常用炉心冷却設備 配管・弁	常設	原子炉補機冷却設備 (原子炉補機冷却水設備) 配管・弁	既設新設	非常用炉心冷却設備 (低圧注入系) 配管・弁	常設	1次冷却設備	既設	原子炉格納容器スプレイ設備 配管・弁	常設	原子炉容器	既設	原子炉補機冷却設備 (原子炉補機冷却水設備) 配管・弁	常設	常設代替交流電源設備	既設新設	1次冷却設備	常設	-	-	-	-	-	B-I格納容器スプレイポンプ	常設	40分	3名	自主対策とする理由は本文参照	-	-	可搬型ホース	可搬	-	-	燃料取扱用水ピット	常設	-	-	B-格納容器スプレイ冷却器	常設	-	-	非常用炉心冷却設備 配管・弁	常設	-	-	非常用炉心冷却設備 (低圧注入系) 配管・弁	常設	-	-	原子炉格納容器スプレイ設備 配管・弁	常設	-	-	原子炉補機冷却設備 (原子炉補機冷却水設備) 配管・弁	常設	-	-	1次冷却設備	常設	-	-	原子炉容器	常設	-	-	-	-	-	ディーゼル駆動雨水ポンプ	常設	40分	3名	自主対策とする理由は本文参照	-	-	-	ろ過水タンク	常設	-	-	-	可搬型ホース	可搬	-	-	-	火災防護設備 (雨水栓設備) 配管・弁	常設	-	-	-	給水処理設備 配管・弁	常設	-	-	-	非常用炉心冷却設備 (低圧注入系) 配管・弁	常設	-	-	-	原子炉格納容器スプレイ設備 配管・弁	常設	-	-	-	1次冷却設備	常設	-	-	-	原子炉容器	常設	<p>【女川】 設備の相違による対応手段の相違</p> <p>【大飯】 記載方針の相違 (女川実績の反映) ・大飯の比較対象となる添付資料1.8.2は後段に掲載している。 ・泊は女川の審査実績を踏まえた構成としているため、本資料の比較対象は女川としている。</p>
重大事故等対処設備を使用した手段 審査基準の要求に適合するための手段			自主対策																																																																																																																																																											
対応手段	機器名称	既設新設	解釈 対応 番号	対応 手段	機器名称	常設 可能	必要期限内 使用可能か	対応可能な 人数で 使用可能か	備考																																																																																																																																																					
B I に よ り て 原 子 炉 停 止 後 の 注 水	B-I充てんポンプ	既設	① ③ ④	-	B-格納容器スプレイポンプ	常設	50分	3名	自主対策とする理由は本文参照																																																																																																																																																					
	燃料取扱用水ピット	既設			可搬型ホース	可搬																																																																																																																																																								
	再生熱交換器	既設			燃料取扱用水ピット	常設																																																																																																																																																								
	非常用炉心冷却設備 配管・弁	既設			B-格納容器スプレイ冷却器	常設																																																																																																																																																								
	化学体積制御設備 配管・弁	既設新設			非常用炉心冷却設備 配管・弁	常設																																																																																																																																																								
	原子炉補機冷却設備 (原子炉補機冷却水設備) 配管・弁	既設新設			非常用炉心冷却設備 (低圧注入系) 配管・弁	常設																																																																																																																																																								
	1次冷却設備	既設			原子炉格納容器スプレイ設備 配管・弁	常設																																																																																																																																																								
	原子炉容器	既設			原子炉補機冷却設備 (原子炉補機冷却水設備) 配管・弁	常設																																																																																																																																																								
	常設代替交流電源設備	既設新設			1次冷却設備	常設																																																																																																																																																								
-	-	-	-	-	B-I格納容器スプレイポンプ	常設	40分	3名	自主対策とする理由は本文参照																																																																																																																																																					
	-	-			可搬型ホース	可搬																																																																																																																																																								
	-	-			燃料取扱用水ピット	常設																																																																																																																																																								
	-	-			B-格納容器スプレイ冷却器	常設																																																																																																																																																								
	-	-			非常用炉心冷却設備 配管・弁	常設																																																																																																																																																								
	-	-			非常用炉心冷却設備 (低圧注入系) 配管・弁	常設																																																																																																																																																								
	-	-			原子炉格納容器スプレイ設備 配管・弁	常設																																																																																																																																																								
	-	-			原子炉補機冷却設備 (原子炉補機冷却水設備) 配管・弁	常設																																																																																																																																																								
	-	-			1次冷却設備	常設																																																																																																																																																								
-	-	原子炉容器	常設																																																																																																																																																											
-	-	-	-	-	ディーゼル駆動雨水ポンプ	常設	40分	3名	自主対策とする理由は本文参照																																																																																																																																																					
-	-	-			ろ過水タンク	常設																																																																																																																																																								
-	-	-			可搬型ホース	可搬																																																																																																																																																								
-	-	-			火災防護設備 (雨水栓設備) 配管・弁	常設																																																																																																																																																								
-	-	-			給水処理設備 配管・弁	常設																																																																																																																																																								
-	-	-			非常用炉心冷却設備 (低圧注入系) 配管・弁	常設																																																																																																																																																								
-	-	-			原子炉格納容器スプレイ設備 配管・弁	常設																																																																																																																																																								
-	-	-			1次冷却設備	常設																																																																																																																																																								
-	-	-			原子炉容器	常設																																																																																																																																																								

1.8 原子炉格納容器下部の溶融炉心を冷却するための手順等

泊発電所3号炉 技術的能力 比較表

灰色：女川2号炉の記載のうち、BWR固有の設備や対応手段であり、泊3号炉と比較対象とならない記載内容

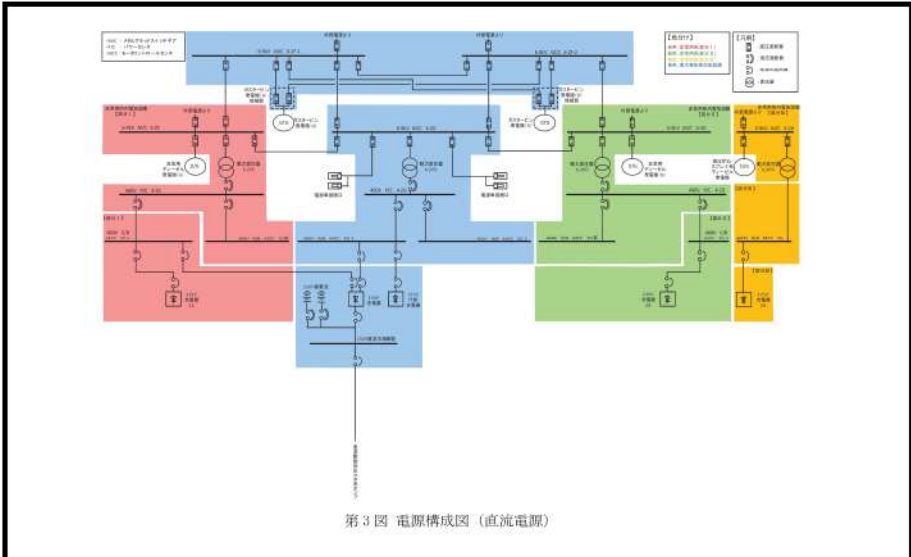
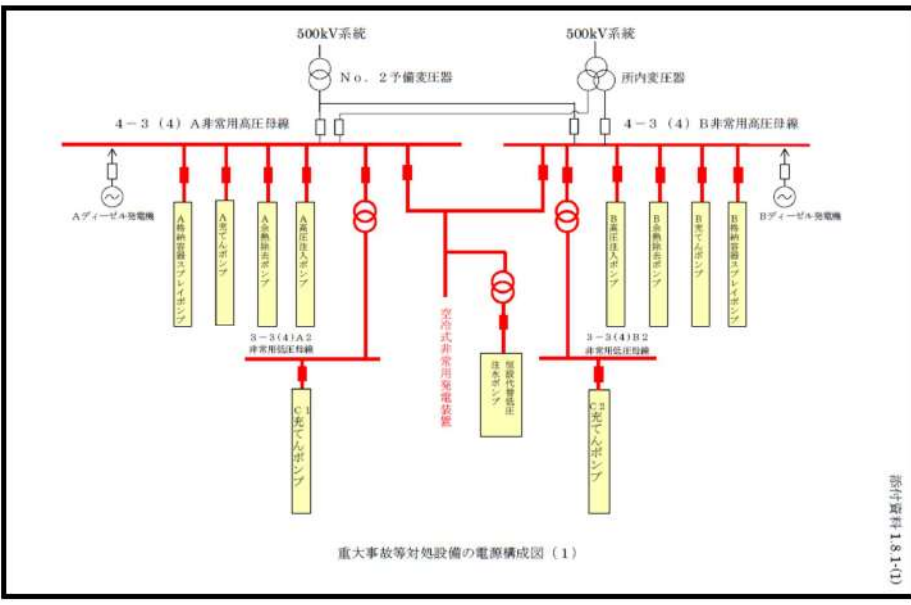
赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

<p>大飯発電所3/4号炉</p> <p>【比較のため、女川2号炉の添付資料1.8.2を掲載】</p> <p>添付資料1.8.2</p> <p>対応手段として選定した設備の電源構成図</p> <p>第1図 電源構成図（交流電源）</p> <p>第2図 電源構成図（直流電源）</p>	<p>泊発電所3号炉</p> <p>添付資料1.8.2</p> <p>対応手段として選定した設備の電源構成図</p> <p>第1図 電源構成図（交流電源）</p> <p>*1：常設代替交流電源設備の主要設備                  *2：可搬型代替交流電源設備の主要設備                  *3：代替所内電気設備の主要設備</p>	<p>相違理由</p> <p>【女川】                  設備の相違による電源構成の相違</p> <p>【大飯】                  記載方針の相違                  (女川実績の反映)                  ・泊は流路及び給電に使用する設備を記載</p> <p>【女川】                  記載方針の相違                  ・泊は直流給電する設備なし(大飯と同様)</p>

灰色：女川2号炉の記載のうち、BWR固有の設備や対応手段であり、泊3号炉と比較対象とならない記載内容

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

1.8 原子炉格納容器下部の溶融炉心を冷却するための手順等

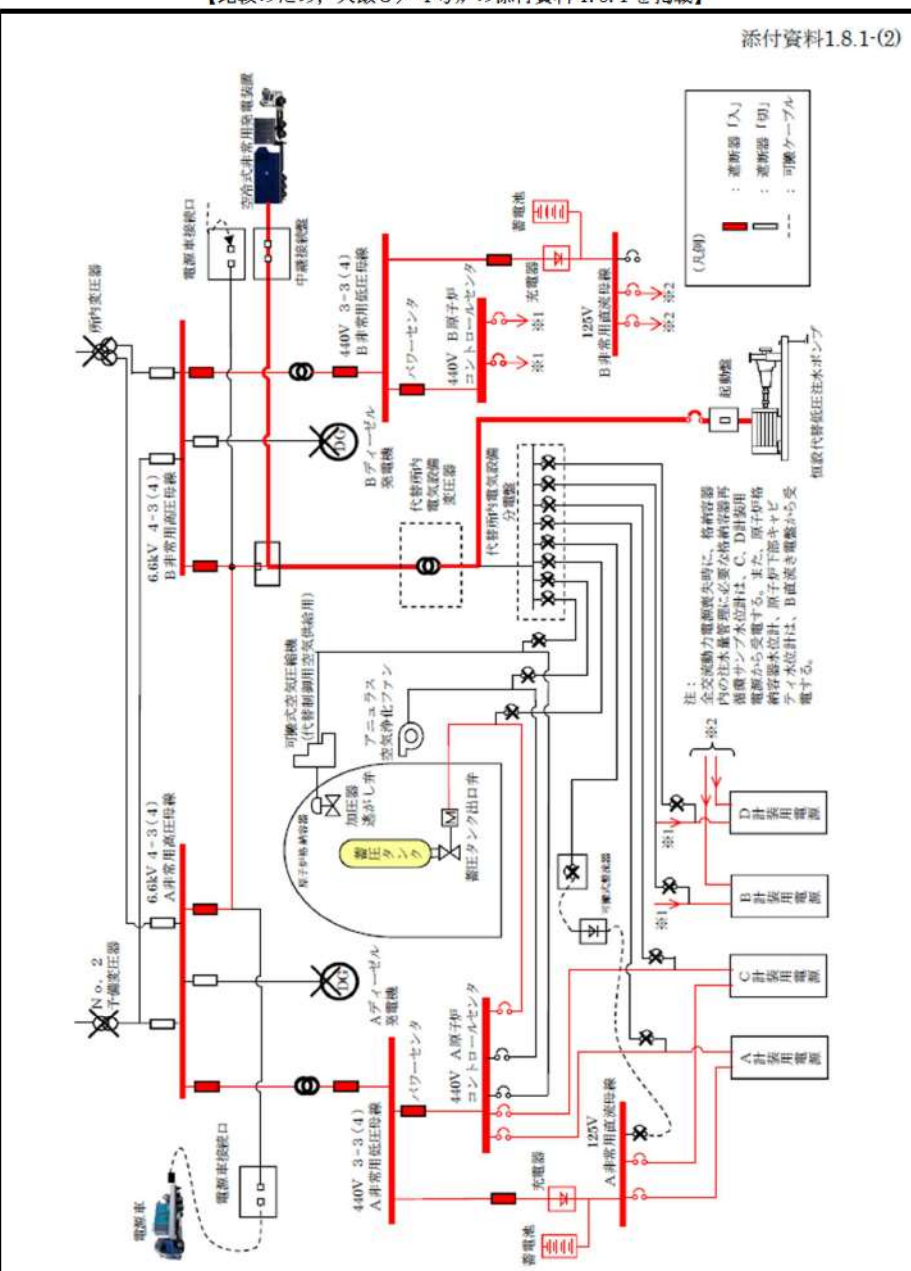
大飯発電所3/4号炉	泊発電所3号炉	相違理由
<p>【比較のため、女川2号炉の添付資料1.8.2を掲載】</p>  <p>第3図 電源構成図（直流電源）</p>		<p>【女川】                      記載方針の相違                      ・泊は直流給電する設備なし(大飯と同様)</p>
<p>【比較のため、大飯3/4号炉の添付資料1.8.1を掲載】</p>  <p>重大事故等対処設備の電源構成図（1）</p> <p style="text-align: right;">添付資料1.8.1(D)</p>		<p>【大飯】                      記載方針の相違                      (女川実績の反映)                      ・泊は流路及び給電に使用する設備を記載</p>

1.8 原子炉格納容器下部の溶融炉心を冷却するための手順等

泊発電所3号炉 技術的能力 比較表

灰色：女川2号炉の記載のうち、BWR固有の設備や対応手段であり、泊3号炉と比較対象とならない記載内容

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

<p>大飯発電所3 / 4号炉</p> <p>【比較のため、大飯3 / 4号炉の添付資料1.8.1を掲載】</p> <p>添付資料1.8.1-(2)</p> 	<p>泊発電所3号炉</p>	<p>相違理由</p> <p>【大飯】                      記載方針の相違                      (女川実績の反映)                      ・泊は「第1図 電源構成図 (交流電源)」にまとめて記載</p>



1.8 原子炉格納容器下部の溶融炉心を冷却するための手順等

泊発電所3号炉 技術的能力 比較表

灰色：女川2号炉の記載のうち、BWR固有の設備や対応手段であり、泊3号炉と比較対象とならない記載内容

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

重大事故等対応設備及び多様性技術設備一覧表

大飯発電所3/4号炉										泊発電所3号炉										相違理由	
設備名	設備位置	設備機能	設備仕様	設備型式	設備メーカー	設備設置状況	設備稼働状況	設備点検状況	設備保守状況	設備更新状況	設備廃止状況	設備稼働率	設備稼働時間	設備稼働率	設備稼働時間	設備稼働率	設備稼働時間	設備稼働率	設備稼働時間	相違理由	
格納容器冷却システム	格納容器	格納容器冷却システム	格納容器冷却システム	格納容器冷却システム	格納容器冷却システム	格納容器冷却システム	格納容器冷却システム	格納容器冷却システム	格納容器冷却システム	格納容器冷却システム	格納容器冷却システム	格納容器冷却システム	格納容器冷却システム	格納容器冷却システム	格納容器冷却システム	格納容器冷却システム	格納容器冷却システム	格納容器冷却システム	格納容器冷却システム	【大飯】 記載方針の相違（女川審査実績の反映） ・大飯の比較対象となる泊の添付資料1.8.1は前段で整理している。 ・泊は女川の審査実績を踏まえた構成としているため、本資料の比較対象は女川としている。	
...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...

灰色：女川2号炉の記載のうち、BWR固有の設備や対応手段であり、泊3号炉と比較対象とならない記載内容

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

1.8 原子炉格納容器下部の溶融炉心を冷却するための手順等

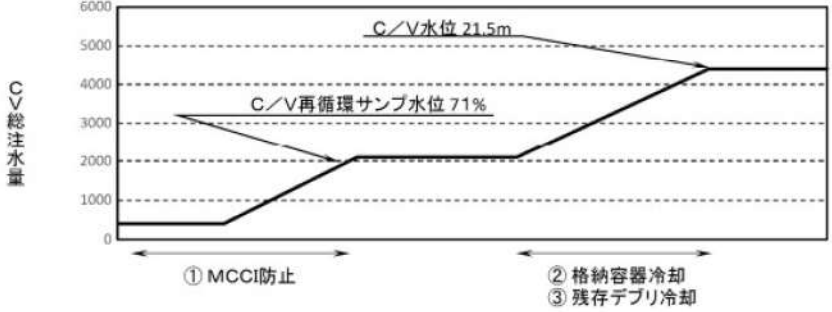
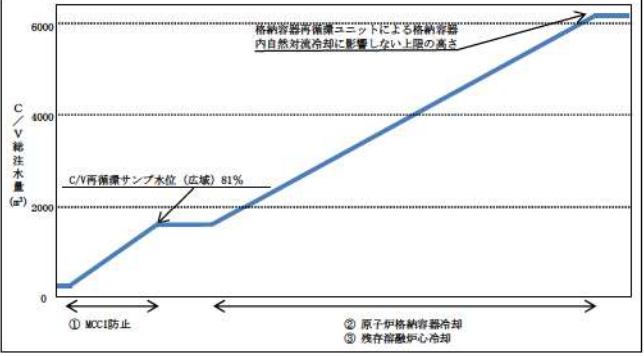
大飯発電所3/4号炉						泊発電所3号炉						相違理由
多様性拡張設備仕様						自主対策設備仕様						
添付資料1.8.3						添付資料1.8.3						【大飯】設備の相違 (相違理由①)
機器名称	常設 /可搬	耐震性	容量	揚程	台数	機器名称	常設 /可搬	耐震性	容量	揚程	台数	
電動消火ポンプ	常設	Cクラス	約1,200m <sup>3</sup> /h	約83m	1台	電動機駆動消火ポンプ	常設	Cクラス	約390m <sup>3</sup> /h	138m	1台	
ディーゼル消火ポンプ	常設	Cクラス	約1,200m <sup>3</sup> /h	約55m	1台	ディーゼル駆動消火ポンプ	常設	Cクラス	約390m <sup>3</sup> /h	133m	1台	
No. 2 淡水タンク	常設	Cクラス	約8,000m <sup>3</sup>	—	1基	ろ過水タンク	常設	Cクラス	約1,500m <sup>3</sup>	—	4基	
可搬式代替低圧注水ポンプ	可搬	—	約150m <sup>3</sup> /h	約150m	3台	可搬型大型送水ポンプ車	可搬	転倒評価	約300m <sup>3</sup> /h	吐出圧力 約1.3MPa[gage]	4台+予備2台	
電源車（可搬式代替低圧注水ポンプ用）	可搬	—	約610kVA	—	3台	代替給水ビット	常設	Cクラス	約473m <sup>3</sup>	—	1基	
仮設組立式水槽	可搬	—	約12m <sup>3</sup>	—	3基	原水槽	常設	Cクラス	約5,000m <sup>3</sup>	—	2基	
送水車	可搬	—	約300m <sup>3</sup> /h	約120m	3台	2次系純水タンク	常設	Cクラス	約1,500m <sup>3</sup>	—	2基	
A格納容器スプレイポンプ（自己冷却）	常設	Sクラス	約1,200m <sup>3</sup> /h	約175m	1台	B-格納容器スプレイポンプ	常設	Sクラス	約940m <sup>3</sup> /h	約170m	1台	
燃料取替用水ビット	常設	Sクラス	3号炉：約2,900m <sup>3</sup> (4号炉：約2,100m <sup>3</sup> )	—	1基	燃料取替用水ビット	常設	Sクラス	約2,000m <sup>3</sup>	—	1基	

添付資料1.8.3

灰色：女川2号炉の記載のうち、BWR固有の設備や対応手段であり、泊3号炉と比較対象とならない記載内容

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

1.8 原子炉格納容器下部の溶融炉心を冷却するための手順等

大飯発電所3/4号炉 添付資料 1.8.4	泊発電所3号炉 添付資料1.8.4	相違理由																								
<p style="text-align: center;">炉心損傷時における原子炉格納容器破損防止等操作について</p> <p>重大事故発生時は、MCCI防止のため恒設代替低圧注水ポンプ等による格納容器スプレイにて原子炉下部キャビティに注水する必要がある。さらに、原子炉格納容器（以下「C/V」という。）圧力が高い状態では、格納容器スプレイによる冷却（減圧）を実施し、海水による格納容器内自然対流冷却準備が整えば、格納容器再循環ユニットによる格納容器内自然対流冷却に移行する。格納容器スプレイ又は格納容器内自然対流冷却による冷却（減圧）中は、C/V圧力1Pd-50kPaとなれば格納容器スプレイを停止する。また、原子炉容器内に残存デブリの兆候が見られた場合又は残存デブリの冷却が必要な場合は、C/V内の重要機器及び重要計器が水没しない高さまでC/V内へ注水する。</p> <p>以下に、MCCI防止対応から残存デブリ冷却までの操作におけるC/V注水量の関係について整理する。</p> <p>(1) 対応操作概要                  各操作目的、対応操作概要及び各対応操作に対するC/V注水量の関係を示す。</p> <table border="1" data-bbox="183 651 913 1050"> <thead> <tr> <th>操作目的</th> <th>対応操作概要</th> <th>技術的能力に係る審査基準</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>① MCCI防止</td> <td>恒設代替低圧注水ポンプ等によりC/Vへスプレイし、格納容器再循環サンプ水位（広域）71%になればスプレイを停止する。</td> <td>「1.8原子炉格納容器下部の溶融炉心を冷却するための手順等」にて整理</td> </tr> <tr> <td>② 格納容器冷却</td> <td>格納容器再循環ユニットによる冷却を実施するが、C/V圧力が392kPa以上であれば、恒設代替低圧注水ポンプ等によるスプレイも実施する。C/Vへスプレイ中、C/V圧力が1Pd-50kPaまで低下すればスプレイを停止する。</td> <td>「1.6原子炉格納容器内の冷却等のための手順等」にて整理</td> </tr> <tr> <td>③ 残存デブリ冷却</td> <td>格納容器冷却中に原子炉容器に残存デブリの兆候<sup>※</sup>が見られた場合は、C/V内の重要機器及び重要計器が水没しない高さを上限に、残存デブリの兆候が解消されるまで格納容器又は代替格納容器スプレイによりC/V内へ注水する。                      ※：兆候は、C/V圧力及び温度の上昇により確認する。</td> <td>「1.4原子炉冷却材圧カバウンダリ低圧時に発電用原子炉を冷却するための手順等」にて整理</td> </tr> </tbody> </table> 	操作目的	対応操作概要	技術的能力に係る審査基準	① MCCI防止	恒設代替低圧注水ポンプ等によりC/Vへスプレイし、格納容器再循環サンプ水位（広域）71%になればスプレイを停止する。	「1.8原子炉格納容器下部の溶融炉心を冷却するための手順等」にて整理	② 格納容器冷却	格納容器再循環ユニットによる冷却を実施するが、C/V圧力が392kPa以上であれば、恒設代替低圧注水ポンプ等によるスプレイも実施する。C/Vへスプレイ中、C/V圧力が1Pd-50kPaまで低下すればスプレイを停止する。	「1.6原子炉格納容器内の冷却等のための手順等」にて整理	③ 残存デブリ冷却	格納容器冷却中に原子炉容器に残存デブリの兆候 <sup>※</sup> が見られた場合は、C/V内の重要機器及び重要計器が水没しない高さを上限に、残存デブリの兆候が解消されるまで格納容器又は代替格納容器スプレイによりC/V内へ注水する。 ※：兆候は、C/V圧力及び温度の上昇により確認する。	「1.4原子炉冷却材圧カバウンダリ低圧時に発電用原子炉を冷却するための手順等」にて整理	<p style="text-align: center;">炉心損傷時における原子炉格納容器破損防止等操作について</p> <p>重大事故発生時は、MCCI防止のため代替格納容器スプレイポンプ等による原子炉格納容器下部への注水にて原子炉下部キャビティに注水する必要がある。さらに、原子炉格納容器（以下「C/V」という。）圧力が高い状態では、格納容器スプレイによる冷却（減圧）を実施し、海水による格納容器内自然対流冷却準備が整えば、格納容器再循環ユニットによる格納容器内自然対流冷却に移行する。格納容器スプレイ又は格納容器内自然対流冷却による冷却（減圧）中は、C/V圧力1Pd-0.05MPaとなれば格納容器スプレイを停止する。また、原子炉容器内に残存溶融炉心の兆候が見られた場合又は残存溶融炉心の冷却が必要な場合は、格納容器再循環ユニットによる格納容器内自然対流冷却に影響しない上限の高さまでC/V内へ注水する。</p> <p>以下に、MCCI防止対応から残存溶融炉心冷却までの操作におけるC/V注水量の関係について整理する。</p> <p>(1) 対応操作概要                  各操作目的、対応操作概要及び各対応操作に対するC/V注水量の関係を示す。</p> <table border="1" data-bbox="1146 638 1841 954"> <thead> <tr> <th>操作目的</th> <th>対応操作概要</th> <th>技術的能力に係る審査基準</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>① MCCI防止</td> <td>代替格納容器スプレイポンプ等により原子炉格納容器下部へ注水し、格納容器再循環サンプ水位（広域）が81%になれば原子炉格納容器下部への注水を停止する。</td> <td>「1.8 原子炉格納容器下部の溶融炉心を冷却するための手順等」にて整理</td> </tr> <tr> <td>② 原子炉格納容器冷却</td> <td>格納容器再循環ユニットによる格納容器内自然対流冷却を実施するが、C/V圧力が0.283MPa以上であれば、代替格納容器スプレイポンプ等によるスプレイも実施する。格納容器スプレイ又は格納容器内自然対流冷却による冷却中、C/V圧力が1Pd-0.05MPaまで低下すれば冷却を停止する。</td> <td>「1.6 原子炉格納容器内の冷却等のための手順等」にて整理</td> </tr> <tr> <td>③ 残存溶融炉心冷却</td> <td>原子炉格納容器冷却中に原子炉容器に残存溶融炉心の兆候<sup>※</sup>が見られた場合は、原子炉格納容器水位の設定位置（格納容器再循環ユニットによる格納容器内自然対流冷却に影響しない上限の高さ）を上限に、残存溶融炉心の兆候が解消されるまで格納容器スプレイ又は代替格納容器スプレイによりC/V内へ注水する。                      ※：兆候は、C/V圧力、温度等の上昇により確認する。</td> <td>「1.4 原子炉冷却材圧カバウンダリ低圧時に発電用原子炉を冷却するための手順等」にて整理</td> </tr> </tbody> </table> 	操作目的	対応操作概要	技術的能力に係る審査基準	① MCCI防止	代替格納容器スプレイポンプ等により原子炉格納容器下部へ注水し、格納容器再循環サンプ水位（広域）が81%になれば原子炉格納容器下部への注水を停止する。	「1.8 原子炉格納容器下部の溶融炉心を冷却するための手順等」にて整理	② 原子炉格納容器冷却	格納容器再循環ユニットによる格納容器内自然対流冷却を実施するが、C/V圧力が0.283MPa以上であれば、代替格納容器スプレイポンプ等によるスプレイも実施する。格納容器スプレイ又は格納容器内自然対流冷却による冷却中、C/V圧力が1Pd-0.05MPaまで低下すれば冷却を停止する。	「1.6 原子炉格納容器内の冷却等のための手順等」にて整理	③ 残存溶融炉心冷却	原子炉格納容器冷却中に原子炉容器に残存溶融炉心の兆候 <sup>※</sup> が見られた場合は、原子炉格納容器水位の設定位置（格納容器再循環ユニットによる格納容器内自然対流冷却に影響しない上限の高さ）を上限に、残存溶融炉心の兆候が解消されるまで格納容器スプレイ又は代替格納容器スプレイによりC/V内へ注水する。 ※：兆候は、C/V圧力、温度等の上昇により確認する。	「1.4 原子炉冷却材圧カバウンダリ低圧時に発電用原子炉を冷却するための手順等」にて整理	<p>【大飯】 記載表現の相違</p>
操作目的	対応操作概要	技術的能力に係る審査基準																								
① MCCI防止	恒設代替低圧注水ポンプ等によりC/Vへスプレイし、格納容器再循環サンプ水位（広域）71%になればスプレイを停止する。	「1.8原子炉格納容器下部の溶融炉心を冷却するための手順等」にて整理																								
② 格納容器冷却	格納容器再循環ユニットによる冷却を実施するが、C/V圧力が392kPa以上であれば、恒設代替低圧注水ポンプ等によるスプレイも実施する。C/Vへスプレイ中、C/V圧力が1Pd-50kPaまで低下すればスプレイを停止する。	「1.6原子炉格納容器内の冷却等のための手順等」にて整理																								
③ 残存デブリ冷却	格納容器冷却中に原子炉容器に残存デブリの兆候 <sup>※</sup> が見られた場合は、C/V内の重要機器及び重要計器が水没しない高さを上限に、残存デブリの兆候が解消されるまで格納容器又は代替格納容器スプレイによりC/V内へ注水する。 ※：兆候は、C/V圧力及び温度の上昇により確認する。	「1.4原子炉冷却材圧カバウンダリ低圧時に発電用原子炉を冷却するための手順等」にて整理																								
操作目的	対応操作概要	技術的能力に係る審査基準																								
① MCCI防止	代替格納容器スプレイポンプ等により原子炉格納容器下部へ注水し、格納容器再循環サンプ水位（広域）が81%になれば原子炉格納容器下部への注水を停止する。	「1.8 原子炉格納容器下部の溶融炉心を冷却するための手順等」にて整理																								
② 原子炉格納容器冷却	格納容器再循環ユニットによる格納容器内自然対流冷却を実施するが、C/V圧力が0.283MPa以上であれば、代替格納容器スプレイポンプ等によるスプレイも実施する。格納容器スプレイ又は格納容器内自然対流冷却による冷却中、C/V圧力が1Pd-0.05MPaまで低下すれば冷却を停止する。	「1.6 原子炉格納容器内の冷却等のための手順等」にて整理																								
③ 残存溶融炉心冷却	原子炉格納容器冷却中に原子炉容器に残存溶融炉心の兆候 <sup>※</sup> が見られた場合は、原子炉格納容器水位の設定位置（格納容器再循環ユニットによる格納容器内自然対流冷却に影響しない上限の高さ）を上限に、残存溶融炉心の兆候が解消されるまで格納容器スプレイ又は代替格納容器スプレイによりC/V内へ注水する。 ※：兆候は、C/V圧力、温度等の上昇により確認する。	「1.4 原子炉冷却材圧カバウンダリ低圧時に発電用原子炉を冷却するための手順等」にて整理																								

灰色：女川2号炉の記載のうち、BWR固有の設備や対応手段であり、泊3号炉と比較対象とならない記載内容

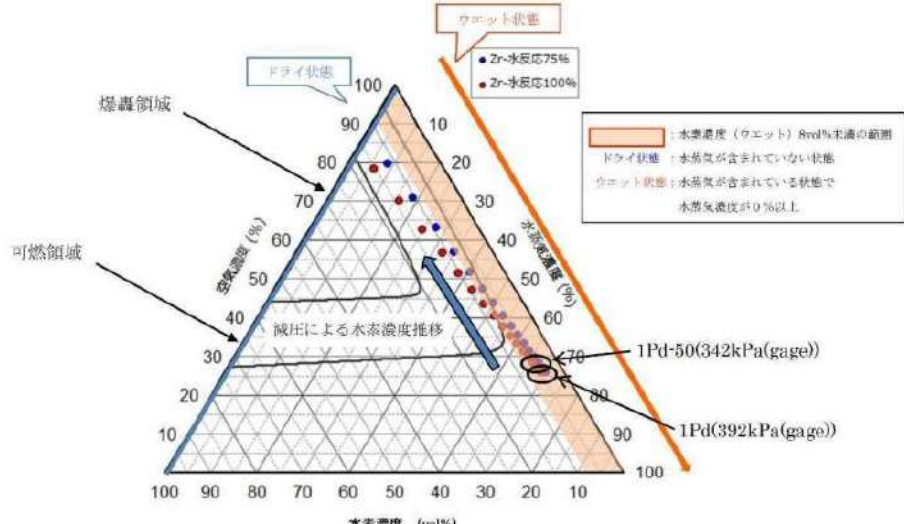
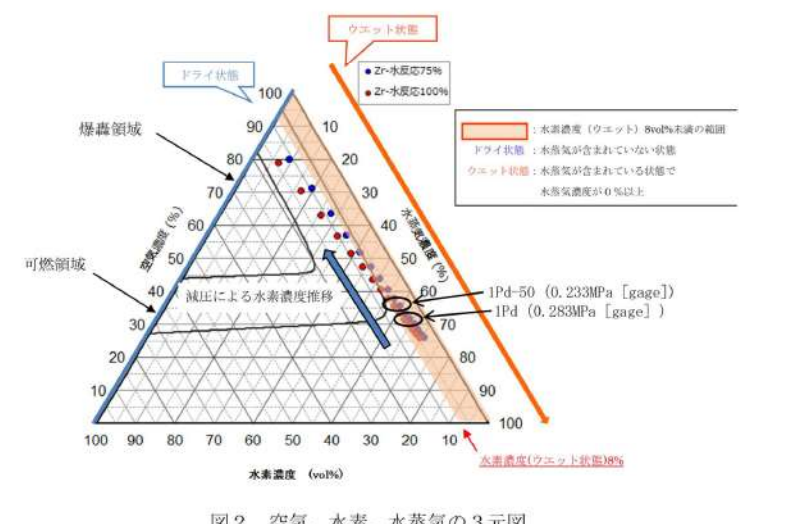
赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

1.8 原子炉格納容器下部の溶融炉心を冷却するための手順等

大飯発電所3/4号炉	泊発電所3号炉	相違理由
<p>(2) 炉心損傷後におけるC/V内の水素濃度を考慮した減圧運用について</p> <p>炉心損傷時にはZr-水反応等により水素が発生することから、C/V内を減圧する際は水素分圧の上昇による水素濃度の上昇に留意し、爆轟に至らないように配慮する必要がある。</p> <p>a. 炉心損傷時のC/V減圧運用</p> <p>炉心損傷後におけるC/V減圧操作時は、減圧に伴い水素濃度が高くなることから、爆轟領域である水素濃度13vol%（ドライ）を超えないように配慮する。</p> <p>そのため、以下の水素濃度を目安に減圧運用を行う。</p> <p>水素濃度目安：8vol%（ドライ）※</p> <p>※：ただし、減圧を継続する必要がある場合は、8vol%（ドライ）以上であっても操作の実効性と悪影響を評価し、減圧を継続することもある。</p> <p>炉心損傷後のC/V減圧操作については、C/V圧力が最高使用圧力から50kPa [gage] 低下すれば停止する手順としており、この運用により図1に示す通り100%のZr-水反応時の水素発生量を仮定した場合でも、大規模な水素燃焼の発生を防止することができる。また、水素濃度は、可搬型原子炉格納容器水素濃度計で計測される水素濃度（ドライ）により継続的に監視を行う運用としており、測定による水素濃度が8vol%（ドライ）未満であれば減圧を継続できる。</p> <p>（参考：図2に爆轟領域と可燃領域を示した空気、水素、水蒸気の3元図を示す。また、図1に示す75%及び100%のZr-水反応時の空気、水素、水蒸気の関係も示す。）</p> <p>なお、図1は気体の状態方程式を用い、全炉心内のジルコニウム量の75%又は100%が水と反応した場合に、C/V内水素濃度が均一になるものとして表したものである。計算には、C/V内の水素濃度の観点から保守的に厳しい条件を設定している。</p> <div data-bbox="107 821 992 1377" style="border: 2px solid black; height: 348px; margin-top: 20px;"></div> <div data-bbox="365 1406 992 1457" style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>枠囲みの範囲は機密に係る事項ですので公開することはできません。</p> </div>	<p>(2) 炉心損傷後におけるC/V内の水素濃度を考慮した減圧運用について</p> <p>炉心損傷時にはZr-水反応等により水素が発生することから、C/V内を減圧する際は水素分圧の上昇による水素濃度の上昇に留意し、爆轟に至らないように配慮する必要がある。</p> <p>a. 炉心損傷時のC/V減圧運用</p> <p>炉心損傷後におけるC/V減圧操作時は、減圧に伴い水素濃度が高くなることから、爆轟領域である水素濃度13vol%（ドライ）を超えないように配慮する。</p> <p>そのため、以下の水素濃度を目安に減圧運用を行う。</p> <p>水素濃度目安：8vol%（ドライ）※</p> <p>※：ただし、減圧を継続する必要がある場合は、8vol%（ドライ）以上であっても操作の実効性と悪影響を評価し、減圧を継続することもある。</p> <p>炉心損傷後のC/V減圧操作については、C/V圧力が最高使用圧力から0.05MPa [gage] 低下すれば停止する手順としており、この運用により図1に示すとおり100%のZr-水反応時の水素発生量を仮定した場合でも、大規模な水素燃焼の発生を防止することができる。また、水素濃度は、格納容器内水素濃度計で計測される水素濃度（ドライ）により継続的に監視を行う運用としており、測定による水素濃度が8vol%（ドライ）未満であれば減圧を継続できる。</p> <p>（参考：図2に爆轟領域と可燃領域を示した空気、水素、水蒸気の3元図を示す。また、図1に75%及び100%のZr-水反応時の空気、水素、水蒸気の関係も示す。）</p> <p>なお、図1は気体の状態方程式を用い、全炉心内のジルコニウム量の75%又は100%が水と反応した場合に、C/V内水素濃度が均一になるものとして表したものである。計算には、C/V内の水素濃度の観点から保守的に厳しい条件を設定している。</p> <div data-bbox="1093 821 1888 1358" style="border: 2px solid black; height: 336px; margin-top: 20px;"></div> <div data-bbox="1350 1406 1971 1457" style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>枠囲みの内容は機密情報に属しますので公開できません。</p> </div>	<p>【大飯】 記載表現の相違</p> <p>【大飯】 設備名称の相違</p>

灰色：女川2号炉の記載のうち、BWR固有の設備や対応手段であり、泊3号炉と比較対象とならない記載内容

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

大飯発電所3 / 4号炉	泊発電所3号炉	相違理由
<p>(参考)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>可燃領域 爆轟以外の燃焼反応を起こす領域</li> <li>爆轟領域 強い圧力波を伴い、音速より速い速度で燃焼が伝播する爆轟燃焼が生じる領域</li> </ul>  <p>図2 空気、水素、水蒸気の3元図</p> <p>図2に示した75%及び100%のZr-水反応時の空気、水素、水蒸気の関係についてはC/V内を飽和状態と仮定し気体の状態方程式に基づいて図1を作図しており、図1の横軸(C/V内圧力)は、下図に示すとおり、水素と空気と水蒸気の各分圧の和になる。          ある温度における各ガスの分圧は、体積が一定の場合、各ガスのモル数に比例するため、1Pd(392kPa [gage] (494kPa [abs]))時の水蒸気濃度70%は、C/V内ガス全圧(494kPa [abs])に対する水蒸気分圧(345kPa [abs])の比によって算出している。</p>	<p>(参考)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>可燃領域 爆轟以外の燃焼反応を起こす領域</li> <li>爆轟領域 強い圧力波を伴い、音速より速い速度で燃焼が伝播する爆轟燃焼が生じる領域</li> </ul>  <p>図2 空気、水素、水蒸気の3元図</p> <p>図2に示した75%及び100%のZr-水反応時の空気、水素、水蒸気の関係については、C/V内を飽和状態と仮定し気体の状態方程式に基づいて図1を作図しており、図1の横軸(C/V内圧力)は、下図に示すとおり、水素と空気と水蒸気の各分圧の和になる。          ある温度における各ガスの分圧は、体積が一定の場合、各ガスのモル数に比例するため、1Pd(0.283MPa [gage] (0.385MPa [abs]))時の水蒸気濃度63%は、C/V内ガス全圧(0.385MPa [abs])に対する水蒸気分圧(0.242MPa [abs])の比によって算出している。</p>	<p>【大飯】設備の相違          ・原子炉格納容器の型式の相違により圧力が相違する。</p>

1.8 原子炉格納容器下部の溶融炉心を冷却するための手順等

泊発電所3号炉 技術的能力 比較表

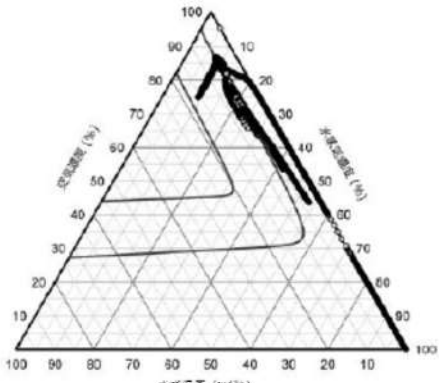
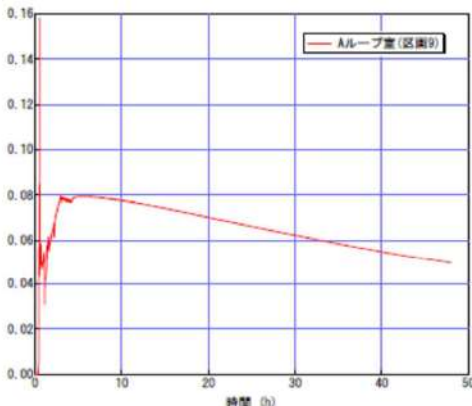
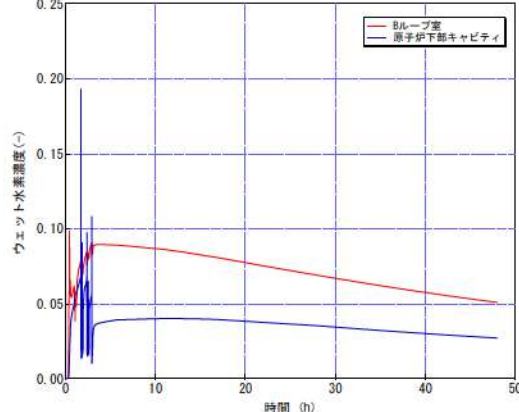
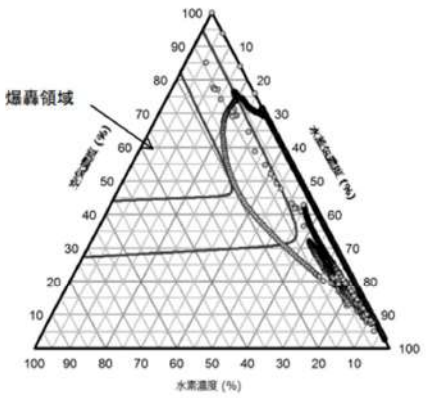
灰色：女川2号炉の記載のうち、BWR固有の設備や対応手段であり、泊3号炉と比較対象とならない記載内容

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

大飯発電所3 / 4号炉	泊発電所3号炉	相違理由
<p>CV内ガス全圧 [kPa(abs)]</p> <p>格納容器内温度 [°C]</p> <p>1Pd 約494kPa(abs)</p> <p>約345kPa(abs)</p> <p>水素分圧</p> <p>空気分圧</p> <p>水蒸気分圧</p>	<p>CV内ガス全圧 [MPa(abs)]</p> <p>原子炉格納容器内温度 [°C]</p> <p>1Pd 約0.385MPa(abs)</p> <p>約0.242MPa(abs)</p> <p>水素分圧</p> <p>空気分圧</p> <p>水蒸気分圧</p>	

灰色：女川2号炉の記載のうち、BWR固有の設備や対応手段であり、泊3号炉と比較対象とならない記載内容

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

大飯発電所3/4号炉	泊発電所3号炉	相違理由
<p>【比較のため、川内1/2号炉の添付資料1.8.4を掲載】（比較箇所のみ抜粋）</p> <p>(3) 格納容器内の局所的な水素濃度分布について                  LOCA時は、破断口において局所的に水素濃度が高くなる。                  川内1/2号炉の破断口があるループ室では、炉内Zr-水反応で発生した水素が破断口から放出されることにより、ウェット水素濃度が13vol%以上となるが、その期間は短時間であり、図1のとおり3元図の爆轟領域に達していない。</p> <p>従って、川内1/2号炉では局所的な水素濃度評価においても、水素爆轟の可能性は低いと判断している。</p>  <p>図1 破断口ループ室の3元図</p>  <p>図2 破断口ループ室水素濃度</p> <p>有効性評価添付資料3.4.2 「GOTHICにおける水素濃度分布の評価について」より抜粋</p>	<p>(3) 原子炉格納容器内の局所的な高濃度水素による影響について</p> <p>評価で想定している破断口があるBループ室及び原子炉下部キャビティでは、炉内Zr-水反応で発生した水素が破断口から放出されることにより、ウェット水素濃度が比較的高くなる。原子炉下部キャビティのウェット水素濃度は13%以上となるが、その期間は短時間であり、図4のとおり3元図の爆轟領域に達していない。</p> <p>したがって、局所的な水素濃度評価においても、水素爆轟の可能性は低いと判断している。</p>  <p>図3 水素濃度の推移</p>  <p>図4 原子炉下部キャビティの3元図</p> <p>有効性評価7.2.4.水素燃焼 添付資料7.2.4.3「GOTHICにおける水素濃度分布の評価について」より抜粋</p>	<p>本項の内容は、有効性評価7.2.4.水素燃焼「添付資料7.2.4.3 GOTHICにおける水素濃度分布の評価について」にてご説明済み。</p> <p>【大飯】                  記載方針の相違                  ・泊は川内1/2号炉の審査実績を踏まえた構成としているため、当該プラントを比較対象としている。</p> <p>【川内】                  記載表現の相違</p> <p>【川内】                  解析結果の相違                  ・泊はウェット水素濃度が比較的高くなる区画が破断口があるループ室と原子炉下部キャビティであり、3元図にて爆轟領域に達していないことを確認している。（伊方と同様）</p>

灰色：女川2号炉の記載のうち、BWR固有の設備や対応手段であり、泊3号炉と比較対象とならない記載内容

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

1.8 原子炉格納容器下部の溶融炉心を冷却するための手順等

大飯発電所3/4号炉	泊発電所3号炉	相違理由
<p>(3) 各対応操作時のC/V注水量管理                      C/Vへの注水時は、重要機器及び重要計器の水没を防止するため、C/V内の注水量を管理する必要がある。各操作におけるC/V内注水量の管理については、以下の通りである。</p> <p>a. 格納容器スプレイ (MCCI 防止)                      格納容器スプレイ中は、原子炉下部キャビティ水位が必要最低水量以上になったことを原子炉下部キャビティ水位計により把握でき、また、格納容器再循環サンプ水位計によりC/Vへの注水量を把握することができる。</p> <p>b. 格納容器冷却 (減圧)                      格納容器冷却 (減圧) 中は、A格納容器スプレイ流量計、燃料取替用水ビット水位計等によりC/Vへの注水量を把握し、また原子炉格納容器水位計により確認することで、C/V内の重要機器及び重要計器が水没しない高さまで注水されたことを把握できる。</p> <p>c. 残存デブリ冷却                      残存デブリ冷却に伴うC/V注水中は、A格納容器スプレイ流量計、燃料取替用水ビット水位計等によりC/Vへの注水量を把握し、また原子炉格納容器水位計により確認することで、C/V内の重要機器及び重要計器が水没しない高さまで注水されたことを把握できる。</p> <p>(4) C/V内の水位検知                       C/V内水位については、格納容器再循環サンプ水位計 (広域) での計測に加え、A格納容器スプレイ流量計等の注水量により、C/V内の水位が把握可能である。                      更なる監視性向上のため、電極式の水辺計をC/Vへの注水を停止する条件となる高さまで水位が到達したことを検知する位置 (E.L. <span style="border: 1px solid black; padding: 0 5px;"> </span>) に設置する。(図1、2)</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>枠囲みの範囲は機密に係る事項ですので公開することはできません。</p> </div>	<p>(4) 各対応操作時のC/V注水量管理                      C/Vへの注水時は、重要機器及び重要計器の水没を防止するため、C/V内の注水量を管理する必要がある。各操作におけるC/V内注水量の管理については、以下のとおりである。</p> <p>a. 原子炉格納容器下部への注水 (MCCI防止)                      原子炉格納容器下部への注水中は、原子炉下部キャビティ水位が必要最低水量以上になったことを原子炉下部キャビティ水位検出器により把握でき、また、格納容器再循環サンプ水位 (広域) によりC/Vへの注水量を把握することができる。</p> <p>b. 原子炉格納容器冷却 (減圧)                      原子炉格納容器冷却 (減圧) 中は、代替格納容器スプレイポンプ出口積算流量、燃料取替用水ビット水位等によりC/Vへの注水量を把握し、また、格納容器水位により確認することで、格納容器再循環ユニットによる格納容器内自然対流冷却に影響しない高さまで注水されたことを把握できる。</p> <p>c. 残存溶融炉心冷却                      残存溶融炉心冷却に伴うC/V注水中は、代替格納容器スプレイポンプ出口積算流量、燃料取替用水ビット水位等によりC/Vへの注水量を把握し、また、格納容器水位により確認することで、格納容器再循環ユニットによる格納容器内自然対流冷却に影響しない上限の高さまで注水されたことを把握できる。</p> <p>(5) C/V内の水位検知                      a. 原子炉下部キャビティの水位検知                      原子炉下部キャビティ水位については、C/V最下階フロアと原子炉下部キャビティの間が連通管及び小扉を経由して原子炉下部キャビティへ流入する経路が確保されており、C/V内の水位がT.P. 12.1mフロアを超え格納容器再循環サンプが満水となれば格納容器再循環サンプ水位計により計測が可能である。                      更なる監視性向上のため、溶融炉心が原子炉容器を貫通した際のMCCIを抑制することができる水量が蓄水されていることを直接検知する電極式の水辺監視装置を設置する。                      検知器の設置位置は、解析によって示されるMCCIを抑制するための必要水量等には不確かさが含まれるため、早期に概ね必要水量が蓄水されていることを確認する位置として、保守的に原子炉容器破損時に炉心燃料の全量 (約 <span style="border: 1px solid black; padding: 0 5px;"> </span>) が落下した場合の早期冷却固化に必要な水量 (約 <span style="border: 1px solid black; padding: 0 5px;"> </span> : T.P. 約 <span style="border: 1px solid black; padding: 0 5px;"> </span>) より0.1m低いT.P. 約 <span style="border: 1px solid black; padding: 0 5px;"> </span> に設置する。(図5及び図6参照)</p> <p>b. C/V内の水位検知                      C/V内水位については、格納容器再循環サンプ水位計による計測に加え、代替格納容器スプレイポンプ出口積算流量計等の注水量により、C/V内の水位が把握可能である。                      更なる監視性向上のため、電極式の水辺計をC/Vへの注水を停止する条件となる高さまで水位が到達したことを検知する位置 (T.P. 約 <span style="border: 1px solid black; padding: 0 5px;"> </span>) に設置する。(図5参照)</p> <p style="text-align: center;"><span style="border: 1px solid black; padding: 0 10px;"> </span> : 枠囲みの内容は機密情報に属しますので公開できません。</p>	<p>【大飯】 記載表現の相違</p> <p>【大飯】 設備名称の相違</p> <p>【大飯】設備の相違                      ・原子炉格納容器下部への注水手順に用いる監視計器の相違と同様に、原子炉格納容器冷却 (減圧) 及び残存溶融炉心冷却においても流路が同じであるため監視計器が相違する。</p> <p>【大飯】 記載内容の相違                      ・泊は、原子炉下部キャビティ及びC/V内水位検知について項目分けすることで記載を充実化している。</p> <p>【大飯】設備の相違                      【大飯】 記載内容の相違                      ・泊の水位監視装置の設置位置について、考え方が類似している川内1/2号炉の記載内容を比較対象としている。                      【川内、大飯】 記載表現の相違</p>



灰色：女川2号炉の記載のうち、BWR固有の設備や対応手段であり、泊3号炉と比較対象とならない記載内容

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

1.8 原子炉格納容器下部の溶融炉心を冷却するための手順等

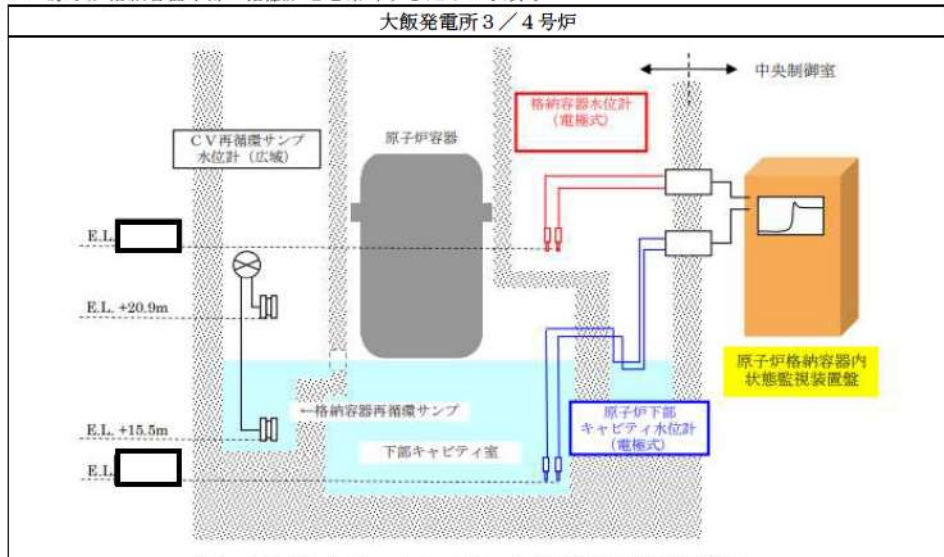


図1 原子炉下部キャビティ水位、格納容器水位監視装置概要

枠囲みの範囲は機密に係る事項ですので公開することはできません。



図2 原子炉格納容器内への注水量と水位の関係

枠囲みの範囲は機密に係る事項ですので公開することはできません。

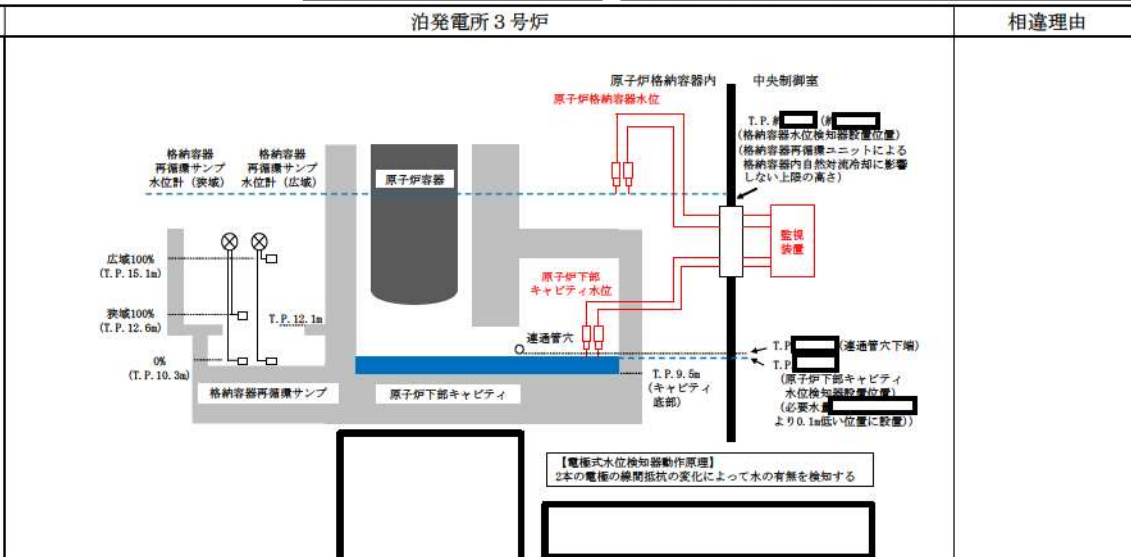


図5 原子炉下部キャビティ水位・格納容器水位監視装置概要図

枠囲みの内容は機密情報に属しますので公開できません。

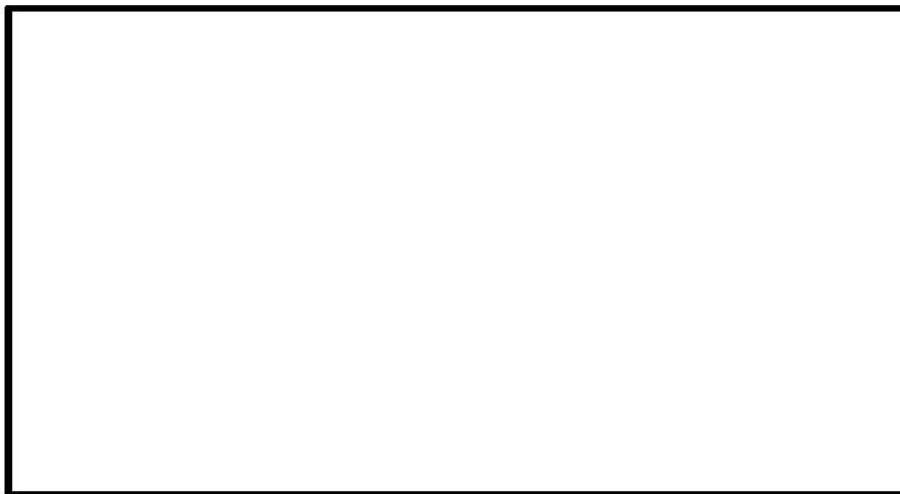


図6 原子炉格納容器内への注水量と水位の関係

枠囲みの内容は機密情報に属しますので公開できません。

灰色：女川2号炉の記載のうち、BWR固有の設備や対応手段であり、泊3号炉と比較対象とならない記載内容

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

1.8 原子炉格納容器下部の溶融炉心を冷却するための手順等

大飯発電所3/4号炉	泊発電所3号炉	相違理由
<p>(5) C/V内水量とC/V内水位の関係                      C/V内水量とC/V内水位の関係について、以下の図の通りである。</p> <div data-bbox="255 212 844 730" style="border: 2px solid black; height: 325px; width: 263px; margin: 10px auto;"></div> <div data-bbox="255 746 801 786" style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin: 5px auto; width: 238px;">                         枠囲みの範囲は機密に係る事項ですので公開することはできません。                     </div> <div data-bbox="255 842 860 1406" style="border: 2px solid black; height: 353px; width: 270px; margin: 10px auto;"></div> <div data-bbox="255 1422 824 1461" style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin: 5px auto; width: 254px;">                         枠囲みの範囲は機密に係る事項ですので公開することはできません。                     </div>	<p>(6) C/V内水量とC/V内水位の関係                      C/V内水量とC/V内水位の関係について、以下の図のとおりである。</p> <div data-bbox="1093 244 1892 1201" style="text-align: center;"> </div> <div data-bbox="1339 1385 1944 1425" style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin: 10px auto; width: 270px;">                         枠囲みの内容は機密情報に属しますので公開できません。                     </div>	<p>【大飯】                      記載表現の相違</p>

灰色：女川2号炉の記載のうち、BWR固有の設備や対応手段であり、泊3号炉と比較対象とならない記載内容

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

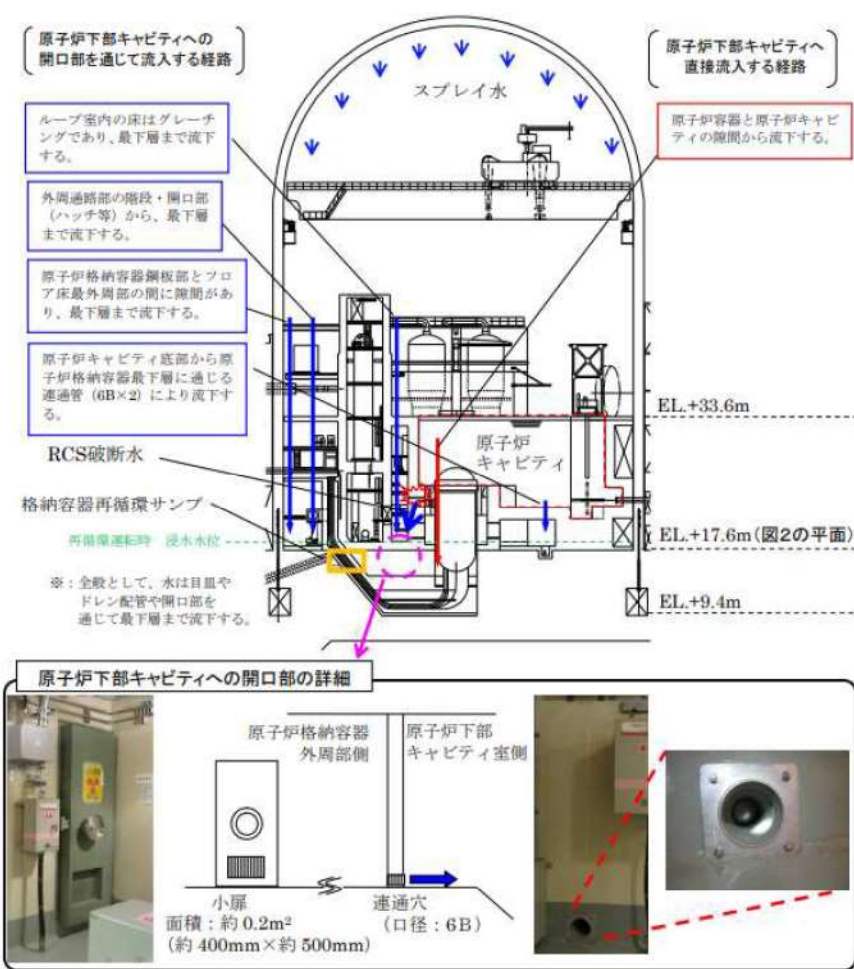
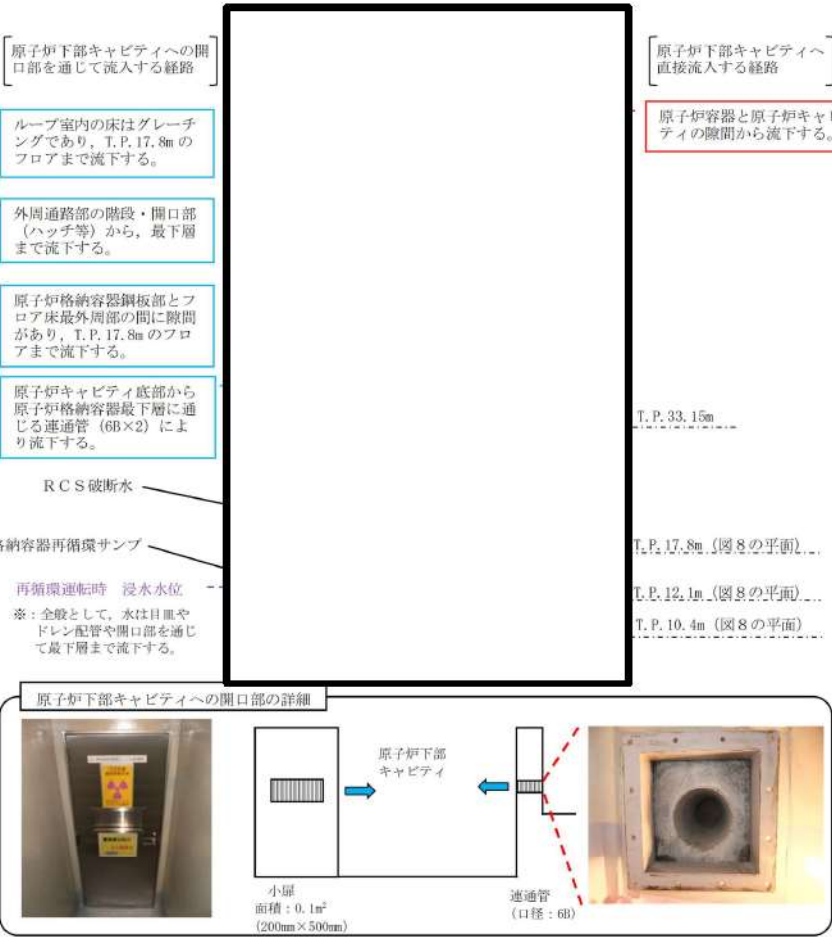
1.8 原子炉格納容器下部の溶融炉心を冷却するための手順等

大飯発電所3/4号炉	泊発電所3号炉	相違理由
<p>【比較のため、高浜3/4号炉の添付資料1.8.4を掲載】（比較箇所のみ抜粋）</p> <p>(7) 格納容器圧力計が使用できない場合のスプレイ停止判断について                  重大事故時は、自然対流冷却を阻害しない水位（格納容器再循環ユニットダクト開放部より0.5m下部EL.約20.2m）までC/Vへの注水を実施する。</p> <p>再循環サンプル広域水位77%（EL.約12.7m）から自然対流冷却を阻害しない水位までに設置されている格納容器圧力計4台（EL.約17.5m）は使用できなくなるものの、1台の格納容器圧力計はダクト開放部よりも高い位置（EL.約20.7m）以上に設置されているためC/V圧力の監視は可能である。</p> <p>なお、格納容器圧力計及び自然対流冷却を阻害しない位置に電極式水位計を設置する。これにより両者の水没を防止することができる。</p> <p>また、格納容器温度計は、十分な高所（EL.約32.3m）に設置されており、水没の可能性は極めて低く、格納容器圧力計が動作不能となった場合でも、C/V内の温度変化を監視することで、飽和蒸気圧力と飽和蒸気温度の相関関係からC/V内圧力を推定することができる。</p>	<p>(7) 格納容器圧力計が使用できない場合のスプレイ停止判断について                  重大事故時は、格納容器再循環ユニットによる格納容器内自然対流冷却を開始すれば、格納容器スプレイを停止するが、原子炉容器内に残存溶融炉心の徴候が見られた場合又は残存溶融炉心の冷却が必要な場合は、格納容器再循環ユニットによる格納容器内自然対流冷却に影響しない上限の高さまでC/V内への注水を実施する。</p> <p>格納容器再循環サンプル水位（広域）81%から格納容器内自然対流冷却を阻害しない水位までに設置されている格納容器圧力計4台（T.P.約18.85m）は使用できなくなるものの、2台の格納容器圧力計は格納容器再循環ユニットダクト開放部よりも高い位置（T.P.約25.85m）に設置されているためC/V圧力の監視は可能である。</p> <p>また、格納容器温度計は、十分な高所（T.P.約40.0m）に設置しており、水没の可能性は極めて低く、格納容器圧力計が動作不能となった場合でも、C/V内の温度変化を監視することで、飽和蒸気圧力と飽和蒸気温度の相関関係からC/V内圧力を推定することができる。</p>	<p>【大飯】                  記載方針の相違                  ・泊は高浜3/4号炉の審査実績を踏まえた記載としているため、当該プラントを比較対象としている。</p> <p>【高浜】設備の相違                  【高浜】                  記載表現の相違                  設備名称の相違                  【高浜】                  記載内容の相違</p>
<p>(6) 格納容器圧力計が使用できない場合のスプレイ停止判断について                  重大事故時に、C/V内の重要機器及び重要計器を水没させないため、格納容器内への注水量が4,400m<sup>3</sup>で注水を停止することとしている。これにより、格納容器圧力計は水没しない手順としている。</p> <p>なお、格納容器圧力計（広域）設置位置より低い位置に電極式水位計を設置することで水没を防止することができる。</p> <p>仮に、格納容器圧力計が動作不能となった場合でも、C/V内の温度変化を監視することで、飽和蒸気圧力と飽和蒸気温度の相関関係からC/V内圧力を推定することができる。</p>		<p>【大飯】                  記載内容の相違</p> <p>【大飯】                  記載表現の相違</p>

灰色：女川2号炉の記載のうち、BWR固有の設備や対応手段であり、泊3号炉と比較対象とならない記載内容

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

1.8 原子炉格納容器下部の溶融炉心を冷却するための手順等

大飯発電所3 / 4号炉	泊発電所3号炉	相違理由
<p>(7) 原子炉下部キャビティへの流入経路について                      LOCA時のRCS破断水および原子炉格納容器に注水されたスプレイ水が原子炉下部キャビティへ流入する経路について、図1および図2に示す。</p>  <p>図1 スプレイ水及びRCS破断水の原子炉下部キャビティへの流入経路（断面図）</p>	<p>(8) 原子炉下部キャビティへの流入経路について                      LOCA時のRCS破断水および原子炉格納容器に注水されたスプレイ水が原子炉下部キャビティへ流入する経路について、図7および図8に示す。</p>  <p>図7 スプレイ水及びRCS破断水の原子炉下部キャビティへの流入経路（断面図）</p>	<p>本資料は、泊3号炉SA設備第51条「原子炉格納容器下部の溶融炉心を冷却する設備」補足資料51-7「原子炉下部キャビティの流入について」と同一資料。</p> <p>設計方針の相違</p>
<p>枠囲みの内容は機密情報に属しますので公開できません。</p>		

灰色：女川2号炉の記載のうち、BWR固有の設備や対応手段であり、泊3号炉と比較対象とならない記載内容

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

1.8 原子炉格納容器下部の溶融炉心を冷却するための手順等

大飯発電所3 / 4号炉	泊発電所3号炉	相違理由
<p>原子炉下部キャビティ底部から原子炉格納容器最下層に通じる連通管(6B×2)により流下する。</p> <p>原子炉容室と原子炉下部キャビティの間から原子炉下部キャビティへ流下する。</p> <p>外周通路部の階段・開口部(ハッチ等)から、最下層まで流下していく。</p> <p>ループ室内が外周通路部より高いため、外周通路部へ流下する。なお、大LOCAの場合、RCS破断水のフロートダウンは数秒で取まり、その後の床面の水位は均一化する方向である等の理由により、どのループが破断しても原子炉下部キャビティへの流入経路、流入速度に有意な差はない。</p> <p>原子炉下部キャビティへ通じる連通穴を經由して原子炉下部キャビティへ流下する。また、原子炉格納容器最下層フロアの水位上昇に伴い、小室からも流下する。</p> <p>原子炉下部キャビティの入口扉の小扉から原子炉下部キャビティへ流入する。</p> <p>ループ室内の床はグレーチングであり、最下層まで流下する。</p> <p>原子炉格納容器鋼板部とフロア床最外周部の間に隙間があり、最下層まで流下する。</p> <p>外周通路部の階段・開口部(ハッチ等)から、最下層まで流下する。</p> <p>原子炉下部キャビティへの入口扉の小扉から原子炉下部キャビティへ流入する。</p> <p>ループ室内の床はグレーチングであり、最下層まで流下する。</p> <p>原子炉格納容器鋼板部とフロア床最外周部の間に隙間があり、最下層まで流下する。</p> <p>格納容器再循環ポンプ</p> <p>図2 スプレイ水及びRCS破断水の原子炉下部キャビティへの流入経路 (EL.17.6M平面図)</p>	<p>→：水平方向の流れ          ↻：鉛直方向の流れ</p> <p>※赤矢印は原子炉下部キャビティへの流下を示す。</p> <p>原子炉格納容器と原子炉キャビティの隙間から原子炉下部キャビティへ流下する。</p> <p>外周通路部の階段・開口部(ハッチ等)から、最下層まで流下する。</p> <p>原子炉下部キャビティへの入口扉の小扉から原子炉下部キャビティへ流入する。</p> <p>ループ室内の床はグレーチングであり、T.P.17.8mのフロアまで流下する。</p> <p>ループ室内が外周通路部より高いため、外周通路部へ流下する。なお、大LOCAの場合、RCS破断水のフロートダウンは数秒で取まり、その後の床面の水位は均一化する方向である等の理由により、どのループが破断しても原子炉下部キャビティへの流入経路、流入速度に有意な差はない。</p> <p>原子炉格納容器鋼板部とフロア床最外周部の間に隙間があり、T.P.17.8mのフロアまで流下する。</p> <p>原子炉下部キャビティ底部から格納容器最下層に通じる連通管(6B×2)により流下する。</p> <p>格納容器サンパ</p> <p>原子炉下部キャビティへ通じる連通管を經由して原子炉下部キャビティへ流入する。</p> <p>図8 スプレイ水及びRCS破断水の原子炉下部キャビティへの流入経路 (T.P.17.8m, T.P.12.1m/10.4m 平面図)</p> <p>枠囲みの内容は機密情報に属しますので公開できません。</p>	<p>本資料は、泊3号炉SA設備第51条「原子炉格納容器下部の溶融炉心を冷却する設備」補足資料51-7「原子炉下部キャビティの流入について」と同一資料。</p> <p>設計方針の相違</p>

灰色：女川2号炉の記載のうち、BWR固有の設備や対応手段であり、泊3号炉と比較対象とならない記載内容

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

1.8 原子炉格納容器下部の溶融炉心を冷却するための手順等

大飯発電所3 / 4号炉

	3号機	4号機
格納容器再循環タンク容量 (2基合計)		
格納容器サンブ容量		

図3 原子炉格納容器内断面図

枠囲みの範囲は機密に係る事項ですので公開することはできません。

泊発電所3号炉

	3号炉
格納容器再循環タンク容量 (2基合計)	
格納容器サンブ容量	

図9 原子炉格納容器内断面図

枠囲みの内容は機密情報に属しますので公開できません。

相違理由  
 本資料は、泊3号炉SA設備第51条「原子炉格納容器下部の溶融炉心を冷却する設備」補足資料51-7「原子炉下部キャビティの流入について」と同一資料。  
  
設計方針の相違

灰色：女川2号炉の記載のうち、BWR固有の設備や対応手段であり、泊3号炉と比較対象とならない記載内容

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

1.8 原子炉格納容器下部の溶融炉心を冷却するための手順等

大飯発電所3/4号炉	泊発電所3号炉	相違理由
<p>(8) 原子炉下部キャビティへの流入箇所                      原子炉格納容器の最下階エリアからは、原子炉下部キャビティに通じる連通穴を経由して原子炉下部キャビティへ流入する。また、原子炉格納容器最下階フロアの水位上昇に伴い、小扉からも流入する。</p> <p>原子炉下部キャビティに流入する経路断面概要を図1に、また、最下階エリア及び原子炉下部キャビティの水位と原子炉格納容器内への注水量の関係を図2に示す。</p> <div data-bbox="116 577 987 1094" style="border: 1px solid black; width: 100%; height: 100%;"></div> <p>図1 原子炉下部キャビティまでの流入経路断面概要図</p> <div data-bbox="331 1145 772 1169" style="border: 1px solid black; padding: 2px;">                     枠囲みの範囲は機密に係る事項ですので公開することはできません。                 </div>	<p>(9) 原子炉下部キャビティへの流入箇所                      原子炉格納容器の最下階エリアからは、原子炉下部キャビティに通じる以下の開口部（連通管及び小扉）を経由して原子炉下部キャビティへ流入する。</p> <p>原子炉下部キャビティに流入する経路断面概要を図10に、また、最下階エリア及び原子炉下部キャビティの水位と原子炉格納容器内への注水量の関係を図11及び図12に示す。</p> <div data-bbox="1153 609 1848 1268" style="border: 1px solid black; width: 100%; height: 100%; text-align: center;"> </div> <p>※1 通常運転時において、原子炉下部キャビティと格納容器最下階エリアの空調バランスを考慮し、連通管蓋を設置。</p> <p>図10 原子炉下部キャビティまでの流入経路断面概要図</p> <div data-bbox="1388 1441 1960 1465" style="border: 1px solid black; padding: 2px;">                     枠囲みの内容は機密情報に属しますので公開できません。                 </div>	<p>本資料は、泊3号炉SA設備第51条「原子炉格納容器下部の溶融炉心を冷却する設備」補足資料51-7「原子炉下部キャビティの流入について」と同一資料。</p> <p>記載方針の相違                      ・泊3号炉の小扉が、最下階フロア床レベルと同等の高さにある連通管とほぼ同じ高さとなるためほぼ同時に流入する。</p> <p>設計方針の相違</p>

灰色：女川2号炉の記載のうち、BWR固有の設備や対応手段であり、泊3号炉と比較対象とならない記載内容

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

1.8 原子炉格納容器下部の溶融炉心を冷却するための手順等


大飯発電所3/4号炉	泊発電所3号炉	相違理由
<div data-bbox="174 156 922 673" data-label="Figure"> </div> <div data-bbox="331 694 768 719" data-label="Caption"> <p>図2 原子炉格納容器内への注水量と水位の関係</p> </div> <div data-bbox="91 751 483 777" data-label="Text"> <p>本関係図の設定条件は以下のとおりである。</p> </div> <div data-bbox="114 777 1008 1008" data-label="Text"> <p>(a) 解析コードMAAPによれば、MCCIの発生に対してもっとも影響の大きい「大LOCA+ECCS失敗+格納容器スプレイ失敗」において、原子炉容器破損時（約1.4時間後）に合計60トン<sup>*2</sup>の溶融炉心及び溶融された炉内構造物等が原子炉下部キャビティに落下すると結果を得ている。この初期に落下する溶融炉心等の物量について、保守的に大飯3,4号機に装荷される炉心有効部の全量約□トンと設定し、これが原子炉下部キャビティに落下した際に蓄水した水により常温まで冷却するのに必要な水量として約□m<sup>3*</sup>とした。解析結果によれば、原子炉容器破損時（約1.4時間後）における原子炉下部キャビティ水量は約□m<sup>3</sup>（水位として約1.3m）であり、十分な水量が確保されている。</p> </div> <div data-bbox="147 1010 1001 1096" data-label="Text"> <p>※2：MAAP解析では、初期炉心熱出力を□%大きめに設定しており、また、炉心崩壊熱も大きめの発熱量で推移すると設定している。そのため、原子炉容器破損時間や溶融炉心等落下物量は実態よりも早め・大きめになり、数値は十分保守的である。</p> </div> <div data-bbox="147 1098 1001 1155" data-label="Text"> <p>※3：初期以降に落下する溶融炉心等の冷却に必要な冷却水については、スプレイ水等により最下階に溜まった水が連通穴等により適宜注水される。</p> </div> <div data-bbox="114 1184 992 1241" data-label="Text"> <p>(b) 大破断LOCA時には短時間に大流量が原子炉格納容器内へ注水されるため、連通穴を主経路として原子炉下部キャビティに通水されるため、以下については考慮しない。</p> </div> <div data-bbox="154 1272 456 1299" data-label="List-Group"> <ul style="list-style-type: none"> <li>・原子炉容器外周隙間からの流入</li> </ul> </div> <div data-bbox="288 1327 813 1353" data-label="Text"> <p>□ 枠囲みの範囲は機密に係る事項ですので公開することはできません。</p> </div>	<div data-bbox="1041 143 1948 651" data-label="Figure"> </div> <div data-bbox="1126 663 1852 691" data-label="Caption"> <p>図11 原子炉格納容器内への注水量と水位の関係（既設連通管のみから流入の場合）</p> </div> <div data-bbox="1025 751 1417 777" data-label="Text"> <p>本関係図の設定条件は以下のとおりである。</p> </div> <div data-bbox="1048 777 1964 979" data-label="Text"> <p>(a) 解析コードMAAPによれば、MCCIの発生に対してもっとも影響の大きい「大破断LOCA+ECCS注入失敗+格納容器スプレイ失敗」において、原子炉容器破損時（約1.6時間後※2）に合計□トン<sup>*2</sup>の溶融炉心、溶融された炉内構造物等が原子炉下部キャビティに落下すると結果を得ている。この初期に落下する溶融炉心等の物量について、保守的に泊3号炉に装荷される炉心有効部の全量約□トンと設定し、これが原子炉下部キャビティに落下した際に蓄水した水により常温まで冷却するのに必要な水量として約□m<sup>3*</sup>とした。解析結果によれば、原子炉容器破損時（約1.4時間後）における原子炉下部キャビティ水量は約□m<sup>3</sup>（水位として約1.5m）であり、十分な水量が確保されている。</p> </div> <div data-bbox="1093 1010 1946 1096" data-label="Text"> <p>※2 MAAP解析では、初期炉心熱出力を2%大きめに設定しており、また、炉心崩壊熱も大きめの発熱量で推移すると想定している。そのため、原子炉容器破損時間や溶融炉心等落下物量は実態よりも早め・大きめになり、数値は十分保守的である。</p> </div> <div data-bbox="1093 1098 1942 1155" data-label="Text"> <p>※3 初期以降に落下する溶融炉心等の冷却に必要な冷却水については、スプレイ水等により最下階に溜まった水が連通管等により適宜注水される。</p> </div> <div data-bbox="1048 1184 1953 1241" data-label="Text"> <p>(b) 大破断LOCA時には短時間に大流量が原子炉格納容器内へ注水されるため、連通管を主経路として原子炉下部キャビティに通水されるため、上図においては以下については考慮しないこととした。</p> </div> <div data-bbox="1088 1241 1552 1299" data-label="List-Group"> <ul style="list-style-type: none"> <li>・格納容器サンプからのドレン配管逆流による流入</li> <li>・原子炉容器外周隙間からの流入</li> </ul> </div> <div data-bbox="1335 1337 1917 1364" data-label="Text"> <p>□ 枠囲みの内容は機密情報に属しますので公開できません。</p> </div>	<div data-bbox="1977 140 2166 368" data-label="Text"> <p>本資料は、泊3号炉SA設備第51条「原子炉格納容器下部の溶融炉心を冷却する設備」補足資料51-7「原子炉下部キャビティの流入について」と同一資料。</p> </div> <div data-bbox="1977 402 2121 427" data-label="Text"> <p>設計方針の相違</p> </div> <div data-bbox="1977 809 2121 861" data-label="Text"> <p>設計方針の相違          記載表現の相違</p> </div> <div data-bbox="1977 1243 2121 1268" data-label="Text"> <p>設計方針の相違</p> </div> <div data-bbox="1977 1272 2157 1414" data-label="List-Group"> <ul style="list-style-type: none"> <li>・泊3号炉は下部キャビティ床にドレン配管があるため、ドレン配管から逆流する経路がある。</li> </ul> </div>



灰色：女川2号炉の記載のうち、BWR固有の設備や対応手段であり、泊3号炉と比較対象とならない記載内容

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）


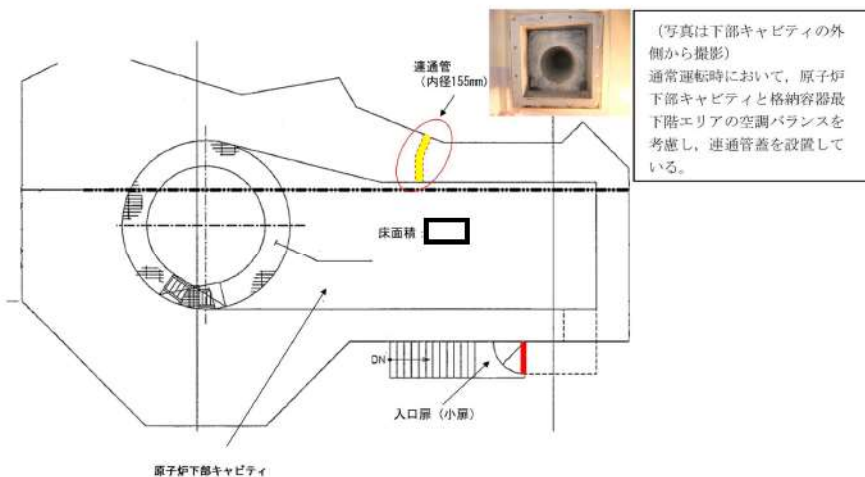
1.8 原子炉格納容器下部の溶融炉心を冷却するための手順等

大飯発電所3 / 4号炉	泊発電所3号炉	相違理由
	 <p data-bbox="1137 694 1836 718">図12 原子炉格納容器内への注水量と水位の関係（追設小扉のみから流入の場合）</p> <p data-bbox="1030 750 1422 774">本関係図の設定条件は以下のとおりである。</p> <ul data-bbox="1030 782 1948 1157" style="list-style-type: none"> <li>(a) 溶融炉心等の物量及び必要な冷却水量の設定については、図11と同じ。</li> <li>(b) 追設する小扉の流入性確認のため、上図においては保守的に以下については考慮しないこととした。                     <ul data-bbox="1064 869 1523 949" style="list-style-type: none"> <li>・既設の連通管からの流入</li> <li>・格納容器サンプからのドレン配管逆流による流入</li> <li>・原子炉容器外周隙間からの流入</li> </ul> </li> <li>(c) 保守的に、大破断LOCA時の初期の流入水（RCS配管破断水（約 <span style="border: 1px solid black; padding: 0 5px;"> </span>））は、既設の連通管が設置されている加圧器逃がシタンクエリアに流入し、このうち当該エリアの容積に相当する水が滞留水になると仮定した。また加圧器逃がシタンクエリアが満水となった後にオーバーフローし、階段室及び下部キャビティに流入すると仮定した。</li> <li>(d) 実際にはRCS配管破断水及びスプレイ水は、加圧器逃がシタンクエリア（既設連通管側）及び階段室（追設小扉側）に同時に流入し、階段室（追設小扉側）にも早期に流入することから、上記は保守的な仮定である。</li> </ul> <p data-bbox="1321 1204 1892 1228" style="text-align: center;"><span style="border: 1px solid black; padding: 0 5px;"> </span> 枠囲みの内容は機密情報に属しますので公開できません。</p>	<p data-bbox="1982 143 2150 367">本資料は、泊3号炉SA設備第51条「原子炉格納容器下部の溶融炉心を冷却する設備」補足資料51-7「原子炉下部キャビティの流入について」と同一資料。</p> <p data-bbox="1982 406 2105 422"><u>記載方針の相違</u></p> <ul data-bbox="1982 430 2150 574" style="list-style-type: none"> <li>・大飯では連通穴が2重化されていることから、小扉のみの流入による評価を行っていない。</li> </ul>

灰色：女川2号炉の記載のうち、BWR固有の設備や対応手段であり、泊3号炉と比較対象とならない記載内容

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

1.8 原子炉格納容器下部の溶融炉心を冷却するための手順等

大飯発電所3 / 4号炉	泊発電所3号炉	相違理由
<p>a. 連通穴</p> <p>原子炉下部キャビティへの流入経路として、炉内計装用シンプル配管室への連通穴を施工する。連通穴は1箇所のみでMCCI防止のために必要な原子炉下部キャビティ保有水を確保できることを確認しているが、2箇所設置することで多重性を持った設計とする。(図3)</p>  <p>図3 連通穴施工イメージ</p> <p>b. 小扉</p> <p>1箇所の連通穴からの流入のみでMCCI防止のために必要な原子炉下部キャビティ保有水を確保できることを確認しているが、原子炉格納容器最下階フロアの水位が上昇すれば、2箇所に設置する連通穴に加えて、小扉からも原子炉下部キャビティへ格納容器スプレイ水が流入する。(図4)</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-top: 10px;"> <p>枠囲みの範囲は機密に係る事項ですので公開することはできません。</p> </div>	<p>a. 連通管</p> <p>原子炉下部キャビティへの流入経路として、原子炉下部キャビティへの連通管を設置している。連通管は1箇所のみでMCCI防止のために必要な原子炉下部キャビティ保有水を確保できることを確認しているが、連通管と異なる位置に小扉を設置することで流路の多重性及び多様性を持った設計とする。(図13)</p>  <p>図13 連通管設置状況</p> <p>b. 小扉</p> <p>連通管からの流入のみでMCCI防止のために必要な原子炉下部キャビティ保有水を確保できることを確認しているが、原子炉下部キャビティへの水の流入経路の多重性を確保するため、原子炉下部キャビティの入口扉に開口部（小扉）を設置し、小扉からも原子炉下部キャビティへ格納容器スプレイ水が流入する。(図14)</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-top: 10px;"> <p>枠囲みの内容は機密情報に属しますので公開できません。</p> </div>	<p>本資料は、泊3号炉SA設備第51条「原子炉格納容器下部の溶融炉心を冷却する設備」補足資料51-7「原子炉下部キャビティの流入について」と同一資料。</p> <p>記載方針の相違</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>泊3号炉は連通管を設置済みである。</li> </ul> <p>設計方針の相違</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>泊3号炉は連通管と異なる方向のほぼ同じ高さに連通管よりも大きい開口部を持つ小扉を設置することで多重性及び多様性を持つ設計としている。</li> </ul> <p>設計方針の相違</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>泊3号炉では、最下層フロアの水位上昇を待たずとも連通管とほぼ同じレベルにある小扉から格納容器スプレイ水が流入することで、多重性を確保した設計としている。</li> </ul>

灰色：女川2号炉の記載のうち、BWR固有の設備や対応手段であり、泊3号炉と比較対象とならない記載内容

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

1.8 原子炉格納容器下部の溶融炉心を冷却するための手順等

大飯発電所3/4号炉	泊発電所3号炉	相違理由
<p style="text-align: center;">原子炉下部キャビティへの開口部の詳細</p>  <p style="text-align: center;">図4 炉内計装用シンプル配管室入口扉小扉</p>	 <p style="text-align: center;">図14 原子炉下部キャビティ入口扉小扉</p> <p style="text-align: center;">[Red Box] 枠囲みの内容は機密情報に属しますので公開できません。</p>	<p>本資料は、泊3号炉SA設備第51条「原子炉格納容器下部の溶融炉心を冷却する設備」補足資料51-7「原子炉下部キャビティの流入について」と同一資料。</p>

灰色：女川2号炉の記載のうち、BWR固有の設備や対応手段であり、泊3号炉と比較対象とならない記載内容

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

1.8 原子炉格納容器下部の溶融炉心を冷却するための手順等

大飯発電所3/4号炉

(9)原子炉下部キャビティへの流入健全性について

a. 原子炉下部キャビティ内側からの閉塞の可能性について  
 溶融炉心が原子炉下部キャビティ室に落下した際、溶融炉心等で**連通穴（内側）**が閉塞しないことを以下のとおり確認した。

○解析コード MAAP によれば、「大破断 LOCA+ECCS 注入失敗+格納容器スプレイ失敗」において、以下の合計約  トンの溶融炉心等が LOCA 後 4 時間までに原子炉から落下するとの結果を得ている。

○上記の結果に解析結果が持つ不確定性を考慮し、保守的に以下を想定して、物量が多くなるよう炉内構造物等の重量を約  トンとし、合計  トン分が下部キャビティ室に堆積することを想定する。

- ・実際に溶融が想定される箇所は、下部炉内構造物のうち、溶融炉心が下部プレナムへ落下する際に接触する構造物の表面の一部と、滞留する下部プレナム内にある構造物であるが、これらが多めに溶け込むことを想定して、下部炉心板以下の全構造物の溶融とする。
- ・原子炉容器については、クリープ破損により開口部を生じさせる形態となり、原子炉容器そのものは落下しない。（溶融炉心と接するため、微量に溶け込む。）
- ・原子炉容器下部の計装案内管については、原子炉容器との固定部が溶融されることにより、全てがその形状を保持したまま落下すること。
- ・原子炉下部キャビティ室にあるサポート等が全て溶融すること。

構成物	材質	重量 (MAAP)	重量 (今回想定)	比重 <sup>※</sup>	体積
① 溶融炉心（全量）	UO <sub>2</sub>	<input type="text"/>	<input type="text"/>	約 11	約 23m <sup>3</sup>
	ZrO <sub>2</sub>			約 6	
② 炉内構造物等	SUS304 等	<input type="text"/>	約 200 トン	約 8	
合計					

※：空隙率を考慮せず

以上のように保守的に設定した条件の場合において、**原子炉下部キャビティ室**に蓄積される溶融炉心等は約  m<sup>3</sup> となる。これら溶融炉心等が平均的に原子炉下部キャビティ室に堆積すると仮定した場合、原子炉下部キャビティ室の水平方向断面積は約  m<sup>2</sup> であるので、堆積高さは約  cm となることから、**原子炉下部キャビティ内側室床面から流入経路が閉塞することはない。**

枠囲みの範囲は機密に係る事項ですので公開することはできません。

泊発電所3号炉

(10)原子炉下部キャビティへの流入健全性について

a. 原子炉下部キャビティ内側からの閉塞の可能性について  
 溶融炉心が原子炉下部キャビティに落下した際、溶融炉心等で**連通管及び小扉が内側から閉塞**しないことを以下のとおり確認した。

○解析コード MAAP によれば、「大破断 LOCA+ECCS 注入失敗+格納容器スプレイ失敗」において、**下表に示すとおり① 溶融炉心（全量）（約  トン）と② 炉内構造物等約  トンの合計約  トンの溶融炉心等が、LOCA 後 3 時間までに原子炉から落下するとの結果を得ている。**

○上記の結果に解析結果が持つ不確定性を考慮し、保守的に以下を想定して、物量が多くなるよう② 炉内構造物等の重量を約  トンとし、合計  トン分が原子炉下部キャビティに堆積することを想定する。

- ・実際に溶融が想定される箇所は、下部炉内構造物のうち、溶融炉心が下部プレナムへ落下する際に接触する構造物の表面の一部と、滞留する下部プレナム内にある構造物であり、**これらは約  トンである。**これらが多めに溶け込むことを想定して、下部炉心板以下の全構造物約  トンの溶融とする。
- ・原子炉容器については、クリープ破損により開口部を生じさせる形態となり、原子炉容器そのものは落下しない。（溶融炉心と接するため、微量に溶け込む。）
- ・原子炉容器下部の計装案内管については、原子炉容器との固定部が溶融されることにより、全てがその形状を保持したまま落下すること。
- ・**原子炉下部キャビティにあるサポート等が全て溶融することを想定する。これらの総重量は  トンである。**

以上を全て合計した約  トンに対して、保守的になるように切りが良い数値として、② 炉内構造物等の重量を約  トンと設定した。

構成物	材料	重量 (解析)	重量 (今回想定)	比重 <sup>※</sup>	体積
① 溶融炉心（全量）	UO <sub>2</sub>	<input type="text"/>	<input type="text"/>	約 11	約 17m <sup>3</sup>
	ZrO <sub>2</sub>			約 6	
② 炉内構造物等	SUS304 等	<input type="text"/>		約 8	
合計					

※：空隙を考慮せず。

以上のように保守的に設定した条件の場合において、**原子炉下部キャビティ**に蓄積される溶融炉心等は約  m<sup>3</sup> となる。これら溶融炉心等が平均的に原子炉下部キャビティに堆積すると仮定した場合、原子炉下部キャビティの水平方向断面積は約  m<sup>2</sup> であるので、堆積高さは約  cm となる。**原子炉下部キャビティへの連通管まで約  cm 以上あることから、溶融炉心等の堆積高さを多めに見た場合でも原子炉下部キャビティへの連通管及び小扉が内側から閉塞することはない。**

枠囲みの内容は機密情報に属しますので公開できません。

相違理由

本資料は、泊3号炉 SA 設備第 51 条「原子炉格納容器下部の溶融炉心を冷却する設備」補足資料 51-7「原子炉下部キャビティの流入について」と同一資料。

記載方針の相違

設計方針の相違

- ・炉心及び炉内構造の相違による重量の相違。

記載方針の相違

- ・重量を明確化した。

記載方針の相違

- ・想定する重量に対してより保守的に重量を設定した。

記載方針の相違

- ・連通管及び小扉と体積高さの関係を明確化した。

灰色：女川2号炉の記載のうち、BWR固有の設備や対応手段であり、泊3号炉と比較対象とならない記載内容

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

1.8 原子炉格納容器下部の溶融炉心を冷却するための手順等

大飯発電所3/4号炉	泊発電所3号炉	相違理由
<p>b. 原子炉下部キャビティ外側からの閉塞の可能性について</p> <p>原子炉下部キャビティへの流入口である連通穴は、原子炉格納容器内に発生する可能性のあるデブリにより連通穴が閉塞することのない設計とする。</p> <p>なお、連通穴を閉塞させる恐れのある異物は以下のとおりである。</p> <p>(a)プラント定期検査期間中に、原子炉格納容器内に検査機器等が多く持ち込まれるが、定期検査終了後、取り残された異物</p> <p>(b)設計基準事故、重大事故等に伴い発生する異物</p> <p>(a)定期検査時に持ち込まれる異物について</p> <p>①定期検査時の作業のため、一時的に使用する異物</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・テープ</li> <li>・プラスチック、ビニール製品</li> <li>・ロープ</li> <li>・ウェス、布切れ等</li> </ul> <p>②対応</p> <p>定期検査期間中は異物が放置されていないことを目視により点検するとともに、放置された異物が発見された場合は原子炉起動までに除去する等の適切な措置を講じている。また、定期検査終了後には、異物等が残っていないことを原子炉格納容器内点検にて確認している。</p> <p>引き続き、適正に異物管理を実施することで、連通管の健全性を確保することが可能である。</p> <p>(b)設計基準事故、重大事故等に伴い発生する異物について</p> <p>①想定する事故シーケンス</p> <p>連通穴による原子炉下部キャビティへの流入が想定される状況は、炉心損傷時であるが、炉心損傷に至る事故シーケンスとしては、主として1次冷却材管のLOCA又は過渡事象が起因となる。そのうち発生異物量が最大となる、1次冷却材管の大破断LOCAを想定して発生異物への対策を考察する。</p> <p>②大破断LOCA時に発生する異物</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・破損保温材（繊維質）：ロックウール、<span style="color:red">グラスウール</span></li> <li>・破損保温材（粒子状）：<span style="color:red">ケイ酸カルシウム</span></li> <li>・その他粒子状異物：塗装</li> <li>・堆積異物（繊維質、粒子）</li> </ul> <p>上記異物のうち、各種保温材については、1次冷却材管の破断点を中心として想定される破損影響範囲において発生することから、ループ室内で発生する。それら以外の粒子状異物及び堆積異物に関してはループ室内外で発生する。</p>	<p>b. 原子炉下部キャビティ外側からの閉塞の可能性について</p> <p>原子炉下部キャビティへの流入口である連通管と小扉は、原子炉格納容器内に発生する可能性のあるデブリにより閉塞することのない設計とする。</p> <p>なお、連通管及び小扉を閉塞させる恐れのある異物は以下のとおりである。</p> <p>(a)プラント定期事業者検査期間中に、原子炉格納容器内に検査機器等が多く持ち込まれるが、定期事業者検査終了後、取り残された異物</p> <p>(b)設計基準事故、重大事故等に伴い発生する異物</p> <p>(a)定期事業者検査時に持ち込まれる異物について</p> <p>①定期事業者検査時の作業のため、一時的に使用する異物</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・テープ</li> <li>・プラスチック、ビニール製品</li> <li>・ロープ</li> <li>・ウェス、布切れ等</li> </ul> <p>②対応</p> <p>定期事業者検査期間中は異物が放置されないことを目視により点検するとともに、放置された異物が発見された場合は原子炉起動までに除去する等の適切な措置を講じている。また、定期事業者検査終了後には、異物等が残っていないことを原子炉格納容器内点検にて確認している。</p> <p>引き続き、適正に異物管理を実施することで、連通管及び小扉の健全性を確保することが可能である。</p> <p>(b)設計基準事故、重大事故等に伴い発生する異物について</p> <p>①想定する事故シーケンス</p> <p>連通管及び小扉による原子炉下部キャビティへの流入が想定される状況は、炉心損傷時であるが、炉心損傷に至る事故シーケンスとしては、主として1次冷却材管のLOCA又は過渡事象が起因となる。そのうち発生異物量が最大となる、1次冷却材の大破断LOCAを想定して発生異物への対策を考察する。</p> <p>②大破断LOCA時に発生する異物</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・破損保温材（繊維質）：ロックウール</li> <li>・その他粒子状異物：塗装</li> <li>・堆積異物（繊維質、粒子）</li> </ul> <p>上記異物のうち、各種保温材については、1次冷却材管の破断点を中心として想定される破損影響範囲において発生することから、ループ室内で発生する。それら以外の粒子状異物及び堆積異物に関してはループ室内外で発生する。</p>	<p>本資料は、泊3号炉SA設備第51条「原子炉格納容器下部の溶融炉心を冷却する設備」補足資料51-7「原子炉下部キャビティの流入について」と同一資料。</p> <p><span style="color:blue">記載表現の相違</span></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・泊では大飯における2重の連通穴と同等の多重性を確保するため、連通管と小扉を使用する。</li> <li>・泊では定期事業者検査と記載する。</li> </ul> <p><span style="color:red">設計方針の相違</span></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・泊ではデブリ対策として格納容器内でグラスウール及びケイ酸カルシウムを使用していない。</li> </ul>

灰色：女川2号炉の記載のうち、BWR固有の設備や対応手段であり、泊3号炉と比較対象とならない記載内容

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

1.8 原子炉格納容器下部の溶融炉心を冷却するための手順等

大飯発電所3/4号炉	泊発電所3号炉	相違理由
<p>③対応</p> <p>i. ループ室内で発生する異物への対応</p> <p>大破断 LOCA 時にループ室内で発生する異物は、大部分が蒸気発生器保温材及び1次冷却材管保温材であり、ループ室内のグレーチングの開口部等を通じた大型保温材や、クロスオーバーレグの大型保温材が、万一連通穴（φ155mm）に到達することを防止するために、各ループ室最下階入口（5箇所）に、下部80cmに網目30mm×100mmのグレーチングを取り付けた金網扉を設置する。（図1）</p> <p>保温材等の異物は、ループ室入口の金網扉に至るまでにループ室各階の床グレーチングにて補足される。（図2）また、ループ室床面グレーチングとループ室入口の金網扉の網目の大きさは同じであり、ループ室床のグレーチングを通過した保温材等によりループ室入口の金網扉が閉塞することは無い。また、この網目を通る異物については連通穴（φ155mm）を閉塞させることは考えにくい。</p> <p>ii. ループ室外で発生する異物への対応</p> <p>大破断 LOCA 時にループ室外で発生する異物は、塗装等の粒子状異物及び堆積異物であるが、万一、ループ室床面（E.L.+17.6m）に落下しても、流路が複雑かつ長いこと等により、原子炉下部キャビティまで到達し難い。（図3）更に、連通穴は原子炉格納容器最下層床面近傍に位置しており、また穴径も155mmであることから、ループ室外で発生する塗装等の粒子状異物及び堆積異物が、連通穴を閉塞させるような大型の異物に該当するとは考えにくい。さらに、連通穴は複数設置することで多重性を持った設計としている。</p> <p>(c)まとめ</p> <p>プラント定期検査期間中に、原子炉格納容器内に検査機器等が多く持ち込まれるが、定期検査時及び終了後に異物が放置されていないことを目視により点検している。</p> <p>設計基準事故、重大事故等に伴い発生する異物は、発生異物量が最大となる1次冷却材管の大破断 LOCA を想定している。連通管を閉塞させるような大きな塊の保温材は大破断 LOCA 時にループ室で発生するものの、ループ室床面等のグレーチングで捕捉されるなど原子炉下部キャビティまで到達し難いが、さらにループ室出口に柵を設ける対策を講じている。さらに、原子炉下部キャビティへの流入経路である連通穴は複数確保して多重性を確保する。</p> <p>以上のことにより、原子炉下部キャビティへの流入の健全性を確保する。</p>	<p>③対応</p> <p>i. ループ室内で発生する異物への対応</p> <p>大破断 LOCA 時にループ室内で発生する異物は、大部分が蒸気発生器保温材及び1次冷却材管保温材であり、ループ室内のグレーチングの開口部等を通じた大型保温材や、クロスオーバーレグの大型保温材が、万一連通管（内径155mm）及び小扉（200mm×500mm）に到達することを防止するために、T.P.17.8mの外周通路部床面の階段開口部（2箇所）の手摺部に、グレーチングと同程度のメッシュ間隔のパンチングメタル板を設置する。（図15）（この他に機器搬入口の開口部が1箇所あり、既にグレーチングを設置している。）</p> <p>保温材等の異物は、T.P.17.8mの外周通路部床面の階段開口部の手摺部のパンチングメタル板に至るまでにループ室各階の床グレーチングにて捕捉される。（図16）また、ループ室床面グレーチングとパンチングメタル板の網目の大きさは同程度であり、ループ室床のグレーチングを通過した保温材等によりパンチングメタル板が閉塞することはない。また、この網目を通る異物については連通管（内径155mm）及び小扉（200mm×500mm）を閉塞させることは考えにくい。</p> <p>ii. ループ室外で発生する異物への対応</p> <p>大破断 LOCA 時にループ室外で発生する異物は、塗装等の粒子状異物及び堆積異物であるが、万一、ループ室床面（T.P.17.8m）に落下しても、流路が複雑かつ長いこと等により、原子炉下部キャビティまで到達し難い。（図17）更に、連通管及び小扉は原子炉格納容器最下層床面近傍に位置しており、また穴径及びサイズもそれぞれ155mm、200mm×500mmであることから、ループ室外で発生する塗装等の粒子状異物及び堆積異物が、連通管及び小扉を閉塞させるような大型の異物に該当するとは考えにくい。さらに、連通管（内径155mm）と小扉（200mm×500mm）をそれぞれ設置することで多重性を持った設計としている。</p> <p>(c)まとめ</p> <p>プラント定期事業者検査期間中に、原子炉格納容器内に検査機器等が多く持ち込まれるが、定期事業者検査時及び終了後に異物が放置されていないことを目視により点検している。</p> <p>設計基準事故、重大事故等に伴い発生する異物は、発生異物量が最大となる1次冷却材管の大破断 LOCA を想定している。連通管及び小扉を閉塞させるような大きな塊の保温材は大破断 LOCA 時にループ室で発生するものの、ループ室床面等のグレーチングで捕捉されるなど原子炉下部キャビティまで到達し難いが、さらにT.P.17.8mの外周通路部床面の階段開口部の手摺部にパンチングメタル板を設ける対策を講じている。さらに、原子炉下部キャビティへの流入経路は連通管（内径155mm）と小扉（200mm×500mm）をそれぞれ設置することで多重性を確保する。</p> <p>以上のことにより、原子炉下部キャビティへの流入の健全性を確保する。</p>	<p>本資料は、泊3号炉 SA 設備第51条「原子炉格納容器下部の溶融炉心を冷却する設備」補足資料51-7「原子炉下部キャビティの流入について」と同一資料。</p> <p>設計方針の相違</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・泊では設置場所の相違からパンチングメタル板を使用しているが、網目サイズをグレーチングと同程度とすることで異物の捕捉性能に相違はない。</li> </ul> <p>設計方針の相違</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ループ室床高さの設計が相違している。</li> </ul> <p>記載方針の相違</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・泊では大飯における2重の連通穴と同等の多重性を確保するため、連通管と小扉を使用する。</li> </ul> <p>設計方針の相違</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・構造は異なるが、異物の捕捉性能は同等である。</li> </ul> <p>記載方針の相違</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・開口部のサイズを明確化した。</li> </ul>

灰色：女川2号炉の記載のうち、BWR固有の設備や対応手段であり、泊3号炉と比較対象とならない記載内容

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

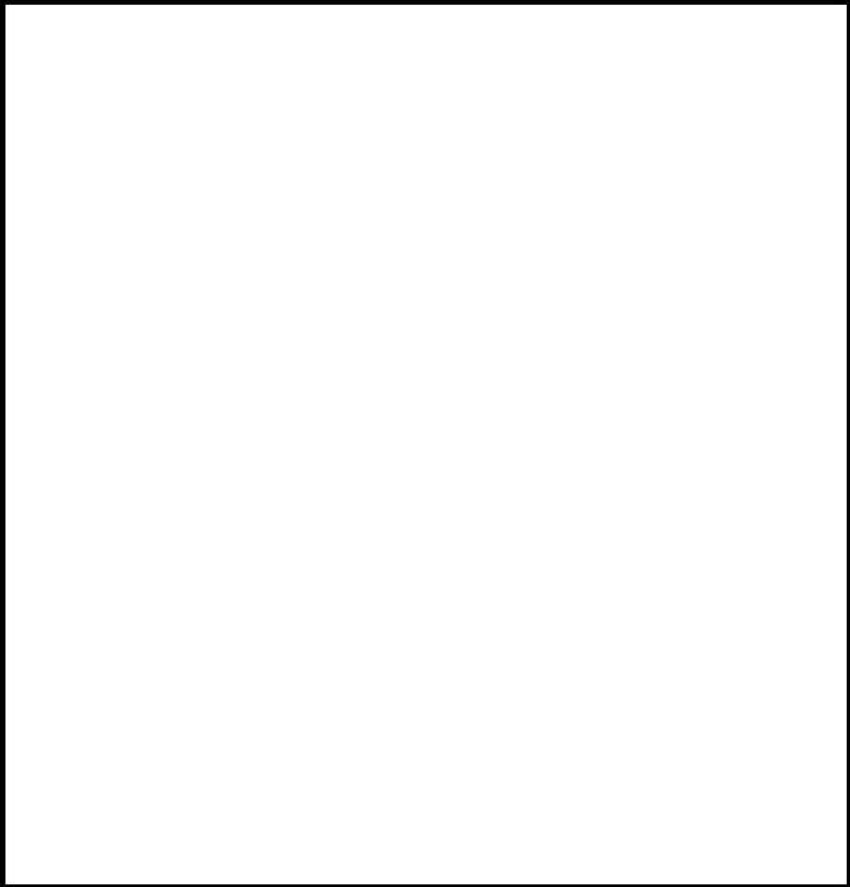
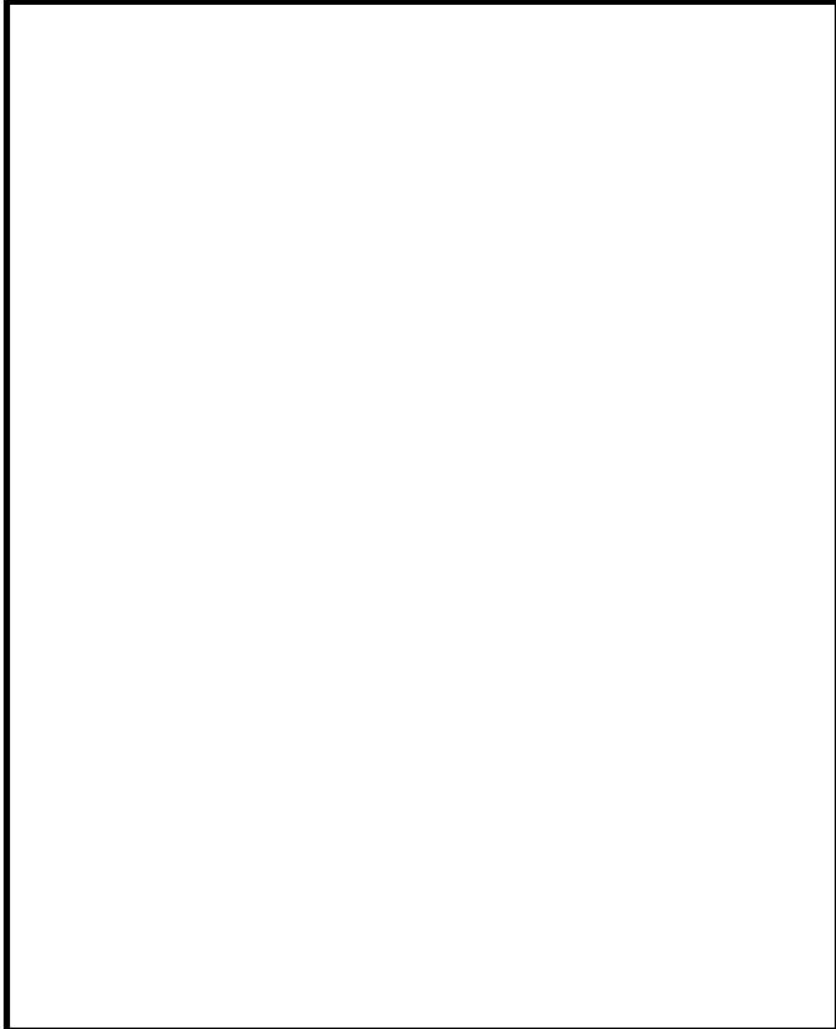
1.8 原子炉格納容器下部の溶融炉心を冷却するための手順等

大飯発電所3/4号炉	泊発電所3号炉	相違理由
<div data-bbox="123 143 985 1101" style="border: 2px solid black; width: 100%; height: 100%;"></div> <div data-bbox="421 1098 672 1120" style="text-align: center;"> <p>図1 保温材等のデブリ対策</p> </div> <div data-bbox="241 1197 846 1236" style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 20px;"> <p>枠囲みの範囲は機密に係る事項ですので公開することはできません。</p> </div>	<div data-bbox="1041 143 1937 1141" style="border: 1px solid black; padding: 10px;"> <div data-bbox="1288 151 1500 263" style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>大型の破損保温材等を捕捉するため、階段開口部周囲を囲むように手摺にパンチングメタルを設置した。(写真A)</p> </div> <div data-bbox="1612 143 1892 255" style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>T. P. 17, 8mフロア</p> <ul style="list-style-type: none"> <li><span style="color: blue;">→</span> : 水平方向の水の流れ</li> <li><span style="color: blue;">⇩</span> : 下層階への水の流れ</li> <li><span style="border: 1px solid red; display: inline-block; width: 10px; height: 10px; vertical-align: middle;"></span> : 床開口部</li> </ul> </div> <div data-bbox="1075 383 1243 430" style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>LOCA 発生場所 (ループ室内)</p> </div> <div data-bbox="1041 566 1254 726" style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> </div> <div data-bbox="1713 287 1915 510" style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>LOCA 時の大型の破損保温材を含んだ水は、ループ室入口を経由し、階段開口部2箇所及び機器搬入口1箇所を通過して、最下階へ流下する。従ってこの3箇所、大型の破損保温材等を捕捉できるように、対処を図る。</p> </div> <div data-bbox="1713 614 1926 718" style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>大型の破損保温材等を捕捉するため、階段開口部周囲を囲むように手摺にパンチングメタルを設置した。(写真B)</p> </div> <div data-bbox="1041 742 1344 805" style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>機器搬入口の開口部には既にグレーチングが設置されており、大型の破損保温材等は捕捉される。</p> </div> <div data-bbox="1075 829 1355 1053" style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> </div> <div data-bbox="1052 1061 1366 1109" style="text-align: center;"> <p>(写真A) 階段開口部に設置したパンチングメタル</p> </div> <div data-bbox="1388 758 1624 933" style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> </div> <div data-bbox="1444 957 1568 1141" style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> </div> <div data-bbox="1635 829 1926 1053" style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> </div> <div data-bbox="1624 1061 1937 1109" style="text-align: center;"> <p>(写真B) 階段開口部に設置したパンチングメタル</p> </div> </div> <div data-bbox="1355 1212 1635 1241" style="text-align: center;"> <p>図15 保温材等のデブリ対策</p> </div> <div data-bbox="1332 1300 1915 1332" style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 20px;"> <p>枠囲みの内容は機密情報に属しますので公開できません。</p> </div>	<p>本資料は、泊3号炉 SA 設備第 51 条「原子炉格納容器下部の溶融炉心を冷却する設備」補足資料 51-7「原子炉下部キャビティの流入について」と同一資料。</p> <p style="color: red;">設計方針の相違</p>

灰色：女川2号炉の記載のうち、BWR固有の設備や対応手段であり、泊3号炉と比較対象とならない記載内容

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

1.8 原子炉格納容器下部の溶融炉心を冷却するための手順等

大飯発電所3 / 4号炉	泊発電所3号炉	相違理由
 <p data-bbox="376 1072 730 1098">図2 各機器とグレーチングの位置関係</p>	 <p data-bbox="1326 1276 1671 1302">図16 各機器とグレーチングの位置関係</p> <p data-bbox="1348 1353 1912 1378">□ 枠囲みの内容は機密情報に属しますので公開できません。</p>	<p data-bbox="1980 143 2150 367">本資料は、泊3号炉SA設備第51条「原子炉格納容器下部の溶融炉心を冷却する設備」補足資料51-7「原子炉下部キャビティの流入について」と同一資料。</p> <p data-bbox="1980 434 2105 459"><u>設計方針の相違</u></p>



灰色：女川2号炉の記載のうち、BWR固有の設備や対応手段であり、泊3号炉と比較対象とならない記載内容

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

1.8 原子炉格納容器下部の溶融炉心を冷却するための手順等

大飯発電所3/4号炉	泊発電所3号炉	相違理由
<div data-bbox="250 148 846 564" data-label="Image"> </div> <div data-bbox="291 576 808 633" data-label="Caption"> <p>図 3-1 各ループ室から原子炉下部キャビティまでの流路 (大飯3号機断面図の例)</p> </div> <div data-bbox="250 660 846 692" data-label="Text"> <p>枠囲みの範囲は機密に係る事項ですので公開することはできません。</p> </div> <div data-bbox="250 759 846 1112" data-label="Image"> </div> <div data-bbox="297 1157 804 1214" data-label="Caption"> <p>図 3-2 各ループ室から原子炉下部キャビティまでの流路 (大飯3号機 17.6M 平面図)</p> </div> <div data-bbox="250 1289 846 1321" data-label="Text"> <p>枠囲みの範囲は機密に係る事項ですので公開することはできません。</p> </div>	<div data-bbox="1214 137 1688 633" data-label="Image"> </div> <div data-bbox="1357 633 1536 660" data-label="Caption"> <p>T. P. 17.8m フロア</p> </div> <div data-bbox="1697 325 1890 363" data-label="Text"> <p>□ : 床開口部</p> </div> <div data-bbox="1214 660 1688 1123" data-label="Image"> </div> <div data-bbox="1357 1123 1536 1150" data-label="Caption"> <p>T. P. 10.4m フロア</p> </div> <div data-bbox="1106 991 1155 1018" data-label="Text"> <p>小扉</p> </div> <div data-bbox="1720 1007 1794 1034" data-label="Text"> <p>連通管</p> </div> <div data-bbox="1234 1185 1744 1243" data-label="Caption"> <p>図17 各ループ室から原子炉下部キャビティまでの流路 (T. P. 17.8m/10.4m平面図)</p> </div> <div data-bbox="1364 1267 1951 1294" data-label="Text"> <p>□ 枠囲みの内容は機密情報に属しますので公開できません。</p> </div>	<p>本資料は、泊3号炉 SA 設備第 51 条「原子炉格納容器下部の溶融炉心を冷却する設備」補足資料 51-7「原子炉下部キャビティの流入について」と同一資料。</p> <p>設計方針の相違</p>

灰色：女川2号炉の記載のうち、BWR固有の設備や対応手段であり、泊3号炉と比較対象とならない記載内容

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

1.8 原子炉格納容器下部の溶融炉心を冷却するための手順等


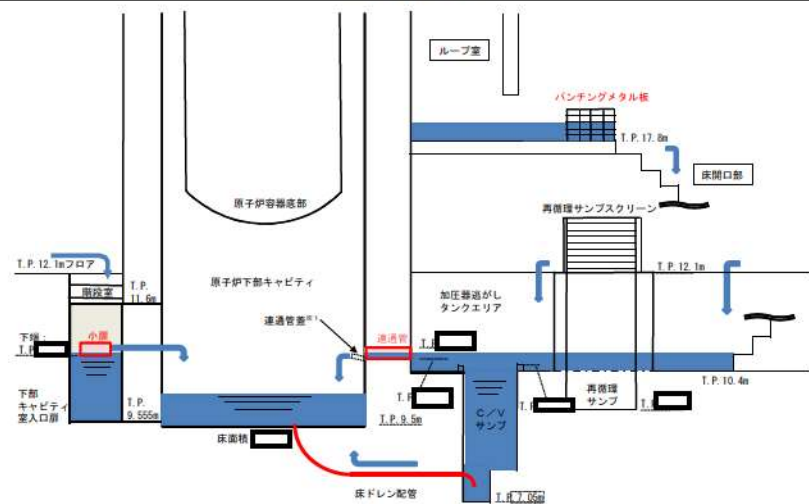
大飯発電所3 / 4号炉	泊発電所3号炉	相違理由
<p>(10)まとめ</p> <p>原子炉下部キャビティへ通じる炉内核計装用シンプル配管室への注水を確実にするために、以下の対策を実施する。(図1)</p> <p>①原子炉下部キャビティへの流入経路確保</p> <p>原子炉下部キャビティへ通じる炉内計装用シンプル配管室への連通穴2箇所設置。                  また、炉内計装用シンプル配管入口扉に小扉を従来より設置している。</p> <p>②保温材等のデブリ対策</p> <p>各ループ室最下階入口（4箇所）にデブリ捕捉用の柵を設置する。</p> <p>これらの対策により、以下に示す効果が期待できることから、原子炉下部キャビティへの注水を確実に実施することができる。</p> <p>○大破断LOCAにより発生する保温材等のデブリは、デブリ捕捉用の柵により捕捉することができるため、連通穴にこれらのデブリが到達することはない。また、連通穴についてはデブリにより閉塞し難い構造であるため、外側から通水経路が閉塞することはない。</p> <p>○溶融炉心等が平均的に原子炉下部キャビティに堆積することを想定した場合においても、連通穴の設置高さは堆積高さより高いことから、内側から注水経路が閉塞することなく有効に機能する。</p>	<p>(11)まとめ</p> <p>原子炉下部キャビティへの注水を確実にするために、以下の対策を実施する。(図18)</p> <p>① 原子炉下部キャビティへの流入経路確保</p> <p>原子炉下部キャビティ入口扉に小扉を設置。                  また、原子炉下部キャビティへの連通管を従来より設置している。</p> <p>② 保温材等のデブリ対策</p> <p>T.P.17.8mの外周通路部床面の階段開口部（2箇所）の手摺部にデブリ捕捉用のパンチングメタル板を設置する。</p> <p>これらの対策により、以下に示す効果が期待できることから、原子炉下部キャビティへの注水を確実に実施することができる。</p> <p>○大破断LOCAにより発生する大型の保温材等のデブリは、デブリ捕捉用のパンチングメタル板及びびグレーチングにより捕捉することができるため連通管及び小扉の外側にこれらのデブリが到達することはない。また、連通管及び小扉についてはデブリにより閉塞し難い構造であるため、外側から通水経路が閉塞することはない。</p> <p>○溶融炉心等が平均的に原子炉下部キャビティに堆積することを想定した場合においても、連通管及び小扉の設置高さは堆積高さより高いことから、内側から注水経路が閉塞することなく有効に機能する。</p>	<p>本資料は、泊3号炉SA設備第51条「原子炉格納容器下部の溶融炉心を冷却する設備」補足資料51-7「原子炉下部キャビティの流入について」と同一資料。</p> <p><b>設計方針の相違</b></p> <p>・泊3号炉は連通管と異なる方向のほぼ同じ高さに連通管よりも大きい開口部を持つ小扉を設置することで多重性及び多様性を持つ設計としている。</p> <p><b>設計方針の相違</b></p> <p>・泊では設置場所の相違からパンチングメタル板を採用しているが、捕捉性能は同等である。</p> <p>・泊では床面開口部にグレーチングを設置している。</p>

1.8 原子炉格納容器下部の溶融炉心を冷却するための手順等

泊発電所3号炉 技術的能力 比較表

灰色：女川2号炉の記載のうち、BWR固有の設備や対応手段であり、泊3号炉と比較対象とならない記載内容

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

大飯発電所3 / 4号炉	泊発電所3号炉	相違理由
 <p data-bbox="331 635 772 657">図1 原子炉下部キャビティまでの流入経路断面図</p> <div data-bbox="264 678 840 710" style="border: 1px solid black; padding: 2px;"> <p>枠囲みの範囲は機密に係る事項ですので公開することはできません。</p> </div>	 <p data-bbox="1232 678 1758 702">図18 原子炉下部キャビティまでの流入経路断面図</p> <div data-bbox="1344 750 1915 774" style="border: 1px solid black; padding: 2px;"> <p>枠囲みの内容は機密情報に属しますので公開できません。</p> </div>	<p data-bbox="1982 140 2139 367">本資料は、泊3号炉SA設備第51条「原子炉格納容器下部の溶融炉心を冷却する設備」補足資料51-7「原子炉下部キャビティの流入について」と同一資料。</p> <p data-bbox="1982 375 2105 399" style="color: red;">設計方針の相違</p>

灰色：女川2号炉の記載のうち、BWR固有の設備や対応手段であり、泊3号炉と比較対象とならない記載内容

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

1.8 原子炉格納容器下部の溶融炉心を冷却するための手順等

大飯発電所3 / 4号炉	泊発電所3号炉	相違理由
<div style="text-align: center;">別紙</div> <p style="text-align: center;">原子炉下部キャビティへの蓄水時間について</p> <p>1. 原子炉下部キャビティへの流入箇所                  原子炉格納容器の最下階エリアからは、図1に示すとおり原子炉下部キャビティに通じる<b>連通穴</b>を経由して原子炉下部キャビティへ流入する。また、<b>原子炉格納容器最下階フロアの水位上昇に伴い、小扉からも流入する。</b></p> <p>図2に<b>連通穴</b>から原子炉下部キャビティへ流入する場合の、最下階エリア及び原子炉下部キャビティの水位と原子炉格納容器内への注水量の関係を示す。</p> <p>なお、解析コードMAAPによると、図3のとおり溶融炉心等を常温まで冷却するのに必要な水量を上回る冷却水が、原子炉容器破損時（約1.4時間後）までに確保可能である。</p> <div style="border: 1px solid black; width: 100%; height: 100%; margin-top: 20px;"> </div> <p style="text-align: center;">図1 原子炉下部キャビティまでの流入経路断面概要図</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px; width: fit-content; margin-left: auto; margin-right: auto;">                 枠囲みの範囲は機密に係る事項ですので公開することはできません。             </div>	<div style="text-align: center;">別紙</div> <p style="text-align: center;">原子炉下部キャビティへの蓄水時間について</p> <p>1. 原子炉下部キャビティへの流入箇所                  原子炉格納容器の最下階エリアからは、図1に示すとおり原子炉下部キャビティに通じる<b>開口部（連通管及び小扉）</b>を経由して原子炉下部キャビティへ流入する。</p> <p>図2及び図3に<b>連通管又は小扉</b>から原子炉下部キャビティへ流入する場合の、最下階エリア及び原子炉下部キャビティの水位と原子炉格納容器内への注水量の関係を示す。</p> <p>原子炉下部キャビティに通じる開口部は2箇所（連通管及び小扉）あり、仮にどちらか一方が閉塞した場合においても、図2及び図3のとおり冷却に必要な冷却水の確保は可能である。</p> <p>なお、解析コードMAAPによると、図4のとおり溶融炉心等を常温まで冷却するのに必要な水量を上回る冷却水が、原子炉容器破損時（約1.6時間後）までに確保可能である。</p> <div style="text-align: center;"> </div> <p style="text-align: center;">図1 原子炉下部キャビティまでの流入経路断面概要図</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px; width: fit-content; margin-left: auto; margin-right: auto;">                 枠囲みの内容は機密情報に属しますので公開できません。             </div>	<p>本資料は、泊3号炉SA設備第51条「原子炉格納容器下部の溶融炉心を冷却する設備」補足資料51-7「原子炉下部キャビティの流入について」と同一資料。</p> <p><u>記載方針の相違</u>                  ・泊3号炉同小扉が、連通管とほぼ同じ高さとなるためほぼ同時に流入する。</p> <p><u>記載方針の相違</u>                  ・泊では大飯における2重の連通穴と同等の多重性を確保するため、連通管と小扉を使用する。</p> <p><u>設計方針の相違</u></p>

灰色：女川2号炉の記載のうち、BWR固有の設備や対応手段であり、泊3号炉と比較対象とならない記載内容

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

1.8 原子炉格納容器下部の溶融炉心を冷却するための手順等

大飯発電所3/4号炉	泊発電所3号炉	相違理由
<div data-bbox="129 156 976 753" data-label="Image"> </div> <div data-bbox="331 778 770 801" data-label="Caption"> <p>図2 原子炉格納容器内への注水量と水位の関係</p> </div> <p>本関係図の設定条件は以下のとおりである。</p> <p>(a) 解析コードMAAPによれば、MCCIの発生に対してもっとも影響の大きい「大LOCA+ECCS失敗+格納容器スプレイ失敗」において、原子炉容器破損時（約1.4時間後）に合計<math>\square</math>トン<sup>*1</sup>の溶融炉心及び溶融された炉内構造物等が原子炉下部キャビティに落下すると結果を得ている。この初期に落下する溶融炉心等の物量について、保守的に大飯3,4号機に装荷される炉心有効部の全量約<math>\square</math>トンと設定し、これが原子炉下部キャビティに落下した際に蓄水した水により常温まで冷却するのに必要な水量として約<math>\square</math>m<sup>3</sup>*2とした。</p> <p>※1：MAAP解析では、初期炉心熱出力を<math>\square</math>%大きめに設定しており、また、炉心崩壊熱も大きめの発熱量で推移すると設定している。そのため、原子炉容器破損時間や溶融炉心等落下物量は実態よりも早め・大きめになり、数値は十分保守的である。</p> <p>※2：初期以降に落下する溶融炉心等の冷却に必要な冷却水については、スプレイ水等により最下階に溜まった水が連通穴等により適宜注水される。</p> <p>(b) 大破断LOCA時には短時間に大流量が原子炉格納容器内へ注水されるため、連通管を主経路として原子炉下部キャビティに通水されるため、原子炉容器外周隙間からの流入については考慮しない。</p> <div data-bbox="273 1347 837 1375" data-label="Text"> <p><math>\square</math> 枠囲みの範囲は機密に係る事項ですので公開することはできません。</p> </div>	<div data-bbox="1066 145 1921 628" data-label="Image"> </div> <div data-bbox="1115 635 1859 657" data-label="Caption"> <p>図2 原子炉格納容器内への注水量と水位の関係（既設連通管のみから流入の場合）</p> </div> <p>本関係図の設定条件は以下のとおりである。</p> <p>(a) 解析コードMAAPによれば、MCCIの発生に対してもっとも影響の大きい「大破断LOCA+ECCS注入失敗+格納容器スプレイ失敗」において、原子炉容器破損時（約1.6時間後）に合計<math>\square</math>トン<sup>*2</sup>の溶融炉心、溶融された炉内構造物等が原子炉下部キャビティに落下すると結果を得ている。この初期に落下する溶融炉心等の物量について、保守的に泊3号炉に装荷される炉心有効部の全量約<math>\square</math>トンと設定し、これが原子炉下部キャビティに落下した際に蓄水した水により常温まで冷却するのに必要な水量として約<math>\square</math>m<sup>3</sup>*3とした。</p> <p>※2 MAAP解析では、初期炉心熱出力を2%大きめに設定しており、また、炉心崩壊熱も大きめの発熱量で推移すると想定している。そのため、原子炉容器破損時間や溶融炉心等落下物量は実態よりも早め・大きめになり、数値は十分保守的である。</p> <p>※3 初期以降に落下する溶融炉心等の冷却に必要な冷却水については、スプレイ水等により最下階に溜まった水が連通管等により適宜注水される。</p> <p>(b) 大破断LOCA時には短時間に大流量が原子炉格納容器内へ注水されるため、連通管を主経路として原子炉下部キャビティに通水されるため、以下については考慮しない。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・格納容器サンプからのドレン配管逆流による流入</li> <li>・原子炉容器外周隙間からの流入</li> </ul> <div data-bbox="1379 1375 1948 1404" data-label="Text"> <p><math>\square</math> 枠囲みの内容は機密情報に属しますので公開できません。</p> </div>	<p>本資料は、泊3号炉SA設備第51条「原子炉格納容器下部の溶融炉心を冷却する設備」補足資料51-7「原子炉下部キャビティの流入について」と同一資料。</p> <p>設計方針の相違</p> <p>設計方針の相違          記載表現の相違</p> <p>設計方針の相違          ・泊3号炉下部キャビティ床にドレン配管があるため、ドレン配管から逆流する経路がある。</p>

灰色：女川2号炉の記載のうち、BWR固有の設備や対応手段であり、泊3号炉と比較対象とならない記載内容

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

1.8 原子炉格納容器下部の溶融炉心を冷却するための手順等

大飯発電所3 / 4号炉	泊発電所3号炉	相違理由
	 <p data-bbox="1128 695 1850 719">図3 原子炉格納容器内への注水量と水位の関係（追設小扉のみから流入の場合）</p> <p data-bbox="1055 754 1420 775">本関係図の設定条件は以下のとおりである。</p> <ul data-bbox="1055 783 1966 1126" style="list-style-type: none"> <li>(a) 溶融炉心等の物量及び必要な冷却水量の設定については、図2と同じ。</li> <li>(b) 追設する小扉の流入性確認のため、保守的に以下については考慮しない。             <ul data-bbox="1099 839 1529 922" style="list-style-type: none"> <li>・既設の連通管からの流入</li> <li>・格納容器サンプからのドレン配管逆流による流入</li> <li>・原子炉容器外周隙間からの流入</li> </ul> </li> <li>(c) 保守的に、大破断 LOCA 時の初期の流入水（RCS 配管破断水（約 <span style="border: 1px solid black; padding: 0 5px;"> </span>））は、既設の連通管が設置されている加圧器逃がしタンクエリアに流入し、このうち当該エリアの容積に相当する水が滞留水になると仮定した。また加圧器逃がしタンクエリアが満水となった後にオーバーフローし、階段室及び下部キャビティに流入すると仮定した。</li> <li>(d) 実際には RCS 配管破断水及びスプレイ水は、加圧器逃がしタンクエリア（既設連通管側）及び階段室（追設小扉側）に同時に流入し、階段室（追設小扉側）にも早期に流入することから、上記は保守的な仮定である。</li> </ul> <p data-bbox="1350 1145 1912 1169" style="text-align: center;"><span style="border: 1px solid black; padding: 0 5px;"> </span> 枠囲みの内容は機密情報に属しますので公開できません。</p>	<p data-bbox="1980 145 2150 368">本資料は、泊3号炉 SA 設備第 51 条「原子炉格納容器下部の溶融炉心を冷却する設備」補足資料 51-7「原子炉下部キャビティの流入について」と同一資料。</p> <p data-bbox="1980 376 2101 400"><u>記載方針の相違</u></p> <ul data-bbox="1980 403 2145 544" style="list-style-type: none"> <li>・大飯では連通管が2重化されていることから、小扉のみの流入による評価を行っていない。</li> </ul>

1.8 原子炉格納容器下部の溶融炉心を冷却するための手順等

泊発電所3号炉 技術的能力 比較表

灰色：女川2号炉の記載のうち、BWR固有の設備や対応手段であり、泊3号炉と比較対象とならない記載内容

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

大飯発電所3/4号炉	泊発電所3号炉	相違理由
<p>図3 原子炉下部キャビティ水量の推移</p> <p>※原子炉下部キャビティ防護壁設置後については約1.3mとなる。</p>	<p>図4 原子炉下部キャビティ水量の推移</p>	<p>本資料は、泊3号炉SA設備第51条「原子炉格納容器下部の溶融炉心を冷却する設備」補足資料51-7「原子炉下部キャビティの流入について」と同一資料。</p> <p>設計方針の相違</p> <p>・格納容器設置等の相違による</p>

灰色：女川2号炉の記載のうち、BWR固有の設備や対応手段であり、泊3号炉と比較対象とならない記載内容

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

1.8 原子炉格納容器下部の溶融炉心を冷却するための手順等

大飯発電所3/4号炉		添付資料 1.8.5																	
<p>原子炉及び格納容器内への注水時における格納容器内の水位及び注水量の管理について</p> <p>重大事故等時には、炉心損傷に伴い格納容器破損を防止するために格納容器内へ注水を行うが、格納容器内の重要機器及び重要計器の水没を防止するため、格納容器内の水位及び注水量を管理する必要がある。</p> <p>また、格納容器内へ注水を行う場合には、地震等により格納容器外への漏えいがないことを確認する必要がある、格納容器外への漏えいの有無及び格納容器内の水位並びに注水量の管理を以下のとおり実施する。</p> <p>1. 格納容器内への注水時における格納容器内の水位及び注水量の管理について</p> <p>原子炉容器への注水量及び格納容器内の水位並びに注水量を把握することにより、格納容器内の水位及び総注水量を管理する。格納容器内の水位及び注水量の算出に当たっては、①格納容器再循環サンプ水位及び格納容器水位にて把握し、②注水ライン流量及び積算流量、③ピット水位等の順にて補完することとする。</p> <p>(1) 格納容器内の水位及び注水量の管理</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th>順序</th> <th>注水管理</th> <th>算出方法</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>①</td> <td>格納容器内の水位 A : 0~100% (0~約 3,800m<sup>3</sup>) B : □ m<sup>3</sup> C : 約 4,400m<sup>3</sup></td> <td>A : 格納容器再循環サンプ水位 (広域) B : 原子炉下部キャビティ水位 C : 原子炉格納容器水位</td> <td>格納容器内の水位は、格納容器内に設置されている水位計により監視可能である。</td> </tr> <tr> <td>②</td> <td>原子炉容器への注水量 <math>(D+E+F) \times I</math> 又は <math>((D+E) \times I) + G+H</math></td> <td>D : 定てん水流量 E : 高圧注入流量 F : 余熱除去流量 G : 既設代替低圧注水積算流量 H : AM用消火水積算流量 I : 注水時間 G : 既設代替低圧注水積算流量 H : AM用消火水積算流量 I : 注水時間 J : 格納容器スプレイ流量 K : A格納容器スプレイ積算流量</td> <td>注水量は、各系統の注水量により確認可能である。</td> </tr> <tr> <td>③</td> <td>ピット水位 <math>(L_1-L_2) + (M_1-M_2)</math> 又は 【復水ピットから補給時】 <math>(L_1-L_2) + (M_1-M_2) + N</math></td> <td>L<sub>1</sub> : 燃料取替用水ピット水位 (初期水位) L<sub>2</sub> : 燃料取替用水ピット水位 (注水後水位) M<sub>1</sub> : 復水ピット水位 (初期水位) M<sub>2</sub> : 復水ピット水位 (注水後水位) N : 復水ピットへの補給量</td> <td>注水量は、水源のピットの減少量により確認可能である。なお、復水ピットにより燃料取替用水ピットへ補給した場合の算出は、復水ピットの収支量を把握することにより注水量を確認可能である。</td> </tr> </tbody> </table>				順序	注水管理	算出方法	備考	①	格納容器内の水位 A : 0~100% (0~約 3,800m <sup>3</sup> ) B : □ m <sup>3</sup> C : 約 4,400m <sup>3</sup>	A : 格納容器再循環サンプ水位 (広域) B : 原子炉下部キャビティ水位 C : 原子炉格納容器水位	格納容器内の水位は、格納容器内に設置されている水位計により監視可能である。	②	原子炉容器への注水量 $(D+E+F) \times I$ 又は $((D+E) \times I) + G+H$	D : 定てん水流量 E : 高圧注入流量 F : 余熱除去流量 G : 既設代替低圧注水積算流量 H : AM用消火水積算流量 I : 注水時間 G : 既設代替低圧注水積算流量 H : AM用消火水積算流量 I : 注水時間 J : 格納容器スプレイ流量 K : A格納容器スプレイ積算流量	注水量は、各系統の注水量により確認可能である。	③	ピット水位 $(L_1-L_2) + (M_1-M_2)$ 又は 【復水ピットから補給時】 $(L_1-L_2) + (M_1-M_2) + N$	L <sub>1</sub> : 燃料取替用水ピット水位 (初期水位) L <sub>2</sub> : 燃料取替用水ピット水位 (注水後水位) M <sub>1</sub> : 復水ピット水位 (初期水位) M <sub>2</sub> : 復水ピット水位 (注水後水位) N : 復水ピットへの補給量	注水量は、水源のピットの減少量により確認可能である。なお、復水ピットにより燃料取替用水ピットへ補給した場合の算出は、復水ピットの収支量を把握することにより注水量を確認可能である。
順序	注水管理	算出方法	備考																
①	格納容器内の水位 A : 0~100% (0~約 3,800m <sup>3</sup> ) B : □ m <sup>3</sup> C : 約 4,400m <sup>3</sup>	A : 格納容器再循環サンプ水位 (広域) B : 原子炉下部キャビティ水位 C : 原子炉格納容器水位	格納容器内の水位は、格納容器内に設置されている水位計により監視可能である。																
②	原子炉容器への注水量 $(D+E+F) \times I$ 又は $((D+E) \times I) + G+H$	D : 定てん水流量 E : 高圧注入流量 F : 余熱除去流量 G : 既設代替低圧注水積算流量 H : AM用消火水積算流量 I : 注水時間 G : 既設代替低圧注水積算流量 H : AM用消火水積算流量 I : 注水時間 J : 格納容器スプレイ流量 K : A格納容器スプレイ積算流量	注水量は、各系統の注水量により確認可能である。																
③	ピット水位 $(L_1-L_2) + (M_1-M_2)$ 又は 【復水ピットから補給時】 $(L_1-L_2) + (M_1-M_2) + N$	L <sub>1</sub> : 燃料取替用水ピット水位 (初期水位) L <sub>2</sub> : 燃料取替用水ピット水位 (注水後水位) M <sub>1</sub> : 復水ピット水位 (初期水位) M <sub>2</sub> : 復水ピット水位 (注水後水位) N : 復水ピットへの補給量	注水量は、水源のピットの減少量により確認可能である。なお、復水ピットにより燃料取替用水ピットへ補給した場合の算出は、復水ピットの収支量を把握することにより注水量を確認可能である。																
<p>②、③については、上記注水量をもとに、格納容器容量曲線により格納容器内の水位を算出する。</p> <p>なお、炉心注水時の概略系統は図1、格納容器スプレイ時の概略系統を図2に示す。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;"> <p>枠囲みの範囲は機密に係る事項ですので公開できません。</p> </div>																			

泊発電所3号炉		添付資料1.8.5		相違理由																
<p>原子炉容器及び原子炉格納容器内への注水時における原子炉格納容器内の水位及び注水量の管理について</p> <p>重大事故等時には、炉心損傷に伴い原子炉格納容器破損を防止するために原子炉格納容器内へ注水を行うが、格納容器再循環ユニットによる格納容器内自然対流冷却への影響を防止するため、原子炉格納容器内の水位及び注水量を管理する必要がある。</p> <p>また、原子炉格納容器内へ注水を行う場合には、地震等により原子炉格納容器外への漏えいがないことを確認する必要がある、原子炉格納容器外への漏えいの有無及び原子炉格納容器内の水位並びに注水量の管理を以下のとおり実施する。</p> <p>1. 原子炉格納容器内への注水時における原子炉格納容器内の水位及び注水量の管理について</p> <p>原子炉容器への注水量及び原子炉格納容器内の水位並びに注水量を把握することにより、原子炉格納容器内の水位及び総注水量を管理する。原子炉格納容器内の水位及び注水量の算出に当たっては、①格納容器再循環サンプ水位及び原子炉格納容器水位にて把握し、②注水ライン流量及び積算流量、③ピット水位等の順にて補完することとする。</p> <p>(1) 原子炉格納容器内の水位及び注水量の管理</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th>順序</th> <th>注水管理</th> <th>算出方法</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>①</td> <td>原子炉格納容器内の水位 A : 0~100% (0~約 3,800m<sup>3</sup>) B : □ m<sup>3</sup> C : 約 4,400m<sup>3</sup></td> <td>A : 格納容器再循環サンプ水位 (広域) B : 原子炉下部キャビティ水位 C : 格納容器水位</td> <td>原子炉格納容器内の水位は、原子炉格納容器内に設置されている水位計により確認可能である。</td> </tr> <tr> <td>②</td> <td>原子炉容器への注水量 <math>(D+E+H) \times I</math> 又は <math>((D+H) \times I) + F</math> 又は <math>((D+H) \times I) + G</math> 又は <math>((D+H) \times I) + J</math></td> <td>D : 高圧注入流量 E : 低圧注入流量 F : 代替格納容器スプレイポンプ出口積算流量 G : B-格納容器スプレイ冷却器出口積算流量 (AM用) H : 定てん流量 I : 注水時間 J : AM用消火水積算流量</td> <td>注水量は、各系統の注水量により確認可能である。</td> </tr> <tr> <td>③</td> <td>ピット水位 <math>(K_1-K_2) + L</math> 又は <math>(M_1-M_2) + N</math></td> <td>K<sub>1</sub> : 燃料取替用水ピット水位 (初期水位) K<sub>2</sub> : 燃料取替用水ピット水位 (注水後水位) L : 燃料取替用水ピットへの補給量 M<sub>1</sub> : 補助給水ピット水位 (初期水位) M<sub>2</sub> : 補助給水ピット水位 (注水後水位) N : 補助給水ピットへの補給量</td> <td>注水量は、燃料取替用水ピット又は補助給水ピットの減少量により確認可能である。なお、燃料取替用水ピット又は補助給水ピットへ水を補給した場合の算出は、補給量を把握することにより注水量を確認可能である。</td> </tr> </tbody> </table>					順序	注水管理	算出方法	備考	①	原子炉格納容器内の水位 A : 0~100% (0~約 3,800m <sup>3</sup> ) B : □ m <sup>3</sup> C : 約 4,400m <sup>3</sup>	A : 格納容器再循環サンプ水位 (広域) B : 原子炉下部キャビティ水位 C : 格納容器水位	原子炉格納容器内の水位は、原子炉格納容器内に設置されている水位計により確認可能である。	②	原子炉容器への注水量 $(D+E+H) \times I$ 又は $((D+H) \times I) + F$ 又は $((D+H) \times I) + G$ 又は $((D+H) \times I) + J$	D : 高圧注入流量 E : 低圧注入流量 F : 代替格納容器スプレイポンプ出口積算流量 G : B-格納容器スプレイ冷却器出口積算流量 (AM用) H : 定てん流量 I : 注水時間 J : AM用消火水積算流量	注水量は、各系統の注水量により確認可能である。	③	ピット水位 $(K_1-K_2) + L$ 又は $(M_1-M_2) + N$	K <sub>1</sub> : 燃料取替用水ピット水位 (初期水位) K <sub>2</sub> : 燃料取替用水ピット水位 (注水後水位) L : 燃料取替用水ピットへの補給量 M <sub>1</sub> : 補助給水ピット水位 (初期水位) M <sub>2</sub> : 補助給水ピット水位 (注水後水位) N : 補助給水ピットへの補給量	注水量は、燃料取替用水ピット又は補助給水ピットの減少量により確認可能である。なお、燃料取替用水ピット又は補助給水ピットへ水を補給した場合の算出は、補給量を把握することにより注水量を確認可能である。
順序	注水管理	算出方法	備考																	
①	原子炉格納容器内の水位 A : 0~100% (0~約 3,800m <sup>3</sup> ) B : □ m <sup>3</sup> C : 約 4,400m <sup>3</sup>	A : 格納容器再循環サンプ水位 (広域) B : 原子炉下部キャビティ水位 C : 格納容器水位	原子炉格納容器内の水位は、原子炉格納容器内に設置されている水位計により確認可能である。																	
②	原子炉容器への注水量 $(D+E+H) \times I$ 又は $((D+H) \times I) + F$ 又は $((D+H) \times I) + G$ 又は $((D+H) \times I) + J$	D : 高圧注入流量 E : 低圧注入流量 F : 代替格納容器スプレイポンプ出口積算流量 G : B-格納容器スプレイ冷却器出口積算流量 (AM用) H : 定てん流量 I : 注水時間 J : AM用消火水積算流量	注水量は、各系統の注水量により確認可能である。																	
③	ピット水位 $(K_1-K_2) + L$ 又は $(M_1-M_2) + N$	K <sub>1</sub> : 燃料取替用水ピット水位 (初期水位) K <sub>2</sub> : 燃料取替用水ピット水位 (注水後水位) L : 燃料取替用水ピットへの補給量 M <sub>1</sub> : 補助給水ピット水位 (初期水位) M <sub>2</sub> : 補助給水ピット水位 (注水後水位) N : 補助給水ピットへの補給量	注水量は、燃料取替用水ピット又は補助給水ピットの減少量により確認可能である。なお、燃料取替用水ピット又は補助給水ピットへ水を補給した場合の算出は、補給量を把握することにより注水量を確認可能である。																	
<p>②、③については、上記注水量をもとに、原子炉格納容器容量曲線により原子炉格納容器内の水位を算出する。</p> <p>なお、炉心注水時の概要図は図1、格納容器スプレイ時の概要図を図2に示す。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;"> <p>□ : 枠囲みの内容は機密情報に属しますので公開できません。</p> </div>																				

【大飯】設備の相違・原子炉格納容器の型式の相違により容積が相違する。

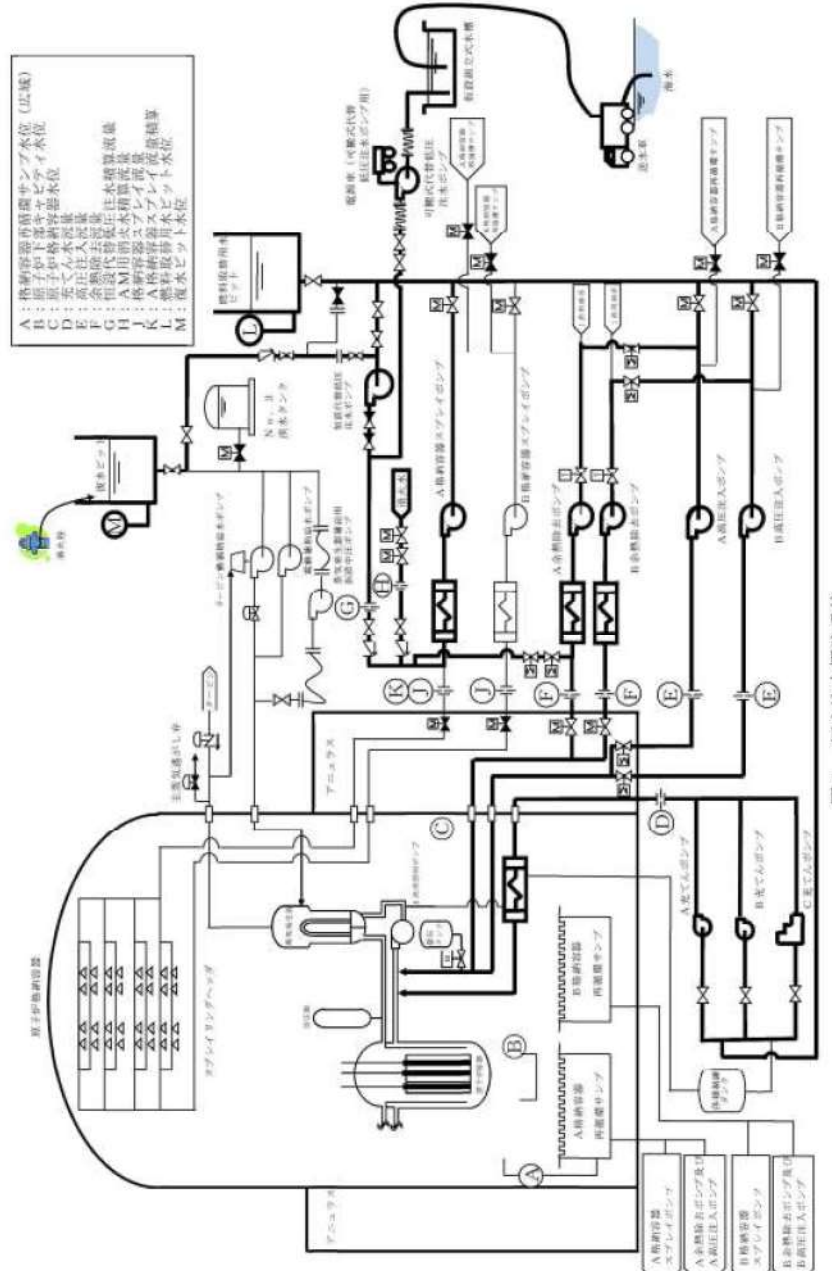
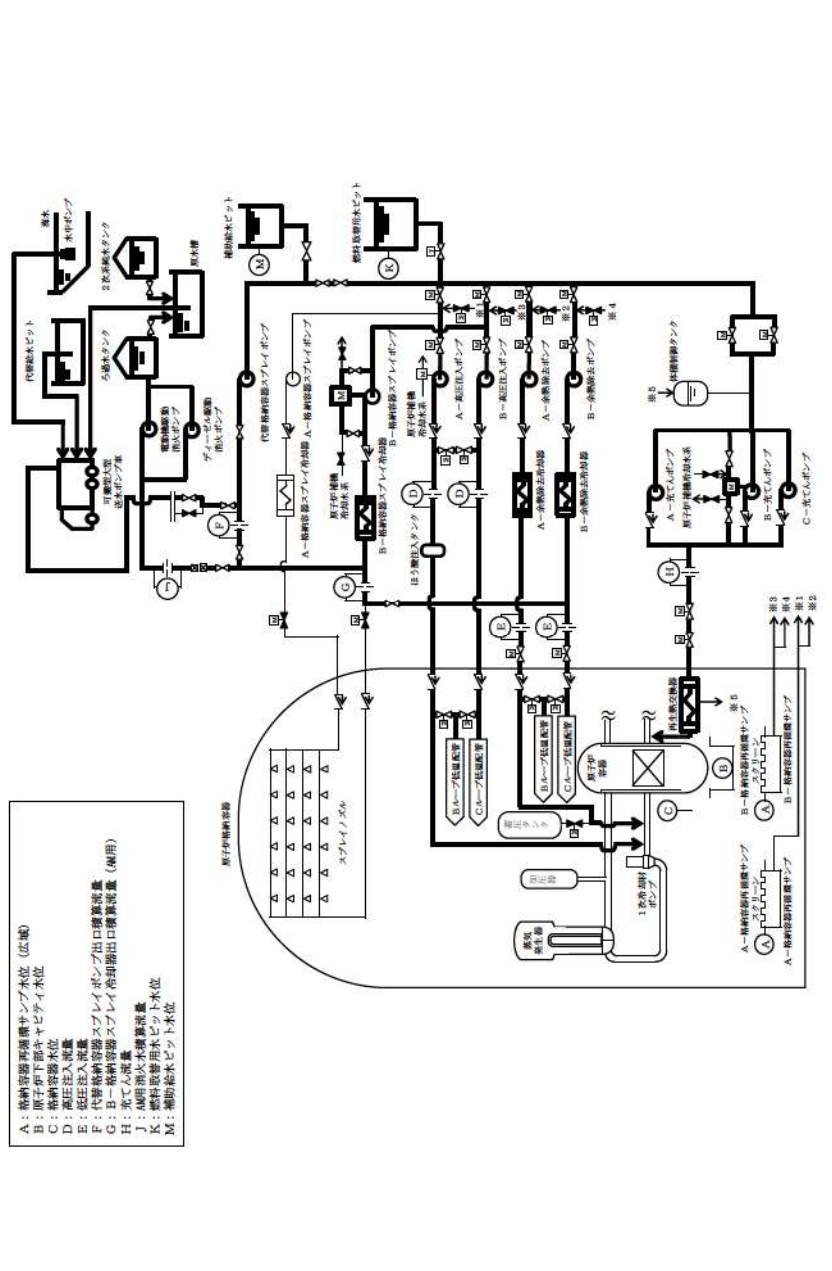


1.8 原子炉格納容器下部の溶融炉心を冷却するための手順等

泊発電所3号炉 技術的能力 比較表

灰色：女川2号炉の記載のうち、BWR固有の設備や対応手段であり、泊3号炉と比較対象とならない記載内容

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

大飯発電所3/4号炉	泊発電所3号炉	相違理由
<p style="text-align: center;">大飯発電所3/4号炉</p>  <p style="text-align: center;">図1 炉心注水概略系統</p>	<p style="text-align: center;">泊発電所3号炉</p>  <p style="text-align: center;">図1 炉心注水時の概要図</p>	<p>相違理由</p>

1.8 原子炉格納容器下部の溶融炉心を冷却するための手順等

泊発電所3号炉 技術的能力 比較表

灰色：女川2号炉の記載のうち、BWR固有の設備や対応手段であり、泊3号炉と比較対象とならない記載内容

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

大飯発電所3/4号炉	泊発電所3号炉	相違理由
<p style="text-align: center;">図2 格納容器スプレイト監視系統</p>	<p style="text-align: center;">図2 格納容器スプレイト時の概要図</p>	

灰色：女川2号炉の記載のうち、BWR固有の設備や対応手段であり、泊3号炉と比較対象とならない記載内容

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

1.8 原子炉格納容器下部の溶融炉心を冷却するための手順等

大飯発電所3/4号炉	泊発電所3号炉	相違理由																																
<p>(2) 各対応操作時の格納容器内の水位及び注水量の管理</p> <p>格納容器内への注水時は、格納容器内の重要機器及び重要計器の水没を防止するため、格納容器内の水位及び注水量を管理する必要がある。各操作における格納容器内の水位及び注水量の管理については、以下のとおり。</p> <table border="1" data-bbox="248 296 853 794"> <thead> <tr> <th>操作目的</th> <th>対応操作概要</th> <th>対応操作における格納容器内の水位及び注水量の管理方法</th> <th>格納容器外への漏えい監視方法</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>MCC1防止</td> <td>・ 駆動代替低圧注水ポンプ等により格納容器へスプレィし、格納容器再循環サンプ水位71%になれば格納容器スプレィを停止する。</td> <td>・ 格納容器再循環サンプ水位計（広域）と注水流量にて格納容器注水量を確認する。原子炉下部キャビティ水位により約 <math>100\text{m}^3</math> を確認する。</td> <td>格納容器への注水量積算と水位上昇量から格納容器外への漏えいの有無を確認する。</td> </tr> <tr> <td>格納容器冷却</td> <td>・ 格納容器再循環ユニットによる冷却を実施するが、格納容器圧力が0.92kPa以上であれば、駆動代替低圧注水ポンプ等による格納容器スプレィも実施する。格納容器へスプレィ中でも、格納容器内注水量が約 <math>4,400\text{m}^3</math> となれば格納容器スプレィを停止する。</td> <td>・ 格納容器再循環サンプ水位（広域）100%までは、水位計と注水流量にて格納容器注水量を確認する。また、格納容器再循環サンプ水位（広域）100%にて格納容器注水量約 <math>3,800\text{m}^3</math> (E.L.+20.9m) を確認する。</td> <td>・ 格納容器再循環サンプ水位（広域）100%までは、格納容器への注水積算流量と水位上昇量から格納容器からの漏えいの有無を確認する。</td> </tr> <tr> <td>残存デブリ冷却</td> <td>・ 原子炉容器に残存デブリの兆候<sup>※</sup>が見られた場合は、格納容器又は代替格納容器スプレィにより注水を行い、格納容器内注水量が約 <math>4,400\text{m}^3</math>（格納容器内の重要機器及び重要計器が水没しない高さ）となれば、注水を停止する。                      ※1：兆候は、格納容器圧力及び温度上昇により確認する。</td> <td>・ 格納容器再循環サンプ水位（広域）100%以上は、格納容器への注水流量と注水時間及び燃料取替用水ビットの収支により格納容器注水量を把握し、原子炉格納容器水位により約 <math>4,400\text{m}^3</math> (E.L.+21.5m) に達したことを確認する。</td> <td>・ 原子炉及び格納容器への注水流量と注水時間により注水量を算出し、格納容器漏えいの有無を確認する。                      （注水流量 <math>150\text{m}^3/\text{h}</math> で注水した場合、<math>3,800\text{m}^3</math> から <math>4,400\text{m}^3</math> まで4時間を要する）</td> </tr> </tbody> </table> <div data-bbox="293 842 813 887" style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>枠囲みの範囲は機密に係る事項ですので公開することはできません。</p> </div>	操作目的	対応操作概要	対応操作における格納容器内の水位及び注水量の管理方法	格納容器外への漏えい監視方法	MCC1防止	・ 駆動代替低圧注水ポンプ等により格納容器へスプレィし、格納容器再循環サンプ水位71%になれば格納容器スプレィを停止する。	・ 格納容器再循環サンプ水位計（広域）と注水流量にて格納容器注水量を確認する。原子炉下部キャビティ水位により約 $100\text{m}^3$ を確認する。	格納容器への注水量積算と水位上昇量から格納容器外への漏えいの有無を確認する。	格納容器冷却	・ 格納容器再循環ユニットによる冷却を実施するが、格納容器圧力が0.92kPa以上であれば、駆動代替低圧注水ポンプ等による格納容器スプレィも実施する。格納容器へスプレィ中でも、格納容器内注水量が約 $4,400\text{m}^3$ となれば格納容器スプレィを停止する。	・ 格納容器再循環サンプ水位（広域）100%までは、水位計と注水流量にて格納容器注水量を確認する。また、格納容器再循環サンプ水位（広域）100%にて格納容器注水量約 $3,800\text{m}^3$ (E.L.+20.9m) を確認する。	・ 格納容器再循環サンプ水位（広域）100%までは、格納容器への注水積算流量と水位上昇量から格納容器からの漏えいの有無を確認する。	残存デブリ冷却	・ 原子炉容器に残存デブリの兆候 <sup>※</sup> が見られた場合は、格納容器又は代替格納容器スプレィにより注水を行い、格納容器内注水量が約 $4,400\text{m}^3$ （格納容器内の重要機器及び重要計器が水没しない高さ）となれば、注水を停止する。 ※1：兆候は、格納容器圧力及び温度上昇により確認する。	・ 格納容器再循環サンプ水位（広域）100%以上は、格納容器への注水流量と注水時間及び燃料取替用水ビットの収支により格納容器注水量を把握し、原子炉格納容器水位により約 $4,400\text{m}^3$ (E.L.+21.5m) に達したことを確認する。	・ 原子炉及び格納容器への注水流量と注水時間により注水量を算出し、格納容器漏えいの有無を確認する。 （注水流量 $150\text{m}^3/\text{h}$ で注水した場合、 $3,800\text{m}^3$ から $4,400\text{m}^3$ まで4時間を要する）	<p>(2) 各対応操作時の原子炉格納容器内の水位及び注水量の管理</p> <p>原子炉格納容器内への注水時は、格納容器再循環ユニットによる格納容器内自然対流冷却への影響を防止するため、原子炉格納容器内の水位及び注水量を管理する必要がある。各操作における原子炉格納容器内の水位及び注水量の管理については、以下のとおり。</p> <table border="1" data-bbox="1066 317 1917 911"> <thead> <tr> <th>操作目的</th> <th>対応操作概要</th> <th>対応操作における格納容器内の水位及び注水量の管理方法</th> <th>原子炉格納容器外への漏えい監視方法</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>MCCI防止</td> <td>・ 代替格納容器スプレィポンプ等により原子炉格納容器下部へ注水し、格納容器再循環サンプ水位（広域）が81%になればスプレィを停止する。</td> <td>・ 格納容器再循環サンプ水位計（広域）と注水流量にて原子炉格納容器注水量を確認する。原子炉下部キャビティ水位計により約 <math>100\text{m}^3</math> (T.P. <math>100\text{m}^3</math>) を確認する。</td> <td>・ 原子炉格納容器への注水流量積算と水位上昇量から原子炉格納容器外への漏えいの有無を確認する。</td> </tr> <tr> <td>原子炉格納容器冷却</td> <td>・ 格納容器再循環ユニットによる格納容器自然対流冷却を実施するが、原子炉格納容器圧力が0.283MPa以上であれば、代替格納容器スプレィポンプ等によるスプレィも実施する。                      原子炉格納容器内へスプレィ中でも、原子炉格納容器への注水量が約 <math>6,100\text{m}^3</math> となれば原子炉格納容器内へスプレィを停止する。</td> <td>・ 格納容器再循環サンプ水位計（広域）100%までは、水位計と注水流量にて原子炉格納容器注水量を確認する。また、格納容器再循環サンプ水位計（広域）100%にて原子炉格納容器注水量約 <math>6,100\text{m}^3</math> (T.P. <math>6,100\text{m}^3</math>) を確認する。</td> <td>・ 格納容器再循環サンプ水位計（広域）100%までは原子炉格納容器への注水流量積算と水位上昇量から原子炉格納容器からの漏えいの有無を確認する。</td> </tr> <tr> <td>残存溶融炉心冷却</td> <td>・ 原子炉容器に残存溶融炉心の兆候<sup>※</sup>が見られた場合は、格納容器スプレィ又は代替格納容器スプレィにより注水を行い、格納容器内注水量が約 <math>6,100\text{m}^3</math>（格納容器再循環ユニットによる格納容器内自然対流冷却への影響しない上限の高さ）となれば、注水を停止する。                      ※：兆候は、原子炉格納容器圧力及び温度上昇により確認する。</td> <td>・ 格納容器再循環サンプ水位計（広域）100%以上は、原子炉格納容器への注水流量と注水時間及び燃料取替用水ビットの収支により原子炉格納容器注水量を把握し、原子炉格納容器水位計により約 <math>6,100\text{m}^3</math> (T.P. <math>6,100\text{m}^3</math>) に達したことを確認する。</td> <td>・ 炉心及び原子炉格納容器への注水流量と注水時間により注水量を算出し、原子炉格納容器漏えいの有無を確認する。                      （注水流量 <math>150\text{m}^3/\text{h}</math> で注水した場合、<math>3,800\text{m}^3</math> から <math>6,100\text{m}^3</math> まで約 <math>10\text{時間}</math> を要する）</td> </tr> </tbody> </table>	操作目的	対応操作概要	対応操作における格納容器内の水位及び注水量の管理方法	原子炉格納容器外への漏えい監視方法	MCCI防止	・ 代替格納容器スプレィポンプ等により原子炉格納容器下部へ注水し、格納容器再循環サンプ水位（広域）が81%になればスプレィを停止する。	・ 格納容器再循環サンプ水位計（広域）と注水流量にて原子炉格納容器注水量を確認する。原子炉下部キャビティ水位計により約 $100\text{m}^3$ (T.P. $100\text{m}^3$ ) を確認する。	・ 原子炉格納容器への注水流量積算と水位上昇量から原子炉格納容器外への漏えいの有無を確認する。	原子炉格納容器冷却	・ 格納容器再循環ユニットによる格納容器自然対流冷却を実施するが、原子炉格納容器圧力が0.283MPa以上であれば、代替格納容器スプレィポンプ等によるスプレィも実施する。 原子炉格納容器内へスプレィ中でも、原子炉格納容器への注水量が約 $6,100\text{m}^3$ となれば原子炉格納容器内へスプレィを停止する。	・ 格納容器再循環サンプ水位計（広域）100%までは、水位計と注水流量にて原子炉格納容器注水量を確認する。また、格納容器再循環サンプ水位計（広域）100%にて原子炉格納容器注水量約 $6,100\text{m}^3$ (T.P. $6,100\text{m}^3$ ) を確認する。	・ 格納容器再循環サンプ水位計（広域）100%までは原子炉格納容器への注水流量積算と水位上昇量から原子炉格納容器からの漏えいの有無を確認する。	残存溶融炉心冷却	・ 原子炉容器に残存溶融炉心の兆候 <sup>※</sup> が見られた場合は、格納容器スプレィ又は代替格納容器スプレィにより注水を行い、格納容器内注水量が約 $6,100\text{m}^3$ （格納容器再循環ユニットによる格納容器内自然対流冷却への影響しない上限の高さ）となれば、注水を停止する。 ※：兆候は、原子炉格納容器圧力及び温度上昇により確認する。	・ 格納容器再循環サンプ水位計（広域）100%以上は、原子炉格納容器への注水流量と注水時間及び燃料取替用水ビットの収支により原子炉格納容器注水量を把握し、原子炉格納容器水位計により約 $6,100\text{m}^3$ (T.P. $6,100\text{m}^3$ ) に達したことを確認する。	・ 炉心及び原子炉格納容器への注水流量と注水時間により注水量を算出し、原子炉格納容器漏えいの有無を確認する。 （注水流量 $150\text{m}^3/\text{h}$ で注水した場合、 $3,800\text{m}^3$ から $6,100\text{m}^3$ まで約 $10\text{時間}$ を要する）	<p>【大飯】設備の相違</p>
操作目的	対応操作概要	対応操作における格納容器内の水位及び注水量の管理方法	格納容器外への漏えい監視方法																															
MCC1防止	・ 駆動代替低圧注水ポンプ等により格納容器へスプレィし、格納容器再循環サンプ水位71%になれば格納容器スプレィを停止する。	・ 格納容器再循環サンプ水位計（広域）と注水流量にて格納容器注水量を確認する。原子炉下部キャビティ水位により約 $100\text{m}^3$ を確認する。	格納容器への注水量積算と水位上昇量から格納容器外への漏えいの有無を確認する。																															
格納容器冷却	・ 格納容器再循環ユニットによる冷却を実施するが、格納容器圧力が0.92kPa以上であれば、駆動代替低圧注水ポンプ等による格納容器スプレィも実施する。格納容器へスプレィ中でも、格納容器内注水量が約 $4,400\text{m}^3$ となれば格納容器スプレィを停止する。	・ 格納容器再循環サンプ水位（広域）100%までは、水位計と注水流量にて格納容器注水量を確認する。また、格納容器再循環サンプ水位（広域）100%にて格納容器注水量約 $3,800\text{m}^3$ (E.L.+20.9m) を確認する。	・ 格納容器再循環サンプ水位（広域）100%までは、格納容器への注水積算流量と水位上昇量から格納容器からの漏えいの有無を確認する。																															
残存デブリ冷却	・ 原子炉容器に残存デブリの兆候 <sup>※</sup> が見られた場合は、格納容器又は代替格納容器スプレィにより注水を行い、格納容器内注水量が約 $4,400\text{m}^3$ （格納容器内の重要機器及び重要計器が水没しない高さ）となれば、注水を停止する。 ※1：兆候は、格納容器圧力及び温度上昇により確認する。	・ 格納容器再循環サンプ水位（広域）100%以上は、格納容器への注水流量と注水時間及び燃料取替用水ビットの収支により格納容器注水量を把握し、原子炉格納容器水位により約 $4,400\text{m}^3$ (E.L.+21.5m) に達したことを確認する。	・ 原子炉及び格納容器への注水流量と注水時間により注水量を算出し、格納容器漏えいの有無を確認する。 （注水流量 $150\text{m}^3/\text{h}$ で注水した場合、 $3,800\text{m}^3$ から $4,400\text{m}^3$ まで4時間を要する）																															
操作目的	対応操作概要	対応操作における格納容器内の水位及び注水量の管理方法	原子炉格納容器外への漏えい監視方法																															
MCCI防止	・ 代替格納容器スプレィポンプ等により原子炉格納容器下部へ注水し、格納容器再循環サンプ水位（広域）が81%になればスプレィを停止する。	・ 格納容器再循環サンプ水位計（広域）と注水流量にて原子炉格納容器注水量を確認する。原子炉下部キャビティ水位計により約 $100\text{m}^3$ (T.P. $100\text{m}^3$ ) を確認する。	・ 原子炉格納容器への注水流量積算と水位上昇量から原子炉格納容器外への漏えいの有無を確認する。																															
原子炉格納容器冷却	・ 格納容器再循環ユニットによる格納容器自然対流冷却を実施するが、原子炉格納容器圧力が0.283MPa以上であれば、代替格納容器スプレィポンプ等によるスプレィも実施する。 原子炉格納容器内へスプレィ中でも、原子炉格納容器への注水量が約 $6,100\text{m}^3$ となれば原子炉格納容器内へスプレィを停止する。	・ 格納容器再循環サンプ水位計（広域）100%までは、水位計と注水流量にて原子炉格納容器注水量を確認する。また、格納容器再循環サンプ水位計（広域）100%にて原子炉格納容器注水量約 $6,100\text{m}^3$ (T.P. $6,100\text{m}^3$ ) を確認する。	・ 格納容器再循環サンプ水位計（広域）100%までは原子炉格納容器への注水流量積算と水位上昇量から原子炉格納容器からの漏えいの有無を確認する。																															
残存溶融炉心冷却	・ 原子炉容器に残存溶融炉心の兆候 <sup>※</sup> が見られた場合は、格納容器スプレィ又は代替格納容器スプレィにより注水を行い、格納容器内注水量が約 $6,100\text{m}^3$ （格納容器再循環ユニットによる格納容器内自然対流冷却への影響しない上限の高さ）となれば、注水を停止する。 ※：兆候は、原子炉格納容器圧力及び温度上昇により確認する。	・ 格納容器再循環サンプ水位計（広域）100%以上は、原子炉格納容器への注水流量と注水時間及び燃料取替用水ビットの収支により原子炉格納容器注水量を把握し、原子炉格納容器水位計により約 $6,100\text{m}^3$ (T.P. $6,100\text{m}^3$ ) に達したことを確認する。	・ 炉心及び原子炉格納容器への注水流量と注水時間により注水量を算出し、原子炉格納容器漏えいの有無を確認する。 （注水流量 $150\text{m}^3/\text{h}$ で注水した場合、 $3,800\text{m}^3$ から $6,100\text{m}^3$ まで約 $10\text{時間}$ を要する）																															

                    ：枠囲みの内容は機密情報に属しますので公開できません。

灰色：女川2号炉の記載のうち、BWR固有の設備や対応手段であり、泊3号炉と比較対象とならない記載内容

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

1.8 原子炉格納容器下部の溶融炉心を冷却するための手順等

大飯発電所3 / 4号炉	泊発電所3号炉	相違理由																																																																																																																			
<p>2. 格納容器外への漏えい</p> <p>格納容器外への漏えいとしては、格納容器注水ラインから他の系統への流出、格納容器貫通配管からの漏えいを考慮する。</p> <p>(1) 格納容器注水ラインから他の系統への流出</p> <p>格納容器内への注水により他の系統へ流出する可能性がある系統を抽出した。                  (抽出した系統については、別紙-1参照)</p> <table border="1" data-bbox="190 331 913 1289"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>流出する可能性のある系統</th> <th>隔離弁</th> <th>備考</th> <th>流出の可能性</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>①</td> <td>恒設代替低圧注水ポンプフルフローライン</td> <td>CP-110 × (L.C) (通常閉)</td> <td></td> <td>×</td> </tr> <tr> <td>②</td> <td>AM消火水ライン</td> <td>CP-090 × (L.C) (通常閉) CP-091 (逆止弁)</td> <td>2重弁により隔離されている。 消火水ラインに圧力がある場合はリークしない。</td> <td>×</td> </tr> <tr> <td>③</td> <td>可搬式代替低圧注水ポンプライン</td> <td>CP-090 × (L.C) (通常閉) CP-091 (逆止弁)</td> <td>多重弁により隔離されている。</td> <td>×</td> </tr> <tr> <td>④</td> <td>格納容器スプレイポンプ入口ライン (燃料取替用水ピット側)</td> <td>CP-002A (逆止弁) CP-022A × (L.C) (通常閉)</td> <td>流出した場合は、CP-001A、006Aを閉操作することで隔離可能。 燃料取替用水ピットの水位収支と積算流量差により、燃料取替用水ピットへの流出を把握可能。</td> <td>△</td> </tr> <tr> <td>⑤</td> <td>格納容器スプレイポンプ入口ライン (格納容器再循環サンプ側)</td> <td>CP-029A (逆止弁) CP-003A × (通常閉) CP-022A × (L.C) (通常閉)</td> <td>流出した場合でも格納容器内(格納容器再循環サンプ)へ流入する。</td> <td>×</td> </tr> <tr> <td>⑥</td> <td>A格納容器スプレイポンプ自己冷却供給ライン</td> <td>CP-200 × (通常閉) CP-201 × (L.C) (通常閉) CP-203 × (L.C) (通常閉) CP-204 × (L.C) (通常閉)</td> <td>通常時、閉止ディスタンスピース取付け。 多重弁により隔離されている。</td> <td>×</td> </tr> <tr> <td>⑦</td> <td>RHR-S-CSSS連絡ライン</td> <td>RH-060 × (L.C) (通常閉) RH-061 × (L.C) (通常閉)</td> <td>2重弁により隔離されている。</td> <td>×</td> </tr> <tr> <td>⑧</td> <td>格納容器スプレイング～B格納容器スプレイ冷却器出口ライン</td> <td>CP-026B (逆止弁) CP-024B × (通常閉)</td> <td>流出した場合は、CP-001B、006Bを閉操作することで隔離可能。 燃料取替用水ピットの水位収支と積算流量差により、燃料取替用水ピットへの流出を把握可能。</td> <td>△</td> </tr> </tbody> </table> <p>流出の可能性 ○:可能性有り △:条件により可能性有り ×:考えられない</p> <p>上記表により、通常閉の弁や逆止弁設置及び系統構成により閉止されることで、注水ラインから他の系統への流出の可能性は、極めて低いと思われる。                  万一、他の系統へ漏えいした場合においても、注水量、燃料取替用水ピット水位、復水ピット水位等を継続的に監視し、他の系統への流出を検知することが可能である。</p>	番号	流出する可能性のある系統	隔離弁	備考	流出の可能性	①	恒設代替低圧注水ポンプフルフローライン	CP-110 × (L.C) (通常閉)		×	②	AM消火水ライン	CP-090 × (L.C) (通常閉) CP-091 (逆止弁)	2重弁により隔離されている。 消火水ラインに圧力がある場合はリークしない。	×	③	可搬式代替低圧注水ポンプライン	CP-090 × (L.C) (通常閉) CP-091 (逆止弁)	多重弁により隔離されている。	×	④	格納容器スプレイポンプ入口ライン (燃料取替用水ピット側)	CP-002A (逆止弁) CP-022A × (L.C) (通常閉)	流出した場合は、CP-001A、006Aを閉操作することで隔離可能。 燃料取替用水ピットの水位収支と積算流量差により、燃料取替用水ピットへの流出を把握可能。	△	⑤	格納容器スプレイポンプ入口ライン (格納容器再循環サンプ側)	CP-029A (逆止弁) CP-003A × (通常閉) CP-022A × (L.C) (通常閉)	流出した場合でも格納容器内(格納容器再循環サンプ)へ流入する。	×	⑥	A格納容器スプレイポンプ自己冷却供給ライン	CP-200 × (通常閉) CP-201 × (L.C) (通常閉) CP-203 × (L.C) (通常閉) CP-204 × (L.C) (通常閉)	通常時、閉止ディスタンスピース取付け。 多重弁により隔離されている。	×	⑦	RHR-S-CSSS連絡ライン	RH-060 × (L.C) (通常閉) RH-061 × (L.C) (通常閉)	2重弁により隔離されている。	×	⑧	格納容器スプレイング～B格納容器スプレイ冷却器出口ライン	CP-026B (逆止弁) CP-024B × (通常閉)	流出した場合は、CP-001B、006Bを閉操作することで隔離可能。 燃料取替用水ピットの水位収支と積算流量差により、燃料取替用水ピットへの流出を把握可能。	△	<p>2. 原子炉格納容器外への漏えい</p> <p>原子炉格納容器外への漏えいとしては、原子炉格納容器注水ラインから他の系統への流出、原子炉格納容器貫通配管からの漏えいを考慮する。</p> <p>(1) 原子炉格納容器注水ラインから他の系統への流出</p> <p>原子炉格納容器内への注水により他の系統へ流出する可能性がある系統を抽出した。                  (抽出した系統については、別紙-1参照)</p> <table border="1" data-bbox="1124 359 1960 1284"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>流出する可能性のある系統</th> <th>隔離弁</th> <th>備考</th> <th>流出の可能性</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>①</td> <td>代替格納容器スプレイポンプ補助給水ピット戻りライン</td> <td>CP-145 閉 (通常閉) FP-660 閉 (L.C) (通常閉)</td> <td>2重弁により隔離されている。</td> <td>×</td> </tr> <tr> <td>②</td> <td>可搬式大型送水ポンプ車接続ライン</td> <td>CP-155 閉 (通常閉) RF-101 閉 (通常閉) RF-102 閉 (通常閉) FP-663 閉 (通常閉)</td> <td>2重弁により隔離されている。</td> <td>×</td> </tr> <tr> <td>③</td> <td>AM消火水ライン</td> <td>CP-111 閉 (L.C) (通常閉)</td> <td>通常時、フレキシブルホースは取り外されており、カプラは耐圧キャップで閉止されている。</td> <td>×</td> </tr> <tr> <td>④</td> <td>格納容器スプレイポンプ入口ライン (燃料取替用水ピット)</td> <td>CP-007B (逆止弁) ST-003B (逆止弁)</td> <td>流出した場合は、ST-002Bを閉止することで隔離可能。 燃料取替用水ピット水位収支と積算流量差により燃料取替用水ピットへの流出を把握可能。</td> <td>△</td> </tr> <tr> <td>⑤</td> <td>格納容器スプレイポンプ入口ライン (再循環サンプ)</td> <td>CP-007B (逆止弁) ST-005B (逆止弁) ST-004B 閉 (通常閉)</td> <td>流出した場合でも格納容器内(再循環サンプ)へ流入する。</td> <td>×</td> </tr> <tr> <td>⑥</td> <td>B-格納容器スプレイポンプ自己冷却水供給ライン</td> <td>CP-007B (逆止弁) CP-120 閉 (L.C) (通常閉) CP-121 閉 (L.C) (通常閉)</td> <td>2重弁により隔離されている。</td> <td>×</td> </tr> <tr> <td>⑦</td> <td>B-格納容器スプレイポンプ自己冷却水戻りライン</td> <td>CP-007B (逆止弁) CP-122 閉 (L.C) (通常閉)</td> <td>通常時、フレキシブルホースは取り外されており、カプラは耐圧キャップで閉止されている。</td> <td>×</td> </tr> <tr> <td>⑧</td> <td>RHR-CSS連絡ライン～高圧注入ポンプ入口ライン、燃料取替用水ピット</td> <td>RH-100 閉 (L.C) (通常閉) RH-026B 閉 (L.C) (通常閉)</td> <td>燃料取替用水ピット水位収支と積算流量差により燃料取替用水ピットへの流出を把握可能。</td> <td>×</td> </tr> <tr> <td>⑨</td> <td>RHR-CSS連絡ライン～低圧抽出ライン</td> <td>RH-100 閉 (L.C) (通常閉) RH-023B 閉 (通常閉)</td> <td>2重弁により隔離されている。</td> <td>×</td> </tr> <tr> <td>⑩</td> <td>RHR-CSS連絡ライン～余熱除去ポンプ入口ライン (燃料取替用水ピット側)</td> <td>RH-100 閉 (L.C) (通常閉) RH-013B (逆止弁) RH-050B (逆止弁) RH-055B 閉 (系統構成) RH-053B (逆止弁) RH-051B 閉 (系統構成)</td> <td>燃料取替用水ピット水位収支と積算流量差により燃料取替用水ピットへの流出を把握可能。</td> <td>△</td> </tr> <tr> <td>⑪</td> <td>RHR-CSS連絡ライン～余熱除去ポンプ入口ライン (再循環サンプ側)</td> <td>RH-100 閉 (L.C) (通常閉) RH-013B (逆止弁) RH-050B (逆止弁) RH-055B 閉 (系統構成) RH-059B (逆止弁) RH-058B 閉 (系統構成)</td> <td>流出した場合でも格納容器内(再循環サンプ)へ流入する。</td> <td>×</td> </tr> <tr> <td>⑫</td> <td>RHR-CSS連絡ライン～余熱除去ポンプ洗浄ライン</td> <td>RH-100 閉 (L.C) (通常閉) RH-013B (逆止弁) RH-008 閉 (逆止弁) RH-006B (通常閉)</td> <td>2重弁により隔離されている。</td> <td>×</td> </tr> <tr> <td>⑬</td> <td>格納容器スプレイポンプテストライン～燃料取替用水ピット</td> <td>CP-021B 閉 (L.C) (通常閉) CP-022B 閉 (L.C) (通常閉)</td> <td>弁のシートリークにより流出した場合でも燃料取替用水ピット水位収支と積算流量差により燃料取替用水ピットへの流出を把握可能。</td> <td>×</td> </tr> </tbody> </table> <p>流出の可能性 ○:可能性有り △:条件により可能性有り ×:考えられない</p> <p>上記表により、通常閉の弁や逆止弁設置及び系統構成により閉止されることで、注水ラインから他の系統への流出の可能性は、極めて低いと思われる。                  万一、他の系統へ漏えいした場合においても、注水量、燃料取替用水ピット水位、補助給水ピット水位等を継続的に監視し、他の系統への流出を検知することが可能である。</p>	番号	流出する可能性のある系統	隔離弁	備考	流出の可能性	①	代替格納容器スプレイポンプ補助給水ピット戻りライン	CP-145 閉 (通常閉) FP-660 閉 (L.C) (通常閉)	2重弁により隔離されている。	×	②	可搬式大型送水ポンプ車接続ライン	CP-155 閉 (通常閉) RF-101 閉 (通常閉) RF-102 閉 (通常閉) FP-663 閉 (通常閉)	2重弁により隔離されている。	×	③	AM消火水ライン	CP-111 閉 (L.C) (通常閉)	通常時、フレキシブルホースは取り外されており、カプラは耐圧キャップで閉止されている。	×	④	格納容器スプレイポンプ入口ライン (燃料取替用水ピット)	CP-007B (逆止弁) ST-003B (逆止弁)	流出した場合は、ST-002Bを閉止することで隔離可能。 燃料取替用水ピット水位収支と積算流量差により燃料取替用水ピットへの流出を把握可能。	△	⑤	格納容器スプレイポンプ入口ライン (再循環サンプ)	CP-007B (逆止弁) ST-005B (逆止弁) ST-004B 閉 (通常閉)	流出した場合でも格納容器内(再循環サンプ)へ流入する。	×	⑥	B-格納容器スプレイポンプ自己冷却水供給ライン	CP-007B (逆止弁) CP-120 閉 (L.C) (通常閉) CP-121 閉 (L.C) (通常閉)	2重弁により隔離されている。	×	⑦	B-格納容器スプレイポンプ自己冷却水戻りライン	CP-007B (逆止弁) CP-122 閉 (L.C) (通常閉)	通常時、フレキシブルホースは取り外されており、カプラは耐圧キャップで閉止されている。	×	⑧	RHR-CSS連絡ライン～高圧注入ポンプ入口ライン、燃料取替用水ピット	RH-100 閉 (L.C) (通常閉) RH-026B 閉 (L.C) (通常閉)	燃料取替用水ピット水位収支と積算流量差により燃料取替用水ピットへの流出を把握可能。	×	⑨	RHR-CSS連絡ライン～低圧抽出ライン	RH-100 閉 (L.C) (通常閉) RH-023B 閉 (通常閉)	2重弁により隔離されている。	×	⑩	RHR-CSS連絡ライン～余熱除去ポンプ入口ライン (燃料取替用水ピット側)	RH-100 閉 (L.C) (通常閉) RH-013B (逆止弁) RH-050B (逆止弁) RH-055B 閉 (系統構成) RH-053B (逆止弁) RH-051B 閉 (系統構成)	燃料取替用水ピット水位収支と積算流量差により燃料取替用水ピットへの流出を把握可能。	△	⑪	RHR-CSS連絡ライン～余熱除去ポンプ入口ライン (再循環サンプ側)	RH-100 閉 (L.C) (通常閉) RH-013B (逆止弁) RH-050B (逆止弁) RH-055B 閉 (系統構成) RH-059B (逆止弁) RH-058B 閉 (系統構成)	流出した場合でも格納容器内(再循環サンプ)へ流入する。	×	⑫	RHR-CSS連絡ライン～余熱除去ポンプ洗浄ライン	RH-100 閉 (L.C) (通常閉) RH-013B (逆止弁) RH-008 閉 (逆止弁) RH-006B (通常閉)	2重弁により隔離されている。	×	⑬	格納容器スプレイポンプテストライン～燃料取替用水ピット	CP-021B 閉 (L.C) (通常閉) CP-022B 閉 (L.C) (通常閉)	弁のシートリークにより流出した場合でも燃料取替用水ピット水位収支と積算流量差により燃料取替用水ピットへの流出を把握可能。	×	<p>【大飯】設備の相違・設備が相違するため、他の系統へ流出する可能性がある系統が相違する。</p>
番号	流出する可能性のある系統	隔離弁	備考	流出の可能性																																																																																																																	
①	恒設代替低圧注水ポンプフルフローライン	CP-110 × (L.C) (通常閉)		×																																																																																																																	
②	AM消火水ライン	CP-090 × (L.C) (通常閉) CP-091 (逆止弁)	2重弁により隔離されている。 消火水ラインに圧力がある場合はリークしない。	×																																																																																																																	
③	可搬式代替低圧注水ポンプライン	CP-090 × (L.C) (通常閉) CP-091 (逆止弁)	多重弁により隔離されている。	×																																																																																																																	
④	格納容器スプレイポンプ入口ライン (燃料取替用水ピット側)	CP-002A (逆止弁) CP-022A × (L.C) (通常閉)	流出した場合は、CP-001A、006Aを閉操作することで隔離可能。 燃料取替用水ピットの水位収支と積算流量差により、燃料取替用水ピットへの流出を把握可能。	△																																																																																																																	
⑤	格納容器スプレイポンプ入口ライン (格納容器再循環サンプ側)	CP-029A (逆止弁) CP-003A × (通常閉) CP-022A × (L.C) (通常閉)	流出した場合でも格納容器内(格納容器再循環サンプ)へ流入する。	×																																																																																																																	
⑥	A格納容器スプレイポンプ自己冷却供給ライン	CP-200 × (通常閉) CP-201 × (L.C) (通常閉) CP-203 × (L.C) (通常閉) CP-204 × (L.C) (通常閉)	通常時、閉止ディスタンスピース取付け。 多重弁により隔離されている。	×																																																																																																																	
⑦	RHR-S-CSSS連絡ライン	RH-060 × (L.C) (通常閉) RH-061 × (L.C) (通常閉)	2重弁により隔離されている。	×																																																																																																																	
⑧	格納容器スプレイング～B格納容器スプレイ冷却器出口ライン	CP-026B (逆止弁) CP-024B × (通常閉)	流出した場合は、CP-001B、006Bを閉操作することで隔離可能。 燃料取替用水ピットの水位収支と積算流量差により、燃料取替用水ピットへの流出を把握可能。	△																																																																																																																	
番号	流出する可能性のある系統	隔離弁	備考	流出の可能性																																																																																																																	
①	代替格納容器スプレイポンプ補助給水ピット戻りライン	CP-145 閉 (通常閉) FP-660 閉 (L.C) (通常閉)	2重弁により隔離されている。	×																																																																																																																	
②	可搬式大型送水ポンプ車接続ライン	CP-155 閉 (通常閉) RF-101 閉 (通常閉) RF-102 閉 (通常閉) FP-663 閉 (通常閉)	2重弁により隔離されている。	×																																																																																																																	
③	AM消火水ライン	CP-111 閉 (L.C) (通常閉)	通常時、フレキシブルホースは取り外されており、カプラは耐圧キャップで閉止されている。	×																																																																																																																	
④	格納容器スプレイポンプ入口ライン (燃料取替用水ピット)	CP-007B (逆止弁) ST-003B (逆止弁)	流出した場合は、ST-002Bを閉止することで隔離可能。 燃料取替用水ピット水位収支と積算流量差により燃料取替用水ピットへの流出を把握可能。	△																																																																																																																	
⑤	格納容器スプレイポンプ入口ライン (再循環サンプ)	CP-007B (逆止弁) ST-005B (逆止弁) ST-004B 閉 (通常閉)	流出した場合でも格納容器内(再循環サンプ)へ流入する。	×																																																																																																																	
⑥	B-格納容器スプレイポンプ自己冷却水供給ライン	CP-007B (逆止弁) CP-120 閉 (L.C) (通常閉) CP-121 閉 (L.C) (通常閉)	2重弁により隔離されている。	×																																																																																																																	
⑦	B-格納容器スプレイポンプ自己冷却水戻りライン	CP-007B (逆止弁) CP-122 閉 (L.C) (通常閉)	通常時、フレキシブルホースは取り外されており、カプラは耐圧キャップで閉止されている。	×																																																																																																																	
⑧	RHR-CSS連絡ライン～高圧注入ポンプ入口ライン、燃料取替用水ピット	RH-100 閉 (L.C) (通常閉) RH-026B 閉 (L.C) (通常閉)	燃料取替用水ピット水位収支と積算流量差により燃料取替用水ピットへの流出を把握可能。	×																																																																																																																	
⑨	RHR-CSS連絡ライン～低圧抽出ライン	RH-100 閉 (L.C) (通常閉) RH-023B 閉 (通常閉)	2重弁により隔離されている。	×																																																																																																																	
⑩	RHR-CSS連絡ライン～余熱除去ポンプ入口ライン (燃料取替用水ピット側)	RH-100 閉 (L.C) (通常閉) RH-013B (逆止弁) RH-050B (逆止弁) RH-055B 閉 (系統構成) RH-053B (逆止弁) RH-051B 閉 (系統構成)	燃料取替用水ピット水位収支と積算流量差により燃料取替用水ピットへの流出を把握可能。	△																																																																																																																	
⑪	RHR-CSS連絡ライン～余熱除去ポンプ入口ライン (再循環サンプ側)	RH-100 閉 (L.C) (通常閉) RH-013B (逆止弁) RH-050B (逆止弁) RH-055B 閉 (系統構成) RH-059B (逆止弁) RH-058B 閉 (系統構成)	流出した場合でも格納容器内(再循環サンプ)へ流入する。	×																																																																																																																	
⑫	RHR-CSS連絡ライン～余熱除去ポンプ洗浄ライン	RH-100 閉 (L.C) (通常閉) RH-013B (逆止弁) RH-008 閉 (逆止弁) RH-006B (通常閉)	2重弁により隔離されている。	×																																																																																																																	
⑬	格納容器スプレイポンプテストライン～燃料取替用水ピット	CP-021B 閉 (L.C) (通常閉) CP-022B 閉 (L.C) (通常閉)	弁のシートリークにより流出した場合でも燃料取替用水ピット水位収支と積算流量差により燃料取替用水ピットへの流出を把握可能。	×																																																																																																																	

泊発電所3号炉 技術的能力 比較表

灰色：女川2号炉の記載のうち、BWR固有の設備や対応手段であり、泊3号炉と比較対象とならない記載内容

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

1.8 原子炉格納容器下部の溶融炉心を冷却するための手順等

大飯発電所3/4号炉					泊発電所3号炉					相違理由
(2) 格納容器貫通配管からの漏えい					(2) 原子炉格納容器貫通配管からの漏えい					
貫通配管名称	貫通部 E.L.+(m)	漏えい先	備考	漏えいの可能性	貫通配管名称	貫通部 T.P. (m)	漏えい先	備考	漏えいの可能性	
格納容器再循環配管	16.2	余熱除去系統 安全注入系統 格納容器スプレイ系統	耐震性あり	×	加圧器逃がシタンク純水補給配管	20.3	給水処理設備	隔離弁が空気作動弁であり、系統隔離されるため、漏えいしない。	×	
格納容器圧力取出し配管 (格納容器スプレイ用)	20.1	—	耐震性あり	△	格納容器圧力取出し配管 (PT-590)	18.3	—	格納容器とつながっているため、貫通部の漏えいを考慮する。	△	
格納容器圧力取出し配管 (格納容器減圧装置用)	20.1	—	耐震性あり	△	所内用空気配管		圧縮空気設備 (所内用圧縮空気設備)	通常運転中隔離弁閉止のため、格納容器外へ漏えいしない。	×	
蓄圧タンク充てん配管	20.1	安全注入系統	通常運転中閉のため、格納容器外へ漏えいしない。	×	格納容器圧力取出し配管 (PT-591)		—	格納容器とつながっているため、貫通部の漏えいを考慮する。	△	
蓄圧タンク空素充てん配管	20.1	安全注入系統	通常運転中閉のため、格納容器外へ漏えいしない。	×	消火用水配管		火災防護設備 (消火栓設備)	通常運転中隔離弁閉止のため、格納容器外へ漏えいしない。	×	
制御棒位置指示装置盤室冷却ユニット冷却水供給配管	20.1	空調用冷水系統	隔離弁が空気作動弁であり系統隔離されるため、漏えいしない。	×	B-制御用空気配管		圧縮空気設備 (制御用圧縮空気設備)	逆止弁があり系統隔離されるため、漏えいしない。	×	
制御棒位置指示装置盤室冷却ユニット冷却水戻り配管	20.1	空調用冷水系統	隔離弁が空気作動弁であり系統隔離されるため、漏えいしない。	×	格納容器圧力取出し配管 (PT-592)		—	格納容器とつながっているため、貫通部の漏えいを考慮する。	△	
1次冷却材ポンプ封水注入配管	20.1	化学体積制御系統	逆止弁があり系統隔離されるため、漏えいしない。	×	格納容器圧力取出し配管 (PIA-3800)		—	格納容器とつながっているため、貫通部の漏えいを考慮する。	△	
制御用空気配管	20.1	制御用空気系統	逆止弁があり系統隔離されるため、漏えいしない。	×	A-制御用空気配管		圧縮空気設備 (制御用圧縮空気設備)	逆止弁があり系統隔離されるため、漏えいしない。	×	
脱塩水配管	20.1	1次系洗浄水系統	通常運転中閉のため、格納容器外へ漏えいしない。	×	蓄圧タンク空素供給配管		非常用炉心冷却設備 (蓄圧注入系)	隔離弁が空気作動弁であり、系統隔離されるため、漏えいしない。	×	
所内用空気配管	20.1	所内用空気系統	通常運転中閉のため、格納容器外へ漏えいしない。	×	格納容器圧力取出し配管 (PT-593)		—	格納容器とつながっているため、貫通部の漏えいを考慮する。	△	
蒸気発生器ブローダウンサンプル配管	20.1	蒸気発生器ブローダウン系統	隔離弁が空気作動弁であり系統隔離されるため、漏えいしない。	×	余熱除去出口配管 (Cループより)	15.2	余熱除去設備	耐震性あり。	×	
					余熱除去出口配管 (Cループより)	15.2	余熱除去設備	耐震性あり。	×	
					格納容器再循環配管 (B-余熱除去ポンプ及び格納容器スプレイポンプへ)	10.570	非常炉心冷却設備 (低圧注入系)	耐震性あり。	×	
					格納容器再循環配管 (A-余熱除去ポンプ及び格納容器スプレイポンプへ)	10.563	非常炉心冷却設備 (低圧注入系)	耐震性あり。	×	

【大飯】設備の相違・設備が相違するため、原子炉格納容器貫通配管からの漏えい箇所が相違する。

灰色：女川2号炉の記載のうち、BWR固有の設備や対応手段であり、泊3号炉と比較対象とならない記載内容

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

1.8 原子炉格納容器下部の溶融炉心を冷却するための手順等

大飯発電所3/4号炉					泊発電所3号炉	相違理由
貫通配管名称	貫通部 E.L.+(m)	漏えい先	備考	漏えいの 可能性	比較対象なし	
格納容器スプレイ配管（格納容器スプレイポンプより）	21.6	格納容器スプレイ系統	通常運転中閉のため、格納容器外へ漏えいしない。	×		
高圧注入配管（高圧注入ポンプより）	21.6	安全注入系統	逆止弁があり系統隔離されるため、漏えいしない。	×		
余熱除去低圧注入配管（余熱除去冷却器より）	21.6	余熱除去系統	逆止弁があり系統隔離されるため、漏えいしない。	×		
余熱除去出口配管（ループより）	21.6	余熱除去系統	通常運転中閉のため、格納容器外へ漏えいしない。	×		
抽出配管	21.6	化学体積制御系統	隔離弁が空気作動弁であり系統隔離されるため、漏えいしない。	×		
充てん配管	21.6	化学体積制御系統	逆止弁があり系統隔離されるため、漏えいしない。	×		
1次冷却材ポンプ封水戻り配管	21.6	化学体積制御系統	耐震性あり	×		
蓄圧タンクサンプル配管	21.6	1次系試料採取系統	通常運転中閉のため、格納容器外へ漏えいしない。	×		
1次冷却材サンプル取出し配管	21.6	1次系試料採取系統	隔離弁が空気作動弁であり系統隔離されるため、漏えいしない。	×		
加圧器液相部、気相部サンプル及び1次冷却材サンプル取出し配管	21.6	1次系試料採取系統	隔離弁が空気作動弁であり系統隔離されるため、漏えいしない。	×		
加圧器逃がしタンクガス自動分析器連絡管	21.6	気体廃棄物処理系統	通常運転中閉のため、格納容器外へ漏えいしない。	×		
格納容器冷却材ドレンタンクガス分析器連絡管	21.6	気体廃棄物処理系統	通常運転中閉のため、格納容器外へ漏えいしない。	×		
格納容器空気サンプリング戻り配管	21.6	空気サンプリング系統	逆止弁があり系統隔離されるため、漏えいしない。	×		
加圧器逃がしタンク窒素供給配管	21.6	気体廃棄物処理系統	通常運転中閉のため、格納容器外へ漏えいしない。	×		

灰色：女川2号炉の記載のうち、BWR固有の設備や対応手段であり、泊3号炉と比較対象とならない記載内容

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

1.8 原子炉格納容器下部の溶融炉心を冷却するための手順等

大飯発電所3/4号炉					泊発電所3号炉	相違理由
貫通配管名称	貫通部 E.L.+(m)	漏えい先	備考	漏えいの 可能性	比較対象なし	
格納容器サンプポンプ出口配管	21.6	ドレンサンプ排水系統	通常運転中閉のため、格納容器外へ漏えいしない。	×		
格納容器冷却材ドレンタンクベント配管	21.6	気体廃棄物処理系統	隔離弁が空気作動弁であり系統隔離されるため、漏えいしない。	×		
格納容器水素バージ給気配管	21.6	格納容器減圧及び水素制御設備系統	隔離弁が空気作動弁であり系統隔離されるため、漏えいしない。	×		
格納容器減圧バージ配管	21.6	格納容器減圧及び水素制御設備系統	隔離弁が空気作動弁であり系統隔離されるため、漏えいしない。	×		
事故後1次冷却材サンプ戻り配管	21.6	1次系試料採取系統	通常運転中閉のため、格納容器外へ漏えいしない。	×		
水消火用配管	21.6	消火水系統	逆止弁があり系統隔離されるため、漏えいしない。	×		
I C I S炭酸ガスバージ配管	21.6	炉内核計測装置ガスバージ系統	隔離弁が空気作動弁であり系統隔離されるため、漏えいしない。	×		
加圧器逃がしタンク純水補給配管	21.6	1次系補給水系統	逆止弁があり系統隔離されるため、漏えいしない。	×		
格納容器冷却材ドレンポンプ出口配管	21.6	液体廃棄物処理系統	逆止弁があり系統隔離されるため、漏えいしない。	×		
原子炉キャビティ浄化ライン入口配管	21.6	燃料取替用水系統	通常運転中閉のため、格納容器外へ漏えいしない。	×		
原子炉キャビティ浄化ライン出口配管	21.6	燃料取替用水系統	通常運転中閉のため、格納容器外へ漏えいしない。	×		

灰色：女川2号炉の記載のうち、BWR固有の設備や対応手段であり、泊3号炉と比較対象とならない記載内容

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

1.8 原子炉格納容器下部の溶融炉心を冷却するための手順等

大飯発電所3 / 4号炉					泊発電所3号炉	相違理由
貫通配管名称	貫通部 E.L.+(m)	漏えい先	備考	漏えいの 可能性	比較対象なし	
格納容器再循環ユニット冷却水供給配管	21.6	原子炉補機冷却水系統（原子炉補機冷却水サージタンク）	格納容器内圧力より系統の圧力が高いため、格納容器外へ漏えいしない。	×		
格納容器再循環ユニット冷却水戻り配管	21.6	原子炉補機冷却水系統（原子炉補機冷却水サージタンク）	格納容器内圧力より系統の圧力が高いため、格納容器外へ漏えいしない。	×		
制御棒駆動装置冷却ユニット及び余剰抽出冷却器冷却水戻り配管	21.6	原子炉補機冷却水系統（原子炉補機冷却水サージタンク）	格納容器内圧力より系統の圧力が高いため、格納容器外へ漏えいしない。	×		
制御棒駆動装置冷却ユニット及び余剰抽出冷却器冷却水供給配管	21.6	原子炉補機冷却水系統（原子炉補機冷却水サージタンク）	格納容器内圧力より系統の圧力が高いため、格納容器外へ漏えいしない。	×		
1次冷却材ポンプモータ冷却水供給配管	21.6	原子炉補機冷却水系統（原子炉補機冷却水サージタンク）	格納容器内圧力より系統の圧力が高いため、格納容器外へ漏えいしない。	×		
1次冷却材ポンプモータ冷却水戻り配管	21.6	原子炉補機冷却水系統（原子炉補機冷却水サージタンク）	格納容器内圧力より系統の圧力が高いため、格納容器外へ漏えいしない。	×		



灰色：女川2号炉の記載のうち、BWR固有の設備や対応手段であり、泊3号炉と比較対象とならない記載内容

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

1.8 原子炉格納容器下部の溶融炉心を冷却するための手順等

大飯発電所3/4号炉	泊発電所3号炉	相違理由
<p><b>【比較のため、川内1/2号炉の添付資料1.8.5を掲載】（比較箇所のみ抜粋）</b></p> <p>上記表により、格納容器貫通配管からの漏えいする可能性は極めて低いと思われる。しかし、貫通部からの漏えいを考慮した場合、EL-2.0m以上の貫通部はアニュラス、EL-2.0m以下は補助建屋に漏えいするため、漏えいした場合は、以下の対応を行う。</p> <p>a. 漏えい先がアニュラスの場合                  補助建屋サンプタンクの水位及びアニュラスドレンラインのサイトグラスにて漏えいを確認する。その後、アニュラス排水弁を閉弁し、漏えい水を貯留することでアニュラス部と格納容器を同水位とし、格納容器、アニュラスを一体とした冠水処置を行う。                  また、EL-0.5mまでアニュラス部に貯留した場合の量は約400m<sup>3</sup>である。</p> <p>b. 漏えい先が補助建屋の場合                  補助建屋サンプタンクの水位にて、漏えい量を把握し格納容器内の水位を推定する。また、隔離が可能であれば系統隔離を行う。</p> <p>上記表により、格納容器貫通配管から漏えいする可能性は極めて低いと思われる。しかし、貫通部からの漏えいを考慮した場合、原子炉周辺建屋サンプタンクの水位にて、漏えい量を把握し格納容器内の水位を推定する。また、隔離が可能であれば系統隔離を行う。</p> <p>(3)注水時の留意事項</p> <p>a. 格納容器再循環サンプ水位 100%(E.L.+20.9m、総注水量約3,800m<sup>3</sup>)までに注水量積算値と燃料取替用水ピット水位等により傾向監視を行うことで、E.L.+16.2mからE.L.+20.1mの貫通配管及び貫通部からの漏えいの有無を確認することができる。</p> <p>b. 総注水量約3,800m<sup>3</sup>(E.L.+20.9m)から約4,400m<sup>3</sup>(E.L.+21.5m)までに格納容器の貫通配管及び貫通部(E.L.+21.6m)があるため、注水量積算値と燃料取替用水ピット水位等により傾向監視を行うとともに、アニュラスへの漏えいがないことを確認する。なお、原子炉格納容器水位により格納容器総注水量約4,400m<sup>3</sup>に達したことを確認し、格納容器内の注水を停止する。</p> <p>3. その他                  原子炉周辺建屋内に流出した汚染水の処理や高線量環境下における作業等課題も残されており、今後継続的な検討が必要である。</p>	<p>上記表により、原子炉格納容器貫通配管から漏えいする可能性は極めて低いと思われる。しかし、貫通部からの漏えいを考慮した場合、T.P.17.8m以上の貫通部はアニュラス、T.P.17.8m以下は原子炉補助建屋に漏えいするため、漏えいした場合は、以下の対応を行う。</p> <p>a. 漏えい先がアニュラスの場合                  補助建屋サンプタンクの水位及びアニュラスドレンラインのサイトグラスにて漏えいを確認する。その後、アニュラス床ドレン弁の閉弁を確認し、漏えい水を貯留することでアニュラス部と原子炉格納容器を同水位とし、原子炉格納容器、アニュラスを一体とした冠水処置を行う。                  また、T.P. [ ]までアニュラス部に貯留した場合の量は約580m<sup>3</sup>である。</p> <p>b. 漏えい先が原子炉補助建屋の場合                  補助建屋サンプタンクの水位にて、漏えい量を把握し原子炉格納容器内の水位を推定する。また、隔離が可能であれば系統隔離を行う。</p> <p>(3)注水時の留意事項</p> <p>a. 格納容器再循環サンプ水位（広域）100%（T.P.15.1m、総注水量 [ ]）までに注水量積算値と燃料取替用水ピット水位等により傾向監視を行うことで、注水ラインからの流出や格納容器再循環配管（B系：T.P. [ ]/A系：T.P. [ ]）からの漏えいの有無を確認することができる。</p> <p>b. 総注水量約 [ ]（T.P.15.1m）から約6,100m<sup>3</sup>（T.P.20.7m）までに原子炉格納容器の貫通配管及び貫通部（T.P.15.2m～T.P.20.3m）があるため、注水量積算値と燃料取替用水ピット水位等により傾向監視を行うとともに、原子炉補助建屋及びアニュラスへの漏えいがないことを確認する。なお、原子炉格納容器水位により原子炉格納容器総注水量約6,100m<sup>3</sup>に達したことを確認し、原子炉格納容器内の注水を停止する。</p> <p>3. その他                  原子炉補助建屋内に流出した汚染水の処理や高線量環境下における作業等課題も残されており、今後継続的な検討が必要である。</p> <p>[ ]：枠囲みの内容は機密情報に属しますので公開できません。</p>	<p>【大飯】設備の相違                  ・泊の原子炉格納容器貫通部から漏えいした場合の対応について、考え方が類似している川内1/2号炉の記載内容を比較対象としている。</p> <p>【川内】                  設備名称の相違</p> <p>【川内】                  設備の相違                  運用の相違</p> <p>【大飯】                  設備名称の相違</p> <p>【大飯】                  設備名称の相違                  記載表現の相違                  (川内及び玄海と同様)</p> <p>【大飯】設備の相違                  ・原子炉格納容器の型式の相違により容積が相違する。</p> <p>【大飯】                  設備名称の相違</p>

1.8 原子炉格納容器下部の溶融炉心を冷却するための手順等

泊発電所3号炉 技術的能力 比較表

灰色：女川2号炉の記載のうち、BWR固有の設備や対応手段であり、泊3号炉と比較対象とならない記載内容

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

大飯発電所3/4号炉	泊発電所3号炉	相違理由
<p style="text-align: right;">別紙-1</p> <div style="border: 2px solid black; height: 700px; width: 100%;"></div>	<p style="text-align: right;">別紙-1</p> <div style="border: 2px solid black; height: 700px; width: 100%;"></div> <p style="text-align: center;">代替格納容器スプレイポンプによる原子炉格納容器下部への注水（1/6）</p> <div style="border: 1px solid black; width: 20px; height: 20px; margin: 10px auto;"></div> <p style="text-align: center;">：枠囲みの内容は機密情報に属しますので公開できません。</p>	

1.8 原子炉格納容器下部の溶融炉心を冷却するための手順等

泊発電所3号炉 技術的能力 比較表

灰色：女川2号炉の記載のうち、BWR固有の設備や対応手段であり、泊3号炉と比較対象とならない記載内容

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

大飯発電所3/4号炉	泊発電所3号炉	相違理由
<div style="border: 2px solid black; height: 800px; width: 100%;"></div>	<div style="border: 2px solid black; height: 800px; width: 100%;"></div> <p style="text-align: center; margin-top: 100px;"> <span style="border: 1px solid black; display: inline-block; width: 1em; height: 1em; vertical-align: middle;"></span>                     ：枠囲みの内容は機密情報に属しますので公開できません。                 </p> <p style="text-align: center; margin-top: 10px;">                     代替格納容器スプレイポンプによる原子炉格納容器下部への注水（2/6）                 </p>	

1.8 原子炉格納容器下部の溶融炉心を冷却するための手順等

泊発電所3号炉 技術的能力 比較表

灰色：女川2号炉の記載のうち、BWR固有の設備や対応手段であり、泊3号炉と比較対象とならない記載内容

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

大飯発電所3/4号炉	泊発電所3号炉	相違理由
<div style="border: 2px solid black; height: 700px; width: 100%;"></div>	<div style="border: 2px solid black; height: 700px; width: 100%;"></div> <p style="writing-mode: vertical-rl; position: absolute; right: 10px; bottom: 10px;">                     代替格納容器スプレイポンプによる原子炉格納容器下部への注水(3/6)                      □：枠囲みの内容は機密情報に属しますので公開できません。                 </p>	

1.8 原子炉格納容器下部の溶融炉心を冷却するための手順等

泊発電所3号炉 技術的能力 比較表

灰色：女川2号炉の記載のうち、BWR固有の設備や対応手段であり、泊3号炉と比較対象とならない記載内容

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

大飯発電所3/4号炉	泊発電所3号炉	相違理由
<div data-bbox="423 751 678 804" style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;">比較対象なし</div>	<div data-bbox="1070 172 1839 1406" style="border: 2px solid black; width: 100%; height: 100%;"></div> <div data-bbox="1839 496 1868 1134" style="writing-mode: vertical-rl; font-size: small;">代替格納容器スプレイポンプによる原子炉格納容器下部への注水(4/6)</div> <div data-bbox="1917 204 1951 807" style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block; margin-top: 20px;"> <span style="font-size: x-small;">：</span> 枠囲みの内容は機密情報に属しますので公開できません。                 </div>	

1.8 原子炉格納容器下部の溶融炉心を冷却するための手順等

泊発電所3号炉 技術的能力 比較表

灰色：女川2号炉の記載のうち、BWR固有の設備や対応手段であり、泊3号炉と比較対象とならない記載内容

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

大飯発電所3/4号炉	泊発電所3号炉	相違理由
<div data-bbox="423 807 678 863" style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;">比較対象なし</div>	<div data-bbox="1037 165 1827 1372" style="border: 2px solid black; width: 100%; height: 100%;"></div> <div data-bbox="1839 507 1872 1174" style="font-size: small; text-align: right;">代替格納容器スプレイポンプによる原子炉格納容器下部への注水（5/6）</div> <div data-bbox="1921 217 1955 767" style="font-size: small; text-align: right;"> <input data-bbox="1921 775 1966 847" type="checkbox"/>：枠囲みの内容は機密情報に属しますので公開できません。                 </div>	

灰色：女川2号炉の記載のうち、BWR固有の設備や対応手段であり、泊3号炉と比較対象とならない記載内容

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

1.8 原子炉格納容器下部の溶融炉心を冷却するための手順等

大飯発電所3 / 4号炉	泊発電所3号炉	相違理由
<div data-bbox="427 751 678 804" style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;">比較対象なし</div>	<div data-bbox="1037 145 1839 1321" style="border: 2px solid black; width: 100%; height: 100%;"></div>	<div data-bbox="1933 759 1973 834" style="border: 1px solid black; width: 20px; height: 20px; display: inline-block; margin-right: 5px;"></div> : 枠囲みの内容は機密情報に属しますので公開できません。

代替格納容器スプレイポンプによる原子炉格納容器下部への注水(6/6)

灰色：女川2号炉の記載のうち、BWR固有の設備や対応手段であり、泊3号炉と比較対象とならない記載内容

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

1.8 原子炉格納容器下部の溶融炉心を冷却するための手順等

大飯発電所3/4号炉	泊発電所3号炉	相違理由
<p style="text-align: center;">添付資料 1.8.6-(1)</p> <p style="text-align: center;">溶融炉心冷却における原子炉下部キャビティ注水停止操作について</p> <p>原子炉下部キャビティへの注水は、原子炉下部キャビティに落下した溶融炉心を冷却することにより、MCCIを防止し、原子炉格納容器の破損を防止する。</p> <p>原子炉下部キャビティの注水手順では、開始前に格納容器再循環サンプ水位 61%未満の場合は、注水を行い、71%（操作余裕等を考慮した水位）までに停止することとなっている。この格納容器再循環サンプ水位 61%は、LOCA時再循環運転可能水位であり、原子炉格納容器床に落下した溶融炉心からの崩壊熱を除去できる水量 65m<sup>3</sup>を満足する水位でもある。</p> <p>一方、格納容器破損防止対策の有効性評価の結果（3.1.1 格納容器過圧破損）では、原子炉容器破損時点で原子炉下部キャビティには十分な注水がなされており、溶融炉心からの崩壊熱は除去され、ベースマツトに有意な侵食は発生しないことが示されている。また、解析コードにおける重要現象の不確かさ影響評価の一つとして、原子炉下部キャビティの水深についての感度解析も実施されており、その結果、細粒化された溶融炉心の冷却状態が、コンクリート侵食に与える感度は小さいことが確認されている。</p> <p>ここで、有効性評価の結果における、原子炉容器破損時の原子炉下部キャビティの水量（水位）は、手順書の格納容器再循環サンプ水位 61%相当未満である。これは、格納容器再循環サンプ水位 61%の水位があれば、溶融炉心は冷却され、MCCIによるベースマツトの有意な侵食は発生しないことを示すものであり、格納容器再循環サンプ水位 61%は原子炉下部キャビティに落下した溶融炉心を冷却するのに十分な水量であるといえる。</p> <p>【比較のため、高浜3/4号炉の添付資料 1.8.6を掲載】（比較箇所のみ抜粋）</p> <p>しかしながら、炉心が著しく損傷するような状況においては、MCCI防止の観点からより多くの水量を確保することが望ましいことから、原子炉下部キャビティへの注水操作として再循環サンプ水位 77%までの注水（10%分：約330m<sup>3</sup>）を行うこととする。</p> <p>しかしながら、代替格納容器スプレイによる原子炉下部キャビティへの注水操作時の操作余裕として格納容器再循環サンプ水位 71%までの注水（10%分：約580m<sup>3</sup>）を考慮する。</p> <p>なお、ECCS再循環失敗事象で代替再循環に失敗すること等により、仮に格納容器再循環サンプ水位 71%以上で炉心溶融に至った場合でも、原子炉下部キャビティには溶融炉心を冷却するのに十分な水が存在していることから、溶融炉心の冷却の観点で問題となることはない。ただし、不確かさとして拡がりを極端に制限した場合を想定すると、過圧破損シーケンスに比べて原子炉容器破損時の原子炉下部キャビティ水位が深いことから、拡がり面積が小さくなると考えられる。しかし、極端に拡がりを制限していることから、過圧破損シーケンスよりも原子炉下部キャビティ水に接触している溶融炉心表面積が大きくなること、原子炉容器破損までに時間がかかるため、崩壊熱が小さくなること、原子炉容器破損時の原子炉下部キャビティ水位が深いため細粒化が促進され、冷却に寄与すると考えられることから、過圧破損シーケンスの方が厳しいケースになると考えられ、溶融炉心の冷却の観点で問題となることはない。</p>	<p style="text-align: center;">添付資料1.8.6-(1)</p> <p style="text-align: center;">溶融炉心冷却における原子炉下部キャビティ注水停止操作について</p> <p>原子炉下部キャビティへの注水は、原子炉下部キャビティに落下した溶融炉心を冷却することにより、MCCIを防止し、原子炉格納容器の破損を防止する。</p> <p>原子炉下部キャビティの注水手順では、開始前に格納容器再循環サンプ水位（広域）71%未満の場合は、注水を行い、81%（蒸発を考慮した水位）までに停止することとなっている。この格納容器再循環サンプ水位（広域）71%は、LOCA時再循環運転可能水位であり、原子炉格納容器床に落下した溶融炉心からの崩壊熱を除去できる水量 <span style="border: 1px solid black; display: inline-block; width: 1em; height: 1em; vertical-align: middle;"></span> を満足する水位でもある。</p> <p>一方、格納容器破損防止対策の有効性評価の結果（7.2.1 格納容器過圧破損）では、原子炉容器破損時点で原子炉下部キャビティには十分な注水がなされており、溶融炉心からの崩壊熱は除去され、ベースマツトに有意な侵食は発生しないことが示されている。また、解析コードにおける重要現象の不確かさ影響評価の一つとして、原子炉下部キャビティの水深についての感度解析も実施されており、その結果、細粒化された溶融炉心の冷却状態が、コンクリート侵食に与える感度は小さいことが確認されている。</p> <p>ここで、有効性評価の結果における、原子炉容器破損時の原子炉下部キャビティの水量（水位）は、手順書の格納容器再循環サンプ水位（広域）71%相当未満である。これは、格納容器再循環サンプ水位（広域）71%の水位があれば、溶融炉心は冷却され、MCCIによるベースマツトの有意な侵食は発生しないことを示すものであり、格納容器再循環サンプ水位（広域）71%は原子炉下部キャビティに落下した溶融炉心を冷却するのに十分な水量であるといえる。</p> <p>しかしながら、炉心が著しく損傷するような状況においては、MCCI防止の観点からより多くの水量を確保することが望ましいことから、原子炉下部キャビティへの注水操作として格納容器再循環サンプ水位（広域）81%までの注水（10%分：約270m<sup>3</sup>）を行うこととする。</p> <p>なお、ECCS再循環失敗事象で代替再循環に失敗すること等により、仮に格納容器再循環サンプ水位（広域）81%以上で炉心溶融に至った場合でも、原子炉下部キャビティには溶融炉心を冷却するのに十分な水が存在していることから、溶融炉心の冷却の観点で問題となることはない。ただし、不確かさとして拡がりを極端に制限した場合を想定すると、過圧破損シーケンスに比べて原子炉容器破損時の原子炉下部キャビティ水位が深いことから、拡がり面積が小さくなると考えられる。しかし、極端に拡がりを制限していることから、過圧破損シーケンスよりも原子炉下部キャビティ水に接触している溶融炉心表面積が大きくなること、原子炉容器破損までに時間がかかるため、崩壊熱が小さくなること、原子炉容器破損時の原子炉下部キャビティ水位が深いため細粒化が促進され、冷却に寄与すると考えられることから、過圧破損シーケンスの方が厳しいケースになると考えられ、溶融炉心の冷却の観点で問題となることはない。</p> <p style="text-align: center;"><span style="border: 1px solid black; display: inline-block; width: 1em; height: 1em; vertical-align: middle;"></span>：枠囲みの内容は機密情報に属しますので公開できません。</p>	<p>【大飯】設備の相違（相違理由④）</p> <p>【大飯】記載内容の相違                  ・泊は蒸発を考慮した水位として設定（高浜3/4と同様）</p> <p>【大飯】設備名称の相違</p> <p>【大飯】設備の相違（相違理由④）</p> <p>【大飯】設備名称の相違</p> <p>【大飯】記載内容の相違                  ・泊の原子炉下部キャビティ注水停止水位について、考え方が同様である高浜3/4号炉の記載内容を比較対象としている。</p> <p>【高浜】設備名称の相違</p> <p>【高浜】設備の相違</p>



灰色：女川2号炉の記載のうち、BWR固有の設備や対応手段であり、泊3号炉と比較対象とならない記載内容

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

大飯発電所3/4号炉 添付資料 1.8.6-(2) 原子炉下部キャビティ水中での細粒化に係る溶融炉心の冷却性について 過圧破損シーケンスでは、事象発生後約51分後に恒設代替低圧注水ポンプによる代替格納容器スプレイを開始し、事象発生後約1.4時間で原子炉容器破損に至り、その時点での原子炉下部キャビティの水位は約1.1mである。溶融炉心は原子炉下部キャビティ水中に落下する過程において細粒化されるが、細粒化割合はキャビティ水深に影響され、1.1m程度の水深では細粒化割合は2割程度となっている。有効性評価において、細粒化割合が2割程度でも、溶融炉心が冷却できることを確認しており、MCCIの観点で問題となることはない。また、原子炉容器破損時の格納容器再循環サンプ水位が71%となるのは原子炉容器破損後（事象発生後約14.1時間）であるため、代替格納容器スプレイを停止することによる細粒化割合に影響を与えることはない。また、原子炉下部キャビティ床面における溶融炉心の拡がりについて、代替格納容器スプレイを停止するのは原子炉容器破損の約12.7時間後であることから、溶融炉心の拡がりが増した後に代替格納容器スプレイを停止することとなるため、代替格納容器スプレイを停止することで、溶融炉心の拡がりにも影響を与えることはない。 なお、エントレインメント係数の感度解析において、細粒化割合が少なくなるよう設定し評価した結果、細粒化割合が1割程度でも溶融炉心の冷却性に与える影響は小さいことを「追補2. III 重大事故等対策の有効性評価に係るシビアアクシデント解析コードについて」において確認している。	泊発電所3号炉 添付資料1.8.6-(2) 原子炉下部キャビティ水中での細粒化に係る溶融炉心の冷却性について 過圧破損シーケンスでは、事象発生後約49分後に代替格納容器スプレイポンプによる原子炉格納容器下部への注水を開始し、事象発生後約1.6時間で原子炉容器破損に至り、その時点での原子炉下部キャビティの水位は約1.5mである。溶融炉心は原子炉下部キャビティ水中に落下する過程において細粒化されるが、細粒化割合はキャビティ水深に影響され、水深が浅い方が溶融炉心の細粒化量が小さくなる傾向があり、より水深の浅い1.3m程度の水深では細粒化割合は2割程度となっている。有効性評価において、細粒化割合が2割程度でも、溶融炉心が冷却できることを確認しており、MCCIの観点で問題となることはない。また、原子炉容器破損時の格納容器再循環サンプ水位（広域）が81%となるのは原子炉容器破損後（事象発生後約8時間）であるため、原子炉格納容器下部への注水を停止することによる細粒化割合に影響を与えることはない。また、原子炉下部キャビティ床面における溶融炉心の拡がりについて、原子炉格納容器下部への注水を停止するのは原子炉容器破損の約6.4時間後であることから、溶融炉心の拡がりが増した後に原子炉格納容器下部への注水を停止することとなるため、原子炉格納容器下部への注水を停止することで、溶融炉心の拡がりにも影響を与えることはない。 なお、エントレインメント係数の感度解析において、細粒化割合が少なくなるよう設定し評価した結果、細粒化割合が1割程度でも溶融炉心の冷却性に与える影響は小さいことを「付録3 重大事故等対策の有効性評価に係るシビアアクシデント解析コードについて」において確認している。	相違理由 【大飯】解析の相違 【大飯】記載表現の相違 【大飯】設備の相違
<p>図 溶融炉心の細粒化割合感度解析</p>	<p>図 3 エントレインメント割合の推移                      図 4 エントレインメント係数の感度解析</p>	

灰色：女川2号炉の記載のうち、BWR固有の設備や対応手段であり、泊3号炉と比較対象とならない記載内容

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

1.8 原子炉格納容器下部の溶融炉心を冷却するための手順等

大飯発電所3/4号炉	泊発電所3号炉	相違理由
<p style="text-align: center;">添付資料 1.8.7</p> <p style="text-align: center;">恒設代替低圧注水ポンプによる代替格納容器スプレイ</p> <p>【恒設代替低圧注水ポンプ系統構成、電源投入及び起動操作】</p> <p>1. 操作概要                  恒設代替低圧注水ポンプ起動準備として、系統構成及び電源を入とし、現場にてポンプを起動する。</p> <p>2. 必要要員数及び操作時間                  必要要員数：3名/ユニット                  操作時間（想定）：30分                  操作時間（実績）：24分（現場移動時間を含む。）</p> <p>3. 操作の成立性                  アクセス性：ヘッドライト、懐中電灯等を携行していることから、アクセス可能である。                  作業環境：事故環境下における室温は通常運転状態と同等である。また、ヘッドライト、懐中電灯等を携行していることから、作業可能である。                  また、汚染が予想されることから個人線量計を携帯し、全面マスク等を着用する。                  操作性：通常行う電源操作及び弁操作と同じであり、容易に操作可能である。                  連絡手段：事故環境下において通常の連絡手段が使用不能となった場合でも、携行型通話装置を使用し、確実に連絡可能である。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div data-bbox="170 1018 551 1292"> </div> <div data-bbox="568 1018 931 1292"> </div> </div> <p>① 恒設代替低圧注水ポンプ系統構成                  (原子炉周辺建屋 E.L.+10.0m)</p> <p>② 恒設代替低圧注水ポンプ起動操作                  (原子炉周辺建屋 E.L.+17.1m)</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-top: 10px; text-align: center;">                 ②の写真はイメージ             </div>	<p style="text-align: center;">添付資料1.8.7-(1)</p> <p style="text-align: center;">代替格納容器スプレイポンプによる原子炉格納容器下部への注水</p> <p>【代替格納容器スプレイポンプ系統構成】</p> <p>1. 操作概要                  代替格納容器スプレイポンプ起動準備として系統構成を行う。</p> <p>2. 操作場所                  周辺補機棟 T.P. 10.3m, T.P. 24.8m                  原子炉補助建屋 T.P. 10.3m</p> <p>3. 必要要員数及び操作時間                  必要要員数：2名                  操作時間（想定）：25分                  操作時間（訓練実績等）：22分（現場移動、放射線防護具着用時間を含む。）</p> <p>4. 操作の成立性                  移動経路：ヘッドライト、懐中電灯等を携行していることから、建屋内照明消灯時においてもアクセス可能である。また、アクセスルート上に支障となる設備はない。                  作業環境：事故環境下における室温は通常運転状態と同等である。また、作業エリアに設置されている照明はバッテリー内蔵型であり、事故環境下においても作業可能である。操作は汚染の可能性を考慮し、防護具（全面マスク、個人線量計、ゴム手袋等）を装備又は携行して作業を行う。                  操作性：通常行う弁操作と同じであり、容易に操作可能である。                  連絡手段：事故環境下において通常の連絡手段が使用不能となった場合でも、携行型通話装置を使用し、確実に中央制御室へ連絡することが可能である。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div data-bbox="1122 992 1458 1246"> </div> <div data-bbox="1525 992 1861 1246"> </div> </div> <p>代替格納容器スプレイポンプ                  (周辺補機棟 T.P. 10.3m)</p> <p>代替格納容器スプレイポンプ系統構成                  (原子炉補助建屋 T.P. 10.3m)</p>	<p>【大飯】                  記載方針の相違                  ・泊は系統構成、起動操作及び受電操作について個別に整理している。</p> <p>【大飯】                  記載方針の相違                  (女川実績の反映)                  ・操作又は作業場所の追加                  ・以降、同様の相違理由は省略する。</p> <p>【大飯】                  記載表現の相違                  (女川実績の反映)                  ・泊は「実績」及び「模擬」を「訓練実績等」で統一。                  ・放射線防護具着用時間を含めていることを記載。(伊方、玄海と同様)                  ・以降、同様の相違理由は省略する。</p>

灰色：女川2号炉の記載のうち、BWR固有の設備や対応手段であり、泊3号炉と比較対象とならない記載内容

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

1.8 原子炉格納容器下部の溶融炉心を冷却するための手順等

大飯発電所3/4号炉	泊発電所3号炉	相違理由
<div data-bbox="423 751 678 804" style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;">比較対象なし</div>	<p style="text-align: right;">添付資料1.8.7-(2)</p> <p>【代替格納容器スプレイポンプ起動操作】</p> <p>1. 操作概要                      代替格納容器スプレイポンプを現場にて起動する。</p> <p>2. 操作場所                      周辺補機棟 T.P.10.3m</p> <p>3. 必要要員数及び操作時間                      必要要員数 : 1名                      操作時間(想定) : 5分                      操作時間(訓練実績等) : 2分(現場移動時間を含む。)                      解析上の時間 : 事象発生後49分                      (時間的余裕の短い事故シーケンス「格納容器過圧破損」からの時間)</p> <p>4. 操作の成立性                      移動経路：ヘッドライト、懐中電灯等を携行していることから、建屋内照明消灯時においてもアクセス可能である。また、アクセスルート上に支障となる設備はない。                      作業環境：事故環境下における室温は通常運転状態と同等である。また、作業エリアに設置されている照明はバッテリー内蔵型であり、事故環境下においても作業可能である。                      操作は汚染の可能性を考慮し、防護具(全面マスク、個人線量計、ゴム手袋等)を装備又は携行して作業を行う。                      操作性：代替格納容器スプレイポンプの操作場所は、通路付近にあり、容易に操作可能である。                      連絡手段：事故環境下において通常の連絡手段が使用不能となった場合でも、携行型通話装置を使用し、確実に中央制御室へ連絡することが可能である。</p>	<p>【大飯】                      記載方針の相違                      ・泊は系統構成、起動操作及び受電操作について個別に整理している。</p>

灰色：女川2号炉の記載のうち、BWR固有の設備や対応手段であり、泊3号炉と比較対象とならない記載内容

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

1.8 原子炉格納容器下部の溶融炉心を冷却するための手順等

大飯発電所3 / 4号炉	泊発電所3号炉	相違理由
<div data-bbox="423 807 678 863" style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;">比較対象なし</div>	<div data-bbox="1308 164 1675 437" data-label="Image"> </div> <div data-bbox="1319 453 1659 504" data-label="Caption"> <p>代替格納容器スプレィポンプ起動操作                      (周辺補機棟 T. P. 10.3m)</p> </div>	

灰色：女川2号炉の記載のうち、BWR固有の設備や対応手段であり、泊3号炉と比較対象とならない記載内容

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

1.8 原子炉格納容器下部の溶融炉心を冷却するための手順等

大飯発電所3/4号炉	泊発電所3号炉	相違理由
<p style="text-align: center; border: 1px solid black; padding: 5px;">比較対象なし</p>	<p style="text-align: right;">添付資料1.8.7-(3)</p> <p><b>【代替格納容器スプレイポンプ受電操作】</b></p> <p>1. 操作概要                      非常用高圧母線から代替格納容器スプレイポンプへの給電が必要な場合、非常用高圧母線の受電遮断器の投入操作を実施する。</p> <p>2. 操作場所                      原子炉補助建屋 T.P. 10.3m</p> <p>3. 必要要員数及び操作時間                      必要要員数 : 1名                      操作時間(想定) : 15分                      操作時間(訓練実績等) : 12分(現場移動, 放射線防護具着用時間を含む。)</p> <p>4. 操作の成立性                      移動経路: ヘッドライト、懐中電灯等を携行していることから、建屋内照明消灯時においてもアクセス可能である。また、アクセスルート上に支障となる設備はない。                      作業環境: 事故環境下における室温は通常運転状態と同等である。また、作業エリアに設置されている照明はバッテリー内蔵型であり、事故環境下においても作業可能である。操作は汚染の可能性を考慮し、防護具(全面マスク、個人線量計、ゴム手袋等)を装備又は携行して作業を行う。                      操作性: 通常行う遮断器操作と同じであり、容易に操作可能である。                      連絡手段: 事故環境下において通常の連絡手段が使用不能となった場合でも、携行型通話装置を使用し、確実に中央制御室へ連絡することが可能である。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> <div style="text-align: center;">  <p>受電遮断器操作 (原子炉補助建屋 T.P.10.3m)</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>受電遮断器操作 (原子炉補助建屋 T.P.10.3m)</p> </div> </div>	<p><b>【大飯】</b>                      記載方針の相違                      ・泊は系統構成、起動操作及び受電操作について個別に整理している。</p>

灰色：女川2号炉の記載のうち、BWR固有の設備や対応手段であり、泊3号炉と比較対象とならない記載内容

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

1.8 原子炉格納容器下部の溶融炉心を冷却するための手順等

大飯発電所3/4号炉	泊発電所3号炉	相違理由
<div data-bbox="423 751 678 804" style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;">比較対象なし</div>	<p style="text-align: right;">添付資料1.8.7-(4)</p> <p><b>【代替格納容器スプレイポンプによる原子炉容器への注水から原子炉格納容器下部への注水への切替え】</b></p> <p>1. 操作概要                  代替格納容器スプレイポンプによる原子炉容器への注水を実施していた場合に、炉心損傷を判断すれば、代替格納容器スプレイポンプの注水先を原子炉容器から原子炉格納容器へ切り替え、原子炉格納容器下部への注水を行う。</p> <p>2. 操作場所                  周辺補機棟 T.P. 10.3m</p> <p>3. 必要要員数及び操作時間                  必要要員数 : 1名                  操作時間(想定) : 20分                  操作時間(訓練実績等) : 12分(現場移動, 放射線防護具着用時間を含む。)</p> <p>4. 操作の成立性                  移動経路：ヘッドライト、懐中電灯等を携行していることから、建屋内照明消灯時においてもアクセス可能である。また、アクセスルート上に支障となる設備はない。                  作業環境：事故環境下における室温は通常運転状態と同等である。また、作業エリアに設置されている照明はバッテリー内蔵型であり、事故環境下においても作業可能である。操作は汚染の可能性を考慮し、防護具(全面マスク、個人線量計、ゴム手袋等)を装備又は携行して作業を行う。                  操作性：通常行う弁操作と同じであり、容易に操作可能である。                  連絡手段：事故環境下において通常の連絡手段が使用不能となった場合でも、携行型通話装置を使用し、確実に中央制御室へ連絡することが可能である。</p> <div data-bbox="1317 986 1671 1251" style="text-align: center;">  </div> <p style="text-align: center;">原子炉容器から原子炉格納容器への切替え                  系統構成                  (周辺補機棟 T.P. 10.3m)</p>	<p><b>【大飯】設備の相違(相違理由④)</b></p> <p>・泊は代替格納容器スプレイポンプの注水先の切替えに現場操作が必要であるため、操作の成立性について整理している。(伊方と同様)</p>

灰色：女川2号炉の記載のうち、BWR固有の設備や対応手段であり、泊3号炉と比較対象とならない記載内容

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

1.8 原子炉格納容器下部の溶融炉心を冷却するための手順等

大飯発電所3/4号炉	泊発電所3号炉	相違理由
<p style="text-align: right;">添付資料 1.8.8</p> <p style="text-align: center;">電動消火ポンプ又はディーゼル消火ポンプによる代替格納容器スプレイ</p> <p>【消火ポンプによる格納容器スプレイ（系統構成）】</p> <p>1. 操作概要                  消火水を格納容器へスプレイするための系統構成を行う。</p> <p>2. 必要要員数及び操作時間                  (1) 原子炉周辺建屋での操作                  必要要員数：1名/ユニット                  操作時間（想定）：30分                  操作時間（実績）：21分（現場移動時間を含む。）                  (2) 安全補機開閉器室での操作                  必要要員数：1名/ユニット                  操作時間（想定）：10分                  操作時間（実績）：7分（現場移動時間を含む。）</p> <p>3. 操作の成立性                  アクセス性：ヘッドライト、懐中電灯等を携行していることから、アクセス可能である。                  作業環境：事故環境下における室温は通常運転状態と同等である。また、ヘッドライト、懐中電灯等を携行していることから、作業可能である。                  また、汚染が予想されることから個人線量計を携帯し、全面マスク等を着用する。                  操作性：通常行う電源操作及び弁操作と同じであり、容易に操作可能である。                  連絡手段：事故環境下において通常の連絡手段が使用不能となった場合でも、携行型通話装置を使用し、確実に連絡可能である。</p>	<p style="text-align: right;">添付資料1.8.8</p> <p style="text-align: center;">電動機駆動消火ポンプ又はディーゼル駆動消火ポンプによる原子炉格納容器下部への注水</p> <p>【消火ポンプによる原子炉格納容器下部への注水（系統構成）】</p> <p>1. 操作概要                  消火水を原子炉格納容器下部へ注水するための系統構成を行う。</p> <p>2. 操作場所                  周辺補機棟 T.P. 17.8m                  原子炉補助建屋 T.P. 10.3m, T.P. 2.8m</p> <p>3. 必要要員数及び操作時間                  (1) 運転員（現場）Bの系統構成                  必要要員数：1名                  操作時間（想定）：30分                  操作時間（訓練実績等）：16分（現場移動、放射線防護具着用時間を含む。）                  (2) 運転員（現場）Cの系統構成                  必要要員数：1名                  操作時間（想定）：25分                  操作時間（訓練実績等）：13分（現場移動、放射線防護具着用時間を含む。）</p> <p>4. 操作の成立性                  移動経路：ヘッドライト、懐中電灯等を携行していることから、建屋内照明消灯時においてもアクセス可能である。また、アクセスルート上に支障となる設備はない。                  作業環境：事故環境下における室温は通常運転状態と同等である。また、作業エリアに設置されている照明はバッテリー内蔵型であり、事故環境下においても作業可能である。操作は汚染の可能性を考慮し、防護具（全面マスク、個人線量計、ゴム手袋等）を装備又は携行して作業を行う。                  操作性：通常行う弁操作と同じであり、容易に操作可能である。また、可搬型ホースの接続はクイックカップラ式であり、容易に接続可能である。                  連絡手段：事故環境下において通常の連絡手段が使用不能となった場合でも、携行型通話装置を使用し、確実に中央制御室へ連絡することが可能である。</p>	<p>【大飯】 記載表現の相違</p> <p>【大飯】 記載表現の相違 (女川実績の反映)</p> <p>【大飯】設備の相違 (相違理由⑤)</p> <p>【大飯】設備の相違 ・泊は電源操作の必要なし</p>

灰色：女川2号炉の記載のうち、BWR固有の設備や対応手段であり、泊3号炉と比較対象とならない記載内容

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

1.8 原子炉格納容器下部の溶融炉心を冷却するための手順等

大飯発電所3 / 4号炉	泊発電所3号炉	相違理由
<div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="text-align: center;">  <p>① 消火水注入弁電源入                      (制御建屋 E.L.+15.8m)</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>② 消火ポンプによる格納容器スプレイ                      系統構成                      (原子炉周辺建屋 E.L.+10.0m)</p> </div> </div>	<div style="display: flex; flex-direction: column; justify-content: space-around;"> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="text-align: center;">  <p>消火ポンプによる原子炉格納容器                      下部への注水系統構成                      (運転員(現場) B)                      (原子炉補助建屋 T.P. 10. 3m)</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>消火ポンプによる原子炉格納容器                      下部への注水系統構成                      (運転員(現場) C)                      (周辺補機棟 T.P. 17. 8m)</p> </div> </div> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="text-align: center;">  <p>消火水系配管と                      格納容器スプレイ系配管との                      接続のための可搬型ホース接続前                      (運転員(現場) B)                      (原子炉補助建屋 T.P. 10. 3m)</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>消火水系配管と                      格納容器スプレイ系配管との                      接続のための可搬型ホース接続後                      (運転員(現場) B)                      (原子炉補助建屋 T.P. 10. 3m)</p> </div> </div> </div>	<p style="color: red;">【大飯】設備の相違                      (相違理由⑤)</p>



灰色：女川2号炉の記載のうち、BWR固有の設備や対応手段であり、泊3号炉と比較対象とならない仮記載内容

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

1.8 原子炉格納容器下部の溶融炉心を冷却するための手順等

大飯発電所3/4号炉	泊発電所3号炉	相違理由
<p style="text-align: center;">添付資料 1.8.9-(1)</p> <p style="text-align: center;">可搬式代替低圧注水ポンプによる代替格納容器スプレイ</p> <p>【送水車、可搬型ホース等配備】</p> <p>1. 作業概要                  海水を<b>仮設組立式水槽</b>へ注水するための<b>送水車</b>、可搬型ホース等を配備する。</p> <p>2. 必要要員数及び作業時間                  必要要員数：5名/ユニット                  作業時間（想定）：3.4時間                  作業時間（実績）：90分</p> <p>3. 作業の成立性                  アクセス性：夜間においても、ヘッドライト、懐中電灯等を携行していることから、アクセス可能である。</p> <p>作業環境：可搬型設備保管エリア、運搬ルート及び設置エリア周辺には、作業を行う上で支障となる設備はなく、また、ヘッドライト、懐中電灯等を携行していることから、作業可能である。                  また、汚染が予想されることから個人線量計を携帯し、全面マスク等を着用する。</p> <p>作業性：送水車は、車両として移動可能な設計であり容易に移動できる。また、接続はワンタッチ式であり、容易に接続可能である。</p> <p>連絡手段：事故環境下において通常の連絡手段が使用不能となった場合でも、<b>トランシーバー</b>、<b>衛星電話（アイサットフォン）</b>を携帯しており、確実に連絡可能である。</p>	<p style="text-align: center;">添付資料1.8.9-(1)</p> <p style="text-align: center;">海水を用いた可搬型大型送水ポンプ車による原子炉格納容器下部への注水</p> <p>【可搬型ホースの敷設、可搬型大型送水ポンプ車等の設置（水中ポンプの設置含む。）】</p> <p>1. 作業概要                  海水を原子炉格納容器下部へ注水するための可搬型ホースの敷設、可搬型大型送水ポンプ車等の設置及び海水取水箇所への<b>水中ポンプ設置等</b>を行う。</p> <p>2. 作業場所                  周辺補機棟 T.P.33.1m                  屋外（海水取水箇所周辺及び原子炉建屋周辺）</p> <p>3. 必要要員数及び作業時間                  必要要員数：6名                  作業時間（想定）：225分                  作業時間（訓練実績等）：180分（現場移動、放射線防護具着用時間を含む。）</p> <p>4. 作業の成立性  <b>移動経路</b>：夜間においても、ヘッドライト、懐中電灯等を携行していることから、アクセス可能である。また、<b>アクセスルート上に支障となる設備はない。</b></p> <p>作業環境：可搬型大型送水ポンプ車等の保管エリア、運搬ルート及び設置エリア周辺には、作業を行う上で支障となる設備はなく、また、ヘッドライト、懐中電灯等を携行していることから作業可能である。                  操作は汚染の可能性を考慮し、防護具（全面マスク、個人線量計、ゴム手袋等）を装備又は携行して作業を行う。                  なお、冬季間の屋外作業では防寒服等の着用が必要となるが、夏季と冬季での作業時間に相違がないことを訓練実績等で確認している。</p> <p>作業性：可搬型大型送水ポンプ車は、車両として移動可能な設計であり容易に移動できる。屋外の可搬型ホースの敷設は、ホース延長・回収車（送水車用）を使用することから、容易に実施可能である。また、可搬型ホースの接続は、汎用の結合金具であり、容易に実施可能である。                  海水取水箇所に吊り下げて設置する水中ポンプは、軽量なものであり人力で降下設置できる。</p> <p>連絡手段：事故環境下において通常の連絡手段が使用不能となった場合でも、<b>無線連絡設備（携帯型）</b>、<b>衛星電話設備（携帯型）</b>を携帯しており、確実に中央制御室へ連絡することが可能である。</p>	<p>【大飯】設備の相違（相違理由①）</p> <p>【大飯】設備の相違                  ・泊は、海水を取水するためにポンプ車付属の水中ポンプを使用する。（海水取水に水中ポンプを使用するのは、川内及び玄海と同様）</p> <p>【大飯】                  記載方針の相違                  ・大飯は「送水車及び可搬型ホース等配備」、「仮設組立式水槽の設置」、「可搬式代替低圧注水ポンプ等配備」及び「系統構成」の資料構成としている。</p> <p>・泊は、「可搬型大型送水ポンプ車及び可搬型ホース等の設置」及び「系統構成」の資料構成としている。</p> <p>・操作及び作業の成立性について網羅的に説明する方針は同様である。</p> <p>【大飯】                  記載表現の相違</p> <p>【大飯】                  記載内容の相違                  ・泊は寒冷地特有の考慮すべき事項を整理</p> <p>【大飯】                  記載表現の相違                  設備名称の相違</p>

灰色：女川2号炉の記載のうち、BWR固有の設備や対応手段であり、泊3号炉と比較対象とならない記載内容

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

大飯発電所3/4号炉	泊発電所3号炉	相違理由								
<p style="text-align: center;">大飯発電所3/4号炉</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="text-align: center;">  <p>① 送水車の移動 (屋外)</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>② 可搬型ホースの接続前 (屋外)</p> </div> </div> <div style="display: flex; justify-content: center; margin-top: 20px;"> <div style="text-align: center;">  <p>③ 可搬型ホースの接続後 (屋外)</p> </div> </div> <div style="text-align: center; margin-top: 20px; border: 1px solid black; padding: 5px;">                 写真はイメージ             </div>	<p style="text-align: center;">可搬型ホース敷設箇所</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 30%;">敷設ルート</th> <th style="width: 20%;">敷設長さ</th> <th style="width: 20%;">ホース口径</th> <th style="width: 30%;">本数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>海水取水箇所(3号炉取水ピットスクリーン室)～ 可搬型大型送水ポンプ車 33m 接続口</td> <td>約950m×1系統 約50m×1系統</td> <td>150A</td> <td>約17本×1系統 約5本×1系統</td> </tr> </tbody> </table> <div style="display: flex; justify-content: space-around; margin-top: 20px;"> <div style="text-align: center;">  <p>ホース延長・回収車(送水車用)による 可搬型ホース敷設 (屋外)</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>ホース延長・回収車(送水車用)による 可搬型ホース敷設 (屋外)</p> </div> </div> <div style="display: flex; justify-content: space-around; margin-top: 20px;"> <div style="text-align: center;">  <p>可搬型ホース(150A)接続前</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>可搬型ホース(150A)接続後</p> </div> </div> <div style="display: flex; justify-content: space-around; margin-top: 20px;"> <div style="text-align: center;">  <p>可搬型大型送水ポンプ車の設置 ポンプ車周辺のホース敷設 (屋外)</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>海水取水箇所への水中ポンプ設置 (屋外)</p> </div> </div>	敷設ルート	敷設長さ	ホース口径	本数	海水取水箇所(3号炉取水ピットスクリーン室)～ 可搬型大型送水ポンプ車 33m 接続口	約950m×1系統 約50m×1系統	150A	約17本×1系統 約5本×1系統	<p style="color: red;">【大飯】設備の相違 (相違理由①)</p>
敷設ルート	敷設長さ	ホース口径	本数							
海水取水箇所(3号炉取水ピットスクリーン室)～ 可搬型大型送水ポンプ車 33m 接続口	約950m×1系統 約50m×1系統	150A	約17本×1系統 約5本×1系統							

灰色：女川2号炉の記載のうち、BWR固有の設備や対応手段であり、泊3号炉と比較対象とならない記載内容

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

1.8 原子炉格納容器下部の溶融炉心を冷却するための手順等

大飯発電所3/4号炉	泊発電所3号炉	相違理由
<p>【比較のため、大飯3/4号炉の添付資料1.8.9-(4)を再掲】</p> <p style="text-align: right;">添付資料 1.8.9-(4)</p> <p><b>【系統構成】</b></p> <p>1. 操作概要                  可搬式代替低圧注水ポンプにより格納容器への注水を確保するための系統構成を行う。</p> <p>2. 必要要員数及び操作時間                  必要要員数：1名/ユニット                  操作時間（想定）：30分                  操作時間（実績）：29分</p> <p>3. 操作の成立性                  アクセス性：ヘッドライト、懐中電灯等を携行していることから、アクセス可能である。</p> <p>作業環境：事故環境下における室温は通常運転状態と同等である。また、ヘッドライト、懐中電灯等を携行していることから事故環境下においても作業可能である。また、汚染が予想されることから個人線量計を携帯し、全面マスク等を着用する。</p> <p>操作性：通常行う弁操作と同じであり、容易に操作可能である。</p> <p>連絡手段：事故環境下において通常の連絡手段が使用不能となった場合でも、携行型通話装置を使用し、確実に連絡可能である。</p>	<p style="text-align: right;">添付資料1.8.9-(2)</p> <p><b>【系統構成】</b></p> <p>1. 操作概要                  海水を用いた可搬型大型送水ポンプ車により原子炉格納容器下部への注水を確保するための系統構成を行う。</p> <p>2. 操作場所                  原子炉補助建屋 T.P. 10.3m                  周辺補機棟 T.P. 40.3m, T.P. 17.8m, T.P. 10.3m</p> <p>3. 必要要員数及び操作時間                  (1) 運転員（現場）Bの系統構成                  a. 原子炉格納容器下部への注水系統構成                  必要要員数：1名                  操作時間（想定）：25分                  操作時間（訓練実績等）：11分（現場移動、放射線防護具着用時間を含む。）                  (2) 運転員（現場）Cの系統構成                  a. 原子炉格納容器下部への注水系統構成                  必要要員数：1名                  操作時間（想定）：25分                  操作時間（訓練実績等）：12分（現場移動、放射線防護具着用時間を含む。）                  b. 原子炉格納容器下部への注水開始直前の系統構成                  必要要員数：1名                  操作時間（想定）：25分                  操作時間（訓練実績等）：12分（現場移動、放射線防護具着用時間を含む。）</p> <p>4. 操作の成立性                  移動経路：ヘッドライト、懐中電灯等を携行していることから、建屋内照明消灯時においてもアクセス可能である。また、アクセスルート上に支障となる設備はない。</p> <p>作業環境：事故環境下における室温は通常運転状態と同等である。また、作業エリアに設置されている照明はバッテリー内蔵型であり、事故環境下においても作業可能である。操作は汚染の可能性を考慮し、防護具（全面マスク、個人線量計、ゴム手袋等）を装備又は携行して作業を行う。</p> <p>操作性：通常行う弁操作と同じであり、容易に操作可能である。</p> <p>連絡手段：事故環境下において通常の連絡手段が使用不能となった場合でも、携行型通話装置を使用し、確実に中央制御室へ連絡することが可能である。</p>	<p><b>【大飯】</b>                  記載方針の相違                  ・大飯は「送水車及び可搬型ホース等設備」、「仮設組立式水槽の設置」、「可搬式代替低圧注水ポンプ等設備」及び「系統構成」の資料構成としている。</p> <p>・泊は、「可搬型大型送水ポンプ車及び可搬型ホース等の設置」及び「系統構成」の資料構成としている。</p> <p>・操作及び作業の成立性について網羅的に説明する方針は同様である。</p> <p><b>【大飯】設備の相違（相違理由①）</b></p> <p><b>【大飯】</b>                  記載表現の相違</p> <p><b>【大飯】</b>                  記載表現の相違（女川実績の反映）</p>

灰色：女川2号炉の記載のうち、BWR固有の設備や対応手段であり、泊3号炉と比較対象とならない記載内容

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

1.8 原子炉格納容器下部の溶融炉心を冷却するための手順等

大飯発電所3 / 4号炉	泊発電所3号炉	相違理由
<p data-bbox="286 140 824 167">【比較のため、大飯3 / 4号炉の添付資料 1.8.9-(4)を再掲】</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div data-bbox="114 288 499 574">  </div> <div data-bbox="607 288 992 574">  </div> </div> <div style="display: flex; justify-content: space-around; margin-top: 10px;"> <div data-bbox="163 579 472 660"> <p>①可搬式代替低圧注水ポンプ                      系統構成                      (原子炉周辺建屋 E.L.+10.0m)</p> </div> <div data-bbox="640 579 949 660"> <p>②可搬式代替低圧注水ポンプ                      系統構成                      (原子炉周辺建屋 E.L.+10.0m)</p> </div> </div>	<div style="display: flex; justify-content: space-around; margin-top: 10px;"> <div data-bbox="1171 268 1469 494">  </div> <div data-bbox="1514 268 1812 494">  </div> </div> <div style="display: flex; justify-content: space-around; margin-top: 10px;"> <div data-bbox="1160 501 1480 595"> <p>可搬型大型送水ポンプ車による原子炉                      格納容器下部への注水系統構成                      (運転員(現場)B)                      (原子炉補助建屋 T.P. 10. 3m)</p> </div> <div data-bbox="1503 501 1823 595"> <p>可搬型大型送水ポンプ車による原子炉                      格納容器下部への注水系統構成                      (運転員(現場)C)                      (周辺補機棟 T.P. 10. 3m)</p> </div> </div>	

灰色：女川2号炉の記載のうち、BWR固有の設備や対応手段であり、泊3号炉と比較対象とならない記載内容

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

1.8 原子炉格納容器下部の溶融炉心を冷却するための手順等

大飯発電所3/4号炉	泊発電所3号炉	相違理由
<p style="text-align: right;">添付資料 1.8.9-(2)</p> <p>【仮設組立式水槽の設置】</p> <p>1. 操作概要                      取水路から取水した海水を一時的に貯蔵するための仮設組立式水槽を設置する。</p> <p>2. 必要要員数及び作業時間                      必要要員数：4名/ユニット（可搬式代替低圧注水ポンプ等配備と同時作業。）                      作業時間（想定）：2.5時間（可搬式代替低圧注水ポンプ等配備と同時作業。）                      作業時間（実績）：2時間（昼間、夜間に実施。）</p> <p>3. 作業の成立性                      アクセス性：夜間においても、ヘッドライト、懐中電灯等を携行していることから、アクセス可能である。                      作業環境：可搬型設備保管エリア、運搬ルート及び設置エリア周辺には、作業を行う上で支障となる設備はなく、また、ヘッドライト、懐中電灯等を携行していることから、作業可能である。                      また、汚染が予想されることから個人線量計を携帯し、全面マスク等を着用する。                      作業性：仮設組立式水槽は、複数の部材で構成されているが、構造がシンプルであり、容易に組立てが可能である。                      連絡手段：事故環境下において通常の連絡手段が使用不能となった場合でも、トランシーバー、衛星電話（アイサットフォン）を携帯しており、確実に連絡可能である。</p>	<div style="border: 1px solid black; padding: 10px; width: fit-content; margin: auto;">比較対象なし</div>	<p>【大飯】                      記載方針の相違</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・大飯は「送水車及び可搬型ホース等配備」、「仮設組立式水槽の設置」、「可搬式代替低圧注水ポンプ等配備」及び「系統構成」の資料構成としている。</li> <li>・泊は、「可搬型大型送水ポンプ車及び可搬型ホース等の設置」及び「系統構成」の資料構成としている。</li> <li>・操作及び作業の成立性について網羅的に説明する方針は同様である。</li> </ul>

灰色：女川2号炉の記載のうち、BWR固有の設備や対応手段であり、泊3号炉と比較対象とならない記載内容

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

1.8 原子炉格納容器下部の溶融炉心を冷却するための手順等

大飯発電所3/4号炉	泊発電所3号炉	相違理由
<div data-bbox="129 263 936 462" style="border: 2px solid black; height: 125px; width: 360px;"></div> <div data-bbox="203 466 972 518" style="display: flex; justify-content: space-between;"> <span>① 保護シート設置 (屋外)</span> <span>② 内袋仮置及びフレーム(外装枠)設置 (屋外)</span> </div> <div data-bbox="129 523 936 730" style="border: 2px solid black; height: 130px; width: 360px;"></div> <div data-bbox="123 734 851 786" style="display: flex; justify-content: space-between;"> <span>③ フレームジョイント板による固定 (屋外)</span> <span>④ 内袋取付け (屋外)</span> </div> <div data-bbox="129 794 936 1002" style="border: 2px solid black; height: 130px; width: 360px;"></div> <div data-bbox="163 1002 918 1054" style="display: flex; justify-content: space-between;"> <span>⑤ 内袋のロープによる固縛 (屋外)</span> <span>⑥ 仮設組立式水槽(組立て後) (屋外)</span> </div> <div data-bbox="264 1109 840 1145" style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 20px;"> <p>枠囲みの範囲は機密に係る事項ですので公開することはできません。</p> </div>	<div data-bbox="1361 750 1617 805" style="border: 1px solid black; padding: 10px; display: inline-block;"> <p>比較対象なし</p> </div>	

灰色：女川2号炉の記載のうち、BWR固有の設備や対応手段であり、泊3号炉と比較対象とならない記載内容

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

1.8 原子炉格納容器下部の溶融炉心を冷却するための手順等

大飯発電所3/4号炉	泊発電所3号炉	相違理由
<p style="text-align: right;">添付資料 1.8.9-(3)</p> <p>【可搬式代替低圧注水ポンプ等配備】</p> <p>1. 作業概要                      格納容器へ注水するための準備として、可搬式代替低圧注水ポンプ、可搬型ホース、電源車（可搬式代替低圧注水ポンプ用）及び電源ケーブルを設置並びに接続する。</p> <p>2. 必要要員数及び作業時間                      必要要員数：4名/ユニット（仮設組立式水槽の設置と同時作業。）                      作業時間（想定）：2.5時間（仮設組立式水槽の設置と同時作業。）                      作業時間（実績）：2時間（昼間、夜間に実施。）</p> <p>3. 作業の成立性                      アクセス性：夜間においても、ヘッドライト、懐中電灯等を携行していることから、アクセス可能である。                      作業環境：可搬型設備保管エリア、運搬ルート及び設置エリア周辺には、作業を行う上で支障となる設備はなく、また、ヘッドライト、懐中電灯等を携行していることから、作業可能である。                      作業性：可搬型設備は車両として移動が可能であり、荷降ろしは人力での作業であるため、容易に実施可能である。また、可搬型ホースの接続はワンタッチ式であり、容易に接続可能である。                      また、汚染が予想されることから個人線量計を携帯し、全面マスク等を着用する。                      連絡手段：事故環境下において通常の連絡手段が使用不能となった場合でも、トランシーバー、衛星電話（アイサットフォン）を携帯しており、確実に連絡可能である。</p>	<div style="border: 1px solid black; padding: 10px; display: inline-block;">比較対象なし</div>	<p>【大飯】                      記載方針の相違</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・大飯は「送水車及び可搬型ホース等配備」、「仮設組立式水槽の設置」、「可搬式代替低圧注水ポンプ等配備」及び「系統構成」の資料構成としている。</li> <li>・泊は、「可搬型大型送水ポンプ車及び可搬型ホース等の設置」及び「系統構成」の資料構成としている。</li> <li>・操作及び作業の成立性について網羅的に説明する方針は同様である。</li> </ul>

灰色：女川2号炉の記載のうち、BWR固有の設備や対応手段であり、泊3号炉と比較対象とならない記載内容

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

1.8 原子炉格納容器下部の溶融炉心を冷却するための手順等

大飯発電所3/4号炉	泊発電所3号炉	相違理由
<div data-bbox="129 288 965 560" style="border: 2px solid black; height: 170px; width: 373px;"></div> <div data-bbox="203 563 463 617" style="display: inline-block; width: 100px;">                     ①可搬式代替低圧注水ポンプ                      (屋外)                 </div> <div data-bbox="584 563 943 617" style="display: inline-block; width: 100px;">                     ②電源車 (可搬式代替低圧注水ポンプ用)                      (屋外)                 </div> <div data-bbox="129 628 524 900" style="border: 2px solid black; height: 170px; width: 176px;"></div> <div data-bbox="224 901 427 954" style="display: inline-block; width: 80px;">                     ③可搬型ホースの運搬                      (屋外)                 </div> <div data-bbox="577 632 960 888" style="border: 2px solid black;">  </div> <div data-bbox="676 901 860 954" style="display: inline-block; width: 80px;">                     ④可搬型ホース接続                      (屋外)                 </div> <div data-bbox="268 1018 833 1058" style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 20px;">                     枠囲みの範囲は機密に係る事項ですので公開することはできません。                 </div>	<div data-bbox="1361 722 1619 778" style="border: 1px solid black; padding: 10px; display: inline-block;">                         比較対象なし                     </div>	



灰色：女川2号炉の記載のうち、BWR固有の設備や対応手段であり、泊3号炉と比較対象とならない記載内容

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

1.8 原子炉格納容器下部の溶融炉心を冷却するための手順等

大飯発電所3/4号炉	泊発電所3号炉	相違理由
<p style="text-align: right;">添付資料 1.8.9-(4)</p> <p><b>【系統構成】</b></p> <p>1. 操作概要 可搬式代替低圧注水ポンプにより格納容器への注水を確保するための系統構成を行う。</p> <p>2. 必要要員数及び操作時間 必要要員数：1名/ユニット 操作時間（想定）：30分 操作時間（実績）：29分</p> <p>3. 操作の成立性 アクセス性：ヘッドライト、懐中電灯等を携行していることから、アクセス可能である。 作業環境：事故環境下における室温は通常運転状態と同等である。また、ヘッドライト、懐中電灯等を携行していることから事故環境下においても作業可能である。また、汚染が予想されることから個人線量計を携帯し、全面マスク等を着用する。 操作性：通常行う弁操作と同じであり、容易に操作可能である。 連絡手段：事故環境下において通常の連絡手段が使用不能となった場合でも、携行型通話装置を使用し、確実に連絡可能である。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div data-bbox="114 724 497 1008"> </div> <div data-bbox="607 724 985 1008"> </div> </div> <div style="display: flex; justify-content: space-around; margin-top: 10px;"> <div data-bbox="163 1015 470 1093"> <p>①可搬式代替低圧注水ポンプ 系統構成 (原子炉周辺建屋 E.L.+10.0m)</p> </div> <div data-bbox="640 1015 949 1093"> <p>②可搬式代替低圧注水ポンプ 系統構成 (原子炉周辺建屋 E.L.+10.0m)</p> </div> </div>	<div style="border: 1px solid black; padding: 10px; width: fit-content; margin: auto;"> <p>比較対象なし</p> </div>	<p><b>【大飯】</b> 記載方針の相違</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・大飯は「送水車及び可搬型ホース等設備」、「仮設組立式水槽の設置」、「可搬式代替低圧注水ポンプ等設備」及び「系統構成」の資料構成としている。</li> <li>・泊は、「可搬型大型送水ポンプ車及び可搬型ホース等の設置」及び「系統構成」の資料構成としている。</li> <li>・操作及び作業の成立性について網羅的に説明する方針は同様である。</li> </ul>

灰色：女川2号炉の記載のうち、BWR固有の設備や対応手段であり、泊3号炉と比較対象とならない記載内容

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

1.8 原子炉格納容器下部の溶融炉心を冷却するための手順等

大飯発電所3/4号炉	泊発電所3号炉	相違理由
<p style="text-align: center; border: 1px solid black; padding: 5px;">比較対象なし</p>	<p style="text-align: right;">添付資料1.8.10-(1)</p> <p style="text-align: center; color: red;">代替給水ピットを水源とした可搬型大型送水ポンプ車による原子炉格納容器下部への注水</p> <p>【可搬型ホースの敷設，可搬型大型送水ポンプ車等の設置（吸管の挿入含む。）】</p> <p>1. 作業概要                  代替給水ピットを水源として原子炉格納容器下部へ注水するための可搬型ホース等の敷設，可搬型大型送水ポンプ車の設置及び代替給水ピットへの吸管挿入等を行う。</p> <p>2. 作業場所                  周辺補機棟T.P.33.1m                  屋外（代替給水ピット周辺及び原子炉建屋周辺）</p> <p>3. 必要要員数及び作業時間                  必要要員数：6名                  作業時間（想定）：170分                  作業時間（訓練実績等）：135分（現場移動，放射線防護具着用時間を含む。）</p> <p>4. 作業の成立性                  移動経路：夜間においても，ヘッドライト，懐中電灯等を携行していることから，アクセス可能である。また，アクセスルート上に支障となる設備はない。                  作業環境：可搬型大型送水ポンプ車等の保管エリア，運搬ルート及び設置エリア周辺には，作業を行う上で支障となる設備はなく，また，ヘッドライト，懐中電灯等を携行していることから作業可能である。                  操作は汚染の可能性を考慮し，防護具（全面マスク，個人線量計，ゴム手袋等）を装備又は携行して作業を行う。                  なお，冬季間の屋外作業では防寒服等の着用が必要となるが，夏季と冬季での作業時間に相違がないことを訓練実績等で確認している。                  作業性：可搬型大型送水ポンプ車は，車両として移動可能な設計であり容易に移動できる。屋外の可搬型ホースの敷設は，ホース延長・回収車（送水車用）を使用することから，容易に実施可能である。また，可搬型ホースの接続は，汎用の結合金具であり，容易に実施可能である。                  代替給水ピットへ挿入する吸管は，可搬型大型送水ポンプ車に搭載されており，人力で挿入できる。                  連絡手段：事故環境下において通常の連絡手段が使用不能となった場合でも，無線連絡設備（携帯型），衛星電話設備（携帯型）を携帯しており，確実に中央制御室へ連絡することが可能である。</p>	<p>【大飯】設備の相違（相違理由①）</p>

灰色：女川2号炉の記載のうち、BWR固有の設備や対応手段であり、泊3号炉と比較対象とならない記載内容

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

大飯発電所3 / 4号炉	泊発電所3号炉	相違理由								
<div data-bbox="421 751 678 807" style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;">比較対象なし</div>	<p style="text-align: center;">可搬型ホース敷設箇所</p> <table border="1" data-bbox="1111 172 1877 268" style="margin-left: auto; margin-right: auto;"> <thead> <tr> <th>敷設ルート</th> <th>敷設長さ</th> <th>ホース口径</th> <th>本数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>代替給水ビット～可搬型大型送水ポンプ車 33m 接続口</td> <td>約 150m×1 系統 約 50m×1 系統</td> <td>150A</td> <td>約 3 本×1 系統 約 5 本×1 系統</td> </tr> </tbody> </table> <div data-bbox="1368 360 1619 552" style="text-align: center;"> </div> <p style="text-align: center;">ホース延長・回収車（送水車用）による可搬型ホース敷設（屋外）</p> <div data-bbox="1137 639 1391 826" style="text-align: center;"> </div> <p style="text-align: center;">可搬型ホース（150A）接続前</p> <div data-bbox="1597 644 1850 836" style="text-align: center;"> </div> <p style="text-align: center;">可搬型ホース（150A）接続後</p> <div data-bbox="1137 914 1391 1106" style="text-align: center;"> </div> <p style="text-align: center;">可搬型大型送水ポンプ車の設置代替給水ビットへの吸管挿入（屋外） （作業風景は類似作業）</p> <div data-bbox="1590 906 1861 1114" style="text-align: center;"> </div> <p style="text-align: center;">可搬型大型送水ポンプ車周辺のホース敷設（屋外）</p>	敷設ルート	敷設長さ	ホース口径	本数	代替給水ビット～可搬型大型送水ポンプ車 33m 接続口	約 150m×1 系統 約 50m×1 系統	150A	約 3 本×1 系統 約 5 本×1 系統	
敷設ルート	敷設長さ	ホース口径	本数							
代替給水ビット～可搬型大型送水ポンプ車 33m 接続口	約 150m×1 系統 約 50m×1 系統	150A	約 3 本×1 系統 約 5 本×1 系統							

灰色：女川2号炉の記載のうち、BWR固有の設備や対応手段であり、泊3号炉と比較対象とならない記載内容

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

1.8 原子炉格納容器下部の溶融炉心を冷却するための手順等

大飯発電所3/4号炉	泊発電所3号炉	相違理由
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;">比較対象なし</div>	<p style="text-align: right;">添付資料1.8.10-(2)</p> <p><b>【系統構成】</b></p> <p>1. 操作概要                      代替給水ピットを水源とした可搬型大型送水ポンプ車により原子炉格納容器下部への注水を確保するための系統構成を行う。</p> <p>2. 操作場所                      原子炉補助建屋T.P.10.3m                      周辺補機棟T.P.40.3m, T.P.17.8m, T.P.10.3m</p> <p>3. 必要要員数及び操作時間                      (1) 運転員（現場）Bの系統構成                      a. 原子炉格納容器下部への注水系統構成                          必要要員数      : 1名                          操作時間（想定）  : 25分                          操作時間（訓練実績等）: 11分（現場移動、放射線防護具着用時間を含む。）                      (2) 運転員（現場）Cの系統構成                      a. 原子炉格納容器下部への注水系統構成                          必要要員数      : 1名                          操作時間（想定）  : 25分                          操作時間（訓練実績等）: 12分（現場移動、放射線防護具着用時間を含む。）                      b. 原子炉格納容器下部への注水開始直前の系統構成                          必要要員数      : 1名                          操作時間（想定）  : 25分                          操作時間（訓練実績等）: 11分（現場移動、放射線防護具着用時間を含む。）</p> <p>4. 操作の成立性                      移動経路：ヘッドライト、懐中電灯等を携行していることから、建屋内照明消灯時においてもアクセス可能である。また、アクセスルート上に支障となる設備はない。                      作業環境：事故環境下における室温は通常運転状態と同等である。また、作業エリアに設置されている照明はバッテリー内蔵型であり、事故環境下においても作業可能である。操作は汚染の可能性を考慮し、防護具（全面マスク、個人線量計、ゴム手袋等）を装備又は携行して作業を行う。                      操作性：通常行い弁操作と同じであり、容易に操作可能である。                      連絡手段：事故環境下において通常の連絡手段が使用不能となった場合でも、携行型通話装置を使用し、確実に中央制御室へ連絡することが可能である。</p>	<p>【大飯】設備の相違                      （相違理由①）</p>

1.8 原子炉格納容器下部の溶融炉心を冷却するための手順等

泊発電所3号炉 技術的能力 比較表

灰色：女川2号炉の記載のうち、BWR固有の設備や対応手段であり、泊3号炉と比較対象とならない記載内容

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

大飯発電所3/4号炉	泊発電所3号炉	相違理由
<div data-bbox="423 751 678 804" style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;">比較対象なし</div>	<div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> <div style="text-align: center;">  <p data-bbox="1160 501 1482 592">可搬型大型送水ポンプ車による原子炉格納容器下部への注水系統構成                      (運転員(現場)B)                      (原子炉補助建屋 T.P. 10. 3m)</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p data-bbox="1505 501 1827 592">可搬型大型送水ポンプ車による原子炉格納容器下部への注水系統構成                      (運転員(現場)C)                      (周辺補機棟 T.P. 10. 3m)</p> </div> </div>	

灰色：女川2号炉の記載のうち、BWR固有の設備や対応手段であり、泊3号炉と比較対象とならない記載内容

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

1.8 原子炉格納容器下部の溶融炉心を冷却するための手順等

大飯発電所3/4号炉	泊発電所3号炉	相違理由
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;">比較対象なし</div>	<p style="text-align: right;">添付資料1.8.11-(1)</p> <p style="text-align: center; color: red;">原水槽を水源とした可搬型大型送水ポンプ車による原子炉格納容器下部への注水</p> <p>【可搬型ホースの敷設、可搬型大型送水ポンプ車等の設置（吸管の挿入を含む。）】</p> <p>1. 作業概要                  原水槽を水源として原子炉格納容器下部へ注水するための可搬型ホース等の敷設、可搬型大型送水ポンプ車の設置及び原水槽への吸管挿入等を行う。</p> <p>2. 作業場所                  周辺補機棟T.P.10.3m                  屋外（原水槽周辺及び原子炉建屋周辺）</p> <p>3. 必要要員数及び作業時間                  必要要員数 : 6名                  作業時間（想定） : 225分                  作業時間（訓練実績等） : 180分（現場移動、放射線防護具着用時間を含む。）</p> <p>4. 作業の成立性について                  移動経路：夜間においても、ヘッドライト、懐中電灯等を携行していることから、アクセス可能である。また、アクセスルート上に支障となる設備はない。                  作業環境：可搬型大型送水ポンプ車等の保管エリア、運搬ルート及び設置エリア周辺には、作業を行う上で支障となる設備はなく、また、ヘッドライト、懐中電灯等を携行していることから作業可能である。                  操作は汚染の可能性を考慮し、防護具（全面マスク、個人線量計、ゴム手袋等）を装備又は携行して作業を行う。                  なお、冬季間の屋外作業では防寒服等の着用が必要となるが、夏季と冬季での作業時間に相違がないことを訓練実績等で確認している。                  作業性：可搬型大型送水ポンプ車は、車両として移動可能な設計であり容易に移動できる。屋外の可搬型ホースの敷設は、ホース延長・回収車（送水車用）を使用することから、容易に実施可能である。また、可搬型ホースの接続は、汎用の結合金具であり、容易に実施可能である。                  原水槽へ挿入する吸管は、可搬型大型送水ポンプ車に搭載されており、人力で挿入できる。                  連絡手段：事故環境下において通常の連絡手段が使用不能となった場合でも、無線連絡設備（携帯型）、衛星電話設備（携帯型）を携帯しており、確実に中央制御室へ連絡することが可能である。</p>	<p>【大飯】設備の相違（相違理由①）</p>

灰色：女川2号炉の記載のうち、BWR固有の設備や対応手段であり、泊3号炉と比較対象とならない記載内容

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

大飯発電所3/4号炉	泊発電所3号炉	相違理由								
<div data-bbox="423 719 678 775" style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;">比較対象なし</div>	<div data-bbox="1391 204 1590 228" style="text-align: center;">可搬型ホース敷設箇所</div> <table border="1" data-bbox="1111 228 1877 325" style="margin-left: auto; margin-right: auto;"> <thead> <tr> <th>敷設ルート</th> <th>敷設長さ</th> <th>ホース口径</th> <th>本数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>原水槽～可搬型大型送水ポンプ車 10m 接続口</td> <td>約 600m×1系統 約 50m×1系統</td> <td>150A</td> <td>約 12本×1系統 約 5本×1系統</td> </tr> </tbody> </table> <div data-bbox="1364 448 1619 655" style="text-align: center;"> </div> <div data-bbox="1314 668 1664 738" style="text-align: center;"> <p>ホース延長・回収車（送水車用）による 可搬型ホース敷設 （屋外）</p> </div> <div data-bbox="1133 746 1391 938" style="text-align: center;"> </div> <div data-bbox="1137 959 1384 983" style="text-align: center;"> <p>可搬型ホース（150A）接続前</p> </div> <div data-bbox="1585 754 1843 946" style="text-align: center;"> </div> <div data-bbox="1590 959 1843 983" style="text-align: center;"> <p>可搬型ホース（150A）接続後</p> </div> <div data-bbox="1133 1023 1391 1214" style="text-align: center;"> </div> <div data-bbox="1124 1219 1397 1289" style="text-align: center;"> <p>可搬型大型送水ポンプ車の設置 原水槽への吸管挿入 （屋外）</p> </div> <div data-bbox="1576 1015 1856 1222" style="text-align: center;"> </div> <div data-bbox="1603 1219 1830 1289" style="text-align: center;"> <p>可搬型大型送水ポンプ車 周辺のホース敷設 （屋外）</p> </div>	敷設ルート	敷設長さ	ホース口径	本数	原水槽～可搬型大型送水ポンプ車 10m 接続口	約 600m×1系統 約 50m×1系統	150A	約 12本×1系統 約 5本×1系統	
敷設ルート	敷設長さ	ホース口径	本数							
原水槽～可搬型大型送水ポンプ車 10m 接続口	約 600m×1系統 約 50m×1系統	150A	約 12本×1系統 約 5本×1系統							

灰色：女川2号炉の記載のうち、BWR固有の設備や対応手段であり、泊3号炉と比較対象とならない記載内容

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

1.8 原子炉格納容器下部の溶融炉心を冷却するための手順等

大飯発電所3/4号炉	泊発電所3号炉	相違理由
<p style="text-align: center; border: 1px solid black; padding: 5px;">比較対象なし</p>	<p style="text-align: right;">添付資料1.8.11-(2)</p> <p><b>【系統構成】</b></p> <p>1. 操作概要                      原水槽を水源とした可搬型大型送水ポンプ車により原子炉格納容器下部への注水を確保するための系統構成を行う。</p> <p>2. 操作場所                      原子炉補助建屋T.P.10.3m                      周辺補機棟T.P.40.3m, T.P.17.8m, T.P.10.3m</p> <p>3. 必要要員数及び操作時間                      (1) 運転員（現場）Bの系統構成                      a. 原子炉格納容器下部への注水系統構成                          必要要員数        : 1名                          操作時間（想定）    : 25分                          操作時間（訓練実績等）: 11分（現場移動、放射線防護具着用時間を含む。）                      (2) 運転員（現場）Cの系統構成                      a. 原子炉格納容器下部への注水系統構成                          必要要員数        : 1名                          操作時間（想定）    : 25分                          操作時間（訓練実績等）: 12分（現場移動、放射線防護具着用時間を含む。）                      b. 原子炉格納容器下部への注水開始直前の系統構成                          必要要員数        : 1名                          操作時間（想定）    : 25分                          操作時間（訓練実績等）: 12分（現場移動、放射線防護具着用時間を含む。）</p> <p>4. 操作の成立性について                      移動経路：ヘッドライト、懐中電灯等を携行していることから、建屋内照明消灯時においてもアクセス可能である。また、アクセスルート上に支障となる設備はない。                      作業環境：事故環境下における室温は通常運転状態と同等である。また、作業エリアに設置されている照明はバッテリー内蔵型であり、事故環境下においても作業可能である。                      操作は汚染の可能性を考慮し、防護具（全面マスク、個人線量計、ゴム手袋等）を装備又は携行して作業を行う。                      操作性：通常行う弁操作と同じであり、容易に操作可能である。                      連絡手段：事故環境下において通常の連絡手段が使用不能となった場合でも、携行型通話装置を使用し、確実に中央制御室へ連絡することが可能である。</p>	<p><b>【大飯】設備の相違（相違理由①）</b></p>



1.8 原子炉格納容器下部の溶融炉心を冷却するための手順等

泊発電所3号炉 技術的能力 比較表

灰色：女川2号炉の記載のうち、BWR固有の設備や対応手段であり、泊3号炉と比較対象とならない記載内容

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

大飯発電所3 / 4号炉	泊発電所3号炉	相違理由
<div data-bbox="423 778 678 831" style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;">比較対象なし</div>	<div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> <div style="text-align: center;">  <p data-bbox="1160 501 1482 592">可搬型大型送水ポンプ車による原子炉格納容器下部への注水系統構成                      （運転員（現場）B）                      （原子炉補助建屋 T.P. 10. 3m）</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p data-bbox="1505 501 1827 592">可搬型大型送水ポンプ車による原子炉格納容器下部への注水系統構成                      （運転員（現場）C）                      （周辺補機棟 T.P. 10. 3m）</p> </div> </div>	

灰色：女川2号炉の記載のうち、BWR固有の設備や対応手段であり、泊3号炉と比較対象とならない記載内容

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

1.8 原子炉格納容器下部の溶融炉心を冷却するための手順等

大飯発電所3/4号炉	泊発電所3号炉	相違理由
<p style="text-align: right;">添付資料 1.8.10-(1)</p> <p style="text-align: center;">A格納容器スプレイポンプ（自己冷却）による代替格納容器スプレイ</p> <p>【自己冷却ラインディスタンスピース取替え】</p> <p>1. 操作概要                      A格納容器スプレイポンプ（自己冷却）による代替格納容器スプレイ準備のために、自己冷却ラインのディスタンスピースを閉止用から通水用に取り替える。</p> <p>2. 必要要員数及び作業時間                      必要要員数：2名/ユニット                      作業時間（想定）：65分                      作業時間（実績）：60分（現場移動時間を含む。）</p> <p>3. 操作の成立性                      アクセス性：ヘッドライト、懐中電灯等を携帯していることから、アクセス可能である。                      作業環境：室温及び放射線量は通常運転状態と同等である。また、ヘッドライト、懐中電灯等を携帯していることから、事故環境下においても作業可能である。                      また、汚染が予想されることから個人線量計を携帯し、全面マスク等を着用する。                      操作性：ディスタンスピース取替え作業は一般的な作業であるため、容易に実施可能である。                      連絡手段：事故環境下において通常の連絡手段が使用不能となった場合でも、携行型通話装置を使用し、確実に連絡可能である。</p>	<p style="text-align: right;">添付資料1.8.12</p> <p style="text-align: center;">B一格納容器スプレイポンプ（自己冷却）による原子炉格納容器下部への注水</p> <p>【B一格納容器スプレイポンプ（自己冷却）による原子炉格納容器下部への注水（系統構成及び可搬型ホース接続）】</p> <p>1. 操作概要                      原子炉補機冷却設備のうち原子炉補機冷却水設備によるB一格納容器スプレイポンプの冷却が不能になった場合に、B一格納容器スプレイポンプ自己冷却ラインを使用し冷却水を確保して、ポンプ運転を行うための系統構成を実施する。</p> <p>2. 操作場所                      原子炉補助建屋 T.P. 2.8m, T.P. -1.7m</p> <p>3. 必要要員数及び操作時間                      必要要員数：2名                      操作時間（想定）：40分                      操作時間（訓練実績等）：20分（現場移動、放射線防護具着用時間を含む。）</p> <p>4. 操作の成立性                      移動経路：ヘッドライト、懐中電灯等を携帯していることから、建屋内照明消灯時においてもアクセス可能である。また、アクセスルート上に支障となる設備はない。                      作業環境：事故環境下における室温は通常運転状態と同等である。また、作業エリアに設置されている照明はバッテリー内蔵型であり、事故環境下においても作業可能である。                      操作は汚染の可能性を考慮し、防護具（全面マスク、個人線量計、ゴム手袋等）を装備又は携行して作業を行う。                      操作性：通常行う弁操作と同じであり、容易に操作可能である。また、可搬型ホースの接続はクイックカブラ式であり、容易に接続可能である。                      連絡手段：事故環境下において通常の連絡手段が使用不能となった場合でも、携行型通話装置を使用し、確実に中央制御室へ連絡することが可能である。</p>	<p>【大飯】                      記載方針の相違                      ・泊は系統構成及び可搬型ホース接続について、まとめて整理している。</p> <p>【大飯】                      記載表現の相違                      (女川実績の反映)</p> <p>【大飯】設備の相違                      (相違理由⑥)</p>

灰色：女川2号炉の記載のうち、BWR固有の設備や対応手段であり、泊3号炉と比較対象とならない記載内容

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

1.8 原子炉格納容器下部の溶融炉心を冷却するための手順等

大飯発電所3/4号炉	泊発電所3号炉	相違理由
<div data-bbox="165 240 524 475" data-label="Image"> </div> <div data-bbox="232 501 450 531" data-label="Caption"> <p>① ディスタンスピース</p> </div> <div data-bbox="607 234 936 485" data-label="Image"> </div> <div data-bbox="636 491 904 542" data-label="Caption"> <p>② ディスタンスピース取替え              (原子炉周辺建屋 E.L.+3.5m)</p> </div> <div data-bbox="176 560 510 810" data-label="Image"> </div> <div data-bbox="226 821 459 850" data-label="Caption"> <p>③ ベンティングホース接続</p> </div>	<div data-bbox="1093 266 1444 533" data-label="Image"> </div> <div data-bbox="1122 539 1406 593" data-label="Caption"> <p>可搬型ホース接続              (原子炉補助建屋 T.P.-1.7m)</p> </div> <div data-bbox="1507 266 1861 533" data-label="Image"> </div> <div data-bbox="1485 539 1897 619" data-label="Caption"> <p>B-格納容器スプレイポンプ              (自己冷却) 原子炉格納容器注水系統構成              (原子炉補助建屋 T.P.-1.7m)</p> </div>	

灰色：女川2号炉の記載のうち、BWR固有の設備や対応手段であり、泊3号炉と比較対象とならない記載内容

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

1.8 原子炉格納容器下部の溶融炉心を冷却するための手順等

大飯発電所3/4号炉	泊発電所3号炉	相違理由
<p style="text-align: right;">添付資料 1.8.10-(2)</p> <p><b>【系統構成】</b></p> <p>1. 操作概要                      原子炉補機冷却水系によるA格納容器スプレイポンプの冷却が不能になった場合に、A格納容器スプレイポンプの自己冷却ラインを使用し冷却水を確保して、ポンプ運転を行うための系統構成を実施する。</p> <p>2. 必要要員数及び操作時間                      必要要員数：2名/ユニット                      操作時間（想定）：50分                      操作時間（実績）：36分（現場移動時間を含む、常用照明切にて実施。）</p> <p>3. 操作の成立性                      アクセス性：ヘッドライト、懐中電灯等を携行していることから、アクセス可能である。                      作業環境：事故環境下における室温は通常運転状態と同等である。また、ヘッドライト、懐中電灯等を携行していることから、事故環境下においても作業可能である。また、汚染が予想されることから個人線量計を携帯し、全面マスク等を着用する。                      操作性：通常行う弁操作と同等であり、容易に操作可能である。                      連絡手段：事故環境下において通常の連絡手段が使用不能となった場合でも、携行型通話装置を使用し、確実に連絡可能である。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div data-bbox="125 810 528 1093"> </div> <div data-bbox="551 810 976 1093"> </div> </div> <div style="display: flex; justify-content: space-around; margin-top: 10px;"> <div data-bbox="203 1102 470 1174"> <p>①A格納容器スプレイポンプ 自己冷却運転系統構成 (原子炉周辺建屋 E.L.+3.5m)</p> </div> <div data-bbox="640 1102 907 1174"> <p>②A格納容器スプレイポンプ 自己冷却運転系統構成 (原子炉周辺建屋 E.L.+3.5m)</p> </div> </div>	<div style="border: 1px solid black; padding: 10px; width: fit-content; margin: auto;">比較対象なし</div>	<p><b>【大飯】</b>                      記載方針の相違                      ・泊は系統構成及び可搬型ホース接続について、まとめて整理している。</p>

灰色：女川2号炉の記載のうち、BWR固有の設備や対応手段であり、泊3号炉と比較対象とならない記載内容

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

1.8 原子炉格納容器下部の溶融炉心を冷却するための手順等

大飯発電所3/4号炉		添付資料 1.8.11																																										
<p>代替格納容器スプレイと代替炉心注水を同時に行う場合の対応設備の組み合わせについて</p> <p>重大事故等時において格納容器スプレイと炉心注水を同時に行う必要がある場合、交流動力電源が健全な場合には、<b>格納容器スプレイ設備</b>又は<b>安全注入設備</b>のどちらかが故障しても、健全側設備と故障側設備に対応する重大事故等対処設備等により同時に注水することが可能である。</p> <p>しかし、全交流動力電源が喪失した場合は、電源が復旧しても<b>原子炉補機冷却水系</b>が喪失していると、<b>格納容器スプレイ設備</b>と<b>安全注入設備</b>が同時に機能喪失となる。よって、全交流動力電源喪失時における<b>格納容器</b>及び<b>原子炉</b>への注水を同時に行う場合の対応設備を整理する。</p> <p>【比較のため、川内1/2号炉の添付資料1.8.13を掲載】（比較箇所のみ抜粋）</p> <p>(1) 全交流動力電源喪失時における対応設備の組み合わせ</p> <p>全交流動力電源喪失時に1次冷却材喪失事象（大破断）が発生した場合又は炉心が損傷した場合は、<b>格納容器破損防止のため格納容器</b>への注水を行う。さらに炉心への<b>注入</b>が必要となり、代替格納容器スプレイと代替炉心<b>注入</b>の手段を同時に行う場合は、<b>格納容器</b>への注水を優先させる。</p> <p>こうした場合において、厳しい状況を想定しても<b>格納容器</b>及び<b>炉心</b>へ同時に<b>注入</b>が可能である対応設備を表1に整理する。</p> <p>1. 全交流動力電源喪失時における対応設備の組み合わせ</p> <p>全交流動力電源喪失時に<b>1次冷却材喪失</b>が発生した場合は、<b>炉心の著しい損傷を防止するため原子炉へ注水と、格納容器の破損を防止のため代替格納容器スプレイを同時に行う場合がある。</b></p> <p>こうした場合において、厳しい状況を想定しても<b>格納容器</b>及び<b>原子炉</b>へ同時に注水が可能である対応設備を表1に整理する。</p>																																												
<p>表1 代替格納容器スプレイ及び代替炉心注水を同時に行う場合の対応設備の整理</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2"></th> <th rowspan="2"></th> <th colspan="4">代替格納容器スプレイ</th> </tr> <tr> <th>恒設代替低圧注水ポンプ</th> <th>ディーゼル消火ポンプ</th> <th>A格納容器スプレイポンプ（自己冷却）</th> <th>可搬式代替低圧注水ポンプ</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="6">代替炉心注水</td> <td>恒設代替低圧注水ポンプ</td> <td>※1</td> <td>×</td> <td>×</td> <td>×</td> </tr> <tr> <td>B充てんポンプ（自己冷却）</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> </tr> <tr> <td>A格納容器スプレイポンプ（自己冷却）（RHRS-CSS連絡ライン使用）</td> <td>×</td> <td>×</td> <td>※1</td> <td>×</td> </tr> <tr> <td>ディーゼル消火ポンプ</td> <td>×</td> <td>※1</td> <td>×</td> <td>×</td> </tr> <tr> <td>可搬式代替低圧注水ポンプ</td> <td>×</td> <td>×</td> <td>×</td> <td>※1</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>※1 容量制限及び背圧に相違があるため、炉心注水と格納容器スプレイの同時実施は困難</p>						代替格納容器スプレイ				恒設代替低圧注水ポンプ	ディーゼル消火ポンプ	A格納容器スプレイポンプ（自己冷却）	可搬式代替低圧注水ポンプ	代替炉心注水	恒設代替低圧注水ポンプ	※1	×	×	×	B充てんポンプ（自己冷却）	○	○	○	○	A格納容器スプレイポンプ（自己冷却）（RHRS-CSS連絡ライン使用）	×	×	※1	×	ディーゼル消火ポンプ	×	※1	×	×	可搬式代替低圧注水ポンプ	×	×	×	※1					
		代替格納容器スプレイ																																										
		恒設代替低圧注水ポンプ	ディーゼル消火ポンプ	A格納容器スプレイポンプ（自己冷却）	可搬式代替低圧注水ポンプ																																							
代替炉心注水	恒設代替低圧注水ポンプ	※1	×	×	×																																							
	B充てんポンプ（自己冷却）	○	○	○	○																																							
	A格納容器スプレイポンプ（自己冷却）（RHRS-CSS連絡ライン使用）	×	×	※1	×																																							
	ディーゼル消火ポンプ	×	※1	×	×																																							
	可搬式代替低圧注水ポンプ	×	×	×	※1																																							

泊発電所3号炉		添付資料1.8.13		相違理由																																				
<p>代替格納容器スプレイと代替炉心注水を同時に行う場合の対応設備の組み合わせについて</p> <p>重大事故等時において格納容器スプレイと炉心注水を同時に行う必要がある場合、交流動力電源が健全な場合には、<b>原子炉格納容器スプレイ設備</b>又は<b>非常用炉心冷却設備</b>のどちらかが故障しても、健全側設備と故障側設備に対応する重大事故等対処設備等により同時に注水することが可能である。</p> <p>しかし、全交流動力電源が喪失した場合は、電源が復旧しても<b>原子炉補機冷却水設備</b>が喪失していると、<b>原子炉格納容器スプレイ設備</b>と<b>非常用炉心冷却設備</b>が同時に機能喪失となる。よって、全交流動力電源喪失時における<b>原子炉格納容器</b>及び<b>原子炉容器</b>への注水を同時に行う場合の対応設備を整理する。</p> <p>(1) 全交流動力電源喪失時における対応設備の組み合わせ</p> <p>全交流動力電源喪失時に1次冷却材喪失事象（大破断）が発生した場合、<b>全交流動力電源喪失時に補助給水機能が喪失した場合</b>又は炉心が損傷した場合は、<b>原子炉格納容器破損防止のため原子炉格納容器</b>への注水を行う。さらに<b>原子炉容器</b>への注水が必要となり、代替格納容器スプレイと代替炉心注水の手段を同時に行う場合は、<b>原子炉格納容器</b>への注水を優先させる。</p> <p>こうした場合において、厳しい状況を想定しても<b>原子炉格納容器</b>及び<b>原子炉容器</b>へ同時に注水が可能である対応設備を表1に整理する。</p>																																								
<p>表1 代替格納容器スプレイ及び代替炉心注水を同時に行う場合の対応設備の整理</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2"></th> <th rowspan="2"></th> <th colspan="4">代替格納容器スプレイ</th> </tr> <tr> <th>代替格納容器スプレイポンプ</th> <th>B格納容器スプレイポンプ（自己冷却）</th> <th>ディーゼル駆動消火ポンプ</th> <th>可搬式大型送水ポンプ車</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="5">代替炉心注水</td> <td>代替格納容器スプレイポンプ</td> <td>※1</td> <td>×</td> <td>×</td> <td>×</td> </tr> <tr> <td>B充てんポンプ（自己冷却）</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> </tr> <tr> <td>B格納容器スプレイポンプ（自己冷却）（RHRS-CSS連絡ライン使用）</td> <td>×</td> <td>※1</td> <td>×</td> <td>×</td> </tr> <tr> <td>ディーゼル駆動消火ポンプ</td> <td>×</td> <td>×</td> <td>※1</td> <td>×</td> </tr> <tr> <td>可搬式大型送水ポンプ車</td> <td>×</td> <td>×</td> <td>×</td> <td>※1</td> </tr> </tbody> </table> <p>※1：容量制限及び背圧に相違があるため、格納容器スプレイと炉心注水の同時実施は困難</p>						代替格納容器スプレイ				代替格納容器スプレイポンプ	B格納容器スプレイポンプ（自己冷却）	ディーゼル駆動消火ポンプ	可搬式大型送水ポンプ車	代替炉心注水	代替格納容器スプレイポンプ	※1	×	×	×	B充てんポンプ（自己冷却）	○	○	○	○	B格納容器スプレイポンプ（自己冷却）（RHRS-CSS連絡ライン使用）	×	※1	×	×	ディーゼル駆動消火ポンプ	×	×	※1	×	可搬式大型送水ポンプ車	×	×	×	※1	<p>【大飯】 設備名称の相違</p> <p>【大飯】 記載表現の相違</p> <p>【大飯】運用の相違（相違理由③） ・泊の原子炉格納容器注水判断について、考え方が類似している川内1/2号炉の記載内容を比較対象としている。</p> <p>【川内】運用の相違 ・泊は全交流動力電源喪失時に補助給水機能が喪失した場合は、炉心損傷に至る可能性があり、MCCIによる原子炉格納容器破損を防止するため、原子炉格納容器下部への注水を行う。</p> <p>【川内】 記載表現の相違</p>
		代替格納容器スプレイ																																						
		代替格納容器スプレイポンプ	B格納容器スプレイポンプ（自己冷却）	ディーゼル駆動消火ポンプ	可搬式大型送水ポンプ車																																			
代替炉心注水	代替格納容器スプレイポンプ	※1	×	×	×																																			
	B充てんポンプ（自己冷却）	○	○	○	○																																			
	B格納容器スプレイポンプ（自己冷却）（RHRS-CSS連絡ライン使用）	×	※1	×	×																																			
	ディーゼル駆動消火ポンプ	×	×	※1	×																																			
	可搬式大型送水ポンプ車	×	×	×	※1																																			

1.8 原子炉格納容器下部の溶融炉心を冷却するための手順等

泊発電所3号炉 技術的能力 比較表

灰色：女川2号炉の記載のうち、BWR固有の設備や対応手段であり、泊3号炉と比較対象とならない記載内容

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

大飯発電所3/4号炉	泊発電所3号炉	相違理由
<p>表1に示すように格納容器及び原子炉へ同時に注水可能である対応設備で格納容器への注水を行う場合、恒設代替低圧注水ポンプ、ディーゼル消火ポンプ、A格納容器スプレイポンプ(自己冷却)、可搬型代替低圧注水ポンプのいずれかにより代替格納容器スプレイを行うと、代替炉心注水は、B充てんポンプ(自己冷却)が使用可能である(代替格納容器スプレイと代替炉心注水を同時に行う場合の概略系統は図1参照)。</p> <p>このように格納容器スプレイ及び原子炉への注水を同時に行う場合は、プラント状況に応じた対応手段を選択し、各対応設備の組み合わせを考慮する必要がある。</p>	<p>表1に示すように原子炉格納容器及び原子炉容器へ同時に注水が可能である対応設備で原子炉格納容器への注水を行う場合、代替格納容器スプレイポンプ、B-格納容器スプレイポンプ(自己冷却)、ディーゼル駆動消火ポンプ、可搬型大型送水ポンプ車のいずれかにより代替格納容器スプレイを行うと、代替炉心注水は、B-充てんポンプ(自己冷却)が使用可能である(代替格納容器スプレイと代替炉心注水を同時に行う場合の概要図は図1参照)。</p> <p>このように格納容器スプレイ及び炉心注水を同時に行う場合は、プラント状況に応じた対応手段を選択し、各対応設備の組み合わせを考慮する必要がある。</p>	<p>【大飯】運用の相違(相違理由①)</p> <p>【大飯】記載表現の相違</p>
<p>図1 概略系統 (代替炉心注水と代替格納容器スプレイを同時に行う場合)</p>	<p>図1 概要図 (代替格納容器スプレイと代替炉心注水を同時に行う場合)</p>	

灰色：女川2号炉の記載のうち、BWR固有の設備や対応手段であり、泊3号炉と比較対象とならない記載内容

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

1.8 原子炉格納容器下部の溶融炉心を冷却するための手順等

大飯発電所3/4号炉	泊発電所3号炉	相違理由																																						
<p style="text-align: right;">添付資料 1.8.12</p> <p>設置許可本文、添付十（追補1）への原子炉下部キャビティ注水に係る手順の記載方針について</p> <p>大飯3号炉及び4号炉における原子炉下部キャビティ注水操作については、恒設代替低圧注水ポンプにより実施するが、恒設代替低圧注水ポンプはこれとは別の用途に使用することも可能である。</p> <p>従って、どのような場合であっても第一優先である原子炉下部キャビティ注水操作に影響を及ぼすことのないような手順とする必要があり、各条文において作業着手の判断基準及び優先される用途への切替手順等について記載することとする。</p> <p>1. 恒設代替低圧注水ポンプを用いた手段の優先順位について</p> <p>(1) 恒設代替低圧注水ポンプ優先順位</p> <p>各条文における記載内容については、別紙 表1のとおり</p> <table border="1" data-bbox="114 555 987 767"> <thead> <tr> <th rowspan="2">優先順位</th> <th colspan="2">炉心損傷前</th> <th colspan="2">炉心損傷後</th> </tr> <tr> <th>機能</th> <th>関連条文</th> <th>機能</th> <th>関連条文</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>代替炉心注水 (SA)</td> <td>1.4 ①</td> <td>代替格納容器スプレィ (SA)</td> <td>1.4、1.6、1.7、1.8 ②</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>代替格納容器スプレィ (SA)</td> <td>1.6 ①</td> <td>代替炉心注水(落下遅延・防止) (SA)</td> <td>1.8 ②</td> </tr> </tbody> </table> <p>&lt;関連条文 補足&gt;</p> <p>1.4：RV低圧時の冷却手順（代替炉心注水、残存溶融デブリ冷却のための代替CVスプレィ）</p> <p>1.6：CV冷却手順</p> <p>1.7：CV過圧破損防止手順</p> <p>1.8：CV下部の溶融炉心冷却手順（代替格納容器スプレィ、代替炉心注水（落下遅延・防止））</p> <p>①～③：他用途から本使命への切替手順作成                  ①～②：劣位使命における優先使命からの制限事項記載</p>	優先順位	炉心損傷前		炉心損傷後		機能	関連条文	機能	関連条文	1	代替炉心注水 (SA)	1.4 ①	代替格納容器スプレィ (SA)	1.4、1.6、1.7、1.8 ②	2	代替格納容器スプレィ (SA)	1.6 ①	代替炉心注水(落下遅延・防止) (SA)	1.8 ②	<p style="text-align: right;">添付資料1.8.14</p> <p>設置許可本文、添付十（追補1）への原子炉下部キャビティ注水に係る手順の記載方針について</p> <p>泊発電所3号炉における原子炉下部キャビティ注水操作については、代替格納容器スプレィポンプにより実施するが、代替格納容器スプレィポンプはこれとは別の用途に使用することも可能である。</p> <p>したがって、どのような場合であっても第一優先である原子炉下部キャビティ注水操作に影響を及ぼすことのないような手順とする必要があり、各条文において手順着手の判断基準及び優先される用途への切替手順等について記載することとする。</p> <p>1. 代替格納容器スプレィポンプを用いた手段の優先順位について</p> <p>(1) 代替格納容器スプレィポンプ優先順位</p> <p>各条文における記載内容については、別紙 表1のとおり</p> <table border="1" data-bbox="1055 555 1928 767"> <thead> <tr> <th rowspan="2">優先順位</th> <th colspan="2">炉心損傷前</th> <th colspan="2">炉心損傷後</th> </tr> <tr> <th>機能</th> <th>関連条文</th> <th>機能</th> <th>関連条文</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>代替炉心注水 (SA)</td> <td>1.4 ①</td> <td>代替格納容器スプレィ (SA)</td> <td>1.4、1.6、1.7、1.8 ②</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>代替格納容器スプレィ (SA) ①</td> <td>1.6 ①</td> <td>代替炉心注水(落下遅延・防止) (SA) ②</td> <td>1.8</td> </tr> </tbody> </table> <p>&lt;関連条文 補足&gt;</p> <p>1.4：RCPB低圧時の冷却手順（代替炉心注水、残存溶融炉心の冷却のための代替C/Vスプレィ）</p> <p>1.6：C/V冷却手順</p> <p>1.7：C/V過圧破損防止手順</p> <p>1.8：C/V下部の溶融炉心冷却手順（代替格納容器スプレィ、代替炉心注水（落下遅延・防止））</p> <p>①～③：他用途から本使命への切替手順作成                  ①～②：劣位使命における優先使命からの制限事項記載</p>	優先順位	炉心損傷前		炉心損傷後		機能	関連条文	機能	関連条文	1	代替炉心注水 (SA)	1.4 ①	代替格納容器スプレィ (SA)	1.4、1.6、1.7、1.8 ②	2	代替格納容器スプレィ (SA) ①	1.6 ①	代替炉心注水(落下遅延・防止) (SA) ②	1.8	<p>【大飯】 記載表現の相違</p> <p>【大飯】 記載表現の相違 ・本添付資料において、以降、同様の相違は、相違理由の記載を省略する。</p>
優先順位		炉心損傷前		炉心損傷後																																				
	機能	関連条文	機能	関連条文																																				
1	代替炉心注水 (SA)	1.4 ①	代替格納容器スプレィ (SA)	1.4、1.6、1.7、1.8 ②																																				
2	代替格納容器スプレィ (SA)	1.6 ①	代替炉心注水(落下遅延・防止) (SA)	1.8 ②																																				
優先順位	炉心損傷前		炉心損傷後																																					
	機能	関連条文	機能	関連条文																																				
1	代替炉心注水 (SA)	1.4 ①	代替格納容器スプレィ (SA)	1.4、1.6、1.7、1.8 ②																																				
2	代替格納容器スプレィ (SA) ①	1.6 ①	代替炉心注水(落下遅延・防止) (SA) ②	1.8																																				

灰色：女川2号炉の記載のうち、BWR固有の設備や対応手段であり、泊3号炉と比較対象とならない記載内容

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

1.8 原子炉格納容器下部の溶融炉心を冷却するための手順等

大飯発電所3/4号炉	泊発電所3号炉	相違理由
<p>2. 恒設代替低圧注水ポンプの注水先を切り替える場面の想定</p> <p>(1) 恒設代替低圧注水ポンプの注水先を切り替える場面</p> <p>a. 炉心損傷前の代替炉心注水から炉心損傷後の代替格納容器スプレイへの切替え（手順③）                  炉心損傷前に高、低圧注入系故障に伴い、恒設代替低圧注水ポンプで代替炉心注水を実施していた際に、炉心損傷に進展し、全交流動力電源喪失若しくは原子炉補機冷却機能喪失、またはそれまで運転していた格納容器スプレイポンプの故障が重畳した場合、恒設代替低圧注水ポンプの注水先を代替炉心注水から代替格納容器スプレイ（1.4：残存溶融デブリ冷却手順、1.6：CV冷却手順、1.7：CV過圧破損防止手順、1.8：CV下部の溶融炉心冷却手順）へ切り替える場面が想定される。</p> <p>b. 炉心損傷前の代替格納容器スプレイから代替炉心注水への切替え（手順①）                  炉心損傷前に高、低圧注入系が運転し、格納容器スプレイ系の全台故障により恒設代替低圧注水ポンプで代替格納容器スプレイを実施していた際に、高、低圧注入系が故障した場合、炉心損傷前であれば、恒設代替低圧注水ポンプの注水先を代替格納容器スプレイから代替炉心注水（1.4）へ切り替える場面が想定される。</p> <p>c. 代替炉心注水（落下遅延・防止）から代替格納容器スプレイへの切替え（手順②）                  高、低圧注入系機能喪失とA系格納容器スプレイ機能喪失が重畳し、炉心損傷した後、B格納容器スプレイポンプで格納容器スプレイを実施し、恒設代替低圧注水ポンプで代替炉心注水（落下遅延・防止）を行っている際に、それまで運転していたB格納容器スプレイポンプが故障した場合、恒設代替低圧注水ポンプの注水先を代替炉心注水（落下遅延・防止）から代替格納容器スプレイ（1.4：残存溶融デブリ冷却手順、1.6：CV冷却手順、1.7：CV過圧破損防止手順、1.8：CV下部の溶融炉心冷却手順）へ切り替える場面が想定される。</p> <p>【別紙】</p> <p>1. 表1 恒設代替低圧注水ポンプの関連条文の優先順位等の整理</p> <p>2. 手順作成要否の考え方</p>	<p>2. 代替格納容器スプレイポンプの注水先を切り替える場面の想定</p> <p>(1) 代替格納容器スプレイポンプの注水先を切り替える場面</p> <p>a. 炉心損傷前の代替炉心注水から炉心損傷後の代替格納容器スプレイへの切替え（手順③）                  炉心損傷前に高、低圧注入系故障に伴い、代替格納容器スプレイポンプで代替炉心注水を実施していた際に、炉心損傷に進展し、全交流動力電源喪失若しくは原子炉補機冷却機能喪失、又はそれまで運転していた格納容器スプレイポンプの故障が重畳した場合、代替格納容器スプレイポンプの注水先を原子炉容器から原子炉格納容器（1.4：残存溶融炉心の冷却手順、1.6：C/V冷却手順、1.7：C/V過圧破損防止手順、1.8：C/V下部の溶融炉心冷却手順）へ切り替える場面が想定される。</p> <p>b. 炉心損傷前の代替格納容器スプレイから代替炉心注水への切替え（手順①）                  炉心損傷前に高、低圧注入系が運転し、格納容器スプレイ系の全台故障により代替格納容器スプレイポンプで代替格納容器スプレイを実施していた際に、高、低圧注入系が故障した場合、炉心損傷前であれば、代替格納容器スプレイポンプの注水先を原子炉格納容器から原子炉容器（1.4）へ切り替える場面が想定される。</p> <p>c. 代替炉心注水（落下遅延・防止）から代替格納容器スプレイへの切替え（手順②）                  高、低圧注入系機能喪失とB系格納容器スプレイ機能喪失が重畳し、炉心損傷した後、A格納容器スプレイポンプで格納容器スプレイを実施し、代替格納容器スプレイポンプで代替炉心注水（落下遅延・防止）を行っている際に、それまで運転していたA格納容器スプレイポンプが故障した場合、代替格納容器スプレイポンプの注水先を原子炉容器から原子炉格納容器（1.4：残存溶融炉心の冷却手順、1.6：C/V冷却手順、1.7：C/V過圧破損防止手順、1.8：C/V下部の溶融炉心冷却手順）へ切り替える場面が想定される。</p> <p>【別紙】</p> <p>1. 表1 代替格納容器スプレイポンプの関連条文の優先順位等の整理</p> <p>2. 手順作成要否の考え方</p>	<p>【大飯】 記載表現の相違</p> <p>【大飯】 記載表現の相違</p> <p>【大飯】 記載表現の相違</p>





灰色：女川2号炉の記載のうち、BWR固有の設備や対応手段であり、泊3号炉と比較対象とならない記載内容

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

1.8 原子炉格納容器下部の溶融炉心を冷却するための手順等

大飯発電所3 / 4号炉	泊発電所3号炉	相違理由
<p style="text-align: right;">別紙-2</p> <p style="text-align: center;">手順作成要否の考え方</p> <p>1. はじめに                  恒設代替低圧注水ポンプを使用する際の制限事項や優先順位の考え方を表1として整理するに際しての記載の考え方を次項以降にとりまとめる。                  なお、次項の作業において手順の作成が必要となれば、本文及び添付十、追補に反映する。</p> <p>2. 記載の考え方                  (1) 手順を定める必要がある場合                  a. 切替手順                  左縦列の機能を遂行中に、上段に掲げる各条文の手順着手の判断基準（以下、着手基準）に該当することとなった場合に、本来使命への切替手順が必要である場合は、本来使命側に切替手順を記載する一方、他用途側には“本来使命側に切り替える”旨の注記を行う。                  上記判断結果を切替手順欄に記載する。                  なお、記載内容は以下のとおり                  ・ ・ ・「◎切替手順」</p> <p>b. 制限事項                  上段に掲げる条文要求に従い手順に着手しようとする場合に、当該手順よりも優先順位の高い手順に使用していないことを確認する必要がある場合は、優先順位の低い手順側に制限事項を記載する。                  上記判断結果を制限事項欄に記載する。                  なお、記載内容は以下のとおり                  ・ ・ ・「○制限事項」</p> <p>(2) 手順を定める必要がない場合                  a. 切替手順                  左縦列の機能を遂行中に、上段に掲げる各条文の着手基準に該当することとなった場合に、本来使命への切替手順の作成が必要がない場合、その理由を含めて以下のとおり、記載する。                  なお、同一条文の同一手順同士は斜線とする。                  ・ ・ ・「-（丸数字：理由）」</p> <p>手順を定めなくてもよい具体的理由は以下の6種類に分類される。</p> <p>(a) 「-（①：○○手順（機能）なし）」                  技術的能力に手順が定められていない場合やポンプに特定の機能がない場合                  説明1：表1において、技術的能力1.4（RV低圧時の冷却手順）のうち、「SG2次側による炉心冷却」の手順に代替炉心注水が整備されておらず、検討不要</p>	<p style="text-align: right;">別紙-2</p> <p style="text-align: center;">手順作成要否の考え方</p> <p>1. はじめに                  代替格納容器スプレイポンプを使用する際の制限事項や優先順位の考え方を表1として整理するに際しての記載の考え方を次項以降にとりまとめる。                  なお、次項の作業において手順の作成が必要となれば、本文及び添付十、追補に反映する。</p> <p>2. 記載の考え方                  (1) 手順を定める必要がある場合                  a. 切替手順                  左縦列の機能を遂行中に、上段に掲げる各条文の手順着手の判断基準（以下「着手基準」という。）に該当することとなった場合に、本来使命への切替手順が必要である場合は、本来使命側に切替手順を記載する一方、他用途側には“本来使命側に切り替える”旨の注記を行う。                  上記判断結果を切替手順欄に記載する。                  なお、記載内容は以下のとおり                  ・ ・ ・「◎切替手順」</p> <p>b. 制限事項                  上段に掲げる条文要求に従い手順に着手しようとする場合に、当該手順よりも優先順位の高い手順に使用していないことを確認する必要がある場合は、優先順位の低い手順側に制限事項を記載する。                  上記判断結果を制限事項欄に記載する。                  なお、記載内容は以下のとおり                  ・ ・ ・「○制限事項」</p> <p>(2) 手順を定める必要がない場合                  a. 切替手順                  左縦列の機能を遂行中に、上段に掲げる各条文の着手基準に該当することとなった場合に、本来使命への切替手順の作成が必要がない場合、その理由を含めて以下のとおり、記載する。                  なお、同一条文の同一手順同士は斜線とする。                  ・ ・ ・「-（丸数字：理由）」</p> <p>手順を定めなくてもよい具体的理由は以下の6種類に分類される。</p> <p>(a) 「-（①：○○手順（機能）なし）」                  技術的能力に手順が定められていない場合やポンプに特定の機能がない場合                  説明1：表1において、技術的能力1.4（RCPB低圧時の冷却手順）のうち、「SG2次側からの除熱による発電用原子炉の冷却」の手順に代替炉心注水が整備されておらず、検討不要。</p>	<p>【大飯】                  記載表現の相違</p> <p>【大飯】                  記載表現の相違</p>

灰色：女川2号炉の記載のうち、BWR固有の設備や対応手段であり、泊3号炉と比較対象とならない記載内容

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

1.8 原子炉格納容器下部の溶融炉心を冷却するための手順等

大飯発電所3/4号炉	泊発電所3号炉	相違理由
<p>(b) 「一 (②：同一手段)」</p> <p>遂行中の手段と条文から要求される手段について、主たる目的は異なるが、系統構成、使用機器、使用手順が同一であり、系統構成の変更（注水先の変更）を必要としない場合</p> <p>説明2：表1において、代替炉心注水を実施していた際に、炉心損傷に進展し、1.8（CV下部の溶融炉心冷却手順）要求の代替炉心注水（落下遅延・防止）が必要となったとしても、同一手段を継続すればよいため、切替手順の作成は不要である。</p> <p>説明3：表1において、炉心損傷前に代替格納容器スプレイを実施していた際に、炉心損傷に進展し、1.4（残存溶融<del>デブリ</del>冷却手順）、1.6（CV冷却手順）、1.7（CV過圧破損防止手順）、1.8（CV下部の溶融炉心冷却手順）要求の代替格納容器スプレイが必要となったとしても、同一手段を継続遂行すればよいため、切替手順の作成は不要である。</p> <p>説明4：表1において、炉心損傷後に残存<del>デブリ</del>冷却のための代替格納容器スプレイを実施していた際に、1.6（CV冷却手順）、1.7（CV過圧破損防止手順）、1.8（CV下部の溶融炉心冷却手順）要求の代替格納容器スプレイが、また、炉心損傷後に格納容器減圧のための代替格納容器スプレイを実施していた際に、1.4（残存溶融<del>デブリ</del>冷却手順）、1.8（CV下部の溶融炉心冷却手順）要求の代替格納容器スプレイが必要となったとしても、同一手段を継続遂行すればよいため、切替手順の作成は不要である。</p> <p>説明5：表1において、炉心損傷後にMCCI防止のための代替格納容器スプレイを実施していた際に、1.4（残存溶融<del>デブリ</del>冷却手順）、1.6（CV冷却手順）、1.7（CV過圧破損防止手順）要求の代替格納容器スプレイが必要となったとしても、同一手段を継続遂行すればよいため、切替手順の作成は不要である。</p> <p>(c) 「一 (③：遂行中操作[機能]優先)」</p> <p>左縦列の機能を遂行中に、上段に掲げる各条文の着手基準に該当することとなったが、遂行中の機能が優先する場合</p> <p>説明6：表1において、炉心損傷前に代替炉心注水を実施していた際に、1.6（CV冷却手順）要求の代替格納容器スプレイが必要となったとしても、遂行中の手段が優先されるため、切替手順の作成は不要である。</p> <p>説明7：表1において、炉心損傷後に代替格納容器スプレイを実施していた際に、1.8要求の代替炉心注水（落下遅延・防止）が必要となったとしても、遂行中の手段が優先されるため、切替手順の作成は不要である。</p> <p>(d) 「一 (④：時間経過上想定不可)」</p> <p>ある機能を遂行中に、上段に掲げる条文要求が時間の進行上想定され得ない場合</p> <p>説明8：表1において、炉心損傷後に着手する代替格納容器スプレイ、代替炉心注水（落下遅延・防止）を実施していた際に、炉心損傷前の手順（1.4：代替炉心注水、1.6：CV冷却手順（炉心損傷前の代替格納容器スプレイ））を想定することは不可能であるため、切替手順の作成は不要である。また、炉心損傷前の代替炉心注水、代替格納容器スプレイを実施していた際に、運転停止中の手段としての代替炉心注水（1.4）が要求されることは想定不可であるため、切替手順の作成は不要である。</p>	<p>(b) 「一 (②：同一手段)」</p> <p>遂行中の手段と条文から要求される手段について、主たる目的は異なるが、系統構成、使用機器、使用手順が同一であり、系統構成の変更（注水先の変更）を必要としない場合</p> <p>説明2：表1において、代替炉心注水を実施していた際に、炉心損傷に進展し、1.8（CV下部の溶融炉心冷却手順）要求の代替炉心注水（落下遅延・防止）が必要となったとしても、同一手段を継続すればよいため、切替手順の作成は不要である。</p> <p>説明3：表1において、炉心損傷前に代替格納容器スプレイを実施していた際に、炉心損傷に進展し、1.4（残存溶融<del>炉心</del>の冷却手順）、1.6（CV冷却手順）、1.7（CV過圧破損防止手順）、1.8（CV下部の溶融炉心冷却手順）要求の代替格納容器スプレイが必要となったとしても、同一手段を継続遂行すればよいため、切替手順の作成は不要である。</p> <p>説明4：表1において、炉心損傷後に残存<del>溶融炉心</del>の冷却のための代替格納容器スプレイを実施していた際に、1.6（CV冷却手順）、1.7（CV過圧破損防止手順）、1.8（CV下部の溶融炉心冷却手順）要求の代替格納容器スプレイが、また、炉心損傷後に原子炉格納容器減圧のための代替格納容器スプレイを実施していた際に、1.4（残存溶融<del>炉心</del>の冷却手順）、1.8（CV下部の溶融炉心冷却手順）要求の代替格納容器スプレイが必要となったとしても、同一手段を継続遂行すればよいため、切替手順の作成は不要である。</p> <p>説明5：表1において、炉心損傷後にMCCI防止のための代替格納容器スプレイを実施していた際に、1.4（残存溶融<del>炉心</del>の冷却手順）、1.6（CV冷却手順）、1.7（CV過圧破損防止手順）要求の代替格納容器スプレイが必要となったとしても、同一手段を継続遂行すればよいため、切替手順の作成は不要である。</p> <p>(c) 「一 (③：遂行中操作[機能]優先)」</p> <p>左縦列の機能を遂行中に、上段に掲げる各条文の着手基準に該当することとなったが、遂行中の機能が優先する場合</p> <p>説明6：表1において、炉心損傷前に代替炉心注水を実施していた際に、1.6（CV冷却手順）要求の代替格納容器スプレイが必要となったとしても、遂行中の手段が優先されるため、切替手順の作成は不要である。</p> <p>説明7：表1において、炉心損傷後に代替格納容器スプレイを実施していた際に、1.8要求の代替炉心注水（落下遅延・防止）が必要となったとしても、遂行中の手段が優先されるため、切替手順の作成は不要である。</p> <p>(d) 「一 (④：時間経過上想定不可)」</p> <p>ある機能を遂行中に、上段に掲げる条文要求が時間の進行上想定され得ない場合</p> <p>説明8：表1において、炉心損傷後に着手する代替格納容器スプレイ、代替炉心注水（落下遅延・防止）を実施していた際に、炉心損傷前の手順（1.4：代替炉心注水、1.6：CV冷却手順（炉心損傷前の代替格納容器スプレイ））を想定することは不可能であるため、切替手順の作成は不要である。また、炉心損傷前の代替炉心注水、代替格納容器スプレイを実施していた際に、運転停止中の手段としての代替炉心注水（1.4）が要求されることは想定不可であるため、切替手順の作成は不要である。</p>	

灰色：女川2号炉の記載のうち、BWR固有の設備や対応手段であり、泊3号炉と比較対象とならない記載内容

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

1.8 原子炉格納容器下部の溶融炉心を冷却するための手順等

大飯発電所3/4号炉	泊発電所3号炉	相違理由
<p>(e) 「一 (⑤：事象進展時、他に優先される操作あり)」                      炉心損傷前から炉心損傷後といったように事象が進展する場合、条文からは複数の手段が求められる。この場合には、必ず優先順位の高い手段が選択されるため、劣位にある手段への切替手順の作成は不要である。                      説明9：表1において、炉心損傷前に代替炉心注水、代替格納容器スプレイを実施していた際に、炉心損傷に進展すれば1.8（CV下部の溶融炉心冷却手順）要求のMCCI防止のための代替格納容器スプレイを実施するため、その他条文要求の代替格納容器スプレイ又は1.8（CV下部の溶融炉心冷却手順）要求の代替炉心注水（落下遅延・防止）に着手することはあり得ないため、切替手順の作成は不要である。</p> <p>(f) 「一 (⑥：事象進展想定不可)」                      運転停止中からの代替格納容器スプレイが必要となる事態への進展が想定されないような場合                      説明10：表1において、運転停止中の代替炉心注水中を実施しているプラント状態において、炉心損傷や代替格納容器スプレイに進展することは想定されない、また、運転中の代替炉心注水の着手基準に該当することは想定されないため、切替手順の作成は不要である。</p> <p>b. 制限事項                      上段に掲げる条文要求に従い手順に着手しようとする場合に、当該手順よりも優先順位の高い手順に使用していないことを確認する制限事項の作成が必要ない場合、その理由を含めて以下のとおり、記載する。なお、同一条文の同一手順同士は斜線とする。                      ・ ・ ・ 「一 (丸数字：理由)」                      手順を定めなくてもよい具体的理由は以下の5種類に分類される。</p> <p>(a) 「一 (①：〇〇手順（機能）なし)」                      技術的能力に手順が定められていない場合や当該ポンプに特定の機能がない場合                      説明11：表1において、技術的能力1.4「SG2次側による炉心冷却」の手順に代替炉心注水が整備されておらず、検討不要</p> <p>(b) 「一 (②：同一手段)」                      遂行しようとする手段と制限要求側の手段について、主たる目的は異なるが、系統構成、使用機器、使用手順が同一であり、系統構成の変更（注水先の変更）が必要なく、制限事項を定める必要がない場合                      説明12：表1において、1.4（残存溶融デブリ冷却手順）、1.6（CV冷却手順）、1.7（CV過圧破損防止手順）、1.8（CV下部の溶融炉心冷却手順）要求の代替格納容器スプレイを実施しようとする場合、着手条文以外の代替格納容器スプレイ機能とは、同一手段であるため、制限事項を定めることは不要である。</p>	<p>(e) 「一 (⑤：事象進展時、他に優先される操作あり)」                      炉心損傷前から炉心損傷後といったように事象が進展する場合、条文からは複数の手段が求められる。この場合には、必ず優先順位の高い手段が選択されるため、劣位にある手段への切替手順の作成は不要である。                      説明9：表1において、炉心損傷前に代替炉心注水、代替格納容器スプレイを実施していた際に、炉心損傷に進展すれば1.8（CV下部の溶融炉心冷却手順）要求のMCCI防止のための代替格納容器スプレイを実施するため、その他条文要求の代替格納容器スプレイ又は1.8（CV下部の溶融炉心冷却手順）要求の代替炉心注水（落下遅延・防止）に着手することはあり得ないため、切替手順の作成は不要である。</p> <p>(f) 「一 (⑥：事象進展想定不可)」                      運転停止中からの代替格納容器スプレイが必要となる事態への進展が想定されないような場合                      説明10：表1において、運転停止中の代替炉心注水を実施しているプラント状態において、炉心損傷や代替格納容器スプレイに進展することは想定されない、また、運転中の代替炉心注水の着手基準に該当することは想定されないため、切替手順の作成は不要である。</p> <p>b. 制限事項                      上段に掲げる条文要求に従い手順に着手しようとする場合に、当該手順よりも優先順位の高い手順に使用していないことを確認する制限事項の作成が必要ない場合、その理由を含めて以下のとおり記載する。なお、同一条文の同一手順同士は斜線とする。                      ・ ・ ・ 「一 (丸数字：理由)」                      手順を定めなくてもよい具体的理由は以下の5種類に分類される。</p> <p>(a) 「一 (①：〇〇手順（機能）なし)」                      技術的能力に手順が定められていない場合や当該ポンプに特定の機能がない場合                      説明11：表1において、技術的能力1.4「SG2次側からの除熱による発電用原子炉の冷却」の手順に代替炉心注水が整備されておらず、検討不要。</p> <p>(b) 「一 (②：同一手段)」                      遂行しようとする手段と制限要求側の手段について、主たる目的は異なるが、系統構成、使用機器、使用手順が同一であり、系統構成の変更（注水先の変更）が必要なく、制限事項を定める必要がない場合                      説明12：表1において、1.4（残存溶融炉心の冷却手順）、1.6（CV冷却手順）、1.7（CV過圧破損防止手順）、1.8（CV下部の溶融炉心冷却手順）要求の代替格納容器スプレイを実施しようとする場合、着手条文以外の代替格納容器スプレイ機能とは、同一手段であるため、制限事項を定めることは不要である。</p>	<p>【大飯】                      記載表現の相違</p>

灰色：女川2号炉の記載のうち、BWR固有の設備や対応手段であり、泊3号炉と比較対象とならない記載内容

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

1.8 原子炉格納容器下部の溶融炉心を冷却するための手順等

大飯発電所3/4号炉	泊発電所3号炉	相違理由
<p>(c) 「－ (④：時間経過上想定不可)」 ある手順を実施しようとするときに、制限事項の設定が時間の進行上想定されない場合</p> <p>説明13：表1において、炉心損傷前に1.4の代替炉心注水、1.6 (CV冷却手順) の代替格納容器スプレイを実施しようとする場合、炉心損傷後の機能 (代替格納容器スプレイ、代替炉心注水 (落下遅延・防止)) から制限事項を定めることは不要である。また、炉心損傷前に代替炉心注水や代替格納容器スプレイを実施しようとする場合、運転停止中の機能からの制限事項を定めることは不要である。</p> <p>説明14：表1において、炉心損傷後の代替格納容器スプレイ (1.4：残存溶融デブリ冷却手順、1.6：CV冷却手順、1.7：CV過圧破損防止手順、1.8：CV下部の溶融炉心冷却手順)、代替炉心注水 (落下遅延・防止) を実施しようとするとき、炉心損傷前の機能 (代替炉心注水、代替格納容器スプレイ) からの制限事項を定めることは不要である。</p> <p>説明15：表1において、運転停止中の代替炉心注水を実施しようとする場合、運転中の代替炉心注水機能や代替格納容器スプレイからの制限事項を定めることは不要である。</p> <p>(d) 「－ (⑦：〇〇優先)」 ある手順を実施しようとするときに、その手順の優先順位が高いため、制限事項を定める必要がない場合。</p> <p>説明16：表1において、炉心損傷前の代替炉心注水 (1.4) を実施しようとする場合は、炉心注水は代替格納容器スプレイに優先するため、代替格納容器スプレイからの制限事項を定めることは不要である。</p> <p>説明17：表1において、炉心損傷後の代替格納容器スプレイ (1.4：残存溶融デブリ冷却手順、1.6：CV冷却手順、1.7：CV過圧破損防止手順、1.8：CV下部の溶融炉心冷却手順) を実施しようとする場合は、代替炉心注水 (落下遅延・防止) に優先されるため、これら機能からの制限事項を定めることは不要である。</p> <p style="text-align: right;">以上</p>	<p>(c) 「－ (④：時間経過上想定不可)」 ある手順を実施しようとするときに、制限事項の設定が時間の進行上想定されない場合</p> <p>説明13：表1において、炉心損傷前に1.4の代替炉心注水、1.6 (C/V冷却手順) の代替格納容器スプレイを実施しようとする場合、炉心損傷後の機能 (代替格納容器スプレイ、代替炉心注水 (落下遅延・防止)) から制限事項を定めることは不要である。また、炉心損傷前に代替炉心注水や代替格納容器スプレイを実施しようとする場合、運転停止中の機能からの制限事項を定めることは不要である。</p> <p>説明14：表1において、炉心損傷後の代替格納容器スプレイ (1.4：残存溶融炉心の冷却手順、1.6：C/V冷却手順、1.7：C/V過圧破損防止手順、1.8：C/V下部の溶融炉心冷却手順)、代替炉心注水 (落下遅延・防止) を実施しようとするとき、炉心損傷前の機能 (代替炉心注水、代替格納容器スプレイ) からの制限事項を定めることは不要である。</p> <p>説明15：表1において、運転停止中の代替炉心注水を実施しようとする場合、運転中の代替炉心注水機能や代替格納容器スプレイからの制限事項を定めることは不要である。</p> <p>(d) 「－ (⑦：〇〇優先)」 ある手順を実施しようとするときに、その手順の優先順位が高いため、制限事項を定める必要がない場合。</p> <p>説明16：表1において、炉心損傷前の代替炉心注水 (1.4) を実施しようとする場合は、炉心注水は代替格納容器スプレイに優先するため、代替格納容器スプレイからの制限事項を定めることは不要である。</p> <p>説明17：表1において、炉心損傷後の代替格納容器スプレイ (1.4：残存溶融炉心の冷却手順、1.6：C/V冷却手順、1.7：C/V過圧破損防止手順、1.8：C/V下部の溶融炉心冷却手順) を実施しようとする場合は、代替炉心注水 (落下遅延・防止) に優先されるため、これら機能からの制限事項を定めることは不要である。</p> <p style="text-align: right;">以上</p>	

灰色：女川2号炉の記載のうち、BWR固有の設備や対応手段であり、泊3号炉と比較対象とならない記載内容

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

1.8 原子炉格納容器下部の溶融炉心を冷却するための手順等

大飯発電所3/4号炉	泊発電所3号炉	相違理由
<p style="text-align: center;">【比較のため、女川2号炉の添付資料1.8.5を掲載】</p> <p style="text-align: right;">添付資料 1.8.5</p> <p style="text-align: center;">全交流動力電源喪失を想定した場合における代替循環冷却系による初期水張りについて</p> <p>1. はじめに                  格納容器破損モード「高圧溶融物放出/格納容器雰囲気直接加熱」に至る可能性のあるプラント損傷状態として、全交流動力電源喪失（SBO）を含むものも選定されている。SBOを想定した場合において代替循環冷却系による格納容器下部への初期水張りを実施する際には、常設代替交流電源設備による受電及び原子炉補機冷却水系（原子炉補機冷却海水系を含む）の起動操作が必要となる。ここでは、SBOを想定した場合において、代替循環冷却系による格納容器下部への初期水張り操作が実施可能であることを検討した。</p> <p>2. 検討における想定                  格納容器破損モード「高圧溶融物放出/格納容器雰囲気直接加熱」の格納容器破損防止対策の有効性評価の条件に加え、全ての非常用ディーゼル発電機等の喪失を想定する。</p> <p>3. 検討                  (2)を想定した場合において、格納容器下部への初期水張り操作を開始する原子炉压力容器下鏡部温度300℃到達（事象発生約2.5時間後）までに代替循環冷却ポンプを起動できるか否かを確認した。                  図1に示すとおり、事象発生約30分後までに常設代替交流電源設備からの電源供給及び原子炉補機冷却水系（原子炉補機冷却海水系を含む）の起動が完了し、代替循環冷却ポンプを起動できる状態となるため、事象発生約2.5時間後までに代替循環冷却ポンプを起動することが可能であることを確認した。                  また、常設代替交流電源設備の電源負荷については図2に示すとおり、重大事故等対策に必要な負荷として約5,913kW必要となるが、常用連続運用仕様である約6,000kW未満となることから、必要負荷に対する電源供給が可能である。</p> <p>4. まとめ                  SBOを想定した場合においても代替循環冷却系による格納容器下部への初期水張りが実施可能であることを確認した。</p>	<p style="text-align: right;">添付資料 1.8.15</p> <p style="text-align: center;">全交流動力電源喪失を想定した場合における代替格納容器スプレイポンプによる原子炉格納容器下部への注水について</p> <p>1. はじめに                  格納容器破損モード「雰囲気圧力・温度による静的負荷（格納容器過圧破損）」に至る可能性のあるプラント損傷状態として、全交流動力電源喪失（SBO）の重畳を考慮している。SBOを想定した場合において、代替格納容器スプレイポンプによる原子炉格納容器下部への注水を実施する際には、常設代替交流電源設備による受電が必要となる。ここでは、SBOを想定した場合において、代替格納容器スプレイポンプによる原子炉格納容器下部への注水操作が実施可能であることを検討した。</p> <p>2. 検討における想定                  格納容器破損モード「雰囲気圧力・温度による静的負荷（格納容器過圧破損）」の格納容器破損防止対策の有効性評価の条件に加え、すべてのディーゼル発電機等の喪失を想定する。</p> <p>3. 検討                  2.を想定した場合において、原子炉格納容器下部への注水操作を開始する炉心損傷30分後（事象発生約49分後）までに代替格納容器スプレイポンプを起動できるか否かを確認した。                  図1に示すとおり、事象発生約35分後までに常設代替交流電源設備からの電源供給及び代替格納容器スプレイポンプ起動準備が完了し、代替格納容器スプレイポンプを起動できる状態となるため、事象発生約49分後までに代替格納容器スプレイポンプを起動することが可能であることを確認した。                  また、常設代替交流電源設備の電源負荷については図2に示すとおり、重大事故等対策に必要な負荷として約540kW必要となるが、給電容量である2,760kW未満となることから、必要負荷に対する電源供給が可能である。</p> <p>4. まとめ                  SBOを想定した場合においても代替格納容器スプレイポンプによる原子炉格納容器下部への注水が実施可能であることを確認した。</p>	<p>【女川】 設備の相違による対応手段の相違</p> <p>【女川】 記載表現の相違</p> <p>【女川】 記載表現の相違 設備名称の相違</p> <p>【女川】設備の相違 【女川】 記載表現の相違</p>

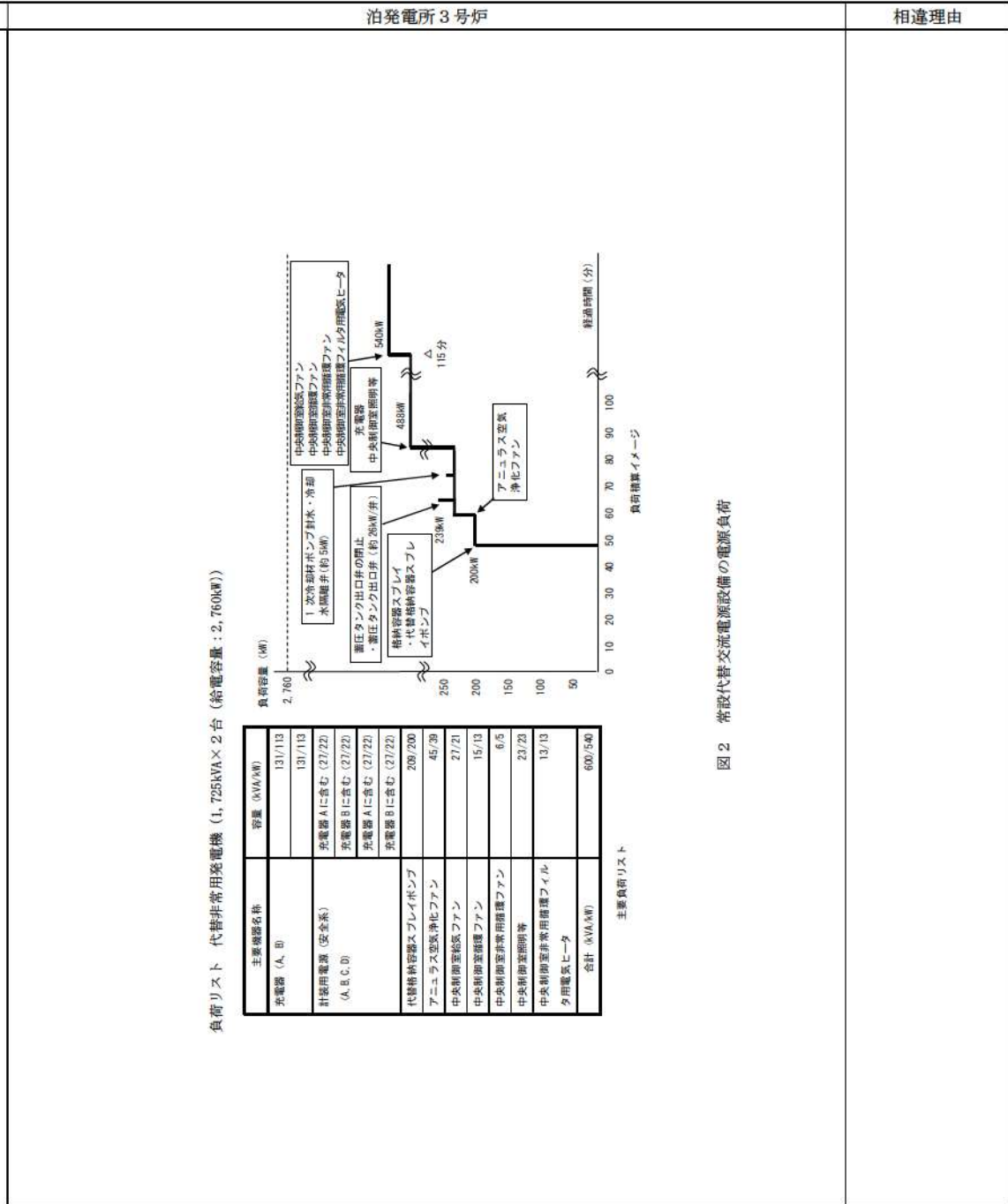
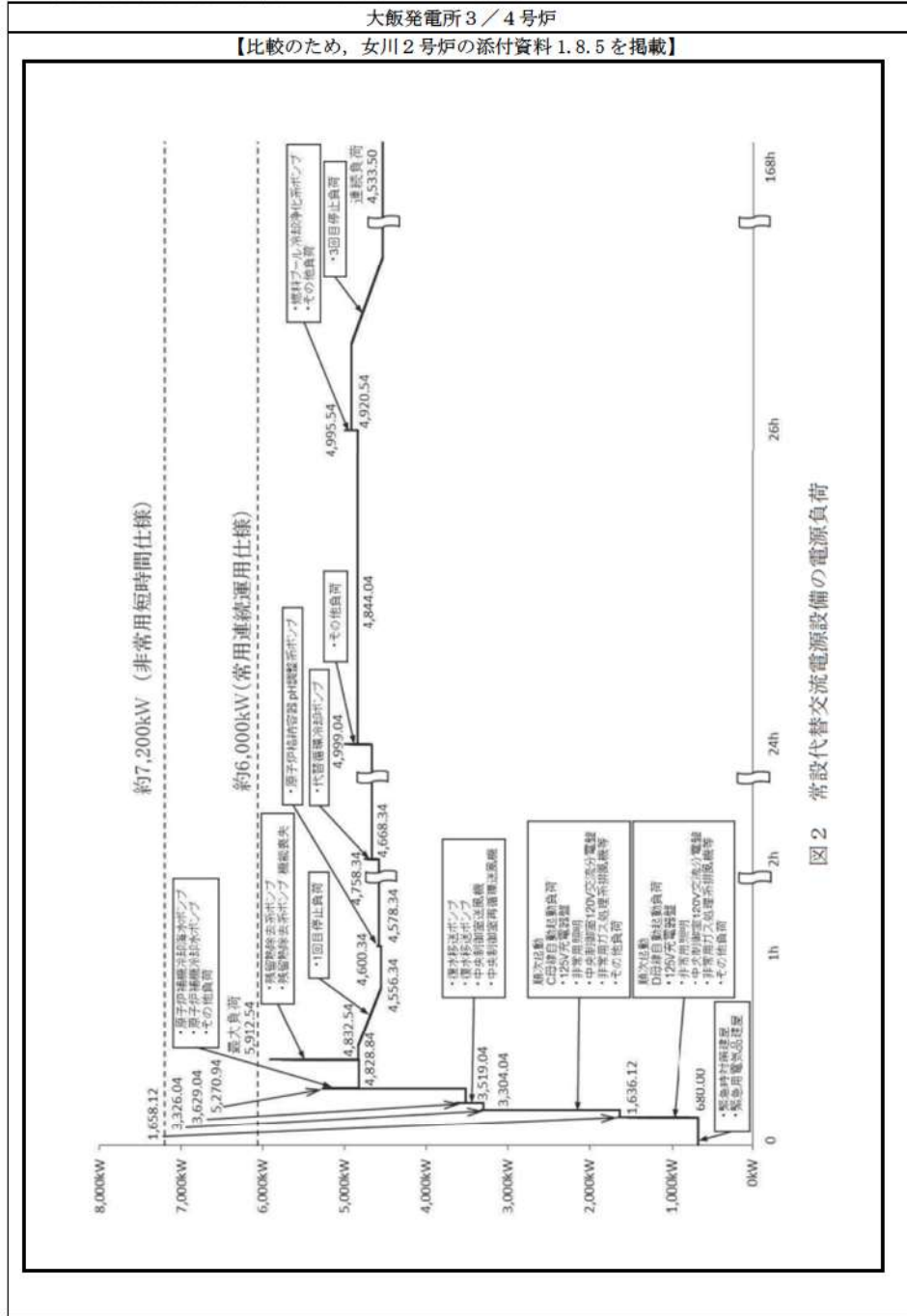
灰色：女川2号炉の記載のうち、BWR固有の設備や対応手段であり、泊3号炉と比較対象とならない記載内容

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

大飯発電所3 / 4号炉		泊発電所3号炉		相違理由
【比較のため、女川2号炉の添付資料1.8.5を掲載】				
<p>図1 SBOを想定した場合における格納容器下部への初期水張りまでの対応操作の概要</p>		<p>図1 全交流動力電源喪失を想定した場合における原子炉格納容器下部への注水までの対応操作の概要</p>		

灰色：女川2号炉の記載のうち、BWR固有の設備や対応手段であり、泊3号炉と比較対象とならない記載内容

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）





灰色：女川2号炉の記載のうち、BWR固有の設備や対応手段であり、泊3号炉と比較対象とならない記載内容

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

1.8 原子炉格納容器下部の溶融炉心を冷却するための手順

大飯発電所3 / 4号炉			
【比較のため、女川2号炉の添付資料1.8.6を掲載】			
添付資料 1.8.6			
解釈一覧			
1. 判断基準の解釈一覧			
判断基準	設備	判断基準記載内容	解釈
1.8.2.2 溶融炉心の原子炉格納容器下部への落下降圧・降上のための対応手順	(D) 原子炉圧力調整器への注水 (E) 高圧代替注水系による原子炉圧力調整器への注水	原子炉圧力調整器が設定値以上	原子炉圧力調整器が0.5MPa以上

泊発電所3号炉				
添付資料1.8.16				
解釈一覧				
1. 判断基準の解釈一覧(1/2)				
手順	判断基準記載内容	解釈		
1.8.2.1 原子炉格納容器下部に落下した溶融炉心の冷却のための対応手順	(2) 交直流動力電源喪失及び原子炉格納容器冷却機能が喪失である場合の手順	a. 格納容器スプレイ		
		(a) 格納容器スプレイポンプによる原子炉格納容器下部への注水	炉心損傷 原子炉格納容器下部へ注水するために必要な燃料取替用水ビットの水位が確保されている 燃料取替用水ビット水位が3%以上	
		(b) 代替格納容器スプレイポンプによる原子炉格納容器下部への注水	原子炉格納容器下部へ注水するために必要な燃料取替用水ビット等の水位が確保されている 燃料取替用水ビット水位が3%以上 補助給水ビット水位が3%以上	
		(c) 電動機駆動消防ポンプ又はディーゼル駆動消防ポンプによる原子炉格納容器下部への注水	ろ過水タンクの水位が確保されている ろ過水タンク水位が1,480mm以上	
		(a) 代替給水ビットを水源とした可搬型大型送水ポンプ車による原子炉格納容器下部への注水	代替給水ビットの水位が確保され、使用できる 代替給水ビット水位の日視による確認	
		(F) 原水槽を水源とした可搬型大型送水ポンプ車による原子炉格納容器下部への注水	原水槽の水位が確保され、使用できる 原水槽水位の日視による確認	
		(2) 全交流動力電源喪失又は原子炉格納容器冷却機能が喪失時の手順	a. 代替格納容器スプレイ	
			(a) 代替格納容器スプレイポンプによる原子炉格納容器下部への注水	原子炉格納容器下部へ注水するために必要な燃料取替用水ビット等の水位が確保されている 1次冷却材圧力が蓄圧タンク動作圧力まで急激に低下した場合 炉心損傷 燃料取替用水ビット水位が3%以上 補助給水ビット水位が3%以上 1次冷却材圧力が蓄圧タンク保持圧力（約4.04MPa[表9.1]）以下となった場合 炉心出口温度が350℃以上及び格納容器内高レベルジェリアモニタ（高レンジ）の指示値が1×10 <sup>5</sup> mSv/h以上の場合
			(b) 日一格納容器スプレイポンプ（自己冷却）による原子炉格納容器下部への注水	原子炉格納容器下部へ注水するために必要な燃料取替用水ビットの水位が確保されている 燃料取替用水ビット水位が3%以上
			(c) ディーゼル駆動消防ポンプによる原子炉格納容器下部への注水	原子炉格納容器下部へ注水するために必要なろ過水タンクの水位が確保されている ろ過水タンク水位が1,480mm以上
(a) 代替給水ビットを水源とした可搬型大型送水ポンプ車による原子炉格納容器下部への注水	代替給水ビットの水位が確保され、使用できる 代替給水ビット水位の日視による確認			
(F) 原水槽を水源とした可搬型大型送水ポンプ車による原子炉格納容器下部への注水	原水槽の水位が確保され、使用できる 原水槽水位の日視による確認			

**相違理由**

【大飯】  
 記載方針の相違  
 (女川実績の反映)  
 ・泊は、各対応手段の「判断基準」に対する具体的な目標値や設定値等の定量的な解説、「操作手順」の系統構成等に対する具体的な操作対象機器について添付資料 1.8.16に整理している。  
 ・泊は女川の審査実績を踏まえた構成としているため、本資料の比較対象は女川としている。

【女川】  
 設備の相違による判断基準の相違

灰色：女川2号炉の記載のうち、BWR固有の設備や対応手段であり、泊3号炉と比較対象とならない記載内容

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

1.8 原子炉格納容器下部の溶融炉心を冷却するための手順等

大飯発電所3/4号炉

泊発電所3号炉

【比較のため、女川2号炉の添付資料1.8.6を掲載】

添付資料 1.8.6

解釈一覧

手順	判断基準記載内容	解釈
1.8.2.2 溶融炉心の原子炉格納容器下部への落下遅延・防止のための対応手順	(1) 原子炉圧力容器への注水 ①. 高圧代替注水系による原子炉圧力容器への注水	原子炉圧力降下が規定値以上 原子炉圧力降下が0.01MPa以上

1. 判断基準の解釈一覧(2/2)

手順	判断基準記載内容	解釈			
1.8.2.2 溶融炉心の原子炉格納容器下部への落下遅延・防止のための対応手順	a. 炉心注水	(a) 高圧注入ポンプ又は余熱除去ポンプによる原子炉容器への注水	燃料取替用水ビットの水量が確保されている 燃料取替用水ビット水位が3%以上		
		(b) 充てんポンプによる原子炉容器への注水	原子炉容器へ注水するために必要な燃料取替用水ビットの水位が確保されている 燃料取替用水ビット水位が3%以上		
		(c) B-格納容器スプレィポンプ（RBRS-CSS連絡ライン使用）による原子炉容器への注水	原子炉容器へ注水するために必要な燃料取替用水ビットの水位が確保されている 燃料取替用水ビット水位が3%以上		
		(d) 代替格納容器スプレィポンプによる原子炉容器への注水	原子炉容器へ注水するために必要な燃料取替用水ビット等の水位が確保されている ・燃料取替用水ビット水位が3%以上 ・補助給水ビット水位が3%以上		
		(e) 電動機駆動消防ポンプ又はディーゼル駆動消防ポンプによる原子炉容器への注水	原子炉容器へ注水するために必要な過水タンクの水位が確保されている ろ過水タンク水位が1,480mm以上		
		(f) 代替給水ビットを水源とした可搬型大型送水ポンプ車による原子炉容器への注水	代替給水ビットの水位が確保され、使用できる 代替給水ビット水位の日視による確認		
		(g) 原水槽を水源とした可搬型大型送水ポンプ車による原子炉容器への注水	原水槽の水位が確保され、使用できる 原水槽水位の日視による確認		
		(2) 全交流動力電源喪失又は原子炉格納容器冷却機能喪失時の手順	a. 代替炉心注水	(a) 代替格納容器スプレィポンプによる原子炉容器への注水	原子炉容器へ注水するために必要な燃料取替用水ビット等の水位が確保されている ・燃料取替用水ビット水位が3%以上 ・補助給水ビット水位が3%以上
				(b) B-充てんポンプ（自己冷却）による原子炉容器への注水	原子炉容器へ注水するために必要な燃料取替用水ビットの水位が確保されている 燃料取替用水ビット水位が3%以上
(c) B-格納容器スプレィポンプ（自己冷却）（RBRS-CSS連絡ライン使用）による原子炉容器への注水	原子炉容器へ注水するために必要な燃料取替用水ビットの水位が確保されている 燃料取替用水ビット水位が3%以上				
(d) ディーゼル駆動消防ポンプによる原子炉容器への注水	原子炉容器へ注水するために必要な過水タンクの水位が確保されている ろ過水タンク水位が1,480mm以上				
(e) 代替給水ビットを水源とした可搬型大型送水ポンプ車による原子炉容器への注水	代替給水ビットの水位が確保され、使用できる 代替給水ビット水位の日視による確認				
(f) 原水槽を水源とした可搬型大型送水ポンプ車による原子炉容器への注水	原水槽の水位が確保され、使用できる 原水槽水位の日視による確認				

【大飯】  
 記載方針の相違  
 (女川実績の反映)  
 ・泊は、各対応手段の「判断基準」に対する具体的な目標値や設定値等の定量的な解説、「操作手順」の系統構成等に対する具体的な操作対象機器について添付資料 1.8.16 に整理している。  
 ・泊は女川の審査実績を踏まえた構成としているため、本資料の比較対象は女川としている。

【女川】  
 設備の相違による判断基準の相違

灰色：女川2号炉の記載のうち、BWR固有の設備や対応手段であり、泊3号炉と比較対象とならない記載内容

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

1.8 原子炉格納容器下部の溶融炉心を冷却するための手順等

大飯発電所3/4号炉		泊発電所3号炉		相違理由
2. 操作手順の解釈一覧				
1.8.2.1 原子炉格納容器下部に落下した溶融炉心の冷却のための対応手順	(L) 原子炉格納容器下部注水	a. 原子炉格納容器下部注水系（常設）（復水移送ポンプ）による原子炉格納容器下部への注水 b. 原子炉格納容器下部注水系（常設）（代替循環冷却ポンプ）による原子炉格納容器下部への注水 d. 原子炉格納容器代替スプレイ冷却系（常設）による原子炉格納容器下部への注水 e. 代替循環冷却系による原子炉格納容器下部への注水	復水移送ポンプ出口圧力指示値が規定値以上 原子炉圧力容器破損までにドライウェル水位にて0.1m <sup>2</sup> 到達まで水送り可能な流量以上（90m <sup>3</sup> /h） 融融熱による蒸発量相当の注水量以上（80m <sup>3</sup> /h） 復水移送ポンプ出口圧力指示値が規定値以上 原子炉格納容器内の温度及び圧力の制御に必要なスプレイ流量以上並びに代替循環冷却ポンプの定格流量（150m <sup>3</sup> /h）	復水移送ポンプ出口圧力指示値が0.700Pa以上 原子炉圧力容器破損までにドライウェル水位にて0.03m <sup>2</sup> 到達まで水送り可能な流量以上及び代替循環冷却ポンプの流量以上並びに代替循環冷却ポンプの定格流量（150m <sup>3</sup> /h） 復水移送ポンプ出口圧力指示値が0.700Pa以上
1.8.2.2 溶融炉心の原子炉格納容器下部への落下促進・防止のための対応手順	(O) 原子炉圧力容器への注水	4. 常設代替注水系（常設）（直流駆動型注水系ポンプ）による原子炉圧力容器への注水	直流駆動型注水系ポンプ出口流量指示値の上昇 原子炉圧力容器内の水位が原子炉水位高（レベル8）に到達後、原子炉圧力容器への注水を停止する。その後、原子炉圧力容器内の水位が原子炉水位高（レベル2）に到達した場合に注水を再開し、原子炉水位高（レベル8）に到達後、注水を停止する。 非常用高圧冷却2系が受電している場合は、原子炉圧力容器内の水位を原子炉水位高（レベル3）から原子炉水位高（レベル8）の間で維持する。	直流駆動型注水系ポンプ出口流量指示値が80%程度 非常用高圧冷却2系が受電している場合は、原子炉圧力容器内の水位が原子炉水位高（レベル8）に到達後、原子炉圧力容器への注水を停止する。その後、原子炉圧力容器内の水位が原子炉水位高（レベル2）に到達した場合に注水を再開し、原子炉水位高（レベル8）に到達後、注水を停止する。
枠囲みの内容は商業機密の観点から公開できません。				

【女川】  
 設備の相違による操作手順の相違

灰色：女川2号炉の記載のうち、BWR固有の設備や対応手段であり、泊3号炉と比較対象とならない記載内容

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

1.8 原子炉格納容器下部の溶融炉心を冷却するための手順等

大飯発電所3/4号炉

【比較のため、女川2号炉の添付資料1.8.6を掲載】

3. 弁番号及び弁名称一覧

弁番号	弁名称	操作場所
F13-M0-F010	CKD 復水入口弁	中央制御室
F13-M0-F022	M/WC サンプリング取出止め弁	中央制御室
F15-M0-F001	FM/W ポンプ吸込弁	中央制御室
F13-M0-F070	T/B 緊急時隔離弁	中央制御室
F13-M0-F071	R/B B/F 緊急時隔離弁	中央制御室
F13-M0-F171	R/B 1F 緊急時隔離弁	中央制御室
F13-M0-F073	復水貯蔵タンク常用、非常用給水管連絡ライン止め弁	中央制御室
F13-M0-F180	原子炉格納容器下部注水用復水仕切弁	中央制御室
F13-M0-F179	原子炉格納容器下部注水用復水流量調整弁	中央制御室
E11-M0-F083	代替循環冷却ポンプバイパス弁	中央制御室
E11-M0-F082	代替循環冷却ポンプ流量調整弁	中央制御室
E11-M0-F080	代替循環冷却ポンプ吸込弁	中央制御室
E11-M0-F086	R/R M/WC 連絡第一弁	中央制御室
E11-M0-F087	R/R M/WC 連絡第二弁	中央制御室
F70-D001-4	原子炉・格納容器下部注水弁	屋外
F13-F172	緊急時原子炉北側外部注水入口弁	屋外
F13-F175	緊急時原子炉東側外部注水入口弁	屋外
E11-M0-F010A	R/R A系格納容器スプレイ隔離弁	中央制御室
E11-M0-F010B	R/R B系格納容器スプレイ隔離弁	中央制御室
E11-M0-F009A	R/R A系格納容器スプレイ流量調整弁	中央制御室
E11-M0-F009B	R/R B系格納容器スプレイ流量調整弁	中央制御室
E11-M0-F062A	R/R ヘッドスプレイライン洗浄流量調整弁	中央制御室
E11-M0-F062B	R/R B系格納容器冷却ライン洗浄流量調整弁	中央制御室
E11-M0-F003A	R/R 熱交換器 (A) バイパス弁	中央制御室
F70-D001-5	格納容器スプレイ弁	屋外
E11-F063A	R/R A系格納容器代替スプレイ注入元弁	屋外
E11-F063B	R/R B系格納容器代替スプレイ注入元弁	屋外
F13-M0-F190	FV 系連絡第一弁	中央制御室
F13-M0-F191	FV 系連絡第二弁	中央制御室
E71-M0-F002	D/LI ポンプ吸込弁	中央制御室
E22-M0-F003	H/C/S 注入隔離弁	中央制御室
E71-M0-F007	D/LI 注入流量調整弁	中央制御室
C41-M0-F001A	SLC タンク出口弁 (A)	中央制御室
C41-M0-F001B	SLC タンク出口弁 (B)	中央制御室
C41-M0-F006A	SLC 注入電動弁 (A)	中央制御室
C41-M0-F006B	SLC 注入電動弁 (B)	中央制御室

泊発電所3号炉

2. 弁番号及び弁名称一覧

弁番号	弁名称	操作場所
3V-CP-013A	A-格納容器スプレイ冷却器出口C/V外側隔離弁	中央制御室
3V-CP-013B	B-格納容器スプレイ冷却器出口C/V外側隔離弁	中央制御室
3V-CP-130	代替格納容器スプレイポンプ入口第1止め弁	周辺補機棟T.P. 24.8m
3V-CP-131	代替格納容器スプレイポンプ入口第2止め弁	周辺補機棟T.P. 24.8m
3V-CP-144	代替格納容器スプレイポンプ接続ライン止め弁	原子炉補助建屋T.P. 10.3m
3V-CP-141	代替格納容器スプレイポンプ出口格納容器スプレイ用絞り弁	周辺補機棟T.P. 10.3m
3V-CP-111	AM用消火水注入ライン止め弁	原子炉補助建屋T.P. 10.3m
3V-FS-547	AM用消火水供給ライン第2止め弁	原子炉補助建屋T.P. 10.3m
3V-FS-531	AM用消火水供給ライン第1止め弁	原子炉補助建屋T.P. 2.8m
3V-CP-147	代替格納容器スプレイポンプ出口炉心注入用絞り弁	周辺補機棟T.P. 10.3m
3V-CP-155	代替格納容器スプレイポンプ出口可搬型ポンプ車接続ライン止め弁 (SA対策)	周辺補機棟T.P. 10.3m
3V-FW-664	R/B東側可搬型ポンプ車接続用ライン止め弁 (SA対策)	周辺補機棟T.P. 17.8m
3V-FW-663	補助給水ビット-燃料取替用水ビット給水連絡ライン止め弁 (SA対策)	周辺補機棟T.P. 17.8m
3V-RF-102	ECTトラックアクセスエリア側可搬型ポンプ車接続用ライン止め弁 (SA対策)	周辺補機棟T.P. 40.3m
3V-CC-560	B-格納容器スプレイポンプ自冷水入口弁 (SA対策)	原子炉補助建屋T.P. -1.7m
3V-CC-562	B-格納容器スプレイポンプ自冷水出口弁 (SA対策)	原子炉補助建屋T.P. -1.7m
3V-CC-181B	B-格納容器スプレイポンプ電動機補機冷却水入口弁	原子炉補助建屋T.P. -1.7m
3V-CC-563	B-格納容器スプレイポンプ補機冷却水出口止め弁	原子炉補助建屋T.P. -1.7m
3V-CP-121	B-格納容器スプレイポンプ自冷水供給ライン止め弁 (SA対策)	原子炉補助建屋T.P. -1.7m
3V-CP-122	B-格納容器スプレイポンプ自冷水戻りライン止め弁 (SA対策)	原子炉補助建屋T.P. -1.7m
3V-CP-120	B-格納容器スプレイポンプ自冷水供給ライン絞り弁 (SA対策)	原子炉補助建屋T.P. -1.7m
3LCV-121D	充てんポンプ入口燃料取替用水ビット側入口弁A	中央制御室
3LCV-121E	充てんポンプ入口燃料取替用水ビット側入口弁B	中央制御室
3LCV-121B	体積制御タンク出口第1止め弁	中央制御室
3LCV-121C	体積制御タンク出口第2止め弁	中央制御室
3FCV-138	充てん流量制御弁	中央制御室
3V-CS-175	充てんラインC/V外側止め弁	中央制御室
3V-CS-177	充てんラインC/V外側隔離弁	中央制御室

相違理由

【大飯】  
 記載方針の相違  
 (女川実績の反映)  
 ・泊は、各対応手段の「判断基準」に対する具体的な目標値や設定値等の定量的な解説、「操作手順」の系統構成等に対する具体的な操作対象機器について添付資料1.8.16に整理している。  
 ・泊は女川の審査実績を踏まえた構成としているため、本資料の比較対象は女川としている。  
 【女川】  
 設備の相違による操作対象弁の相違